Toyo University supports the Sustainable Development Goals

TOYO University Social Contribution Center 2024 Annual Report

2024年度 東洋大学 社会貢献センター年報

東洋大学

目　次

刊行にあたって

東洋大学社会貢献センター長…… 1

社会貢献センターについて

東洋大学社会貢献センター規程…… 4
社会貢献センター組織図…… 6
2024年度　社会貢献センター運営委員会委員名簿…… 7
2024年度　社会貢献センター運営委員会活動記録…… 8

生涯学習部門

生涯学習部門の歴史的背景…… 13
2024年度　東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座と講師派遣事業の概要 … 16

東洋大学フィロソフィア アカデミー／公開講座

2024年度　公開講座実績一覧…… 20
2024年度　公開講座アンケート結果…… 23
過去３年間の受講者数…… 34
PICK UP …… 41

資格講座

2024年度　資格講座…… 46

講師派遣

2024年度　「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告 …… 47
2024年度　講師派遣事業　派遣先実績一覧…… 50
PICK UP …… 55

東洋大学オンライン講座　日本の「知」

2024年度　東洋大学オンライン講座　日本の「知」実施報告 …… 59

社会貢献部門

社会貢献情報収集

社会貢献情報収集の概要…… 63
2024年度調査　社会貢献活動一覧…… 65
PICK UP …… 152

地域活性化活動支援事業

地域活性化活動支援事業の概要…… 157
2024年度　地域活性化活動支援事業一覧・活動報告…… 158

社会貢献活動助成・表彰制度

社会貢献活動助成・表彰制度…… 176
2024年度　社会貢献活動助成　表彰式・報告会…… 179

SDGs 実践講座

2024年度　東洋大学 SDGs 実践講座　活動報告 …… 182

リカレント教育推進特別助成制度…… 204

社会貢献センター　内部評価

2024年度　東洋大学社会貢献センターに対する内部評価結果…… 209

刊行にあたって

東洋大学社会貢献センター長
髙山　直樹

学生と教職員による平和・人権・豊かな環境づくりへの挑戦

東洋大学は、2012年創立125周年を迎え、創設者井上円了の教育理念のもと「グローバル人財」の育成を目指して、「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を３本の柱とする未来宣言を行いました。その宣言を具現化するために、社会貢献センターは、従来の「生涯学習センター」を継承、発展させ、日本や国際社会への社会貢献を展開するために設立されました。

創立者・井上円了は、「諸学の基礎は哲学にあり」を掲げ、「他者のために自己を磨く、活動の中で奮闘する」人間の育成を教育の大きな柱としてきました。また、「余資なく、優暇なき者(資産や時間に余裕がない人)のために教育の機会を開放する」という理念を掲げ、本学の前身である「哲学館」を創立しました。そこでは『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。さらに円了は、欧米視察により、「日本と日本人の改良」が必要との認識に至り、「哲学館」を大学へと発展させるために、1890(明治23)年から全国巡講を始めました。全国で実施された巡回講演は、延べ5,129回を数え、130万人を超える人々がその講演を聴いたとされています。この円了の全国巡講が現在の社会貢献センターの事業の柱として、講師派遣事業や公開講座などへと引き継がれて現在に至っています。

現在、社会貢献センターでは、建学の精神の共有と継承を図ると同時に、上記の未来宣言を推進するべく、様々な事業を企画し、活動を展開しています。

１　社会貢献部門

・ボランティアマインドの滋養：学生のボランティア活動の推進と支援等
・社会的活動に対応したボランティアの推進：学生と教員による地域活性化活動支援等

・SDGs につながる教育の展開：SDGs アンバサダー（学生）の育成等
・災害等緊急支援ボランティアの推進：能登震災復興支援、学生と教職員による地震、災害対策等
・環境保全の推進・啓発：環境問題の学び、環境保全の取り組み、学内環境整備等

２　生涯学習部門
・人生100歳時代の学びの支援：生涯学習のための多様な機会の提供
・公開講座、資格取得講座、講師派遣事業の実施
・リカレント講座の実施

社会貢献センターの様々な活動主体は、学生であり、教職員であり、また地域の人々との協働であることが特徴です。この協働の輪を広め、深めていく過程のなかで、地域社会、日本そして世界の「平和・人権・豊かな環境づくり」を創っていくことを支援していくことが社会貢献センターの使命です。

いま、国内外において戦争、自国優先の経済政策、社会正義を振りかざしての後を絶たないテロ、コロナ禍による諸問題、差別、格差、虐待をはじめとする様々な「社会問題」が顕在化してきています。そして私たちは、「いま･ここ」（Here and Now）で生きています。「いま･ここ」に生きづいている様々な場面が、未来の「いま・ここ」に大きな影響を及ぼすことになります。自らの生活というミクロレベルの「いま・ここ」という「ローカル」な視点と、それらに密接に関係している自分、地域、国および人々、宗教、自然、環境等を世界、宇宙をつなげていく視点である「グローバル」な視点の両方を持つことが求められています。「グローカル」な視点です。それはまさに、本学での「哲学」を基盤とした各学問の学びを深めることです。そしてさらに様々な実践活動に参画していくことが、「社会問題」の解消に貢献するのです。「いま・ここ」にある「わたし」が、社会の諸問題にいかに向きあうのかが問われています。

それは、今、混迷のなかにある国内外の問題を自分ごととし、社会の幸せの在り方を発信していくことが東洋大学の使命といえます。そのためには、積極的な社会貢献を進めることになります。東洋本学は、３万人超の学生を擁し、17大学院研究科、14学部を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を必要としている人たちや地域に届けていきたいと考えます。現代の新しい社会づくりを目指して、東洋大学の学生、教職員、卒業生たちが力を合わせ、また市民の皆様と一緒に新しい挑戦について考え、様々な課題に真摯に、誠実に取り組みたいと思います。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会貢献センターについて

○東洋大学社会貢献センター規程

平成25年規程第49号・平成25年４月11日公示・平成25年４月１日施行

改正　平成27年６月１日
平成28年６月１日
平成29年４月１日
令和５年４月１日規程第37号

東洋大学社会貢献センター規程

東洋大学生涯学習センター規則（平成８年規則第131号）の全部を改正する。

（趣旨）

第１条　この規程は、東洋大学学則（昭和24年４月１日施行）第８条第１項に基づき、東洋大学（以下「本学」という。）において生涯教育に関する諸事業を積極的に推進するとともに、社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献の発展に寄与するために設置する「東洋大学社会貢献センター」（以下「社会貢献センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

第２条　削除

（構成）

第３条　社会貢献センターに、生涯学習部門と社会貢献部門を置く。

（事業）

第４条　社会貢献センターは、第２条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

２　生涯学習部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

（１）　生涯学習プログラムの開発

（２）　公開講座等の開催

（３）　生涯学習に関する広報活動及び案内

（４）　生涯学習に関する資料の収集

（５）　その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

３　社会貢献部門は、次の各号に掲げる事業を行う。

（１）　社会貢献プログラムの開発

（２）　本学各部局で実施されている社会貢献活動に関する情報の収集、連携促進及び発信

（３）　ボランティア活動その他社会貢献に係る支援策に関する事項

（４）　その他社会貢献センターの目的達成に必要な事業

４　前項第３号に規定するボランティア活動を推進するために東洋大学ボランティア支援室を置き、その運営等必要な事項については、別に定める。

（センター長）

第５条　社会貢献センターに、センター長を置く。

２　センター長は、社会貢献センターの事業を統括し、社会貢献センターを代表する。

３　センター長は、本学の専任教員のうちから、学長の推薦により、理事長が任命する。

４　センター長の任期は、２年とする。ただし、再任を妨げない。

（副センター長）

第６条　社会貢献センターに、副センター長を置くことができる。

２　副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長及び学長の推薦により、理事長が任命する。

３　副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき又はセンター長が欠けたときは、センター長の職務を代理し、又は代行する。

４　副センター長の任期は２年以内とし、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

（社会貢献センター運営委員会）

第７条　社会貢献センターに、社会貢献センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

（運営委員会の組織）

第８条　運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

（１） センター長及び副センター長
（２） 各学部が推薦する専任教員　各１名
（３） 大学院が推薦する専任教員　１名
（４） 学長が推薦する者　若干名
（５） 通信教育部長
（６） 学生部長
（７） 教務部長
（８） SDGs 推進センター長

（委員の任期）

第９条　前条第２号から第４号に掲げる委員の任期は、２年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任することができる。

（審議事項）

第10条　運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
（１） 生涯学習プログラムの基本方針
（２） 社会貢献プログラムの基本方針
（３） 社会貢献センターの事業計画に関する事項
（４） 学長から諮問された事項
（５） その他社会貢献センターに関する重要事項

（議長）

第11条　運営委員会は、センター長が招集し、その議長となる。

（委員以外の出席）

第12条　議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

（専門委員会）

第13条　運営委員会は、専門的な事項その他特に必要な事項について調査審議するため、専門委員会を置くことができる。

２　専門委員会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

（事業計画）

第14条　センター長は、当該年度の10月末日までに次年度の事業計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

２　センター長は、各年度の事業の実施結果について、当該年度終了後１カ月以内に、学長に報告しなければならない。

３　事業計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

（事務の所管）

第15条　社会貢献センターの事務は、エクステンション課が所管する。

（細則）

第16条　この規程の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて学長が定める。

（改正）

第17条　この規程の改正は、学長が運営委員会の意見を聴いて行う。

附　則

１　この規程は、平成25年４月１日から施行する。

２　この規程の施行に伴い、東洋大学生涯学習センター規則（平成９年４月１日施行）は、廃止する。

附　則（平成27年規程第153号）

この規程は、平成27年６月１日から施行する。

附　則（平成28年規程第90号）

この規程は、平成28年６月１日から施行する。

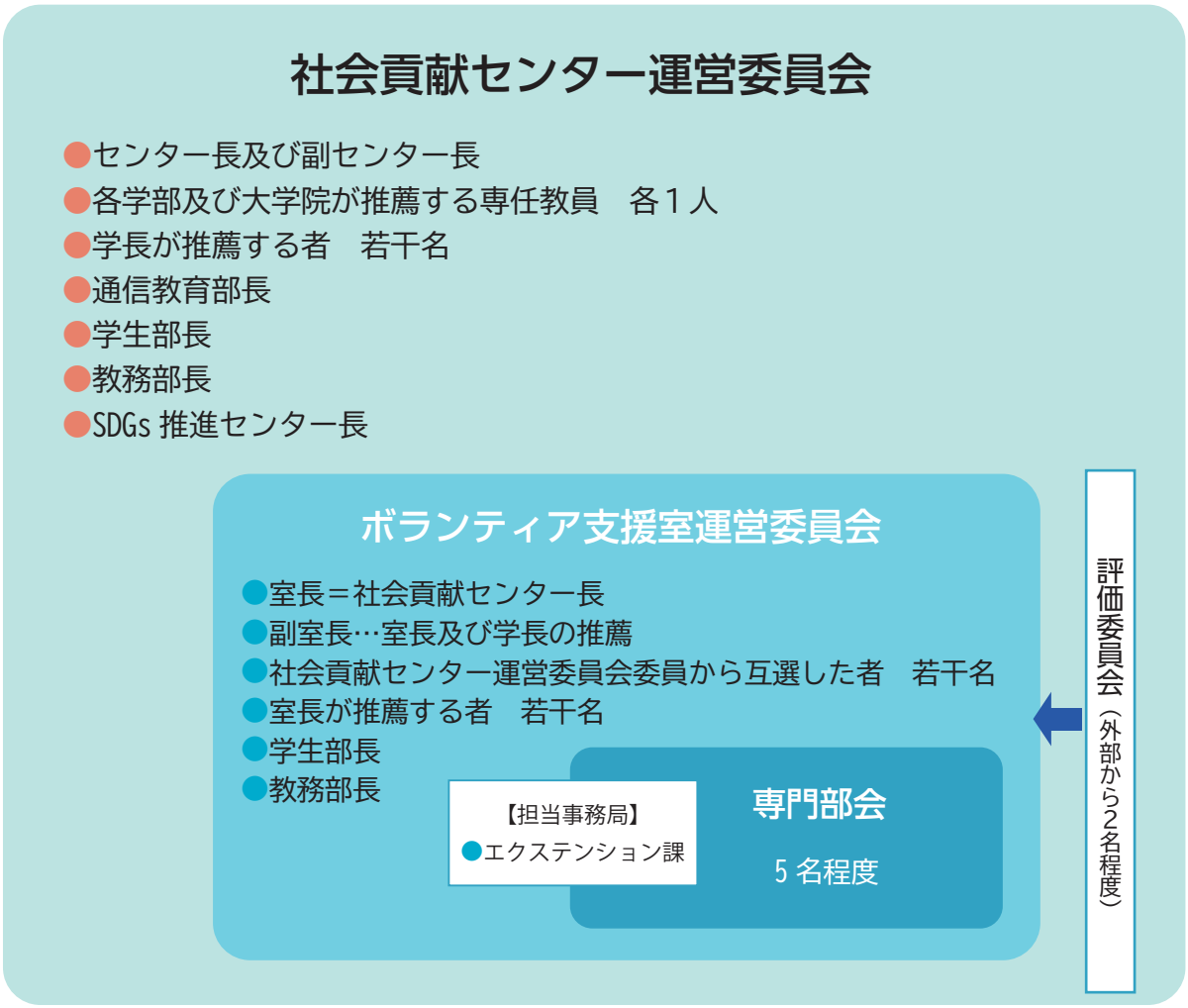
附　則（平成29年規程第２号）

この規程は、平成29年４月１日から施行する。

附　則（令和５年４月１日規程第37号）

この規程は、2023年４月１日から施行する。

社会貢献センター組織図



2024年度　社会貢献センター運営委員会委員名簿

所　　属	氏　　名
セ　ン　タ　ー　長	髙山　直樹
副　セ　ン　タ　ー　長	堀本　麻由子

東洋大学社会貢献センター規程第５条、第８条第１項第１号による
（任期：2023 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日）

所　　属	氏　　名
文　学　部	田中　一隆　※
経　済　学　部	吉田　　敦
経　営　学　部	藤尾　美佐
法　学　部	ジェイムズ　　ダニエル　ショート
社　会　学　部	北村　英哉
国　際　学　部	金子　聖子
国　際　観　光　学　部	森下　晶美
理　工　学　部	神山　　藍
総　合　情　報　学　部	小瀬　博之
生　命　科　学　部	三浦　　健
食　環　境　科　学　部	塩原　明世
社　会　福　祉　デ　ザ　イ　ン　学　部	伊藤　美佳
情　報　連　携　学　部	浅野　泰仁
健　康　ス　ポ　ー　ツ　科　学　部	小西　可奈　※
大　学　院（総合情報）	土田　賢省

東洋大学社会貢献センター規程第８条第１項２号及び第３号による
（任期：2023 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日）
（任期：2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日）※

所　　属	氏　　名
学　長　推　薦	川口　英夫　※
学　長　推　薦	村上　一基　※

東洋大学社会貢献センター規程第８条１項第４号による
（任期：2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日）

所　　属	氏　　名
通　信　教　育　部　長	高木 英行 ※

東洋大学社会貢献センター規程第８条第１項第５号による
（任期：2024 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日）
※通信教育部長の任期に準じる

所　　属	氏　　名
学　生　部　長	早川　和宏

東洋大学社会貢献センター規程第８条第１項第６号による

所　　属	氏　　名
教　務　部　長	多田　英明

東洋大学社会貢献センター規程第８条第１項第７号による

所　　属	氏　　名
SDGs 推進センター長	金子　律子

東洋大学社会貢献センター規程第８条第１項第８号による

計　　23 名

2024年度　社会貢献センター運営委員会活動記録

第1回：2024年4月12日(金)　【書面会議】

報　告　事　項：

1. GW 能登半島地震ボランティア活動について
2. 【第1期】東洋大学「令和６年能登半島地震」被災地支援ボランティア活動助成事業　報告者一覧について
3. 社会貢献センターおよびボランティア支援室運営委員組織図について
4. 2024年度　活動予定および社会貢献センター（ボランティア支援室を含む P.10 ～ 12）事業概要について
5. 2024年度　社会貢献センター運営委員および各種助成事業等選考分担について
6. 2024年度　東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成　追加募集について
7. 2024年度　地域活性化活動支援事業　追加募集について
8. 2024年度　東洋フィロソフィアアカデミー、春期公開講座について
9. 2024年度　春期資格取得講座について
10. 2024年度　全国講師派遣について

第2回：2024年5月31日(金)　【書面会議】

報　告　事　項：

1. 2024年度　地域活性化活動支援事業の追加募集について
2. 2024年度　東洋大学リカレント教育推進特別助成プロジェクト追加募集について
3. 2024年度　学生団体による社会貢献活動助成　追加募集について
4. 国際ボランティア活動支援事業 募集について
5. ドナルド・キーン氏蔵書整理プロジェクト関連イベントおよび蔵書展示について
6. 能登半島地震ボランティア活動(輪島、珠洲他) について

【ボランティア支援室報告】

7. 1DAY ボランティア他について：社会貢献センター / ボランティア支援室活動一覧
8. 2023年度　全学総合 SDGs 実践講座 活動報告書について
9. SDGs アンバサダーについて
10. ウォーターサーバープレ設置について (SDGs アンバサダー　ウォーターサーバープロジェクトチーム SPRING)
11. 朝霞キャンパス、川越キャンパス　社会貢献活動推進拠点視察について

第3回：2024年6月14日(金)　【書面会議】

報　告　事　項：

1. 東洋大学オンライン講座　日本の「知」実施について
2. 東洋フィロソフィアアカデミー修了証について
3. 2024年度　学生団体による社会貢献活動助成　追加募集について

【ボランティア支援室報告】

4. 東洋大学におけるボランティア活動の理念とボランティア支援室のミッションについて

5. 東洋大学「令和６年能登半島地震」被災地支援 ボランティア活動助成事業について
   ①【第２期】東洋大学「令和６年能登半島地震」被災地支援ボランティア活動助成事業 報告者一覧
   ②【第３期】東洋大学「令和６年能登半島地震」被災地支援ボランティア活動助成事業 助成について
6. 夏季能登半島地震ボランティア活動（輪島、珠洲他）について
7. TOYO Parasports Day ブラインドサッカー編　プレ実施について（SDGs アンバサダー D & I チーム）
8. 食品ロスを減らそう！食料配布会について
9. 今後の活動計画について

第4回：2024年7月10日（水）【書面会議】

審議依頼事項：

1. 予算要求に伴う各事業の方針について
   ①2025年度　公開講座開講方針について
   ②2025年度　講師派遣方針について

報 告 事 項：

1. 夏季　能登半島地震ボランティア活動について
2. 群馬県甘楽町地域おこし隊インターン実施について
3. 東洋大学「令和６年能登半島地震」被災地支援　ボランティア活動助成事業について（追加期間設定）
4. 各種活動計画等

第5回：2024年9月13日（金）【書面会議】

審議依頼事項：

1. 予算要求について
   ①全体予算総括表　②目的（公開講座）　③目的（円了理念）　④目的（センター運営）　⑤目的（受託事業）　⑥収支対応予算　⑦教育力強化特別予算

【実施報告】

2. 春期公開講座報告について
3. 全国講師派遣について（9/10現在）
4. 学校法人東洋大学 中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2025-2029」について
5. 文京区クールアースフェアについて（SDGs アンバサダー参加）
6. SDGs アンバサダー合宿実施について（SDGs アンバサダー企画）
7. 夏季能登半島地震ボランティア活動報告会について
8. SDGs Week EXPO エコプロ 2024 出展について（SDGs アンバサダー出展）
9. 全学総合科目　SDGs 実践講座～ 17 ゴールへの第 1 歩～について
10. 2024年度 「Toyo SDGs Weeks」の開催について

第6回：2024年10月25日(金)　【書面会議】

審議依頼事項：

1. 2025年度　地域活性化活動支援事業について(教員と学生が一緒に活動)
2. 2025年度　東洋大学「リカレント教育推進」特別助成について

報　告　事　項：

3. 地域活性化活動支援事業『蛍雪時代』掲載について
4. 「東洋大学フィロソフィアアカデミー」商標登録について

【ボランティア支援室実施報告、計画】

5. 夏季能登半島地震ボランティア活動報告会について
6. 能登半島豪雨に係る災害救援募金について
7. 能登半島豪雨ボランティア活動について(第１クール)
8. 能登半島豪雨ボランティア活動等について(第２、３クール)
9. 東洋大学「令和６年能登半島地震」被災地支援 ボランティア活動助成事業について
10. 2024年度　夏季国際ボランティア活動助成報告について
11. 各種実施計画および報告について
12. 2025年度　課外活動・ボランティア活動予算概要

第7回：2024年11月15日(金)　【書面会議】

審議依頼事項：

1. 2024年度　社会貢献活動に対する表彰および2025年度東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成について(学生のみの活動)

報　告　事　項：

2. 次期中期計画における実施計画(アクションプラン)の策定について

第8回：2025年1月10日(金)　【書面会議】

審議依頼事項：

1. 社会貢献事業の実施状況調査について

【実施計画(ボランティア支援室含む)】

2. 群馬県甘楽町地域おこし隊インターン実施について
3. 能登半島地震、豪雨に伴う各種支援活動計画について
   ①能登半島復興支援の学生チーム設立について(予定団体名：NOTO × TOYO　青いビブス)
   ②ドキュメンタリー映画 『凪が灯るころ～奥能登、珠洲の記憶～』上映について
   ③NOTO × TOYO　文通　絆プロジェクトについて
   ④能登版　講師派遣事業について
4. 各種実施計画
5. 2024年度　全国講師派遣について
6. 2024年度　秋期公開講座について
7. 2024年度　東洋大学フィロソフィアアカデミー / 公開講座ポイント獲得者数について
8. SDGs Week EXPO エコプロ 2024 出展について(SDGs アンバサダー出展)
9. 【学生団体見本市】フミキャン(文京区地域連携ステーション　フミコム主催) 2024について
10. 能登半島地震、豪雨ボランティア活動ポスター展示(赤羽台、川越、朝霞)

11. SDGs アンバサダー学園祭報告
12. おにぎりアクション実施について
13. 災害救援ボランティア講座について
14. 文京区博覧会について(SDGs 団体アンバサダー出店)
15. 中野区「少年・少女野球教室」開催について

第9回：2025年1月21日(火)【書面会議】

報 告 事 項：

1. 能登半島地震、豪雨に伴う支援活動計画
   ・能登半島ボランティア(春期) 実施計画概要(予定)

第10回：2025年2月5日(水)【書面会議】

審議依頼事項：

1. 地域活性化活動支援事業について
   ①「地域活性化支援活動」に関する東洋大学と○○○との相互協力覚書について
   ②「2025年度　地域活性化活動支援事業 選考要領」の改正について

報 告 事 項：

2. 能登半島ボランティア(春季) 実施について
3. 全学総合　SDGs 実践講座について
4. 群馬県甘楽町地域おこし隊インターン決定について

第11回：2025年3月11日(火)

報 告 事 項：

1. 東洋大学社会貢献センター内ボランティア支援室付学生団体に関する要項について
2. エクステンション部エクステンション課名称変更に伴う規程等改正について
3. 2024年度　SDGs アンバサダー自己評価および2025年度継続手続きについて
4. 2024年度　東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成 用途指定型寄付について
5. 2025年度　東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成採択結果
6. 2024年度　東洋大学社会貢献活動表彰の採択結果および表彰に対する助成用 途指定型寄付について
7. 国際ボランティア活動支援事業(冬季、春季) 実施に伴う助成金(課外活動育成会費) について
8. 2025年度　地域活性化活動支援事業採択結果について
9. 2024年度　地域活性化活動支援事業活動報告および現地団体アンケート結果について
10. 2025年度　東洋大学リカレント教育推進特別助成プロジェクトについて
11. 2024年度　予算執行報告および2025年度予算執行計画について
12. 2025年度　春期公開講座等実施予定一覧について
13. 2025年度　講師派遣テーマ等について
14. 能登半島ボランティア(春季) 実施状況について(抜粋)
15. 内部評価の結果について
16. 活動報告について
17. 文京区の大学に通う学生による地域活動報告会について

生涯学習部門

- 東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座
- 資格講座
- 講師派遣
- 東洋大学オンライン講座　日本の「知」

生涯学習部門の歴史的背景

１．公開講座の歴史的背景

本学の前身である哲学館では、創立直後に日曜講義として一般に向けて仏教哲学を中心に講じる機会を設けたとの記録がある。これは、創立者井上円了が、新しい情報として入手していたアメリカ等で行われていた「サマースクール」とその日本版とも呼ぶべき通信講学会でその実施を経験していた夏期学校等に影響を受けつつ実施されたものであると思われる。日本でも非常に早い時期の実施であり、創立以来、本学が一貫して教育を広く民衆に提供する役割を果そうとしてきたことの証でもある。

第２次世界大戦後､多くの国立大学で周辺住民や一般社会人を対象にした公開講座が開かれ､その伝統は現在に引き継がれている。本学でも、特に教員の免許法認定講習は1949（昭和24）年という早い時期から実施され、1986（昭和61）年度までに330回も開講したという歴史を有する。また、1979（昭和54）年には「市民大学講座」の企画が学長により提起され、地域の人々に、大学の持つ知的な資源を提供する社会貢献事業は一貫して重視されてきたものであった。

高度経済成長を遂げた日本の新しい社会にあって、人々の生涯にわたる学習への要求はますます高いものとなり、その期待を受けて、1975（昭和50）年代後半になるといくつかの国立大学に公開講座のためのセンターが設けられ、組織的な公開講座事業が始まった。

明治期の設立当初から高等教育の拡張を自らの使命としてきた私立大学の伝統校は、公開講座を独自のスタイルで発展させてきた歴史があった。生涯教育の制度化が世界的な課題となり始めた時期、私立大学はそれぞれのミッションに沿った公開講座の組織化を進めた。

政府は、1990（平成２）年、生涯学習の基盤整備に関わる新しい法律を制定した。それまでの社会教育法と並立する形となり､人々は多様な学習機会を享受することになった。この時期、特に高等教育機関に対する期待は高いものであったため、生涯学習に関する包括的な法律の制定よりも、生涯学習に資する公開講座の設置においては大学自身の方が早く対応していたことになる。

本学に生涯学習センターが設置されたのは、1997（平成９）年であった。創立期以来の理念を守ろうとする伝統を引き継ぎ、多様な公開講座実施の経験を踏まえ、一層組織的に大学の知を地域社会に還元していこうとする動きであった。その後、キャンパス拡張に伴って新たに発生した近隣自治体との連携の必要等から、公開講座は継続的な改変・拡充を経ながら発展して現在に至る。また、2020年度からは、コロナウイルス「COVID-19」の影響もあり、Web を利用したオンライン講座の展開を行っている。対面と Web 型のハイフレックス型で講座を展開することで多様なニーズに応えられるような講座展開を行っている。

2023年度よりリカレント教育を目的とした講座を実施している。

2024年度より東洋大学フィロソフィアアカデミー（アクティブラーニングプラン、リカレント・リスキリングプラン）を実施し、教養や最新研究や事例まで幅広いテーマの講座によりグループワーク、レポートの提出、教室外でのフィールドワーク等の活動を行っている。

２．講師派遣事業の歴史的背景

現在の本学の講師派遣事業は、創立者である井上円了による全国巡回講演に由来する記念事業として、没後80年を経た1999（平成11）年に開始されたものである。

哲学館創立直後の1888（明治21）年、井上円了は１年間の欧米視察に出かけたがそのことを通じて、「日本と日本人の改良」が必要であるとの認識に至る。その後、円了は哲学館の財政危機を脱し大学設立のための開設資金を得るために、全国を巡回し講演をすると共にその後募金をお願いするという計画を立てる。既に卒業生を輩出していたことや講義録の配信による通信教育を進めていたこともあり、全国各地に円了を招聘しようとする人物が存在していた。そして、いよいよ1890（明治23）年11月より、円了は自らが全国各地に赴いて講演をする教育活動に着手したのである。欧米への視察により、ケンブリッジ大学を起点としてイギリス各地及びアメリカにおいて急速に発展していた大学の構外講義、いわゆるユニバーシティ・エクステンション事業をつぶさに見聞して来た円了にとって、これは日本における大学拡張への着手であったと言えよう。

その後、1898（明治31）年～ 1902（明治35）年、1906（明治39）年～ 1919（大正8）年と講演旅行を続け、全国で実施された巡回講演は合計で5,129回を数えた。講演は、村や町の小学校の講堂やお寺等で開催され、延べ130万人を超える人々がその講演を聴いたとされる。この偉業は、今日まで、誰も手の届かない回数の講演である。受け入れた地域の人々は、「井上円了博士」が直接出向いての講演ということで、地域を挙げて歓迎したとされる。当時こうした講演を聞く機会を持たなかった民衆が多数聴講した様子が、円了による記録のみならず、全国各地で記録され今日まで保存されている。こうした講演をきっかけとして、ご寄付を頂くこととなり、本学はまさに日本各地の人々の貴重な志によって支えられ、その基礎が築かれたと言っても過言ではない。

1997（平成9）年に設立110年を迎えていたこともあり、「110年目の御礼」と題するプロジェクトが企画され、1999（平成11）年度には創立者井上円了の没後80周年を記念した事業が構想された。そのひとつが、創立時に社会から受けた支援（寄付金）への御礼と、創立者の精神を活かした社会貢献としての講師派遣事業であった。同年度から始まった全国各地において実施している講師派遣事業の回数は、26年間で2,620回に達した。それでもなお、創立者の講演回数には遠く及ばず、この事業は今後も継続し続けなければならないものである。

本事業は、長く高校生を対象とした内容と、一般成人を対象とした派遣とに区分されてきた。高校では2000（平成12）年度より情報化や国際化などに対応した現代的な課題を扱う「総合的な学習の時間」が本格的に導入された。文部科学省によると、「総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする」（文部科学省 HP より引用）とされており、現代社会の課題を専門的な立場から研究している大学教員による講演は、そうした思考の材料を提供する意味で大いに貢献するものであった。講師派遣事業の存在が知られると、2001（平成13）年度には100件もの依頼が殺到した。ただし、いわゆる学力低下論がマスコミ等で喧伝されるにつれて、総合的な学習の時間への評価は二分されるようになり、2011（平成

23）年度より実施された新しい学習指導要領では、実質的にその時間数が減る。さらに、教育目標のねらいが明確に示され、全体計画や単元計画を綿密に立てて指導することとなり、教科横断的な領域において体験的な学習活動がより重視されるようになった。そうした動きに連動するかのように、高校の総合的な学習の時間に対応した講師派遣の申し込みは2012（平成24）年度より激減した。

一般成人を対象とした講師派遣は、公民館などの社会教育施設及び関連施設において開催される住民対象の講座、教育委員会主催の家庭教育学級や高齢者学級、市民大学等、そして社会教育関係団体による事業等、派遣を求める主催団体は多様であった。

2015（平成27）年度には、グローバル教育の深化の一環として、本学が有する他国文化の知識を企業の海外活動に資するよう「企業研修支援プログラム」をスタートさせた。本プログラムは、2016（平成28）年度より有料とし、2018（平成30）年度からは「研修支援プログラム」と名称を改め、企業のみならず各種団体でのスキルアップ研修に対応した。2016（平成28）年から2019年度においては、小中高等学校や特別支援学校に向けて、五輪をはじめスポーツに関する講義を行う「オリンピック・パラリンピック学習支援講座」を設けた。

2020年度では、コロナウイルス「COVID-19」の影響により、Web オンラインを利用した講師派遣を初めて実施した。また、本学の SDGs 達成に向けた取り組みの１つとして、小中高等学校や特別支援学校を対象とした「SDGs 達成学習支援プログラム」を開始し、今年度は５件が実施に至った。

生涯学習部門

2024年度　東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座と講師派遣事業の概要

１．東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座

「東洋大学フィロソフィアアカデミー」、「オープン講座」、「エクステンション講座Ａ・Ｂ」、「文化公演」、「資格講座」、５区分で実施を行った。その他にも、文京アカデミア講座、川越小・中学生サマースクール等を開講している。

2024年度はこれまでの公開講座の活動をさらに発展させるために、新たに東洋大学フィロソフィアアカデミーを設立した。豊かで彩りある充実した生き方を目的とした「アクティブラーニングプラン」と、新しい知識やスキルの習得を目的とした「リカレント・リスキリングプラン」で構成されている。アクティブラーニングプランでは座学の学びに加えて関連施設やゆかりの地を訪問するなど、フィールドワークを実施した。

公開講座は2023年度に引き続き、対面形式およびWeb形式で講座を開講している。また、「公開講座ポイント制度」を実施し、有料エクステンション講座の受講時間および出席率に応じて「公開講座ポイント」が付与され、学期末に「修了証[賞状]」が贈呈される。受講者のモチベーションを上げることを目的にしている。

1）東洋大学フィロソフィアアカデミー

春期は「日本仏教入門－井上円了『日本仏教』購読」、「二人の女房は何を書き残したのか―『枕草子』と『源氏物語』」、「みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう第３期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援～」、「ソーシャルワークにおける権利擁護を考える」、「福祉実践最前線：自立支援とリハビリテーション、「ケアの本質－生きることの意味」から学ぶ～福祉専門職が知っておくべきケアとは～」の５コースを開講した。

また、本学卒業生であり、株式会社サザホールディングス代表取締役会長である鈴木誉志男氏をお招きし、「わたしの起業プロデュース人生～サザコーヒーはどうブランド力を確立したか～」をテーマに講義およびコーヒーの実演会を開催した。

秋期は、春期に引き続き、「日本仏教入門－井上円了『日本仏教』購読」、「『源氏物語』の「巻名」の奥深さ～紫式部の思索を探求する～」、「みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう第４期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援（2）～」、「ソーシャルワークと権利擁護」～当事者とは何かを改めて考える～」、「ダイバーシティ・マネジメント―リーダーシップのあり方とは―」の５コースを開講した。

また、本学卒業生であり上閉伊酒造株会社代表取締役である新里佳子氏をお招きし、講演と試飲会を開催した。

本学卒業生を招いての講演会および実演会は校友会協力のもと実施をしており、春・秋ともに受講者より大変好評であった。

2) オープン講座(無料)

2015(平成27)年度まで「市民大学講座」「学術講演会」として開講されていた無料講座を2016(平成28)年度より合わせて「オープン講座」と名称変更し、各キャンパスを会場として実施している。

春期白山キャンパスでは「井上円了の哲学と仏教」、「救急医療関連情報の連携の現状と課題：IT 活用による医工連携が創る近未来像」を開講した。

秋期は、「麟祥院と井上円了－ ZAZEN で自己発見・自分磨き！-」、「これからの災害復興を考える－日本・海外の事例から学ぶ」をテーマに開講した。

3) エクステンション講座Ａ

教養や最新研究や事例まで幅広いテーマの講座を取り扱うＡ講座は「歴史コース」「文学コース」「哲学・宗教コース」「人生100年コース」に分類して講座を展開している。

春期は、Ａ講座11コースを開講した。仏教、幕末維新の古文書、織田信長、万葉集、植物講座、マーケティング入門など、多種多様なテーマを取り上げで開講した。

その他にも「人生100年コース」からは、子供を含む家族参加も対象とした講座「キリンのツノは何センチ？～身近なもので知るキリンの大きさ～」や、各業界で活躍する講師を招いた講座「アーティスト・マネジメントの将来像」を開講し、いずれも受講者より好評を得た。

秋期は、Ａ講座10コースを開講した。漢詩、介護保険制度、村上春樹、ミヒャエル＝エンデ等の様々なトピックを取り上げて講座を開講した。

その他にも、源氏物語や幕末維新の古文書は春期に引き続き開講しており、受講者より定評のある講座である。

いずれの講座も総合大学ならではのテーマ設定で多様な講座を提供することができた。

4) 文化公演

石川県珠洲市を舞台としたドキュメンタリー映画「凪が灯る頃～奥能登、珠洲の記憶～」を３月に上映予定である。

5) 資格講座

2016年度より始まった当講座は、学生の就職活動時または就職後、および社会人の学び直しによるキャリアアップまたは再雇用に必要な資格の取得を目的としている。

2023年度に引き続き、Web での開講も並行して春期に４講座、秋期は２講座実施した。学内外での周知を徹底するとともに、本学に求められる資格講座のニーズに応えられる仕組みづくりを引き続き行っていく予定である。

２．講師派遣事業

今年度は、３つのプログラム全体で109件の申し込みがあり、このうち実施に至ったのが83件であった。

例年に引き続き、関東の実施件数の比率が突出して高い一方、地方の実施件数が、その全体に占める比率はコロナ禍以前に戻りつつある。(図 -1、図 -2)

実際に派遣に応じた講師は、専任教員が33名で実施件数47件と多数を占めており、東洋大学

専任教員にとっても重要な役割として認識されている。さらに、名誉教授・元教授・客員教授17名による36件という数字も明記しておきたい。

図 -1　過去5年実施件数

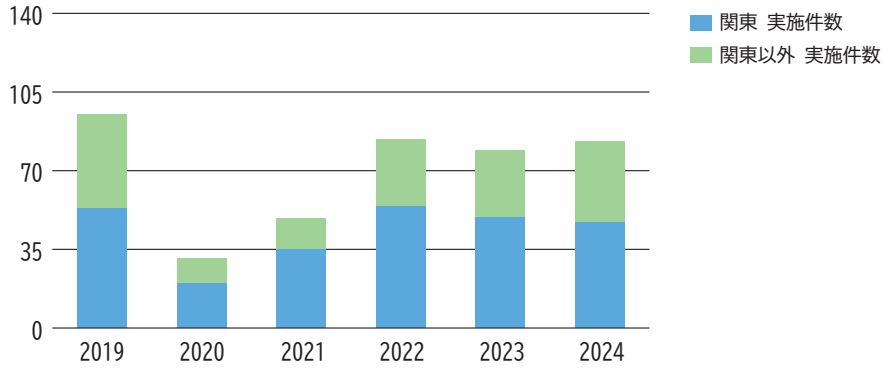


図 -2　地域別に見た講師派遣

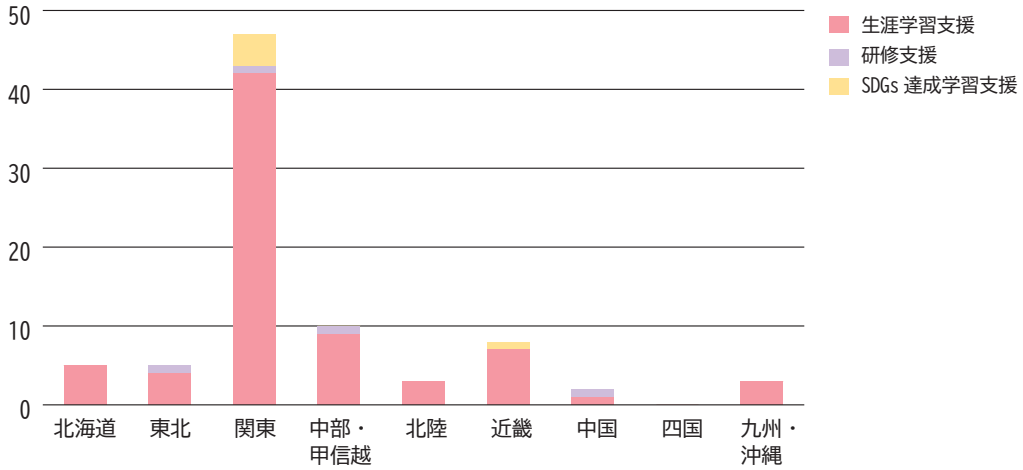


図 -3　派遣先団体種別に見た講師派遣

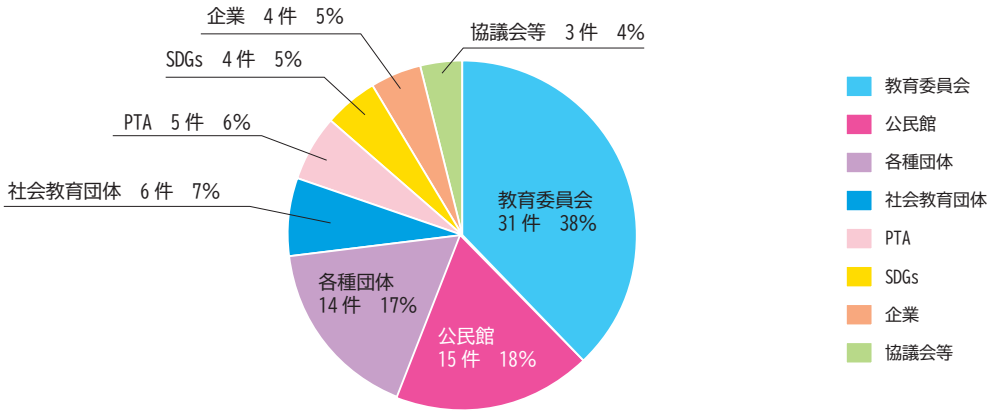


図 -4　派遣実施件数一覧（1999年度～ 2024年度 ）

地域＼年度	1999年度			2000年度			2001年度			2002年度			2003年度			2004年度			2005年度			2006年度		
	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計
北海道	0	12	12	1	3	4	3	3	6	1	5	6	3	2	5	1	4	5	0	4	4	2	2	4
東北	6	21	27	0	11	11	9	2	11	15	5	20	9	2	11	6	3	9	2	6	8	2	3	5
関東	6	90	96	4	20	24	41	11	52	34	16	50	51	20	71	27	29	56	18	25	43	18	39	57
中部 / 甲信越	0	30	30	0	13	13	0	19	19	0	22	22	0	8	8	0	7	7	2	4	6	2	3	5
北陸	0	10	10	0	8	8	0	9	9	0	13	13	0	5	5	0	4	4	0	1	1	2	1	3
近畿	0	20	20	2	2	4	8	4	12	8	2	10	0	8	8	0	7	7	0	4	4	2	5	7
中国	2	13	15	0	3	3	11	0	11	8	3	11	0	4	4	0	3	3	0	1	1	2	0	2
四国	0	6	6	0	3	3	4	0	4	2	0	2	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	1	1
九州・沖縄	2	13	15	0	8	8	6	5	11	8	5	13	0	5	5	0	3	3	0	1	1	1	3	4
合計	16	215	231	7	71	78	82	53	135	76	71	147	63	56	119	34	62	96	22	47	69	31	57	88

地域＼年度	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度			2011年度			2012年度			2013年度			2014年度		
	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	高校	一般	計	－	生涯	計
北海道	0	1	1	2	2	4	0	5	5	0	2	2	0	5	5	0	5	5	0	6	6	－	7	7
東北	2	7	9	2	6	8	1	8	9	3	5	8	1	7	8	0	5	5	0	7	7	－	11	11
関東	16	40	56	19	42	61	13	31	44	10	39	49	17	37	54	5	45	50	3	42	45	－	49	49
中部 / 甲信越	5	2	7	3	4	7	0	7	7	1	7	8	1	10	11	0	9	9	1	4	5	－	11	11
北陸	2	2	4	1	1	2	1	3	4	0	2	2	2	4	6	0	0	0	0	1	1	－	6	6
近畿	1	4	5	0	6	6	0	6	6	1	6	7	0	8	8	0	9	9	0	4	4	－	7	7
中国	1	0	1	2	0	2	0	1	1	0	4	4	0	1	1	0	2	2	0	7	7	－	4	4
四国	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	2	0	1	1	－	1	1
九州・沖縄	0	2	2	0	6	6	1	3	4	0	4	4	0	6	6	0	8	8	0	7	7	－	3	3
合計	28	58	86	29	67	96	16	64	80	15	70	85	21	79	100	5	85	90	4	79	83	－	99	99

地域＼年度	2015年度			2016年度				2017年度				2018年度				2019年度				2020年度			
	企業	生涯	計	企業	ｵﾘﾊﾟﾗ	生涯	計	企業	ｵﾘﾊﾟﾗ	生涯	計	研修	ｵﾘﾊﾟﾗ	生涯	計	研修	ｵﾘﾊﾟﾗ	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計
北海道	0	7	7	0	0	5	5	0	0	9	9	0	0	10	10	0	0	5	5	0	0	2	2
東北	0	14	14	0	0	16	16	0	0	14	14	2	0	11	13	0	0	10	10	0	0	2	2
関東	6	53	59	0	9	61	70	5	8	60	73	6	7	50	63	2	10	41	53	2	7	11	20
中部 / 甲信越	0	4	4	0	0	12	12	1	2	12	15	0	1	10	11	0	1	8	9	0	0	1	1
北陸	0	8	8	0	0	5	5	0	0	6	6	1	0	7	8	0	0	1	1	0	0	3	3
近畿	0	5	5	0	0	9	9	2	0	9	11	0	0	9	9	0	0	6	6	0	0	1	1
中国	0	5	5	0	0	5	5	0	0	7	7	0	0	4	4	0	0	4	4	0	0	0	0
四国	0	3	3	0	0	3	3	0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	1	1
九州・沖縄	0	6	6	0	0	5	5	0	0	12	12	0	0	6	6	0	0	7	7	0	0	1	1
合計	6	105	111	0	9	121	130	8	10	131	149	9	8	110	127	2	11	82	95	2	7	22	31

地域＼年度	2021年度				2022年度				2023年度				2024年度				合　計					
	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	研修	SDGs	生涯	計	高校	企業	ｵﾘﾊﾟﾗ	SDGs	一般(生涯)	計
北海道	0	0	2	2	0	0	3	3	0	0	5	5	0	0	5	5	13	0	0	0	121	134
東北	0	0	3	3	0	1	6	7	0	0	1	1	1	0	4	5	58	3	0	1	190	252
関東	1	9	25	35	3	16	34	53	2	8	39	49	1	4	42	47	282	28	34	44	991	1379
中部 / 甲信越	1	0	3	4	0	0	5	5	1	0	6	7	1	0	9	10	15	4	4	0	230	253
北陸	0	0	2	2	0	1	4	5	0	1	3	4	0	0	3	3	8	1	0	2	112	123
近畿	0	0	1	1	0	0	4	4	0	0	6	6	0	1	7	8	22	2	0	1	159	184
中国	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	2	2	1	0	1	2	26	1	0	0	76	103
四国	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	7	0	0	0	36	43
九州・沖縄	0	0	1	1	0	0	4	4	0	0	4	4	0	0	3	3	18	0	0	0	131	149
合計	2	9	38	49	3	18	63	84	3	9	67	79	4	5	74	83	449	39	38	48	2046	2620

※2014年度より一般(社会人）と高校を一本化し、「生涯学習」支援プログラムとして実施。
※2015年度より新規に「企業研修」支援プログラムを開始。
※2016年度より新規に「オリンピック・パラリンピック教育」支援プログラムを開始。
※2020年度より新規に SDGs（持続可能な開発目標）達成学習支援プログラムを開始。

東洋大学フィロソフィアアカデミー／公開講座

2024年度　公開講座実績一覧

①オープン講座（無料）　※文化公演等含む

学期	場所	講師	形式	テーマ	期間	回数	総時間（分）	受講料 一般 対面	受講料 一般 Web	受講料 学生 対面／Web	申込者数 一般 対面	申込者数 一般 Web	申込者数 一般 計	申込者数 学生 対面	申込者数 学生 Web	申込者数 学生 計	合計
春	白山	竹村　牧男	ハイブリッド	井上円了の哲学と仏教	6/18，7/16（火）	2	180				47	43	90	1	2	3	93
		森村　尚登	ハイブリッド	救急医療関連情報の連携の現況と課題：IT 活用による医工連携が創る近未来像	6/29（土）	1	90				13	10	23	1	1	2	25
	赤羽台	佐藤　綾美	対面	ビタミン C －なぜ摂るべきなのか？－	6/29（土）	1	90				57	0	57	0	0	0	57
	川越	根岸　良太	ハイブリッド	ナノスケールのエレクトロニクス	5/24（金）	1	90				0	13	13	0	0	0	13
秋	白山	長谷川琢哉	対面	麟祥院と井上円了 －ZAZEN で自己発見・自分磨き！－	9/16（月）	1	90				27	0	27	0	0	0	27
		松丸　亮	対面	これからの災害復興を考える－日本・海外の事例から学ぶ	10/26（土）	2	90				31	0	31	0	0	0	31
	赤羽台	文　貞實	対面	自分史を書いてみよう	11/5，11/12（火）	2	180				31	0	31	0	0	0	31
		内田　祥士	ハイブリッド	和辻哲郎の「奈良」・林屋辰三郎の「京都」・加藤周一の「東京」	11/1，11/8，11/15（金）	3	270				36	45	81	0	0	0	81
	朝霞	高橋　珠実	対面	変化を愉しむマインドフルネスヨガ	12/13，12/20（金）	1	90				24	0	24	0	0	0	24
									—		受講者合計						
											266	111	377	2	3	5	382

②東洋大学フィロソフィアアカデミー／エクステンション講座　※中止講座は除く

学期	場所	講師	形式	テーマ	期間	回数	総時間（分）	受講料 一般 対面	受講料 一般 Web	受講料 学生 対面／Web	申込者数 一般 対面	申込者数 一般 Web	申込者数 一般 計	申込者数 学生 対面	申込者数 学生 Web	申込者数 学生 計	合計
春	白山	竹村　牧男	対面	日本仏教入門―井上円了『日本仏教』講読	5/11 ～ 7/20（土）	6	540	9,900	-	3,300	13	0	13	1	0	1	14
		河地　修	ハイブリッド	二人の女房は何を書き残したのか―『枕草子』と『源氏物語』	5/13 ～ 7/1（月）	9	810	14,850	8,800	4,950	23	8	31	2	0	2	33
		森田　明美	ハイブリッド	みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう第３期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援～	6/1，6/22，7/27（土）	3	270	4,950	3,300	1,650	18	2	20	1	0	1	21
		髙山　直樹	ハイブリッド	ソーシャルワークにおける権利擁護を考える	5/25，6/1，6/15，6/29（土）	4	360	6,600	4,400	2,200	16	14	30	1	1	2	32
		古川　和稔 八木　裕子	ハイブリッド	福祉実践最前線：自立支援とリハビリテーション、「ケアの本質―生きることの意味」から学ぶ～福祉専門職が知っておくべきケアとは～	6/13，6/27，7/11，7/25（木）	4	360	6,600	4,400	2,200	10	19	29	0	0	0	29

学期	場所	講師	形式	テーマ	期間	回数	総時間(分)	受講料			申込者数						合計
								一般		学生	一般			学生			
								対面	Web	対面 / Web	対面	Web	計	対面	Web	学生計	
春	白山	鈴木誉志男	対面	わたしの起業プロデュース人生～サザコーヒーはどうブランド力を確立したか～	6/15（土）	1	90	–	–	–	39	0	39	1	0	1	40
		渡辺　章悟	Web	仏教的心の探求　～仏教は心をどのように捉えたのか～	5/11, 5/18, 5/25（土）	3	270	–	3,300	1,650	0	15	15	0	0	0	15
		岩下　哲典	ハイブリッド	幕末維新の古文書	6/12, 6/26, 7/10（水）	3	270	4,950	3,300	1,650	16	8	24	0	0	0	24
		柴　裕之	ハイブリッド	織田信長―“戦国の天下人”の実像―	6/22（土）	1	90	1,650	1,100	550	23	8	31	0	0	0	31
		菊地　義裕	対面	万葉集講座―万葉の歌・生活・文化―	5/16 ～ 6/27（木）	6	540	9,900	–	3,300	19	0	19	2	0	2	21
		金子　有子	対面	植物に学ぶ 2024 ～初夏のプラントウォッチング～	6/1（土）, 6/2（日）	2	180	3,300	–	1,100	12	0	12	1	0	1	13
		須田木綿子	対面	介護保険制度の賢い使い方：2024 年度版	5/21（火）	1	90	1,650	–	550	20	0	20	0	0	0	20
		神野　宏司	ハイブリッド	自宅でも出来る運動で健康づくり	7/13（土）	1	90	1,650	1,100	550	0	9	9	0	0	0	9
		安藤　和宏	対面	アーティスト・マネージメントの将来像	6/1（土）	3	270	4,950	–	1,650	29	0	29	42	0	42	71
		郝　仁平	ハイブリッド	失速する中国経済の行方：持続的成長は可能か？	7/6（土）	1	90	1,650	1,100	550	22	8	30	0	0	0	30
		長島　広太	ハイブリッド	マーケティング入門	6/29（土）	1	90	1,650	1,100	550	20	10	30	0	0	0	30
		郡司　芽久	ハイブリッド	キリンのツノは何センチ？～身近なもので知るキリンの大きさ～	7/20（土）	1	90	1,650	1,100	550	33	11	44	0	0	0	44
秋	白山	竹村　牧男	対面	日本仏教入門―井上円了『日本仏教』講読	10/12 ～ 12/14（土）	5	450	8,250	–	2,750	20	0	20	0	0	0	20
		河地　修	ハイブリッド	『源氏物語』の「巻名」の奥深さ～紫式部の思索を探求する～	10/21 ～ 12/16（月）	9	810	14,850	8,800	4,950	19	7	26	3	0	3	29
		森田　明美	ハイブリッド	みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう第4期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援（2）～	10/5, 11/9, 12/7（土）	3	270	4,950	3,300	1,650	14	5	19	0	0	0	19
		髙山　直樹	ハイブリッド	「ソーシャルワークと権利擁護」～当事者とは何かを改めて考える～	10/26, 11/16, 11/30, 12/21（土）	4	360	6,600	4,400	2,200	16	5	21	1	1	2	23
		堀本麻由子	対面	ダイバーシティ・マネジメント－リーダーシップのあり方とは－	12/7, 12/14（土）	2	180	3,300	–	1,100	12	0	12	0	0	0	12
		新里　佳子	対面	遠野の地で生まれた地酒を未来へ！	11/16（土）	1	90	–	–	–	39	0	39	0	0	0	39
		渡辺　章悟	Web	大乗仏教入門　～中と空の思想～	11/30, 12/7, 12/14（土）	3	270	–	3,300	1,650	0	23	23	0	2	2	25
		中里　巧	対面	ミヒャエル＝エンデのファンタジーと日本の童話	10/19, 10/26, 11/9, 11/16（土）	4	360	6,600	–	2,200	8	0	8	0	0	0	8
		岩下　哲典	ハイブリッド	幕末維新の古文書	10/16, 10/30, 11/20（水）	3	270	4,950	3,300	1,650	14	12	26	0	0	0	26

								受講料			申込者数						合計
								一般		学生	一般			学生			
学期	場所	講師	形式	テーマ	期間	回数	総時間（分）	対面	Web	対面 / Web	対面	Web	計	対面	Web	学生計	
秋	白山	上村　正裕	ハイブリッド	藤原道長と平安貴族社会	10/19, 11/9（土）	2	180	3,300	2,200	1,100	19	6	25	0	0	0	25
		菊地　義裕	対面	万葉集講座―万葉の歌・生活・文化―	10/8 ～ 11/19（火）	6	540	9,900	－	3,300	12	0	12	0	0	0	12
		石田　仁志	ハイブリッド	村上春樹の文学世界－長編小説を読む 2024	10/12，11/16，12/21（土）	3	270	4,950	3,300	1,650	9	13	22	1	0	1	23
		大野 公賀	対面	遥かなる唐の調べに魅せられて　～音読で中国の名詩人たちと旅する時間～	11/11，11/18（月）	2	180	3,300	－	1,100	9	0	9	0	0	0	9
		市川　顕	Web	ウクライナ戦争を隣国から見る	10/4，11/15（金）	2	180	－	2,200	1,100	0	11	11	0	0	0	11
		長島　広太	ハイブリッド	マーケティング・トピックス	11/16，11/30（土）	2	180	3,300	2,200	1,100	10	5	15	1	0	1	16
		須田木綿子	対面	介護保険制度の賢い使い方：2024 年度版	10/22（火）	1	90	1,650	－	550	11	0	11	1	0	1	12
								受講者合計			525	199	724	58	4	62	786

③災害救援ボランティア講座

								受講料		申込者数						合計
								一般	学生	一般			学生			
学期	場所	講師	形式	テーマ	期間	回数	総時間（分）	対面	対面 / Web	対面	Web	計	対面	Web	計	
秋	白山	宮崎　賢哉他	対面	災害救援ボランティア講座	11/23（土）11/24（日）	2	180	一般：15,000 円 他大学生：10,000 円	0	2	－	2	19	－	19	21

④文京アカデミア講座

								受講料		申込者数						合計
								一般	学生	一般			学生			
学期	場所	講師	形式	テーマ	期間	回数	総時間（分）	対面	対面 / Web	対面	Web	計	対面	Web	計	
春	文京アカデミア	川瀬　晃弘	対面	「香害」について考える	5/14，5/21，5/28（火）	3	270	2,000	－	15	－	15	－	－	－	15

2024年度　公開講座アンケート結果

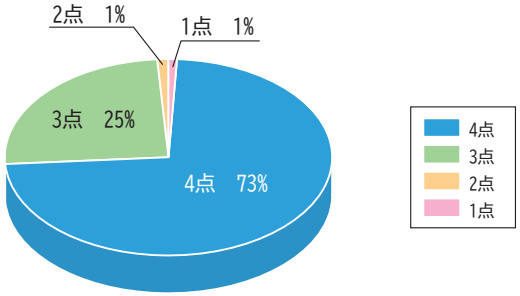
2024年度　春期講座総合集計結果

申込者数：599名
回収枚数：268枚

◎受講した講座について（満足度等）

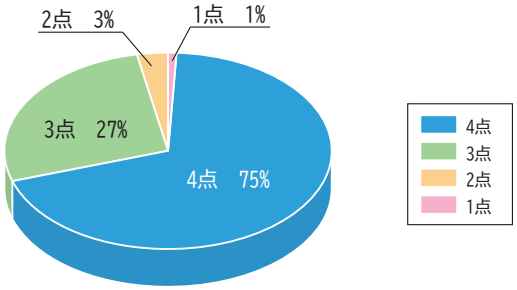
【新たな知見・発見】

4点	3点	2点	1点
200	68	4	2



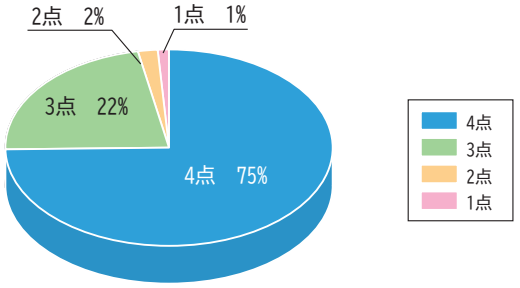
【理解度（分かり易さ）】

4点	3点	2点	1点
190	73	9	2



【満足度】

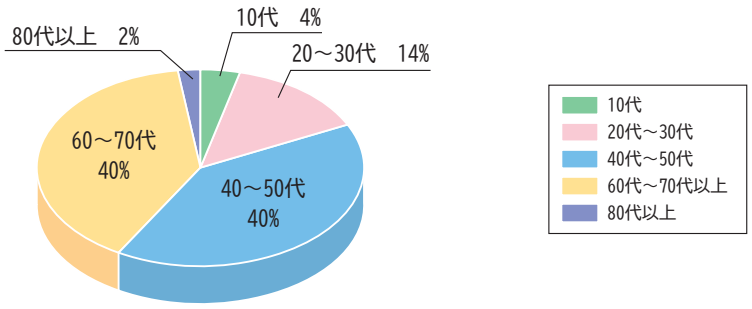
4点	3点	2点	1点
204	61	6	3



◎受講者について

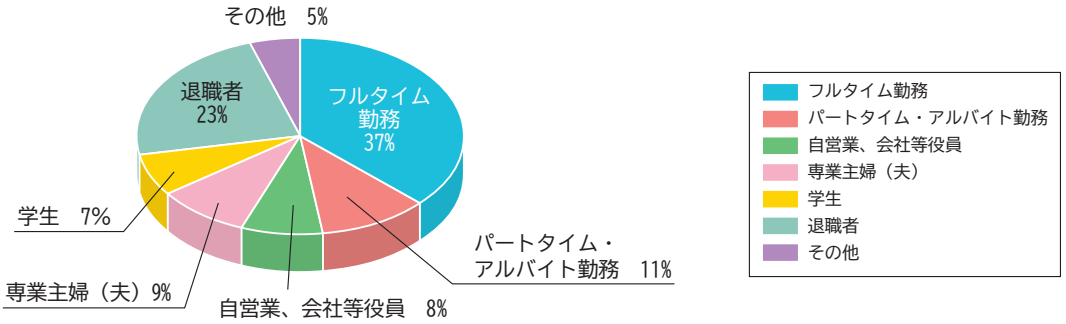
【年齢】

10代	20 ～ 30代	40 ～ 50代	60 ～ 70代	80代以上
11	38	111	109	5



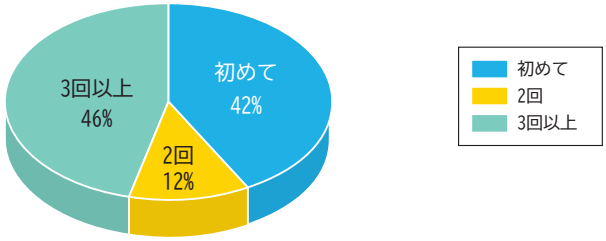
【職業】

フルタイム勤務	パートタイム・アルバイト勤務	自営業、会社等役員	専業主婦(夫)	学生	退職者	その他
102	30	22	24	19	63	14



【本学公開講座の受講経験】

初めて	2回	3回以上
115	32	127



【講座の感想等】

［春期：F1　日本仏教入門―井上円了『日本仏教』購読］

・最終回の麟祥院でのフィールドワークは暑い中で厳しい講義でしたが、竹村先生の講義は全て大変有意義で毎回学びの連続です。秋以降も継続して受講したいと思いますのでよろしくお願いします。
・井上円了先生の独特の用語、言葉使いに慣れるまで苦労しました。竹村先生の講義は密度が濃く安心して聞くことができました。講義の範囲は竹村先生の諸著作を併行して読んで出席する動機付けになりました。
・質疑応答の時間を十分取っていただいていたので、有意義だった。

［春期：F2　二人の女房は何を書き残したのか　―『枕草子』と『源氏物語』］

・先生の豊富な知識と、面白いお話にぐんぐん引き付けられました。伊勢物語と源氏物語の関連性を具体的に理解できたかと思います。ありがとうございました。
・枕草子、紫式部日記から古今集、伊勢物語まで、歴史を振り返りながらの講座で、想定質問を考えるために色々な資料や本の解説などにあたり、興味が尽きず刺激的でした。
・講義＋フィールドワークで理解をより深めることができた。紫式部 vs 清少納言の切り口も良かった。

［春期：F3　みんなのゼミナール新しい自分を見つけよう第３期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援～］

・今回初めて参加させて頂き、実りの多い有意義な経験となりました。これから策定する本市のこども計画や子ども施策の参考とさせて頂きます。ありがとうございました。
・法律が変わった事で今起こっていること、まだ整備されていない事などを具体的に教えて下さってとても参考になりました。また、実際に施設を見学したりスタッフの方の話を聴いたり出来たのも有意義なものでした。
・甫水会の案内で参加しました。久しぶりの学校での学びは気持ちを前向きに出来る貴重な機会となりました。多職種の方と情報交換出来たり、今後の子どもとの関わり方の視点を見直す機会となりました。

［春期：F4　ソーシャルワークにおける権利擁護を考える］

・日々の仕事への向き合い方を考え直す良い契機となった。「誰のための支援なのか」「苦悩に焦点を当てるということ」「制度等に批判的な目をもち、利用者さんと共に変革をする姿勢を持つこと」等意識していきたい。
・とても有意義な時間でした。権利擁護はモヤっとしていた事がすっきりした部分も多く、逆に今まで意識していなかった部分でモヤっとしたり。改めて学びを大切に取り組んでいきます。ありがとうございました。
・高山教授の講義はわかりやすく、障がいのある方達への人権や偏見など様々な問題を知ることができました。また、ソーシャルワークに関わっている方々の現状や意見をお聞きする事ができ、勉強になりました。

［春期：F5　福祉実践最前線：自立支援とリハビリテーション「ケアの本質―生きることの意味」から学ぶ～福祉専門職が知っておくべきケアとは～］

・多職種連携や客観的な見解に必要な専門知識の必要性を改めて知ることができた。
また、ケアの本質から支援の楽しさや深さを改めて知ることができた。ぜひ自分の職場でも講義をして頂きたいと感じました。
・リハビリの研修にて人体の構造など医学的な点についての講義が現場でも使える知識として非常に勉強になりました。
・介護の身体的と心理的の２種類の角度で学ぶことができて有意義だった。新たな視点と振り返りができた。

［春期：F6　わたしの起業プロデュース人生～サザコーヒーはどうブランド力を確立したか～］

・コーヒーの入れ方で、味が全く変わるということを体験できました。コーヒーのことが少しわかったように思います。早速我が家のコーヒーの入れ方が変わりました。コーヒーも奥深いです。
・サザコーヒーさんの戦略、戦術を聞かせて頂き大変勉強になりました。また、美味しいコーヒーの入れ方を分かりやすく教えて頂きましたが、奥が深いものだと改めて考えさせられました。
・鈴木会長の人柄がにじみ出ており良いお話が聴けた。コーヒーに関して知らなかった様々な知識を得られた。実際に高価なコーヒーを味わうことまでできて有難かった。かくしゃくとしておられて勇気をもらった。

［春期：A1　仏教的心の探求～仏教は心をどのように捉えたのか～］

・とても難しかったが、面白かった。

・内容はとても難しかったですが、頂いた資料を今後時間をかけて読んで、理解をすこしでも深められたらと思います。

［春期：A2　幕末維新の古文書］

・近藤勇による生々しい文言により当時の緊迫感を感じ取ることができました。また、高杉先生の、時代を先取りした思考にふれることができ満足しております。
・先生の講義は数度受講していますが、いつも別の予定と重なりオンラインでした。今回初めて対面で受講し、楽しく拝聴いたしました。
・幕末維新が好きで多くの本を読んでいましたが、母校で興味を引く講義があると知り参加しました。当初はついて行けるか不安でしたが、結果的に興味をより掻き立てられました。またスクーリングにより学生気分満喫！

［春期：A3　織田信長―“戦国の天下人”の実像―］

・はじめに、定説が生まれた時代説明があり、納得しました。先生の講義は論理的で新しい信長像を納得しました。
・先生の語りが、非常にわかりやすくて、面白かったです。

［春期：A4　万葉集講座―万葉の歌・生活・文化―］

・意義な機会をいただき、ありがとうございました。教えていただいた万葉の人々は、心豊かに生きていたのではと想像します。また、受講させていただける機会を楽しみにしております。
・毎回、詳しい資料をいただき有り難うございます。そのまま本にしてもよい程、よく吟味されていて、わかりやすく、先生に貴重なお時間をずいぶん割いていただいているのだろうと感謝の限りです。
・各回ごとにテーマが設定されており、それに基づいて歌を読むことができ、大変分かりやすかったです。図書館が使えるのも補助資料を探すのにとても役立ちました。

［春期：A5　植物に学ぶ 2024～初夏のプラントウォッチング～］

・とてもワクワクした気持ちで、参加しました。植物についての新しいことを沢山知りました。植物に対する見方が大いに変わりました。植物への尊敬と感謝、そして人生の楽しみも増えたように思います。
・土曜の授業、日曜の小石川植物園でのフィールドワークともに大満足でした。いずれも内容が濃くて時間があっと言う間に過ぎました。次回はより複数回での開催を希望します！
・昨年より野草を勉強していますが、そのための科学的基礎を得るのに役立ちました。今後もこの様な講座があれば、参加したいと思いました。

［春期：A6　介護保険制度の賢い使い方：2024年度版］

・介護保険の知識が全くなかったが、仕組みについて学ぶことができました。介護施設にも様々あること、入る施設によって介護保険の限度額が変わることなど勉強になりました。
・同じ認定なら在宅で介護保険サービスを受けるのが一番利用限度額が多くなることが今回の講義からよくかりました。

［春期：A7　自宅でも出来る運動で健康づくり］

・今回の神野先生の講義では、身体活動と死亡率、ストレスの関係性から運動の大切さを知ることができました。また、自宅でできる運動では、軽いヨガやストレッチなどをして血

流をよくすることで、リラックス効果や睡眠の質が向上、生活習慣病の予防ができることを知り驚きました。私は、普段仕事で忙しく運動不足なので、今回教えて頂いたストレッチを実践して少しでも運動不足を解消しようと思います。
・今回の講義では、普段の運動の重要性知ることができました。私は、最近ボケて来ているので今回教えてもらった体操をして認知症予防したいと思います。

［春期：A8　アーティスト・マネジメントの将来像］

・今まで何となくでしか分かっていなかったアーティストマネジメントの世界をよく理解する事が出来ました。ここでしか聞けない裏話等もあり、とても満足度が高かったです。
・本日は貴重なお時間を私たちに割いてくださり、ありがとうございました。アーティストマネジメントやレコード会社に関する細かなことについて知ることができ、有益な時間を過ごすことができました。
・より一層音楽業界に関わりたいという気持ちが芽生えました。先生方、お忙しい中大変貴重なお話、また実にエンタメ的で楽しい講座をありがとうございました。

［春期：A10　マーケティング入門］

・息子が経営学部でお世話なっていて、どんな勉強をしているのか興味があり夫婦で受講しました。日常生活の中でマーケティングを身近に考えられるきっかけになりました。ありがとうございます
・在学時に学んだ内容もいくつかありましたが、社会人になり改めて受講すると、当時よりもそれぞれの定義を解像度高く捉えられました。マーケティングの面白みを再認識しました。ありがとうございます。
・今まで知らない世界だったのでとても興味深い内容でした。買い物をしたり食事をする場面で今までと違うことを感じることになりそうです。便益は何か、ターゲットは？など。

［春期：A11　キリンのツノは何センチ？～身近なもので知るキリンの大きさ～］

・今年の講義も大変面白かったです。郡司先生の講義を聞いて、毎年同行している娘も今まで以上に比較解剖学に興味をもったようで、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
・きりんについて、身近なものの大きさと比べながらとても楽しく学ぶことができました。大好きなきりんへの解像度が上がりよかったです。また来年も参加したいです！
・これまでの講座や、著書などで勉強したことが８割頭に入っていることを確認できました。これからもキリンたちを見守り続けたいと思います。貴重なお話ありがとうございました。

［春期：OP1　井上円了の哲学と仏教］

・円了氏の考えが知れたのはとても良かった。資料がしっかりしているのもありがたい。当時の状況から円了氏の考えがどう評価できるかに興味が生まれた。
・虚往実帰の感を得られました。尊敬している先生の講座に参加出来た事は、嬉しく、気が引き締まりました。またご縁があれば、是非参加したいと思います。今回はありがとうございました。
・円了の哲学観、仏教観を２回とコンパクトにまとめていただいたことでわかりやすかった。機会があれば今後もっと深く知りたいです。

［春期：OP2　救急医療関連情報の連携の現況と課題：IT 活用による医工連携が創る近未来像］

・ICT を専門に研究をしていますが、医療との懸け橋の部分がわかりやすく説明されており、

学べることが多くありました。ありがとうございます。
・日本の救急医療が直面している問題が具体的にわかり、その解決策として ICT の活用が検討されている事が理解できた。特に RFID といった赤外線センサーの利用が検討されている事は初めて聞いた話で勉強になった。

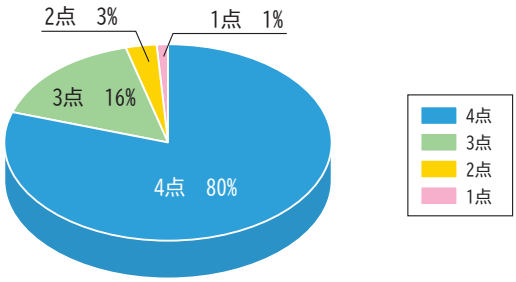
2024年度　秋期講座総合集計結果

申込者数：389名
回収枚数：177枚

◎受講した講座について（満足度等）

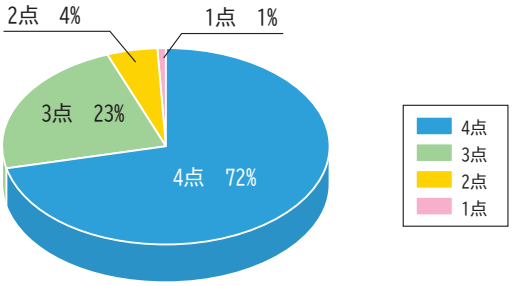
【新たな知見・発見】

4点	3点	2点	1点
141	28	6	1



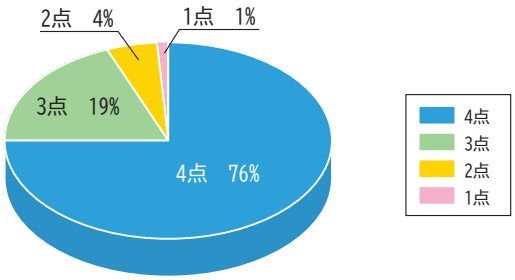
【理解度（分かり易さ）】

4点	3点	2点	1点
126	40	9	1



【満足度】

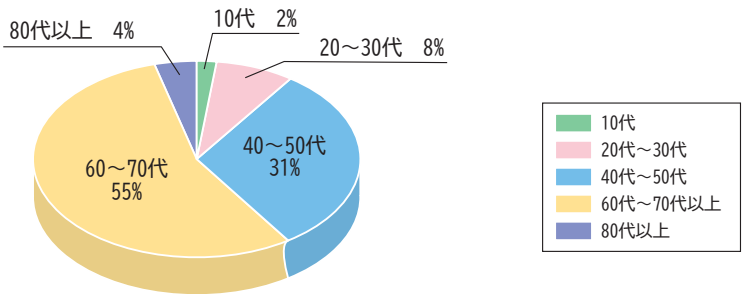
4点	3点	2点	1点
133	34	8	1



◎受講者について

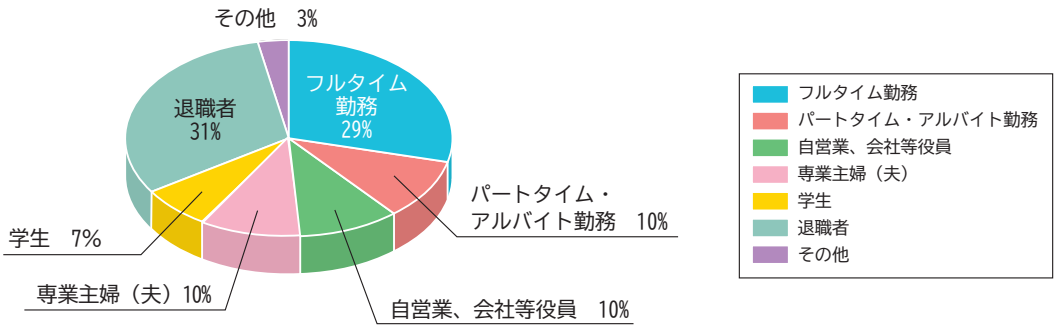
【年齢】

10代	20 ～ 30代	40 ～ 50代	60 ～ 70代	80代以上
3	14	54	98	7



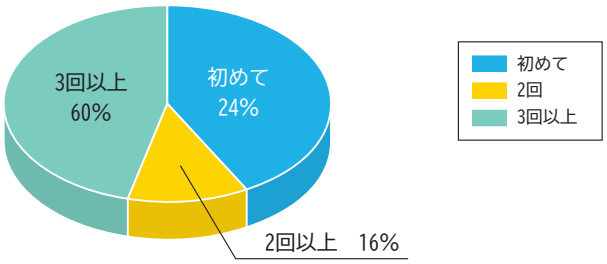
【職業】

フルタイム勤務	パートタイム・アルバイト勤務	自営業、会社等役員	専業主婦(夫)	学生	退職者	その他
51	18	17	17	13	54	6



【本学公開講座の受講経験】

初めて	2回	3回以上
42	28	106



【講座の感想等】

［秋期：F1　日本仏教入門―井上円了『日本仏教』講読］

・大乗仏教の基本的な内容や各宗派の特徴を理解することができた。今後、個別の教義について、勉強してみたいと思う。詳細を丁寧にご教授いただき、たいへん感謝しております。
・井上円了の独特の用語は竹村先生の言葉で言い換えていただきわかるようになりました。講義のあとの質問には丁寧に回答いただきたいへんありがたく感じました。
・竹村前学長様の講義を春秋続けて拝聴叶い、本物の講義に出会えた！と、大満足でございます。講義は回を重ねる毎に頭の中にスーッと入って参ります。引き続きの開講を切にお願い申し上げます。

［秋期：F2　『源氏物語』の「巻名」の奥深さ～紫式部の思索を探求する～］

・理系出身で３年ほど前に源氏物語を通しで読みました。そのあと理解を深めるために伊勢や古今集を読んでいます。今回の講義は一人で読んだ10年分以上の内容があったと感動しています。
・初めて参加しましたが、物語として面白いと思っていた源氏物語の違った見方を知ることができて、とても興味深かったです。ありがとうございました。
・源氏物語の内容を巻名から読み解くということが、とても興味深い視点でした。先生のお話も分かりやすく、楽しく聞くことができました。

[秋期：F3　みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう第４期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援(2) ～]

・第一回から参加し、子供支援と言う自分の専門から始まり、若者支援と言う自身の専門から外れた学びになっていった。日本の現状や世界での取り組み等、知らないことが多く学びになった。
・海外の事例や現場での取組など、さまざまな視点から掘り下げていただき理解が深まった。
・参加者同士の情報交換も出来、興味のあるテーマについて新しい視点で学びを深める事が出来ました。

[秋期：F4 「ソーシャルワークと権利擁護」～当事者とは何かを改めて考える～]

・毎回、分かりやすい語り口で大変勉強になりました。日々、もやもやしてるものを代弁してもらっている感覚もあり、「正解のない問題」に相対するモチベーションを保つことに毎回元気をもらっていました。
・実践的な知識や経験を参加者間で共有したり、担当の先生を通じて学術的な検証したりと大変有意義な時間になりました
・ソーシャルワークの本質に迫る講義でまさに求めていた内容だった。集った方々も同業他社の方、さまざまな立場の方々で社会人になってソーシャルワークを学びたいという共通項があり議論も活発に行われていた。

[秋期：F5　ダイバーシティ・マネジメント―リーダーシップのあり方とは―]

・教授の授業、とても楽しかったです。座学だけの講座ではなかったので、とても有意義な時間でした。
・２回の受講、対面、ディスカッションとっても有意義でした。

[秋期：F6　遠野の地で生まれた地酒を未来へ！]

・「人生は楽観して奮闘すべき舞台である」、円了先生の格言を体現されているお話で、大変感銘を受けました。ぜひ、一度遠野にも出向いてみたくなりました。
・社長さんの歩んでこられた半生を垣間見させてもらい、勇気をもらいました。どうぞ、これからも『負けない心』で進んでください。清々しい心地で帰宅しました。本日はありがとうございました。
・遠野は訪問した事がないので様子を聞く事ができ興味を持ちました。日本酒やビール造りをこれからも応援しております。東洋大ビールも気に入りました。ありがとうございました。

[秋期：A1　大乗仏教入門～中と空の思想～]

・渡辺先生の深い学識と知見に基づく講義は大変わかりやすく、有益でした。ありがとうございました。
・中とか空の考え方が仏教の初期からあったことが理解できました。

[秋期：A2　ミヒャエル＝エンデのファンタジーと日本の童話]

・広い視野で語られる内容がとても興味深く、分かりやすく説明していただけたので良かったです。
・複数の講師から違う視点で講義を聴講出来てよかったです。

［秋期：A3　幕末維新の古文書］

・色々な書体を読み解く作業は困難ですが解く事で背景にどのような動きがあったかがわかる事はとても興味深いです。
・幕末会津藩が徹底的に新政府軍に交戦した理由の１つの「家訓十五ケ条」があったことがよく分かりました。ただ、文書を読むだけでなく、今日のように背景もご説明していただくと文書もよく理解できます。
・人生初講義。幕末について YouTube 配信をあさるように聴いてました。古文書から人物の理解（人柄や、関わりの深さ、抱えている苦悩）が深まること、まだ出会っていない人物や背景を知り大変面白かったです。

［秋期：A4　藤原道長と平安貴族社会］

・今回の講座は、大河ドラマを見ていて興味をもったため、受講しました。平安時代の貴族の生活とか人間関係がよくわかり大変よかったと思いました。講義のレジメも事前に準備されており、受講に大変役にたちました。
・実資の目線の貴族社会には源氏物語や枕草子にも語られない情景がわかり興味深い講座でした。是非続編をお願いします。

［秋期：A5　万葉集講座ー万葉の歌・生活・文化ー］

・先生の知識の奥行きや多彩さにいつも感嘆しております。特に本日は自宅傍の六義園の話で面白く、そして学んできた万葉の時代との繋がりに感無量の心持ちです。また楽しみにしております。ありがとうございました。
・万葉の舞台に降り立ったと感じられる。名講義をありがとうございました。丁寧にご用意くださる資料も貴重です。古代日本の歴史文化人間との対話ができたようで楽しい講義でした。
・万葉集を学べば学ぶ程、人間の感情に進歩変化がない事がわかります。愛別離苦を経験し、鑑賞能力が深まり、先生がテーマとされた心の追求にふれる事が出来た時間は尊い時間だと感じております。

［秋期：A6　村上春樹の文学世界―長編小説を読む2024］

・毎講義情報量が多く、講義のテーマの作品以外からも多くの引用があり、聞き応えがありました。とても楽しかったです。ありがとうございました。個人的に短編集が好きなので次回の講義も楽しみにしています。
・新しい視点で小説を読むことができた。先生とのディスカッションも楽しかったです。
・第３部　鳥刺し男編は前回読んだ時より理解が出来なかったが、先生や受講生の方々のお話を聞いてヒントをもらった。また新たな気持ちで読んでみます。

［秋期：A7　遥かなる唐の調べに魅せられて～音読で中国の名詩人たちと旅する時間～］

・唐の時代に思いを馳せ、楽しい時間を過ごせました。
・詩人の背景や足取りをわかりやすく説明していただきとても良かったです。

［秋期：A8　ウクライナ戦争を隣国から見る］

・EU 諸国への影響や環境制作と農業という内容など、普段のニュースでは知り得ない内容で新たな気づきでした。
・興味深い講義でした。ありがとうございました。
・日常の報道で知ることが難しい内容を教えていただけたので、視野が広がったように思います。

［秋期：A9　マーケティング・トピックス］

・講義内容はわかりやすい上、新たな発見もできました。些細な質問にも丁寧にご回答いただき、継続的に学ぶきっかけを得ることができました。ありがとうございました。
・話についていくのがやっとな感じですが、いろいろな知識が得られ勉強になりました。ありがとうございました。
・大学の講座を始めて受けました。難しい堅いイメージがあり不安でしたが、楽しくわかりやすく学べてすごく良かったです。身近なブランドの商品について、これか！！と色々考えるようになりました。

［秋期：A10　介護保険制度の賢い使い方：2024年度版］

・具体的なお話が多く、初心者にもとても分かりやすい講義でした。講義後の個々の質問・相談にも丁寧に対応してくださり、その内容説明もまた為になりました。ありがとうございました。
・わからないことだらけでしたので、とても勉強になりました。先生のお話も楽しくわかりやすかったです。もう少しいろいろ知りたかったので、時間が短く感じました。
・制度のことだけでなく、介護認定時の本人の挙動等、みんなそうなのだと知って安心しました。また、失敗は当然のことである、といった姿勢にも未来が開けました。今日は貴重なお話をありがとうございました。

［秋期：OP1　麟祥院と井上円了―ZAZEN で自己発見・自分磨き！―］

・井上円了の活動の一旦が分かり、興味がわいた。また、参禅の機会もはじめてで貴重であった。個人的には、参禅について焦点を絞った講座に参加してみたいと思った。
・学校で井上円了と哲学館については学んだが、麟祥院についてはほとんど知らなかったためとても良い機会だった。また、初めての座禅は難しかった。
・麟祥院と井上円了先生との結びつきについて、法学部長谷川先生の最新研究の一端をお聞きできたことや、座禅の体験がとても有難かったです。

［秋期：OP2　これからの災害復興を考える―日本・海外の事例から学ぶ］

・今後の復興に関する現状や今後の課題など画像やグラフを取入れた講義で分かりやすく丁寧でした。更に復興に興味を持ちました。ありがとうございました。
・まさに、今の話題が取り上げられて素晴らしかったです。松丸教授の優しく、分かりやすい語り口がとても聴きやすかったです。
・講義ありがとうございました。災害と復興活動について知識を深めることができました。保険での備えもしつつ、防災も行っていただきたいなと思いました。

［秋期：東洋大学災害救援ボランティア講座］

・講師の方々は、実績充分であり自己啓発につながりました。住まいの自治会活動、会社の災害対策に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
・１日目の講義では各先生方のこれまでの経験や研究がスライドを通して凝縮されており、自分の考えを改められ、とても有意義な時間になった。２日目の実践では災害が身近にあるということを知れて、考えを深められた。
・二日間の日程でしたが、本当に学ぶことが多く、参加してよかったと思いました。特にグループワーク等で、その場面に応じてどんな行動が必要かを考えるのは難しいなと感じました。

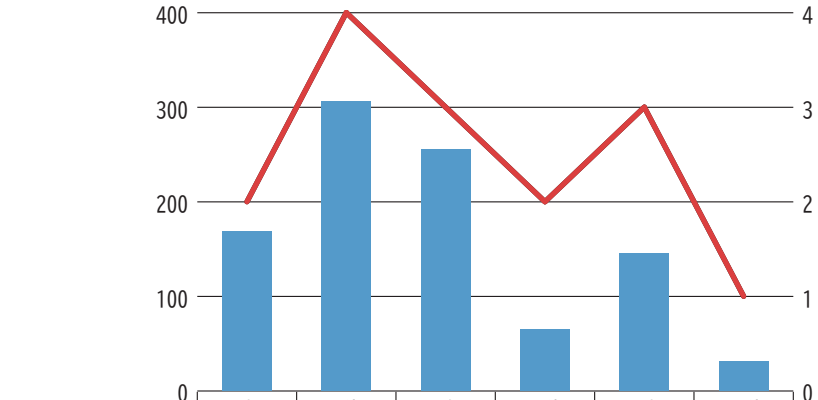
過去３年間の受講者数

オープン講座（無料リカレント講座含む）／ 2022 年～ 2024 年

※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。
※白山以外は、一般に学生を含める。

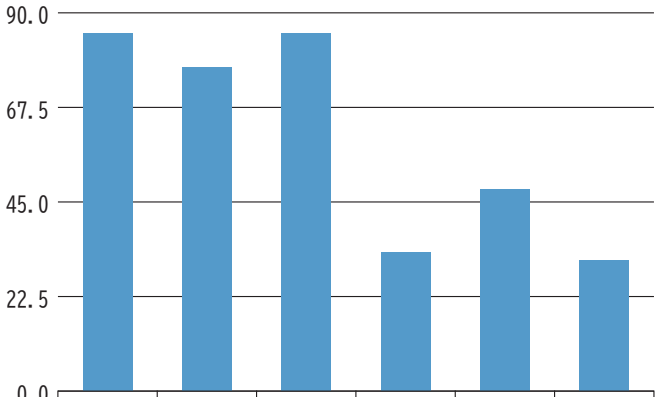
年度	学期	形式	場所	テーマ（一部省略有）	主な講師公演者等	講師等人数（団体数）	回数	総時間（分）	申込者数						
									一般			学生			申込合計
									対面	web	計	対面	Web	計	
2022	春	ハイブリッド	白山	カーボンニュートラル（脱炭素）～なぜ？ どうする？～	小川　芳樹	1	1	120	29	41	70	1	4	5	75名
		ハイブリッド	白山	無意識を鍛える　－変化の時代を生き抜くための円了100の言葉－	吉田　善一	1	1	90	29	63	92	0	2	2	94名
		ハイブリッド	赤羽	希望の建設・地獄の営繕　2022	内田　祥士	1	4	360	68	141	209	3	4	7	216名
		ハイブリッド	川越	パルスオキシメーターって何？～身近な医療機器を知ろう	山内　康司	1	1	90	10	15	25	4	0	4	29名
		ハイブリッド	板倉	共鳴する『枕草子』と『源氏物語』～二人の「女房」は何を書き遺したのか	河地　修	1	1	120	24	130	154	0	0	0	154名
	秋	対面	白山	井上円了と東洋大学発祥之地 麟祥院を知る座禅体験	竹村　牧男	1	1	90	20	0	20	13	0	13	33名
		ハイブリッド		井上円了の真宗観	竹村　牧男	1	3	270	52	51	103	1	2	3	106名
		ハイブリッド		災害の心理 ～避難・パニック・流言について～	中村　功	1	2	180	34	45	79	1	4	5	84名
		ハイブリッド		<リカレント> 東洋大学の起業家とアントレプレナーシップ	山本　聡	3	1	90	12	32	44	26	13	39	83名
2023	春	ハイブリッド	白山	ドナルド・キーンの日本研究を学ぶ～蔵書整理・調査プロジェクトから～	石田　仁志他	4	3	270	23	8	31	5	1	6	37名
		ハイブリッド		ウクライナ侵攻と EU 気候変動・エネルギー政策	市川　顕	1	1	90	47	48	95	3	1	4	99名
		ハイブリッド		井上円了の妖怪学 －迷う心と向き合う－	長谷川琢哉	1	2	180	48	68	116	1	2	3	119名
		ハイブリッド	赤羽台	現代住宅の現実と可能性	内田　祥士	1	2	180	62	54	116	0	0	0	116名
		ハイブリッド	川越	日本の都市と庭園鑑賞～京都の庭園を愉しむ～	神山　藍	1	1	90	19	34	53	0	0	0	53名
		ハイブリッド	板倉	『伊勢物語』『源氏物語』の魅力とは～その「深き心」を探る	河地　修	1	1	120	10	129	139	0	0	0	139名
	秋	対面	白山	麟祥院と井上円了-ZAZEN で自己発見・自分磨き！-	岩下　哲典	1	1	270	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド		ハザードマップとマイタイムラインで災害から身を守ろう	松丸　亮	1	1	180	27	18	45	0	0	0	45名
		対面	赤羽台	健康づくりはまちづくりから	齊藤　恭平	1	1	90	21	0	21	1	0	1	22名
2024	春	ハイブリッド	白山	井上円了の哲学と仏教	竹村　牧男	1	2	180	47	43	90	1	2	3	93名
		ハイブリッド		救急医療関連情報の連携の現況と課題：IT 活用による医工連携が創る近未来像	森村　尚登	1	1	90	13	10	23	1	1	2	25名
		対面	赤羽台	ビタミン C －なぜ摂るべきなのか？－	佐藤　綾美	1	1	90	57	0	57	0	0	0	57名
		ハイブリッド	川越	ナノスケールのエレクトロニクス	根岸　良太	1	1	90	0	13	13	0	0	0	13名
	秋	対面	白山	麟祥院と井上円了－ ZAZEN で自己発見・自分磨き！－	長谷川琢哉	1	1	90	27	0	27	0	0	0	27名
		対面	白山	これからの災害復興を考える－日本・海外の事例から学ぶ	松丸　亮	1	2	90	31	0	31	0	0	0	31名
		対面	赤羽台	自分史を書いてみよう	文　貞實	1	2	180	31	0	31	0	0	0	31名
		ハイブリッド		和辻哲郎の「奈良」・林屋辰三郎の「京都」・加藤周一の「東京」	内田　祥士	1	3	270	36	45	81	0	0	0	81名
		対面	朝霞	変化を愉しむマインドフルネスヨガ	高橋　珠実	1	1	90	24	0	24	0	0	0	24名

申込者数／開講数（白山オープン講座）



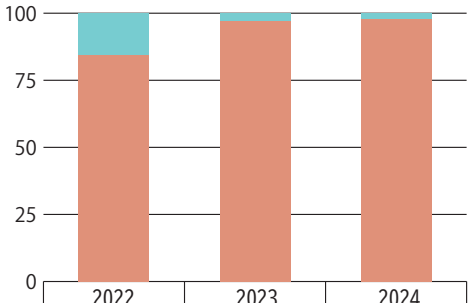
	1春 2022	2秋 2022	1春 2023	2秋 2023	1春 2024	2秋 2024
合計／申込合計	169	306	255	65	145	31
個数／回数	2	4	3	2	3	1

平均申込者数
（白山オープン／授業振替含む）



	1春 2022	2秋 2022	1春 2023	2秋 2023	1春 2024	2秋 2024
合計／申込合計	85	77	85	33	48	31

申込者内訳（白山オープン講座講座）



	2022	2023	2024
合計／学生計	67	13	5
合計／一般計	408	307	171

東洋大学フィロソフィアアカデミー／エクステンション講座 2022 年～ 2024 年

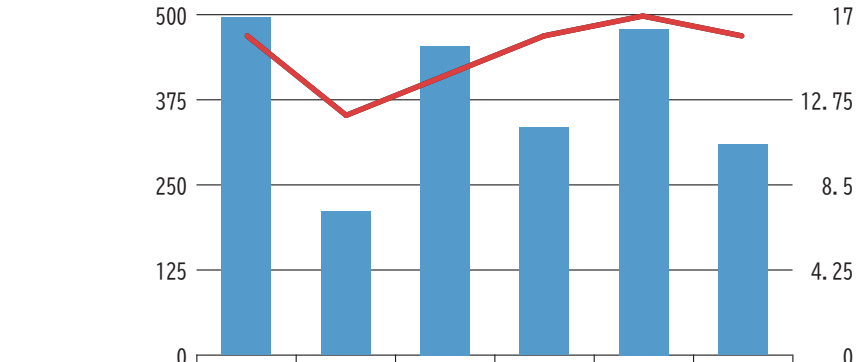
※中止講座は未掲載

年度	学期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間（分）	申込者数						申込合計
							一般			学生			
							対面	Web	計	対面	Web	計	
2022	春	ハイブリッド	唯識思想入門	竹村　牧男	3	270 分	27	19	46	1	0	1	47名
		ハイブリッド	戦国の一揆と宗教 ～一向一揆を中心に～	神田　千里	3	270 分	9	11	20	0	0	0	20名
		Web	世界遺産を考える	鈴木　道也	2	180 分	0	6	6	0	1	1	7名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む 「浮舟」「蜻蛉」巻　～浮舟の失踪～	河地　修	8	960 分	10	8	18	1	3	4	22名
		対面	万葉集講座 －万葉の歌・生活・文化－	菊地　義裕	6	540 分	22	0	22	1	0	1	23名
		ハイブリッド	村上春樹入門　～短編小説を読む～	石田　仁志	3	270 分	10	4	14	0	0	0	14名
		対面	中国古典詩入門～李白と杜甫～	坂井多穂子	1	90 分	23	0	23	1	0	1	24名
		ハイブリッド	＜続＞介護保険制度の賢い使い方	須田木綿子	1	90 分	11	11	22	1	0	1	23名
		ハイブリッド	高経年マンションの価値を維持するために－長期修繕計画を再考する－	秋山　哲一	1	120 分	17	5	22	0	1	1	23名
		ハイブリッド	スグにできる！洋楽を上手に歌うコツ	湯舟　英一	1	120 分	6	2	8	0	0	0	8名
		ハイブリッド	ストレスと自律神経－脳神経科学から見えた正体と対処法ー	堀内　城司	1	90 分	17	9	26	0	1	1	27名
		対面	アニメビジネスの現在・過去・未来	安藤　和宏 他	4	360 分	56	0	56	52	0	52	108名
		ハイブリッド	キリンの身体のふしぎ－人に話したくなるキリンの魅力－	郡司　芽久	1	120 分	82	34	116	1	2	3	119名
		ハイブリッド	海軍鎮守府開庁 120 年周年事業の展開 ～赤れんがを活かしたまちづくり～	須賀　忠芳 他	1	90 分	5	3	8	0	0	0	8名
		対面	クリエイティブ分野からみたデザイン思考	柏樹　良	1	120 分	13	0	13	3	0	3	16名
		Web	複式簿記の世界への誘い～日商簿記初級にチャレンジしてみよう～	増子　敦仁	7	630 分	0	6	6	0	1	1	7名
	秋	対面	死後の魂の民話考　－ヨーロッパと日本の霊性を垣間見る－	中里　巧 他	5	600 分	7	0	7	0	0	0	7名
		対面	世界の仏典～その成立と翻訳～	渡辺　章悟	3	270 分	16	0	16	1	0	1	17名
		ハイブリッド	鎌倉幕府の創成－源頼朝の人脈と守護・地頭問題を中心に－	森　公章	1	90 分	19	11	30	0	0	0	30名
		対面	諸葛孔明のトポス	白井　順	2	180 分	10	0	10	2	0	2	12名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む　「蜻蛉」巻～行方も知らず消えし蜻蛉	河地　修	8	960 分	11	7	18	1	3	4	22名
		対面	万葉集講座 ―万葉の歌・生活・文化―	菊地　義裕	6	540 分	24	0	24	1	0	1	25名
		対面	楽しい食育のコツ～味わう力を育み、豊かな感性の芽を伸ばす～	露久保美夏	1	90 分	5	0	5	0	0	0	5名
		ハイブリッド	ペットへの愛着と悲嘆	佐藤　亜樹 他	2	240 分	5	8	13	2	0	2	15名
		対面	中間選挙後の結果からアメリカの行方を読み解く	横江　公美	1	90 分	12	0	12	1	0	1	13名
		ハイブリッド	年金について考える	川瀬　晃弘	1	90 分	9	3	12	2	0	2	14名
		ハイブリッド	SDGs と環境問題～私たちが貢献する SDGs ～	後藤　尚弘 平松　あい	2	180 分	6	3	9	0	0	0	9名
		ハイブリッド	子どもの声を聴く力	西野　博之 森田　明美	1	180 分	11	30	41	1	0	1	42名
2023	春	Web	大乗仏教とは何かーその成立と展開－	渡辺　章悟	3	270 分	0	16	16	0	0	0	16名
		ハイブリッド	良寛の『法華経』観	竹村　牧男	3	270 分	29	19	48	0	1	1	49名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書を読む・知る	岩下　哲典	3	270 分	11	10	21	1	1	2	23名
		ハイブリッド	江戸時代の徒歩旅行	谷釜　尋徳	2	180 分	26	11	37	2	1	3	40名
		ハイブリッド	徳川家康と「信康・築山殿事件」	柴　裕之	1	90 分	30	20	50	1	1	2	52名

年度	学期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間（分）	申込者数						
							一般			学生			申込合計
							対面	Web	計	対面	Web	計	
2023	春	ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む－「手習」巻～浮舟は生きていた！	河地　修	8	960 分	13	8	21	0	3	3	24名
		ハイブリッド	江戸時代の二次創作～古典のパロディに触れる～	高松　亮太	2	180 分	8	1	9	2	1	3	12名
		対面	福祉社会システム専攻シリーズ：介護保険制度の賢い使い方 2023 版	須田木綿子	1	90 分	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	老後資金について考える	川瀬　晃弘	1	90 分	16	7	23	1	0	1	24名
		ハイブリッド	「終活」最前線	井上　治代	1	90 分	20	6	26	1	0	1	27名
		ハイブリッド	動物園の生き物をめぐる歴史秘話：キリンを初めてみた日本人は誰？	郡司　芽久	1	120 分	54	11	65	0	0	0	65名
		ハイブリッド	簿記の世界に飛び込もう～日商簿記初級にチャレンジ～	坂巻　仁志	7	630 分	7	7	14	1	0	1	15名
		ハイブリッド	最新の介護福祉実践とケアマネジメント～認知症ケアと自立支援～	古川　和稔	2	180 分	20	45	65	1	0	1	66名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール、子どもにかかわり新しい自分をみつけよう	森田　明美	3	270 分	18	3	21	0	0	0	21名
	秋	Web	大乗仏教をめぐる諸問題	渡辺　章悟	3	270 分	0	17	17	0	1	1	18名
		ハイブリッド	良寛の仏教	竹村　牧男	3	270 分	19	19	38	1	0	1	39名
		対面	神と悪魔－ヨーロッパと日本の倫理観を霊性から垣間見る－	中里　巧	5	600 分	7	0	7	1	0	1	8名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書を読む・知る	岩下　哲典	3	270 分	13	8	21	3	1	4	25名
		対面	東アジアと『三国志演義』	白井　順	2	180 分	9	0	9	1	0	1	10名
		ハイブリッド	斎藤道三と下剋上	木下　聡	1	90 分	8	4	12	0	1	1	13名
		ハイブリッド	徳川家康―江戸開幕への道程とその「実像」―	柴　裕之	1	90 分	20	9	29	0	0	0	29名
		ハイブリッド	『源氏物語』全巻を読む―「手習」「夢の浮橋」巻～浮舟はどこへゆくのか？	河地　修	8	960 分	21	5	26	2	2	4	30名
		ハイブリッド	村上春樹の文学世界－長編小説を読む 2023 －	石田　仁志	3	270 分	11	10	21	0	0	0	21名
		ハイブリッド	ストレス反応と自律神経　－脳科学から見えた正体と対処法－	堀内　城司	1	90 分	18	7	25	0	0	0	25名
		ハイブリッド	絵画鑑賞入門：グランドツアーと風景画の旅	増子　美穂	2	180 分	7	3	10	0	0	0	10名
		ハイブリッド	高経年マンションの価値向上にむけて～具体的な事例をもとに	秋山　哲一	2	180 分	8	6	14	0	0	0	14名
		ハイブリッド	植物、その驚きの能力！－知られざる植物の世界－	金子　有子	1	120 分	20	6	26	1	1	2	28名
		対面	クリエイティブ分野のためのデザイン思考	柏樹　良	2	240 分	9	0	9	1	0	1	10名
		ハイブリッド	マーケティング入門	長島　広太	1	90 分	21	4	25	0	0	0	25名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール　新しい自分をみつけよう～子ども・若者に寄り添う支援を考える～	森田　明美	3	270 分	12	13	25	2	2	4	29名
2024	春	対面	日本仏教入門―井上円了『日本仏教』講読	竹村　牧男	6	540 分	13	0	13	1	0	1	14名
		ハイブリッド	二人の女房は何を書き残したのか―『枕草子』と『源氏物語』	河地　修	9	810 分	23	8	31	2	0	2	33名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう第 3 期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援～	森田　明美	3	270 分	18	2	20	1	0	1	21名
		ハイブリッド	ソーシャルワークにおける権利擁護を考える	髙山　直樹	4	360 分	16	14	30	1	1	2	32名
		ハイブリッド	福祉実践最前線：自立支援とリハビリテーション、「ケアの本質―生きることの意味」から学ぶ～福祉専門職が知っておくべきケアとは～	古川　和稔 八木　裕子	4	360 分	10	19	29	0	0	0	29名

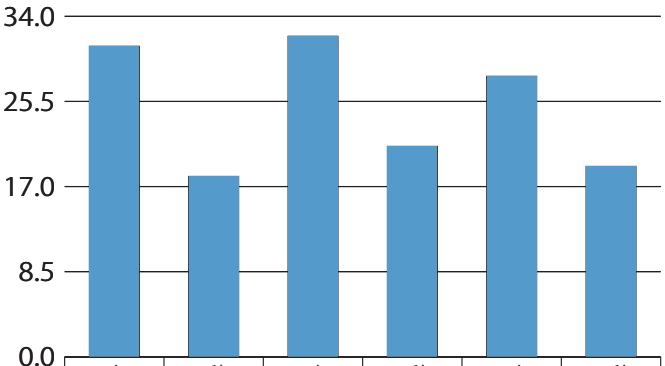
年度	学期	形式	テーマ（一部省略有）	主な講師	回数	総時間（分）	申込者数						申込合計
							一般			学生			
							対面	Web	計	対面	Web	計	
2024	春	対面	わたしの起業プロデュース人生～サザコーヒーはどうブランド力を確立したか～	鈴木誉志男	1	90 分	39	0	39	1	0	1	40名
		Web	仏教的心の探求　～仏教は心をどのように捉えたのか～	渡辺　章悟	3	270 分	0	15	15	0	0	0	15名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書	岩下　哲典	3	270 分	16	8	24	0	0	0	24名
		ハイブリッド	織田信長―“戦国の天下人”の実像―	柴　裕之	1	90 分	23	8	31	0	0	0	31名
		対面	万葉集講座―万葉の歌・生活・文化―	菊地　義裕	6	540 分	19	0	19	2	0	2	21名
		対面	植物に学ぶ 2024 ～初夏のプラントウォッチング～	金子　有子	2	180 分	12	0	12	1	0	1	13名
		対面	介護保険制度の賢い使い方：2024 年度版	須田木綿子	1	90 分	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	自宅でも出来る運動で健康づくり	神野　宏司	1	90 分	0	9	9	0	0	0	9名
		対面	アーティスト・マネージメントの将来像	安藤　和宏	3	270 分	29	0	29	42	0	42	71名
		ハイブリッド	失速する中国経済の行方：持続的成長は可能か？	郝　仁平	1	90 分	22	8	30	0	0	0	30名
		ハイブリッド	マーケティング入門	長島　広太	1	90 分	20	10	30	0	0	0	30名
		ハイブリッド	キリンのツノは何センチ？～身近なもので知るキリンの大きさ～	郡司　芽久	1	90 分	33	11	44	0	0	0	44名
	秋	対面	日本仏教入門―井上円了『日本仏教』講読	竹村　牧男	5	450 分	20	0	20	0	0	0	20名
		ハイブリッド	『源氏物語』の「巻名」の奥深さ～紫式部の思索を探求する～	河地　修	9	810 分	19	7	26	3	0	3	29名
		ハイブリッド	みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう第 4 期～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援（2）～	森田　明美	3	270 分	14	5	19	0	0	0	19名
		ハイブリッド	「ソーシャルワークと権利擁護」～当事者とは何かを改めて考える～	髙山　直樹	4	360 分	16	5	21	1	1	2	23名
		対面	ダイバーシティ・マネジメントーリーダーシップのあり方とはー	堀本麻由子	2	180 分	12	0	12	0	0	0	12名
		対面	遠野の地で生まれた地酒を未来へ！	新里　佳子	1	90 分	39	0	39	0	0	0	39名
		Web	大乗仏教入門　～中と空の思想～	渡辺　章悟	3	270 分	0	23	23	0	2	2	25名
		対面	ミヒャエル＝エンデのファンタジーと日本の童話	中里　巧	4	360 分	8	0	8	0	0	0	8名
		ハイブリッド	幕末維新の古文書	岩下　哲典	3	270 分	14	12	26	0	0	0	26名
		ハイブリッド	藤原道長と平安貴族社会	上村　正裕	2	180 分	19	6	25	0	0	0	25名
		対面	万葉集講座―万葉の歌・生活・文化―	菊地　義裕	6	540 分	12	0	12	0	0	0	12名
		ハイブリッド	村上春樹の文学世界－長編小説を読む 2024	石田　仁志	3	270 分	9	13	22	1	0	1	23名
		対面	遥かなる唐の調べに魅せられて　～音読で中国の名詩人たちと旅する時間～	大野 公賀	2	180 分	9	0	9	0	0	0	9名
		Web	ウクライナ戦争を隣国から見る	市川　顕	2	180 分	0	11	11	0	0	0	11名
		ハイブリッド	マーケティング・トピックス	長島　広太	2	180 分	10	5	15	1	0	1	16名
		対面	介護保険制度の賢い使い方：2024 年度版	須田木綿子	1	90 分	11	0	11	1	0	1	12名

申込者数／開講数（エクステンション講座）



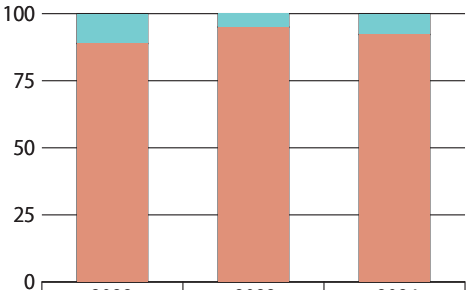
	1春 2022	2秋 2022	1春 2023	2秋 2023	1春 2024	2秋 2024
合計／申込合計	496	211	454	334	479	309
個数／回数	16	12	14	16	17	16

平均申込者数
（各期申込者数／各期講座数）



	1春 2022	2秋 2022	1春 2023	2秋 2023	1春 2024	2秋 2024
合計／申込合計	31	18	32	21	28	19

申込者内訳（エクステンション講座）



	2022	2023	2024
合計／学生計	84	38	62
合計／一般計	623	750	726

文化講演等／ 2022 年～ 2024 年

年度	期	形式	場所	テーマ	主な講師・出演者等	講師人数	回数	総時間（分）	申込者数						
									一般			学生			申込合計
									対面	Web	計	対面	Web	計	
2022	秋	対面	白山	日本の話芸－落語－	林家　時蔵他	3	1	90分	167	－	167	150	－	150	317名
2023	秋	対面	白山	オレンジ・ランプ映画上映	八木　裕子	1	1	150分	107	－	107	192	－	192	299名
2024	秋	対面	白山	凪が灯るころ～奥能登、珠洲の記憶～映画上映	髙山　直樹	1	1	150分	127	－	127	13	－	13	140名

※白山は、学生に教員等関係者を含む。学生は授業振替も含む。

文京アカデミア講座／ 2022 年～ 2024 年

年度	期	形式	場所	テーマ	講師	回数	総時間（分）	申込者数
2022	前	対面	白山	異文化からみた「思いやり」	淺間　正通	3	270分	21名
	前			世界と日本の震災と子どもたち	小野　道子	1	90分	29名
	後		文京アカデミア	夢と睡眠の心理学　基礎編	松田　英子	3	270分	30名
2023	前	対面	文京アカデミア	人間と自然～理科の視点から国語教材を考える～	大辻　永	3	270分	17名
	後	－	－	実施なし	－	－	－	－
2024	前	対面	文京アカデミア	「香害」について考える	川瀬　晃弘	3	270名	15名
	後	－	－	実施なし	－	－	－	－

＊受講者アンケートについては「アンケート集計結果」参照

東洋大学フィロソフィアアカデミー

F4 ソーシャルワークにおける権利擁護を考える

日　　時：2024年5月25日(土)・6月1日(土)・6月15日(土)・6月29日(土)
15：00 ～ 17：00 (120分)
講　　師：髙山 直樹(東洋大学福祉社会デザイン学部教授)
受講者数：32名

[講座の目標]

ソーシャルワーク(以下 SW) のアイデンティティは権利擁護です。改めて SW の価値とすり合わせながら、自らが選んだ SW の営みの使命とぶれない軸を確認します。

エクステンション講座A

A8 アーティスト・マネジメントの将来像

日　　時：2024年6月1日(土)　13：00～16：15 (195分)
講　　師：安藤　和宏(東洋大学法学部教授)
堀越　信哉(株式会社 LAKKAN 代表取締役)
中村　裕光(ATATAKA TOKYO 合同会社代表社員)
受講者数：71名

[講座の目標]

アーティスト・マネージメントの現状と課題を具体的な事例に基づいて十分に理解し、今後、アーティスト・マネージメントがどのような展開をしていくのかを考えることができるようになります。

白山オープン講座

OP1　井上円了の哲学と仏教

日　　時：2024年6月18日(火) 7月16日(火)　15：00～16：30 (90分)
講　　師：竹村 牧男(東洋大学名誉教授)
受講者数：93名

[講座の目標]

東洋大学の創立者、井上円了の哲学と仏教学の概要を理解し、人にその内容を説明できるようになると同時に、自身の哲学を構築するための一つの基盤を修得していただくことを目標とします。

東洋大学フィロソフィアアカデミー

F6 わたしの起業プロデュース人生

～サザコーヒーはどうブランド力を確立したか～

日　　時：2024年6月15日(土)　11：00 ～ 13：00 (120分)
講　　師：鈴木 誉志男
　　(株式会社サザコーヒーホールディングス代表取締役会長)
受講者数：40名

[講座の目標]

サザコーヒーが行ってきた商品開発と差別化による地方発のブランド確立を追求した企業経営を知り、市場の変化に対応する経営アイディアを得ます。

東洋大学フィロソフィアアカデミー

F3 みんなのゼミナール　新しい自分を見つけよう 第４期

～こどもまんなか社会をつくる子ども・若者支援(2) ～

日　　時：2024年10月5日(土)・11月9日(土)・12月7日(土)
　　10：00 ～ 12：00 (120分)
講　　師：森田　明美(東洋大学名誉教授)
　　平野　裕二(子どもの権利条約総合研究所)
受講者数：19名

［講座の目標］
　子どもや若者に対する支援のあり方について考え、福祉実践及び福祉制度への理解を深めることを目指します。

Pick Up

白山オープン講座

OP2　これからの災害復興を考える
―日本・海外の事例から学ぶ

日　　時：2024年10月26日(土)
10：00 ～ 11：30 (90分)、11：40 ～ 13：10 (90分)
講　　師：松丸　亮
(東洋大学国際学部教授・国際共生社会研究センターセンター長)
受講者数：25名

［講座の目標］
　国内外の災害復興事例を学ぶことで、大規模災害の発生が予期される日本において、より良い復興とは何かについて考えるための知見を得ることを目指しています。

東洋大学フィロソフィアアカデミー

F6　遠野の地で生まれた地酒を未来へ！

日　　時：2024年11月16日(土)　10：30 ～ 12：30 (120分)
講　　師：新里 佳子(上閉伊酒造株式会社　代表取締役)
受講者数：39名

[講座の目標]

上閉伊酒造の酒造りの「こだわり」と遠野発の「ブランド」を追求している経営のあり方を知り、人・もの・地域・自然と調和した持続可能な経営哲学を学びます。

資格講座

2024年度　資格講座

※開講講座のみ記載。

	期	講座名	開講地	委託会社	期間	回数	延べ時間数	受講料（テキスト代を除く） 学生／卒業生	受講料（テキスト代を除く） 一般	申込者数 学生	申込者数 卒業生	申込者数 一般	申込者数 計
1	春	MOS Excel 講座	Web（ライブ）	ヒューマンアカデミー	2024年5月14日 ～ 2024年7月16日	10	25H	¥18,340	¥22,010	10	2	1	13
2	春	MOS PowerPoint 講座	Web（ライブ）	ヒューマンアカデミー	2024年5月24日 ～ 2024年7月12日	8	20H	¥14,670	¥17,610	11	2	0	13
3	春	ＦＰ技能検定３級対策講座	対面	TAC	2024年6月4日 ～ 2024年9月5日	15	22.5H	¥13,770	¥16,530	26	0	6	32
4	春	宅地建物取引士講座	対面	TAC	2024年5月18日 ～ 2024年10月12日	45	135H	¥57,600	－	29	2	0	31
5	秋	MOS Excel 講座	Web（ライブ）	ヒューマンアカデミー	2024年10月15日 ～ 2024年12月17日	10	25H	¥18,340	¥22,010	24	2	3	29
6	秋	IT パスポート試験対策講座	Web（ライブ）	ヒューマンアカデミー	2023年10月20日 ～ 2023年12月15日	15	45H	¥19,800	¥23,760	25	3	2	30
								合計		125	11	12	148

講師派遣

2024年度　「東洋大学の講義を全国各地にお届けします」実施報告

１．2024年度講師派遣要項

(1) 名称「東洋大学の講義を全国各地にお届けします―講師派遣」とし、本年度は３つのプログラムを提供した。

①生涯学習支援プログラム(以下『生涯』)
・教育委員会、生涯学習・社会教育等の各種団体が開催する講演会および学校の PTA 等で企画する講演会等へ本学の講師を派遣
②研修支援プログラム(以下『研修』)
・企業、各種団体等で実施する研修会等へ本学の講師を派遣
③ SDGs（持続可能な開発目標）達成学習支援プログラム(以下『SDGs』)
・全国の小・中・高等学校、特別支援学校における SDGs 目標達成のための教育を推進するため、本学教員を派遣

【派遣期間等】

派遣期間	2024年６月５日(水) ～ 12月14日(土)
申込期間	2024年４月１日(月) ～ 10月15日(火)
申込締切	開催希望日の２ヶ月前迄とし、原則として、①③は年間1団体につき１回派遣。但し、９月および10月開催分は、７月５日(金)締切。
派遣実施件数	83件
派遣上限	本学専任教員並びに本学名誉教授で、１教員の派遣数は原則３回まで

２．実施経過（概略）

(1) 2023年11月21日　：専任教員全員と元教員に対して、当事業への協力要請
(2) 2024年１月５日　：テーマ募集提出締切
(3) 2024年１月～３月：テーマ集約・分類・ＨＰアップ準備(事務局作業)
(4) 2024年４月１日　：ホームページ等にて受付開始
(5) 2024年４月５日　：パンフレット送付

送付先	件数
教育委員会	1812
大学施設関連	3
過去派遣実施(自治体他)	454
過去派遣実施(企業)	24
東京都・文京区	47
高校教員入試説明会	545

3. テーマ数、実施件数

テーマ提出教員数：専任教員　174名（全専任教員の約23%）　元教員33名

プログラム	生涯	研修	SDGs	合計
募集時テーマ数	178	23	91	580
	288（共通テーマ）			
実施件数	74	4	5	83

(1) 地域別派遣実施件数

地　域	生涯学習			研修			SDGs			合計		
	2023	2024	増減	2023	2024	増減	2023	2024	増減	2023	2024	増減
北海道	5	5	➡ 0	0	0	―	0	0	―	5	5	➡ 0
東　北	1	4	⬆ 3	0	1	⬆ 1	0	0	―	1	5	⬆ 4
関　東	39	42	⬆ 3	2	1	⬇ (1)	8	4	⬇ (4)	49	47	⬇ (2)
中部／甲信越	6	9	⬆ 3	1	1	⬆ 0	0	0	―	7	10	⬆ 3
北　陸	3	3	➡ 0	0	0	―	1	0	⬇ (1)	4	3	⬇ (1)
近　畿	6	7	⬆ 1	0	0	―	0	1	⬆ 1	6	8	⬆ 2
中　国	2	1	⬇ (1)	0	1	⬆ 1	0	0	―	2	2	➡ 0
四　国	1	0	⬇ (1)	0	0	―	0	0	―	1	0	⬇ (1)
九　州	4	3	⬇ (1)	0	0	―	0	0	―	4	3	⬇ (1)
合　計	67	74	⬆ 7	3	4	⬆ 1	9	5	⬇ (4)	79	83	⬆ 4

(2) 実施一覧　別紙参照

(3) 講師の内訳

実施件数と講師の内訳は次のとおり。

	2023		2024	
	件数	人数	件数	人数
学　　長	0	0	1	1
教　　授	43	31	40	26
准 教 授	2	2	5	5
講　　師	0	0	1	1
客員研究員	1	1	2	1
名 誉 教 授	24	13	27	13
元 教 授	9	4	7	3
計	79	51	83	50

(4) 申込者（団体）のリピーターの割合

昨年度も実施した団体は23団体で、全体の約28%にあたる。

４．次年度に向けて

2024年度の申し込み件数は109件であったが､26件がキャンセルとなり､実施は83件となった。

昨年度に引き続き、対面による講座実施に限定せず、オンラインによる実施やハイブリッド型による実施の選択肢も用意したところ、オンライン実施は２件、ハイブリッド型での実施は１件となった。遠方への派遣のハードルが下がり、より柔軟に調整することが可能になったともいえるが、依然として対面による講座実施に重きを置く団体がほとんどであった。そのため日を跨ぐような遠方への派遣においては調整が難航する場面がみられたが、教員および元教員の協力により、片道100㎞を超える遠距離出張は39件で、実施件数のうち約４割を占めた。

公開講座もハイブリッド化が進み、大学近隣に住まいを構える方のみならず、全国に学びを提供できるようになった。「地方においては、現在においても学びの機会が平等とは思えない」という申し込み団体からの声もあるなか、こうした学びを提供する場があることを、受講者へ伝えていくことが急務である。次年度は派遣回数160件(生涯・SDGs130、研修30)を目標とし、地方を切り離さず、質の高い学びを提供できるよう講座提供をすすめていく。

2024年度　講師派遣事業　派遣先実績一覧

生涯学習支援プログラム

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2024年6月5日	東京都	東京都立江戸川高等学校	総合的な探究の時間	これから求められる資質・能力と学習活動とは－新学習指導要領とこれからの学び－	後藤　顕一	食環境科学部	320
2	2024年6月26日	東京都	府中市役所	府中市家庭教育学級	たかがアニメの教育学－サザエさん、ちびまる子ちゃん。クレヨンしんちゃん－	藤本　典裕	名誉教授	21
3	2024年7月2日	岩手県	公益社団法人岩手県青少年育成県民会議	青少年育成セミナー	あなたは気持ちを言葉で表していますか？－よりよいコミュニケーションを目指して－	坂詰　力治	名誉教授	27
4	2024年7月4日	神奈川県	伊勢原市教育委員会社会教育課	伊勢原市教育委員会第２回人権セミナー	たかがアニメの教育学－サザエさん、ちびまる子ちゃん。クレヨンしんちゃん－	藤本　典裕	名誉教授	50
5	2024年7月7日	埼玉県	きらり SDC	講演会(心理カウンセリング)	あなたは気持ちを言葉で表していますか？	坂詰　力治	名誉教授	37
6	2024年7月11日	滋賀県	NPO 法人葛川共創ネットワーク	中山間地域の活性化のためのグリーンツーリズム	グリーン・ツーリズム－フェアツーリズムの意義を踏まえて－	青木　辰司	名誉教授	25
7	2024年7月12日	群馬県	安中市教育委員会	生涯学習推進協議会研修	サイバー時代の身の守り方－何が問題でどのように守ればよいのか－	島田　裕次	元教授	28
8	2024年7月21日	千葉県	旭市教育委員会生涯学習課	旭市民会館講座	大人の理科教室－マイクロプラスチック～煮干しの解剖	寺木　秀一	元教授	23
9	2024年7月23日	神奈川県	川崎市　住吉地区社会福祉協議会保健福祉部	住吉地区社会福祉協議会保健福祉部講習会	食品表示から食の安全・安心を考える	大熊　廣一	名誉教授	44
10	2024年7月23日	岐阜県	瑞浪市ＰＴＡ連合会	瑞浪市ＰＴＡ連合会教育講演会	情報社会と心の教育	淺間　正通	人間科学総合研究所	64
11	2024年7月26日	北海道	芦別市教育委員会	芦別市女性大学・芦別市高齢者大学共催講座	あまり飲まないほうがいい薬の話	鈴木　孝弘	名誉教授	32
12	2024年7月26日	埼玉県	北本市役所生涯学習課	北本市放課後子ども教室スタッフ研修会	分かっていますか？「怒る」と「叱る」の違い	鈴木　崇之	福祉社会デザイン学部	50
13	2024年7月27日	秋田県	美郷町	令和６年度「美郷カレッジ」	子育て支援と地域コミュニティ	矢口　悦子	学長	46
14	2024年7月28日	岡山県	新見市立中央図書館・新見市教育委員会生涯学習課(共催)	新見市立中央図書館主催行事・市民学習講座	『源氏物語』はおもしろい！－女房が見た、聞いた、そして喋った－	河地　修	名誉教授	52
15	2024年8月22日	北海道	室蘭市悠悠ライフ教養講座	特別講座「東洋大学講座」	子ども・若者の貧困を考える	森田　明美	名誉教授	50
16	2024年8月30日	群馬県	館林市教育委員会生涯学習課	生涯楽習講座 in みのや	江戸の将軍たち	白川部達夫	名誉教授	59
17	2024年8月30日	東京都	東陽福祉会館	TOYO 学び舎応援塾	日本の昔話考	高橋　直美	福祉社会デザイン学部	29

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
18	2024年9月3日	新潟県	佐渡市教育委員会社会教育課	市民大学講座	生きることは学ぶこと	吉田　公平	名誉教授	52
19	2024年9月3日	埼玉県	新所沢まちづくりセンター・公民館	「健康講座」	睡眠の不調への対処と心理支援	松田　英子	社会学部	51
20	2024年9月4日	北海道	帯広市教育委員会	帯広市民大学講座	ロボットセラピー～アザラシ型ロボットの効用～	佐藤　亜樹	福祉社会デザイン学部	18
21	2024年9月5日	京都府	NPO 法人スモールファーマーズ	デジタル時代の子どもと読書	子どもと読書	竹内　美紀	文学部	20
22	2024年9月7日	埼玉県	新座市立野火止公民館	野火止公民館文学講座	百人一首を味わう	菊地　義裕	文学部	19
23	2024年9月11日	埼玉県	志木市立いろは遊学館	いろは大学　文学講座	『源氏物語』はおもしろい！－女房が見た、聞いた、そして喋った－	河地　修	名誉教授	70
24	2024年9月16日	山形県	庄内町教育委員会	シンポジウム	ペリー来航と幕末情報社会	岩下　哲典	文学部	174
25	2024年9月17日	北海道	上川町役場	上川町公民館講座	子どもと読書	竹内　美紀	文学部	22
26	2024年9月20日	熊本県	氷川町教育委員会	氷川町ふれあい大学	あまり飲まないほうがいい薬の話	鈴木　孝弘	名誉教授	90
27	2024年9月23日	東京都	羽村市教育委員会	ゆとろぎ市民講座	睡眠中の夢と心の健康	松田　英子	社会学部	47
28	2024年9月26日	富山県	滑川市中央公民館	高齢者学級　福寿大学	睡眠の不調への対処と心理支援	松田　英子	社会学部	33
29	2024年9月30日	神奈川県	厚木市教育委員会	厚木市家庭教育情報提供講演会	たかがアニメの教育学－サザエさん、ちびまる子ちゃん。クレヨンしんちゃん－	藤本　典裕	名誉教授	110
30	2024年10月2日	滋賀県	草津市教育委員会事務局生涯学習課	学びの地域支援講座	「まちあるき」で地域の魅力を掘りおこそう	小瀬　博之	総合情報学部	27
31	2024年10月11日	埼玉県	和光市教育委員会事務局生涯学習課	和光市民大学特別講座	分かっていますか？「怒る」と「叱る」の違い	鈴木　崇之	福祉社会デザイン学部	40
32	2024年10月12日	愛知県	稲沢市立中央図書館	図書館教養講座	折り紙や切り紙で幾何学を楽しもう	吉野　隆	理工学部	36
33	2024年10月15日	奈良県	上牧町教育委員会事務局　社会教育課	高齢者(やよい)学級	若い時は田舎で、年を取ったら都会で過ごそう－人生にメリハリを－	幸田　浩文	名誉教授	38
34	2024年10月18日	埼玉県	春日部市庄和地区市民大学	春日部市庄和地区市民大学	ヴィジュアル言語　日本語の面白さ	三宅　和子	名誉教授	40
35	2024年10月19日	東京都	永福和泉地域区民センター協議会	文化活動部講座	百姓一揆の実像	白川部達夫	名誉教授	29
36	2024年10月25日	埼玉県	川口市立映像・情報メディアセンター　メディアセブン	メディアセブン歴史講座	「江戸無血開城」の真実	岩下　哲典	文学部	64
37	2024年10月26日	埼玉県	白岡市立図書館	図書館文学講座	百人一首を味わう	菊地　義裕	文学部	39
38	2024年10月26日	山梨県	義務教育振興北巨摩集会実行委員会	第６１次義務教育振興北巨摩集会	偏見、あるいはアンコンシャスバイアス、女性活躍を考える	北村　英哉	社会学部	100
39	2024年10月27日	長野県	佐久穂町公民館	佐久穂町公民館人権同和教育講座	差別と共生	井沢　泰樹	社会学部	61
40	2024年10月29日	愛知県	尾張旭市役所　生涯学習課	尾張旭市高齢者教室(長寿学園)	食の SDGs	大熊　廣一	名誉教授	36
41	2024年10月31日	千葉県	我孫子市教育委員会生涯学習課長寿大学	長寿大学1年生(51期生)学習計画	「聴き上手」になるために－言葉のボールの受け止め方－	鈴木　崇之	福祉社会デザイン学部	39

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
42	2024年10月31日	千葉県	習志野市中央公民館	中央公民館主催事業　歴史探訪	オリンピックの歴史	谷釜　尋徳	法学部	30
43	2024年11月2日	長野県	木曽町教育委員会	木曽町生涯学習講座　山村蘇門座談会	学習と學問－なぜ我々は学ぶのか－	吉田　公平	名誉教授	30
44	2024年11月4日	東京都	小平市中央公民館	小平市中央公民館　サークルフェア 2024	大人の理科教室－アンモナイトのレプリカづくりを通して地球の歴史を探ろう－	寺木　秀一	元教授	42
45	2024年11月4日	岩手県	奥州市立高野長英記念館	高野長英生誕220年記念講演会	ペリー来航と幕末情報社会	岩下　哲典	文学部	101
46	2024年11月7日	新潟県	新潟県立三条高等学校	グローバル探究・総合学習	数学を伝えるために工夫したこと～テレビ番組の監修を通して～	小山　信也	理工学部	260
47	2024年11月10日	東京都	文京区立本郷図書館	本郷図書館　講演会シリーズ	渋沢栄一とその時代	坂口　誠	経営学部	28
48	2024年11月13日	埼玉県	こしがや市民活動連合会	学識者による研修会	サイバー時代の身の守り方－何が問題でどのように守ればよいのか－	島田　裕次	元教授	30
49	2024年11月14日	兵庫県	加古川市立東加古川公民館	高齢者大学講座	“幸福度”の都道府県格差は？	鈴木　孝弘	名誉教授	128
50	2024年11月16日	愛知県	西尾市教育委員会生涯学習課	西尾市オープンカレッジ	大人の理科教室－マイクロプラスチック～煮干しの解剖	寺木　秀一	元教授	32
51	2024年11月17日	千葉県	鎌ケ谷市中央公民館	鎌ケ谷市中央公民館主催事業講座	食品表示から食の安全・安心を考える	大熊　廣一	名誉教授	57
52	2024年11月18日	京都府	城陽市教育委員会	城陽市民大学	人間と自然ー防災の観点からー	大辻　永	理工学部	83
53	2024年11月18日	岐阜県	各務原市役所 西ライフデザインセンター	各務原市主催秋季短期講座	旅館の昔と今－変化への対応による明暗－	徳江順一郎	国際観光学部	69
54	2024年11月22日	京都府	宮津市教育委員会	宮津市人権問題研修会	ダイバーシティと日本社会	井沢　泰樹	社会学部	59
55	2024年11月22日	埼玉県	鶴ヶ島市立中央図書館	文学講座	『源氏物語』はおもしろい！－女房が見た、聞いた、そして喋った－	河地　修	名誉教授	40
56	2024年11月22日	埼玉県	ときがわ町子ども・子育て会議有志	子育て支援学習会	子ども・若者の貧困を考える	森田　明美	名誉教授	72
57	2024年11月23日	長崎県	小値賀町公民館	文化講演会	輝いて生きるための「終活」講座－自分らしい葬送と生前準備－	井上　治代	元教授	57
58	2024年11月24日	埼玉県	朝霞市東朝霞公民館	生活教養講座	介護保険制度の賢い使い方	須田木綿子	社会学部	32
59	2024年11月24日	東京都	北区立赤羽文化センター（指定管理：株式会社　旺栄）	北区立文化センター区民講座	子どものためのデジタル社会	島田　裕次	元教授	9
60	2024年11月24日	千葉県	鴨川市	鴨川市青少年健全育成大会及び鴨川市東洋大学交流事業	スポーツコーチング－「教える」から「学ぶ」へ	水島　淳	健康スポーツ科学部	63
61	2024年11月27日	千葉県	千葉市打瀬公民館	シニア体操と健康講座	生きがいを探索する	淺間　正通	人間科学総合研究所	73

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
62	2024年11月28日	千葉県	大網白里市　図書室	大網白里市歴史講座	江戸幕府の旗本たち	白川部達夫	名誉教授	47
63	2024年11月29日	北海道	江差町教育委員会	令和６年度 江差町 PTA 連合会研究大会 兼 江差町家庭教育講演会	子供の成長と運動について考える－身体と脳－	小河　繁彦	生命科学部	48
64	2024年11月30日	東京都	江北地域学習センター(指定管理者:株式会社ティーエムエンタープライス)	特になし	数学を伝えるために工夫したこと～テレビ番組の監修を通して～	小山　信也	理工学部	9
65	2024年11月30日	東京都	西荻地域区民センター協議会	東洋大学講師派遣事業学級講座「フィンランドの子育てと教育」	フィンランドの子育てと教育	藪長　千乃	国際学部	30
66	2024年11月30日	茨城県	筑西市子ども会育成連合会	筑西市子ども会育成連合会指導者研修会	子どもの権利の視点はなぜ必要か	森田　明美	名誉教授	37
67	2024年12月6日	愛知県	愛知県立名古屋聾学校	全校研修会(人権に関する研修)	差別と共生	井沢　泰樹	社会学部	51
68	2024年12月9日	埼玉県	川越市中央公民館	登録グループリーダー研修会	「やさしい日本語」の作り方－多文化共生のために－	平畑　奈美	文学部	40
69	2024年12月11日	千葉県	佐倉市立中央公民館	佐倉市民カレッジ１年生　公開講座	緊張高まる国際情勢と日本の生き残り戦略	西川　吉光	名誉教授	115
70	2024年12月14日	埼玉県	深谷市教育委員会生涯学習スポーツ振興課	第14期ふかや市民大学	地域はあなたの活躍を期待しています。地域活動に参加するための処方箋	小瀬　博之	総合情報学部	55
71	2024年12月14日	福岡県	古賀市生涯学習推進課	リーパスカレッジ(市民講座)	ストレスの本当の姿－本能と文明の闘い	堀内　城司	生命科学部	32
72	2024年12月14日	東京都	瑞穂町高齢者福祉センター寿楽	寿楽主催教室	松尾芭蕉は本当に健脚だったのか？	谷釜　尋徳	法学部	26
73	2024年12月14日	神奈川県	藤沢市明治公民館	ＳＤＧｓ講座	エコ活動は環境に優しいのか？－環境問題におけるトレードオフを考える－	荒巻　俊也	国際学部	27
74	2024年12月14日	埼玉県	長瀞町教育委員会	長瀞町人権フォーラム	コミュニティの活用－人のつながりを重視して－子どもと生きるこれから	大坪　宏至	経営学部	40
							生涯学習支援プログラム　受講者数　計	4064

研修支援プログラム

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2024年6月18日	埼玉県	埼玉県プラスチックス振興会	定期総会における講演会	SDGs と環境にやさしいものづくり～つくる責任とつかう責任～	神田　雄一	名誉教授	30
2	2024年10月17日	広島県	一般社団法人 A & A	次世代につなぐ福山のまちづくり－光がいを学んで環境を守ろう－	身近な環境問題「光害」を考えよう	越智　信彰	経営学部	46
3	2024年11月21日	福島県	福島県生コンクリート工業組合	2024年度経営者セミナー	新しいテクノロジーとこれからの働き方・学び方	久米　功一	経済学部	30
4	2024年12月11日	静岡県	静岡県東部県民生活センター	令和６年度スキルアップ研修会（第４回）	自宅に住み続けながら、その自宅から生活資金を調達できる！？ －リバースモーゲージ契約とは－	太矢　一彦	法学部	24
研修支援プログラム　受講者数　計								130

SDGs 達成学習支援プログラム

No	開催日時	開催県	団体名	開催する会	講演テーマ	派遣教員	所属学部	受講者数
1	2024年7月17日	東京都	東京都立葛飾総合高等学校	総合学習（東京都設定科目「人間と社会」）	働きがいも経済成長「日本人の働き方はこれからどうなるのか」	久米　功一	経済学部	200
2	2024年7月28日	埼玉県	桶川市	夏休み子どもワールド 2024	スマホ顕微鏡で地球最強生物クマムシを観察しよう！	伊藤　政博	生命科学部	30
3	2024年8月27日	和歌山県	和歌山県立橋本高等学校	SDGs 講演	世界のまちのバリアフリー	菅原麻衣子	福祉社会デザイン学部	37
4	2024年9月18日	東京都	清瀬市立清瀬小学校	総合学習	食べ物の好き嫌いはなぜ生じるのか？	大瀬良知子	食環境科学部	135
5	2024年10月30日	東京都	田園調布学園中等部・高等部	中 3・高 1 特別講義	数値の正しい理解とコロナ対策	小山　信也	理工学部	10
SDGs 達成学習支援プログラム　受講者数　計								412

総受講者数　合計	4606

2024 年度利用者の方から寄せられた声

生涯学習支援プログラム

利用団体：長崎県　小値賀町公民館
開催日時：2024年11月23日(土)　9：00 ～ 10：00
講　　師：井上　治代(元ライフデザイン学部教授)
テーマ：輝いて生きるための『終活』講座
～自分らしい葬送と生前準備～
聴講者数：57名

◆利用した感想

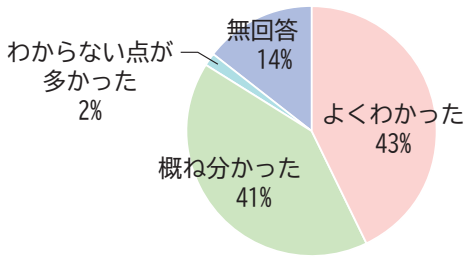
・高齢の方が多い町内で、一定の需要がある講演内容だったようです。
・講演当日は、小値賀町立図書館や長崎県立図書館に所蔵されている本と井上先生のインタビューが掲載されている新聞記事の展示もさせていただき、講演会を機に、今後のことを考えるきっかけや参考になったようなので、良かったです。

◆受講者の声

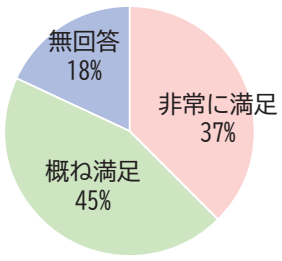
・今、一番興味のある内容で、本当に知りたいと思っている内容で、勉強になった。
・大病をしてから、自分の亡くなった後のことを考えた。子ども達に迷惑をかけないように少しずつ身の回りを片付けます。
・最近、関心があった内容だったので、講義を受ける機会があって、ありがとうございました。
・これからの自分にも関わるお話で、とても興味深かったです。

◆受講者アンケート結果（生涯学習プログラムのみアンケート収集）

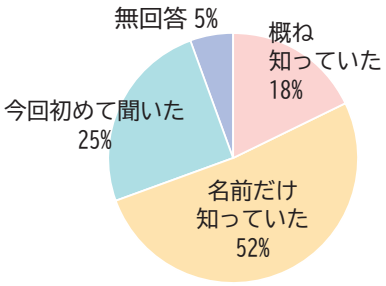
①内容のわかりやすさ



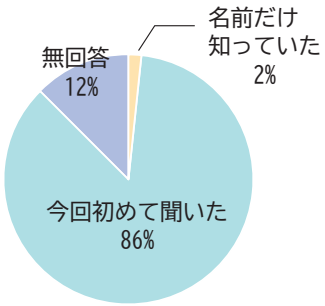
②講義の満足度



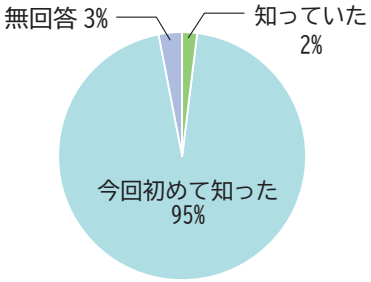
③「東洋大学」に関して



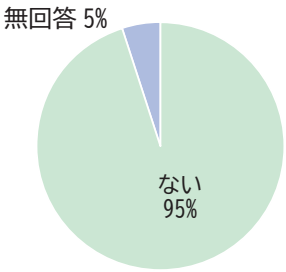
④井上円了を知っていましたか？



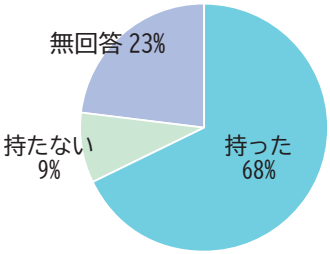
⑤本学の「講師派遣（無料派遣）」の
社会貢献事業について



⑥「東洋大学講師派遣」の講座を
受講したことがありますか？



⑦講義に参加して本学への
関心は持ちましたか？



2024 年度利用者の方から寄せられた声

研修支援プログラム

利用団体：広島県　一般社団法人 A&A
開催日時：2024年10月17日(木)　15:00 ～ 16:30
講　　師：越智　信彰（経営学部准教授）
テーマ：次世代につなぐ福山のまちづくり
　　ー光がいを学んで環境を守ろうー
聴講者数：46名

◆利用した感想

越智先生のわかりやすく丁寧なご講演、そして環境省の「光がい対策ガイドライン」についても実際の改訂時のお話や事例も豊富にお伝えくださり、大変ありがたかったです。

◆受講者の声

・「講演会の内容を通じて、すぐにでも実践してみたいと思ったことはありましたか？」という質問に「あった」が100％というご回答をいただきました。

・講演会の内容については、不満・やや不満・満足・やや満足・大満足の５つの選択肢の中、40名の方がアンケートにお答えくださり、「大満足」が39名、「やや満足」１名という高評価をいただきました。

2024 年度利用者の方から寄せられた声

SDGs 達成学習支援プログラム

利用団体：東京都　清瀬市立清瀬小学校
開催日時：2024年9月18日(水)　10:40 ～ 11:25
講　　師：大瀬良　知子(生命科学部教授)
テ ー マ ：食べ物の好き嫌いはなぜ生じるのか？
聴講者数：135名

◆利用した感想

小学校３年生対象に大学の講師の先生はどのような内容の授業をしていただけるのかなと思っておりましたが、分かりやすい授業をしていただきありがとうございました。子どもたちが素直な反応をしていたので、よかったです。次年度も、是非利用させていただきたいと思っております。

◆受講者の声

今回初めて利用させていただきありがとうございました。専門家の方のお話は、普段の授業ではなかなか知ることができない内容なので、良かったです。

東洋大学オンライン講座　日本の「知」

2024年度　東洋大学オンライン講座　日本の「知」実施報告

講座概要

講 座 期 間：	① 2024/6/29（土）、② 9/7（土）、③ 11/2（土）、④ 12/21（土）、 ⑤ 2025/1/25（土）、⑥ 3/8（土）
講 座 形 式：	Zoom を用いたオンライン形式
受 講 対 象：	N2（JLPT）以上の日本語能力を持つ外国人の方、日本人の方
募集コース：	６コース
受 講 費 用：	無料
申 込 期 間：	2024年6月10日（月）から2025年3月7日（金）各コース開講日前日まで受付
申 込 方 法：	TOYO Japanese Language Program サイト

開講コース

① 英語と比べてわかる日本語の特徴－漢字の効用

日時：	6月29日（土）13:00-14:30
講師：	古田　直肇 / 文学部英米文学科・准教授

② 日本のアニメビジネス－産業構造と契約実務－

日時：	9月7日（土）13:00-14:30
講師：	安藤　和宏 / 法学部法律学科・教授

③ 日本の昔話考

日時：	11月2日（土）13:00-14:30
講師：	髙橋　直美 / 福祉社会デザイン学部子ども支援学科・教授

④ 日本の世界遺産を考える

日時：	12月21日（土）13:00-14:30
講師：	鈴木　道也 / 文学部史学科・教授

⑤ 生活に息づく数字

日時：	1月25日（土）13:00-14:30
講師：	田中　雅敏 / 法学部法律学科・教授

⑥ 世界の多言語な地域社会

日時：	3月8日（土）13:00-14:30
講師：	中挾　知延子 / 国際観光学部国際観光学科・教授

※講師の所属・職位は講座実施時の表記
※運営協力：東洋大学グローバルサービス株式会社

申込者数　延べ　1,717名、実511名

	申込者数	受講者数	受講率
英語と比べてわかる日本語の特徴－漢字の効用	170名	97名	57%
日本のアニメビジネス－産業構造と契約実務－	240名	96名	40%
日本の昔話考	274名	76名	28%
日本の世界遺産を考える	293名	76名	26%
生活に息づく数字	355名	128名	35%
世界の多言語な地域社会	385名	62名	17%
合　計	1,717名	535名	31%

※受講者数＝講座当日 Zoom に接続した人数

国籍・地域　511名　41カ国・地域　　＊() 内は人数

日本(96)、ミャンマー (81)、ベトナム(76)、中国(59)、台湾(34)、タイ(18)、インド(16)、香港(14)、インドネシア(14)、ロシア(14)、マレーシア(8)、アメリカ(8)、オーストラリア(8)、トルコ(4)

その他 25カ国
(3) イタリア、ウクライナ、フランス、チェコ、スペイン、ブルガリア
(2) シンガポール、スイス、エジプト、ブラジル、カナダ、スリランカ、メキシコ、ペルー
(1) アメリカ領サモア、キルギス、オランダ、コロンビア、モロッコ、イギリス、シリア、トーゴ、ギリシャ、ガンビア、ネパール

アンケート結果

回答者数　194名

	受講者数	回答者数	回答率
英語と比べてわかる日本語の特徴－漢字の効用	97名	33名	34%
日本のアニメビジネス－産業構造と契約実務－	96名	34名	35%
日本の昔話考	76名	33名	43%
日本の世界遺産を考える	76名	26名	34%
生活に息づく数字	128名	37名	29%
世界の多言語な地域社会	62名	31名	50%
合　計	535名	194名	36%

受講者の声

英語と比べてわかる日本語の特徴－漢字の効用

- ヘボン式や訓令式。音節のご説明、借用語の事など全体の講座内容がとても勉強になりました。
- 英語と日本語の異なる点を比べて説明していただいたので、分かりやすかったです。

日本のアニメビジネス－ 産業構造と契約実務

- アニメ制作の工程やビジネスとしての発展について色々知ることができました。
- 知らない世界だったため知ることができて満足です。

日本の昔話考

- 日本の昔話は国の文化を代表して、国について知りたいなら昔話も知るべきだと思います。人文の国の知識としても、日本語の学習者だとしても、重要な点だと思います。

日本の世界遺産を考える

- 固い内容と思っていましたが、意外と面白かったし、わかりやすかった。
- 世界文化遺産や無形文化資産や危機遺産など、いろいろ勉強になりました。

生活に息づく数字

- 先生が中国における方角や数字の考え方を紹介なさっていたことが印象に残ったことの１つである。今回は、田中先生が日本と西洋の数字について紹介なさっており、東洋と西洋と両方を扱っているように思うので、メソドロジー的、あるいは俯瞰する視点を持つきっかけになると思う。

世界の多言語な地域社会

- 多文化や多言語を議論するのは現在の世界に必要なものです。

全体コメント

- 日本語学習者だけではなく、母語話者の日本語教師にとっても非常に有意義な講義でした。
- 日本語のメリットやデメリットを改めて発見できると思います。
- 質の良い講義を無料で聞けるのは大変魅力です。
- アニメという日常生活に娯楽として溶け込んでいるコンテンツを取り上げて掘り下げていくコースはおもしろいです。
- 日本の地方に目を向ける一つのきっかけになると思います。
- こんな講座は海外にはほぼありませんので、日本語や日本の文化を勉強するいいチャンスです。
- 日本語を勉強して、国際社会に関心がある方には不可欠な講座だと思います。
- 日本事情をもっとわかるために、オンラインで受講できることはとても助かります。
- 何かを教える際に役立つのは単なる雑学的な知識だけではなく、もう少し高度で体系的な知識と知恵を想起させることだと思う。学術的な知識を織り込み、文章化して教えることは、大学の先生レベルでないとできないと思う。
- このような面白い知識・面白い講座をもっと色々な人に知ってほしい。
- 日本語教師として、日本語の勉強にもなるし、生徒にもっといい授業ができるようにもなると思いますので他の外国人日本語教師も受けるといいと思います。
- グローバル化が加速する社会において、こうした学びは非常に重要だと感じました。周囲にも薦めたいです。

社会貢献部門

- 社会貢献情報収集
- 地域活性化活動支援事業
- 社会貢献活動助成・表彰制度
- SDGs 実践講座
- リカレント教育推進特別助成制度

社会貢献部門

社会貢献情報収集の概要

2013(平成25)年４月１日、生涯学習センターに代わって、生涯学習部門と社会貢献部門の２つの部門から構成される「社会貢献センター」が設置された。社会貢献部門では、本センターの目的である「生涯学習に対する社会的要請に基づき、生涯教育に関する諸事業を積極的に推進すること並びに本学で実施する社会貢献活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与するとともに、社会に開かれた大学としての本学の発展に資すること」を達成するために、学内で実施されている社会貢献事業に関する情報収集活動を行った。本活動は、2013年度から12年目の活動となる。

１．社会貢献情報収集

(1) 経緯

1月下旬～	調査開始（学部長会議及び事務局部長会を経由して個別に依頼）
1月下旬～5月下旬	Googleフォーム・Googleスプレッドシート・Excelフォームにて情報を回収・集約

(2) 情報の収集

2024年度の調査では、新規分を含め全学への協力依頼と併せて、前年度調査に回答のあった事業に対しては、引き続き、前年度の内容に加筆・修正を加えるよう依頼した。

なお、調査結果は、本センターのホームページに掲載しているが、ホームページの充実強化を図るため、①「社会貢献事業実施状況調査」結果一覧で特色あるもの、②学内のホームページに掲載されていた社会貢献に関する活動についても併せて掲載している。

(3)「社会貢献」の定義

大学の役割としては、第１に高度な専門性に根差した学生の教育があり、第２に教員の研究成果の公表による技術開発や社会的課題解決への寄与がある。また、これらを基盤として、第３に地域社会や国際社会等、より広い意味での社会発展への貢献がある。本センターでは、調査にあたって「社会貢献」の定義を明確にする必要があったことから、例年と同様に『教職員等の持つ専門的な知識や技術を、広く社会の人々に提供する講座・講師派遣等の活動、特定の地域（国内外）や団体・機関と連携した地域づくりや地域課題解決への貢献』を基本として、本年度からは、より定義を明確にするため、「researchmap」の「社会貢献活動」項目に準拠したフォーマットを用いて、情報の収集と発信を促進した。なお、多様な水準での政策策定への貢献となる各種審議会や委員会への参加等も社会貢献活動に含まれるが、人事課及び各学部教務課をはじめ研究推進課等の教務関係所管部署がその実態を把握していることから、2024年度調査においても調査対象とはしないこととした。

参考：大学の「社会貢献」についての文部科学省の見解

大学は教育と研究を本来的な使命としているが、同時に、大学に期待される役割も変化しつつあり、現在においては、大学の社会貢献（地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与）の重要性が強調されるようになってきている。当然のことながら、教育や研究それ自体が長期的観点からの社会貢献であるが、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献も求められるようになっており、こうした社会貢献の役割を、言わば大学の「第三の使命」としてとらえていくべき時代となっているものと考えられる。

（出典：平成17年中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」）

(4) 調査結果及び公表（参照：2023年度データ）

教員が実施している社会貢献活動が131事業（従来の地域貢献・振興、社会福祉、環境共生、産官学民連携、高大連携、生涯学習、キャリア教育、哲学教育、国際協力等の区分から代表的なSDGs 17目標の区分へ変更する）、事務局や研究所・センターが中心になって実施している社会貢献活動が101事業、合計232事業であった。いずれも、調査回答提出者・調査対象該当者からの延べ件数で、計画中止等のものは含まれていない。

なお、結果は、本学の社会貢献活動のより一層の推進に資するため、「社会貢献活動一覧」とともに、各分野の典型的な事例をピックアップし、本センターのホームページにて紹介している。

【学部】

文	経済	経営	法	社会	国際	国際観光	理工	総合情報	生命科	食環境科	福祉社会デザイン
14	0	13	10	2	0	0	26	15	0	0	20

【その他】

情報連携	健康スポーツ
0	0

大学院	研究所・センター	事務局（※）
0	115	70

合　計
285

※事務局には学部学科単位の件数を含む。
注：提出者・調査該当のみ

2024年度調査　社会貢献活動一覧

〈教　員〉

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
1	高松　亮太	文学部 日本文学文化学科	賀茂真淵記念館 記念館アカデミー	講師	講演会	賀茂真淵記念館	市民講座 記念館アカデミー 「真淵の註釈で「百人一首」をよむ」	7/5 9/6 10/18	賀茂真淵記念館	社会人・一般	静岡県浜松市の賀茂真淵記念館が行っている市民講座「記念館アカデミー」で、「真淵の註釈で「百人一首」をよむ」と題して全3回の講座を行った。	https://www.mabuchi-kinenkan.jp/event/index.html	
2			第38回東洋大学 現代学生百人一首	助言・指導 運営参加・支援 報告書執筆 報告	調査 その他	東洋大学広報課	第38回東洋大学 現代学生百人一首	—	東洋大学	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生	第38回東洋大学　現代学生百人一首にて選考委員会委員を務め、選考を行った。	https://www.toyo.ac.jp/social/issyu/ https://www.toyo.ac.jp/about/gakuhou/backnumber/277_02_issyu/index.html	
3			静岡県高等学校国語教育研究会　西部支部研修会	講師	講演会	静岡県高等学校国語教育研究会	西部支部研修会	11/7	賀茂真淵記念館	教育関係者	静岡県高等学校国語教育研究会西部支部研修会で「賀茂真淵の万葉主義」と題して講演を行った。	–	
4	川内　佑毅		篆刻体験コーナー講師	講師	セミナー・ワークショップ	全日本篆刻連盟	篆刻体験コーナー	5/19	セントラルミュージアム銀座	社会人・一般	文京区書道連盟主催の篆刻講習にて講師を務め、指導を行った。	https://researchmap.jp/g0000220027/social_contribution/48442794	
5			「わくわくワークショップ」アシスタント担当	助言・指導	セミナー・ワークショップ	社団法人日展	「わくわくワークショップ」	11/10	国立新美術館 三階講堂	2、3、8	社団法人日展主催の「わくわくワークショップ」にてアシスタントを担当し、助言・指導を行った。	https://researchmap.jp/g0000220027/social_contribution/48442759	
6	大田　悦子	文学部 英米文学科	（青森県）進学力を高める高校支援事業	助言・指導 情報提供	研究指導	青森県立三本木高等学校	（青森県）進学力を高める高校支援事業	–	青森県立三本木高等学校（年3回のうち第1回目はオンライン、第2，3回目は対面実施）	教育関係者	生徒の発信力強化のための英語指導力向上を目的に当該校で取り組んでいる英語授業指導改善研究会（年3回）に助言者として参加。 「進学力を高める高校支援事業研究会」助言者7/5(オンライン)、10/24－25、2/4－5(@三本木高校) 計3回	–	
7			Sherpa (Senior High English Reform Project ALC)	出演 コメンテーター 司会 編集 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 調査担当	セミナー・ワークショップ	株式会社アルク	Sherpa (Senior High English Reform Project ALC)	2010/3-現在に至る	–	大学生 大学院生 教育関係者 社会人・一般	2010年3月に立ち上げたプロジェクトで、高校英語授業改善に貢献することを目的とした活動。授業モデルや方法を、セミナー・書籍・教材を通じて提案。そこでの経験や現職教員とのネットワークを、本学で担当する教職科目を通して履修学生に還元。 ①週1ミーティング(オンライン)で、セミナー・チャンネルの企画や調査で得たデータの分析。 ② Sherpa Channel:メンバー(7名)による英語教育の諸問題についてのディスカッション(→ YouTubeに動画をアップロード) 週1のペース ③ Sherpa セミナー(オンライン):英語教育セミナー（第二部コメンテーター担当）月1開催 5 / 26、6 / 30、7 / 28、9 / 29、10 / 27、 11 / 24、1 / 26、2 / 23、3 / 30(3月は予定日)	https://alc-nds.com/ltaf/2021/09/20/sherpa/ https://alc-nds.com/ltaf/2024/05/24/sherpaseminar/ https://alc-nds.com/ltaf/2022/09/22/sherpa-channel/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
8	木下 聡	文学部 史学科	偉人・敗北からの教訓 シリーズ信長①信長と斎藤道三・同盟の行方	ＶＴＲ出演	テレビ・ラジオ番組	ＢＳ11	偉人・敗北からの教訓シリーズ信長① 信長と斎藤道三・同盟の行方	4/20	–	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 メディア	偉人たちの「敗北」「失敗」から、学ぶべき教訓を探る！	https://topics.bs11.jp/ijin-haiboku-kyoukun_41/	
9			偉人・敗北からの教訓 太田道灌・文武両道の名将の最期	VTR出演	テレビ・ラジオ番組	BS11	偉人・敗北からの教訓太田道灌・文武両道の名将の最期	9/28	–	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 メディア	偉人たちの「敗北」「失敗」から、学ぶべき教訓を探る！		
10	大江 啓賢	文学部 教育学科	学校研究	講師 助言・指導	その他	埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校	埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校 学校研究	2022/4/1～2025/3/31	埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校	教育関係者	実施主体が学校研究として行う研究授業について「授業の指導助言」および各教育課程のテーマに沿った「指導講評」を年間(年度内)3回実施した。	–	
11			教育職員免許法認定講習	講師	資格認定講習	埼玉県教育委員会	教育職員免許法認定講習	8/5–8/6 12/26–12/27	8月；埼玉県県民活動総合センター 12月；埼玉県総合教育センター	教育関係者	埼玉県教育委員会主催の「教育職員免許法認定講習」にて講師を担当した。	–	
12			教育職員免許法認定講習	講師	資格認定講習	さいたま市教育委員会	教育職員免許法認定講習	8/7–8/8	さいたま市立さくら草特別支援学校	教育関係者	さいたま市教育委員会主催の「教育職員免許法認定講習」にて講師を担当した。	–	
13			幼稚園研修会講師	講師	その他	学校法人細渕学園まつもと幼稚園	園内研修会	7/10	まつもと幼稚園	教育関係者	まつもと幼稚園主催の園内研修会「幼稚園における発達障害幼児(ASD、ADHD等)の理解と対応」にて講師を担当した。	–	
14			研修会講師	講師	その他	日本特別支援教育オンライン学会	会員向け専門研修会	3/20	オンライン	学会会員 教育・保育・福祉関係者	学会主催のオンラインによる専門研修会「肢体不自由児・病弱児の理解と支援」にて講師を担当した。	–	
15	越智 信彰	経営学部会計ファイナンス学科	自治体職員向け講演『光害の概要と対策について』	講師	セミナー・ワークショップ	日本建築学会 色彩設計小委員会 夜間景観ワーキンググループ	夜間景観ワークショップ	5/10	関西大学	社会人・一般 行政機関	兵庫県内自治体の景観担当者7名が対象のワークショップ内での講演。講演30分。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#Social Contribution	
16			環境科学セミナー『光害のない街へ ～光害対策の考え方とダークスカイ活動の紹介～』	講師	セミナー・ワークショップ	滋賀県立大学環境科学部	2024環境科学セミナー	7/11	滋賀県立大学環境科学部 会議室	大学生 大学院生	建築を学ぶ大学院生・学部生が主な対象。聴講約15名。講演80分。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#Social Contribution	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
17	越智　信彰	経営学部会計ファイナンス学科	小学生向け出前講座『楽しく学ぶ照明教室』	講師	出前授業	照明学会東京支部	楽しく学ぶ照明教室	8/5 8/20	ギャラクシティ（足立区）	小学生 中学生	8/5 「光の実験と光害について」を担当（50分）。手回し発電機を使った実験、ダークスカイキットの実演などを通し、光の性質や光害について学ぶ。参加16名。 【アンケート結果(回答数16)】 ・話はわかりやすかったですか。とてもわかった88%、まあまあわかった13%、どちらでもない0%、あまりわからなかった0%、ぜんぜんわからなかった0% ・話の内容に興味を持ちましたか。興味を持った56%、少し興味を持った31%、どちらでもない6%、少しつまらなかった6%、つまらなかった0% 8/20 「光の実験と光害について」を担当（50分）。手回し発電機を使った実験、ダークスカイキットの実演などを通し、光の性質や光害について学ぶ。参加11名。 【アンケート結果(回答数11)】 ・話はわかりやすかったですか。とてもわかった91%、まあまあわかった9%、どちらでもない0%、あまりわからなかった0%、ぜんぜんわからなかった0% ・話の内容に興味を持ちましたか。興味を持った91%、少し興味を持った9%、どちらでもない0%、少しつまらなかった0%、つまらなかった0%	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution https://iei.org/shibu/tokyo/info2024/240805_0820seminar-result.html	
18			一般向け講演『身近な環境問題「光害」から自然との共生を考える』	講師	セミナー・ワークショップ	東京都中央区	令和6年度中央区総合環境講座	8/21	中央区立環境情報センター「エコノバ」	社会人・一般	天の川を見たことがありますか？暗いはずの夜に、私たちは大量の人工光を灯し、街には過剰な光が溢れています。この「光害」の問題を通して、地球環境、生態系、人間社会の関わりを考えてみましょう。（案内チラシより） 講演90分＋照明見学25分。参加者10名。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution	
19			大学生向け講演『光害の概要とダークスカイ活動の紹介』	講師	セミナー・ワークショップ	(株)ライティングプランナーズアソシエーツ	面出薫／照明デザイン塾　3 day Workshop	9/21	LPAオフィス	大学生 大学院生	「建築、インテリア、ランドスケープ、都市環境等を学ぶ学生にとって照明デザインは大切な学習項目です。しかし日本では本格的に照明デザインを学ぶ機会が殆どありません。３日間に集中した高密度なワークショップです。９月の３連休に照明デザインを集中的に学習してみませんか。」（案内チラシより） 外部講師として講演50分。全国から参加の大学生・大学院生20名が聴講。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution https://www.lighting.co.jp/ja/2024/06/24/kaoru-mende-lighting-design-workshop-3-day-workshop/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
20	越智　信彰	経営学部会計ファイナンス学科	「星空保護区シンポジウム in やんばる」を開催	講師	講演会	主催：ダークスカイ・ジャパン、国頭村 共催：星空保護推進機構 協力：星空公団 協賛：沖縄JTB株式会社、日本トランスオーシャン航空株式会社、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)、株式会社I-ne 後援：環境省沖縄奄美自然環境事務所、沖縄県	星空保護区シンポジウム in やんばる	9/28	国頭村民ふれあいセンター	社会人・一般	沖縄県国頭村では、今年秋に村内4公園を星空保護区(ダークスカイ・パーク)に申請することを予定しております。星空保護区や光害対策について、より広くご理解いただきたく、国頭村および広く周辺地域のみなさまを対象としたシンポジウムを開催いたします。ぜひお気軽にご参加ください。後日、YouTubeでのアーカイブ配信も予定しております。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution https://darksky.jp/1952/ https://darksky.jp/sympo2024/	
21			高校新聞部への取材協力	取材協力	研究指導	越谷北高校新聞部	越谷北高新聞第571号	10/18	越谷北高校	高校生	越谷北高校新聞部の取材を受け、2024年12月16日発行の越谷北高新聞第571号にて記事「特集・星とオーロラ　光が生み出す善と悪」の中で光害の解説記事として掲載された。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution	
22			中学校出前授業『南房総の星空を守ろう、誇ろう！～光害のはなし～』	講師	出前授業	南房総市立富山中学校	中学校出前授業『南房総の星空を守ろう、誇ろう！～光害のはなし～』	11/8	南房総市立富山中学校	中学生	出前授業の講師を務めた。富山中学校1～3年生約90名が参加。講演50分。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution https://www.tokyo-np.co.jp/article/372876 https://darksky.jp/2036/	
23			中学校出前授業『南房総の星空を守ろう、誇ろう！～光害のはなし～』	講師	出前授業	南房総市立嶺南中学校	中学校出前授業『南房総の星空を守ろう、誇ろう！～光害のはなし～』	11/8	南房総市立嶺南中学校	中学生	出前授業の講師を務めた。嶺南中学校1年生約40名が参加。講演50分。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution https://www.tokyo-np.co.jp/article/372876 https://darksky.jp/2036/	
24			一般向け講演『星空保護区認定制度について』	講師	講演会	開田高原地域協議会	第14回開田高原大懇談会	11/30	開田高原末川研修センター	社会人・一般	星空保護区と光害対策について解説した。講演約30分。参加者約30名。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContributio	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
25	越智　信彰	経営学部会計ファイナンス学科	小学生向け出前講座『楽しく学ぶ照明教室』	講師	出前授業	照明学会東京支部	楽しく学ぶ照明教室	12/26	江戸川区子ども未来館	小学生	「光の実験と光害について」を担当(50分)。手回し発電機を使った実験、ダークスカイキットの実演などを通し、光の性質や光害について学ぶ。参加児童11名、保護者11名。 【アンケート結果(回答数11)】 ・話はわかりやすかったですか。とてもわかった100%、まあまあわかった0%、どちらでもない0%、あまりわからなかった0%、ぜんぜんわからなかった0% ・話の内容に興味を持ちましたか。興味を持った73%、少し興味を持った18%、どちらでもない9%、少しつまらなかった0%、つまらなかった0%	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContributionn	
26			講演『光害の概要と対策について』	講師	セミナー・ワークショップ	公益財団法人 日本生態系協会	公益財団法人日本生態系協会の勉強会	3/25	－	社会人・一般	公益財団法人日本生態系協会の勉強会にて講演。60分。協会の役員・職員約20名が参加。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution	
27			小学生向け出前講座『楽しく学ぶ照明教室』	講師	出前授業	照明学会東京支部	楽しく学ぶ照明教室	3/26	コニカミノルタ サイエンスドーム（八王子市こども科学館）	小学生	標記イベントにて「光の実験と光害について」を担当(50分)。手回し発電機を使った実験、ダークスカイキットの実演などを通し、光の性質や光害について学ぶ。参加児童14名、保護者12名。 【アンケート結果(回答数14)】 ・話はわかりやすかったですか。とてもわかった86%、まあまあわかった14%、どちらでもない0%、あまりわからなかった0%、ぜんぜんわからなかった0% ・話の内容に興味を持ちましたか。興味を持った86%、少し興味を持った7%、どちらでもない7%、少しつまらなかった0%、つまらなかった0%	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.f6acabc938306d1869dd55e26e89b248.html#SocialContribution	
28	早川　和宏	法学部法律学科	公文書管理のあり方	講師	講演会	市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）	情報公開と個人情報保護	5/28	市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）	行政機関	公文書管理法の内容を中心に、各自治体の条例等を参照しながら、文書管理上の諸課題を講義した。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.b42b1202901538ecf42f53b55fecb5d8.html#SocialContribution https://www.jamp.gr.jp/wp-content/uploads/2024/01/leaflet23.05.20_2411029.pdf https://frontier-omiya.jp/topics/1223	
29			公文書管理の基本理念 ～法的視点から～	講師	講演会	安曇野市	安曇野市適正な公文書管理に関する職員研修会	8/22-8/23	安曇野市	行政機関	安曇野市「適正な公文書管理に関する職員研修会」が開催され、「公文書管理の基本理念 ～法的視点から～」と題して講義を行った。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.b42b1202901538ecf42f53b55fecb5d8.html#SocialContribution	
30			個人情報保護制度をめぐる最近の動向	講師	講演会	川口市	川口市情報公開・個人情報保護研修会	2025/2/20	川口市	行政機関	川口市情報公開・個人情報保護研修会にて、「個人情報保護制度をめぐる最近の動向」と題して講義を行った。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.b42b1202901538ecf42f53b55fecb5d8.html#SocialContribution https://frontier-omiya.jp/topics/1230	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
31	早川　和宏	法学部 法律学科	個人情報の保護及び取扱いについて 特定個人情報の保護及び取扱いについて	講師	講演会	参議院事務局	個人情報保護等に関する研修　第一部、第二部	2025/2/20	参議院事務局	行政機関	参議院事務局で開催された個人情報保護等に関する研修において、第一部「個人情報の保護及び取扱いについて」、第二部「特定個人情報の保護及び取扱いについて」と題する講演を行った。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.b42b1202901538ecf42f53b55fecb5d8.html#Social Contribution https://frontier-omiya.jp/topics/1232	
32			大学スポーツのガバナンス（２）	パネリスト 講師	講演会	成城大学体育部連合会OB・OG会	第6回スポーツ成城FORUM	2025/2/22	成城大学3号館003教室	社会人・一般	成城大学体育部連合会OB・OG会（スポーツ成城）が主催する「第６回スポーツ成城FORUM講演会」にて、「大学スポーツのガバナンス（２）」と題する講演を行うとともに、パネルディスカッションでパネリストを務めた。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.b42b1202901538ecf42f53b55fecb5d8.html#Social Contribution https://www.seijo-dosokai.com/archives/16144/ https://frontier-omiya.jp/topics/1234	
33			アーカイブズ法制論	講師	講演会	主催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館	2024 年度アーカイブズ・カレッジ（史料管理学研修会通算第70回）長期コース後期	8/30	—	大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 行政機関	アーカイブズ・カレッジ(史料管理学研修会通算第70回）長期コース後期の「〔科目５〕アーカイブズ管理研究Ⅲ　組織管理と社会貢献」において、「アーカイブズ法制論」と題し、アーカイブズ関連機関が依拠する法律(公文書館法・公文書管理法など）およびアーカイブズの管理・公開に関わる法律(情報公開法・個人情報保護法・著作権法など）の成立事情とその内容を理解し、適切な法解釈能力を身につけるための講義を行った。	https://www.nijl.ac.jp/event/img5c5c34f6cad709f7721b28895d484a60e1463d17.pdf	
34			朝霞市無料法律相談会	助言・指導	その他	東洋大学無料法律相談部	朝霞市無料法律相談会	10/5	朝霞市 産業文化センター	社会人・一般	朝霞市無料法律相談会にて本学の無料法律相談部の顧問として、相談対応に当たった。	https://sites.google.com/toyo.jp/law/news_f/20241005	
35			常総市　チャレンジド・フェス	運営参加・支援	フェスティバル	常総市	チャレンジド・フェス／Challenged Festival 2024 in JOSO city	12/7	常総市 生涯学習センター	社会人・一般	常総市にて障がい者の理解促進事業として開催されたチャレンジド・フェスにて、法学部ゼミ生と共にボランティアとしてイベント運営に参加した。	https://www.city.joso.lg.jp/kurashi_gyousei/kurashi/iryou_fukushi/disabled_welfare/page003748.html	
36			常総市無料法律相談会	助言・指導	その他	東洋大学無料法律相談部	常総市無料法律相談会	2/23	常総市 生涯学習センター	社会人・一般	常総市無料法律相談会にて本学の無料法律相談部の顧問として、相談対応に当たった。	https://sites.google.com/toyo.jp/law/news_f/20250223	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
37	奥乃　真弓	法学部 法律学科	学会の運営	運営参加・支援 その他	その他	国際取引法学会	国際取引法学会理事副会長、事務局長代行	2022/3/27～現在まで	—	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業	【国際取引法学会】 国際取引法学を研究する者(研究者・企業法務・法曹等)のための学会であり、これら3者(研究者・企業法務・法曹等)が協働して国際取引法学の振興を図る「場」と「機会」を提供する。2014年12月に設立総会を開催し、対象とする会員は、大学の研究者、企業の法務部門等の実務家など国籍を問わず国際取引の法律問題にかかわる人すべてである。学会の特徴として、国際取引法学の特性から8つの研究部会(国際契約法制部会、国際通商・投資法制部会、国際知的財産法制部会、国際企業法制部会、国際取引紛争解決法制部会、グローバル・コンプライアンス法制部会、国際金融法制・税制部会、新興国法制部会)を学会の下に設置し、各部会執行部主導の下、定例研究会や共同研究を行う活発な研究を通じて若手研究者の育成を実現することを目的とする。(参照：国際取引法学会「設立趣旨／学会概要」https://www.asas.or.jp/jaibl/outline/vision.html (2024年3月18日閲覧)) 学会活動としては、各研究部会による部会の報告会に加え、原則として年に2回の全国大会(主に3月と9月)を開催し、研究活動はHPを通じて開示されている。また、学会活動としては、外国判例評釈や研究成果の発表(論文掲載)、学会賞、エッセイコンテストなどの研究成果の報告を行っている。(参照：国際取引法学会「お知らせ」https://www.asas.or.jp/jaibl/info/event1.html#019(2024年3月18日閲覧)) 上記のような活動を行う学会の理事副会長および事務局長代行として学会の運営、管理に携わる。	https://www.asas.or.jp/jaibl/index.html	
38	西野　淑美	社会学部社会学科	白山下商店会チャリティ感謝市でのボランティア活動	運営参加・支援	フェスティバル	社会学科「社会調査および実習」文貞實クラス・「社会学演習I」西野淑美クラス（イベントの主催は「白山下商店会・チャリティ感謝市実行委員会」）	第38回白山下商店会チャリティ感謝市	11/3	白山仲通り	社会人・一般 市民団体	「白山下商店会チャリティ感謝市」は白山仲通りを道路開放して毎年11月3日に行われている。白山下商店会が開催するイベントだが、商店のみならず地元の住民・小学生・消防団等もかかわりを持っており、子どもたちを含む多くの人出をもたらすことで地域のつながりと賑わいに寄与しているイベントである。2017年より毎年、社会学科の「社会調査および実習」や「社会学演習I」のいくつかのクラスの受講学生等が当日の設営・ブース運営・子ども向けゲームコーナー等を手伝っており、継続的な地域支援の活動となっている。今年度も社会学科の学生約30名がボランティアとして参加した。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20241103_%E7%99%BD%E5%B1%B1%E4%B8%8B%E5%95%86%E5%BA%97%E4%BC%9A%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%AA%E3%83%86%E3%82%A3%E6%84%9F%E8%AC%9D%E5%B8%82?authuser=2&pli=1	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
39	西野　淑美	社会学部社会学科	白山神社例大祭でのボランティア活動	運営参加・支援	フェスティバル	京華通り自治会・春日町三丁目町会・白山前町町会・白山會	白山神社例大祭	9/20-23	京華通り自治会・春日町三丁目町会・白山前町町会・白山神社境内	社会人・一般 市民団体	白山神社例大祭に合わせて、氏子地域の各町会では神輿渡御や催しが行われる。白山神社境内では盆踊りも開催される。今年度は3町会および盆踊りについて、社会学科の「社会調査および実習」金澤良太クラスの受講生や「社会学演習Ⅱ・Ⅲ」西野淑美ゼミ生、そのほか参加を希望した学生（社会学部の他学科含む）計21名が、準備や当日の手伝いに参加した。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20240921_%E6%9D%B1%E6%B4%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E9%83%A8%E3%81%AE%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%8C%E7%99%BD%E5%B1%B1%E7%A5%9E%E7%A4%BE%E4%BB%8B%E5%A4%A7%E7%A5%AD%E3%81%AB%E5%8F%82%E5%8A%A0%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F	
40	松元　明弘（代表） 山川　聡子 山田　和明 横田　祥	理工学部機械工学科	山車ロボットコンテスト	運営参加・支援、実演	セミナー・ワークショップ、フェスティバル	東洋大学理工学部機械工学科有志による「山車ロボットコンテスト実行委員会」	かわごえ産業フェスタ	2024年11月16日，17日	ウェスタ川越	高校生 社会人・一般	川越市に位置する東洋大学理工学部機械工学科では，この川越まつりにちなんだロボットコンテストを2006年から企画，開催してきました。 毎年，川越市内外の高校生が趣向を凝らしたロボットを製作してコンテストに参加しています。 内容：山車に見立てた自律型ロボットを指定の位置に移動させて演技を行わせて，演技の芸術性と技術性を競います． 参加資格：高校生(所属高校経由で申し込んでください) ルール：ロボットのCPUはジャパンロボテック社の「ロボデザイナー」に梱包されている基板のみ． ロボデザイナーはRDS-Zシリーズ，RDS-Xシリーズのどちらでも構いません． 参加費：無料	https://sites.google.com/view/dashirobot/	
41	松元　明弘 横田　祥		デジタルエンジニアリングアカデミー（Season 4）	企画、運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	東洋大学工業技術研究所，武蔵野銀行，他	デジタルエンジニアリングアカデミー（Season 4）	2024年5月～11月	武蔵野銀行本店，東洋大学川越キャンパス	社会人・一般	武蔵野銀行(頭取　長堀　和正)は、2024年5月より、東洋大学工業技術研究所(所長　香取　慶一)と連携し、生産性向上に向けた中小製造業のデジタル化を伴走支援する連続講座「デジタルエンジニアリングアカデミー season４」を開講。 主任講師、講師として参加。	https://www.musashinobank.co.jp/irinfo/news/pdf/2024/toyouni20240411.pdf	
42	小山　信也		『笑わない数学』監修	助言・指導	テレビ・ラジオ番組	日本放送協会（NHK）	『笑わない数学』監修	2022年～	日本放送協会（NHK）	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア	2022年よりNHK総合テレビで放送されている『笑わない数学』の監修を担当。 最先端の数学を一般視聴者にわかりやすく紹介する知的エンターテイメント番組で、2022年9月度のギャラクシー賞、ならびに2022年度上半期ギャラクシー賞奨励賞を受賞した．	https://www.nhk.jp/p/ts/Y5R676NK92/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
43	小山 信也	理工学部機械工学科	数学を伝えるために工夫したこと ～テレビ番組の監修を通して～	講師	講演会	茨城県高等学校教育研究会	数学部総会並びに研究協議会 講演会	6/5	茨城県高等学校教育研究会	教育関係者		https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.09d82e3d424baf429c5613ee8954ad37.html#SocialContribution	
44			NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く. Part 1 素数定理	講師	セミナー・ワークショップ	NHK文化センター町田教室	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く. Part 1 素数定理	5/31～7/26	NHK文化センター町田教室、オンライン、オンデマンド	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	テーマは「素数定理」。「1と自分自身でしか割り切れない数」である素数には、未だ多くの謎があり、世界中で研究され続けています。「素数はどれだけたくさんあるか」という問いへの答えである「素数定理」の真意を、複素数や複素関数を一切用いず、独自の方法で易しく解説した。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.09d82e3d424baf429c5613ee8954ad37.html#SocialContribution https://www.nhk-cul.co.jp/programs/program_1301709.html	
45			NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く. Part 2「素数の不規則さ」	講師	セミナー・ワークショップ	NHK文化センター町田教室	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く. Part 2「素数の不規則さ」	9/27～11/29	NHK文化センター町田教室、オンライン、オンデマンド	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	「Part 1 素数定理」では「素数はどれだけたくさんあるか」という問いに対する答えを、オイラーの偉大な着想である「オイラー積」を使って導きました。素数の特徴は何事にも支配されない「不規則な分布」にあり、その性質を定式化し証明することは、今なお残る未解決問題です。Part 2ではオイラー積を用いてわかる「素数の不規則さ」を解説した。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.09d82e3d424baf429c5613ee8954ad37.html#SocialContribution https://www.nhk-cul.co.jp/programs/program_1309937.html	
46			大人の学び直し講座「くらしに役立つ中学数学の面白さ」	講師	講演会	羽村市教育委員会	大人の学び直し講座「くらしに役立つ中学数学の面白さ」	2/16	プリモホールゆとろぎ講座室1	社会人・一般	昔、学校で習った数学を使い、素朴な疑問「鏡は左右が反対になるのに上下が反対にならないのはなぜ？」など、くらしの中にある様々な問題を解決、中学数学でつまずく人が多い「マイナスとマイナスを掛けるとプラスになる理由」や「根号記号√の計算ルール」も、解きほぐして説明。監修を務めたTV番組「特捜9」「笑わない数学」の製作秘話なども語った。	https://www.city.hamura.tokyo.jp/0000019241.html	
47			NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 3「素数の知られざる顔」	講師	セミナー・ワークショップ	NHK文化センター町田教室	NHK「笑わない数学」監修者と数学の超難問を解く Part 3「素数の知られざる顔」	3/29～5/31	NHK文化センター町田教室、オンライン、オンデマンド	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	素数が持つ不思議なランダム性のうち「整数で割った余り」から分かる性質をPart 2で紹介しましたが、それは素数が織りなす神秘のごく一部に過ぎません。Part 3では、20世紀初頭に活躍した数学者ラマヌジャンの天才的な着想から得られた「素数の知られざる不規則さ」を紹介します。後年、保型形式や楕円曲線の理論に発展し、BSD予想や深リーマン予想といった現代数学の最先端をなすに至りました。そこから得られる「不規則さ」を全て考慮すると、素数の神秘の全貌が明らかになります。高校前半までの数学の知識を使って、最先端の研究を紹介する。	https://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.09d82e3d424baf429c5613ee8954ad37.html#SocialContribution https://www.nhk-cul.co.jp/programs/program_1309536.htm	
48	佐野 勇司	理工学部電気電子情報工学科	子ども大学かわごえ 小学生向け授業の 企画運営、講師	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 その他	セミナー・ワークショップ	NPO法人子ども大学かわごえ	子ども大学かわごえ 2024年度	1回目:8/29（木） 2回目:9/28（土） 3回目:11/16（土） 4回目:12/14（土）	川越市3回 狭山市1回	小学生 教育関係者 市民団体 行政機関	企業や各種団体の専門家および大学教員を講師として、子ども達のなぜと言う疑問に答えて大きな知的刺激を与え知的成長を促す。 NPO法人子ども大学かわごえ理事。	http://cuk.or.jp/index.html https://www.pref.saitama.lg.jp/f2215/kodomodaigaku/r06kodomodaigaku.html	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
49	藤野 義之		長距離無線電気よ届け 霧ケ峰高原でJSSなど実証実験 諏訪東京理科大生も協力	取材協力	新聞・雑誌	中日新聞	中日新聞	12/5	中日新聞朝刊 16面3段	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 企業 行政機関	宇宙太陽光発電技術の技術実証として、無線電力伝送技術が用いられる。このためには、送信アンテナ側の正確なビーム制御が行われなければならない。一般社団法人宇宙システム開発利用推進機構は霧ヶ峰高原において、航空機に搭載した送信アンテナを使って、地上のビーム形成の確認実験を行った。藤野は、この実験の受信側の責任者として、ビーム形成の速報について、新聞記者の取材に答えたものである。	—	
50			宇宙太陽光発電を実証 長野県諏訪市の霧ヶ峰高原で技術実証	取材協力	新聞・雑誌	長野日報	長野日報	12/7	長野日報12月5日発行。Yahooニュースへ配信もあり。	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 企業 行政機関	宇宙太陽光発電技術の技術実証として、無線電力伝送技術が用いられる。このためには、送信アンテナ側の正確なビーム制御が行われなければならない。一般社団法人宇宙システム開発利用推進機構は霧ヶ峰高原において、航空機に搭載した送信アンテナを使って、地上のビーム形成の確認実験を行った。藤野は、この実験の受信側の責任者として、ビーム形成の速報について、新聞記者の取材に答えたものである。	—	
51			高度7キロ地上へ送電実験	取材協力	新聞・雑誌	読売新聞社	読売新聞	12/7	中南信版２７面、ＷＥＢ版も配信あり。	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業	宇宙太陽光発電技術の技術実証として、無線電力伝送技術が用いられる。このためには、送信アンテナ側の正確なビーム制御が行われなければならない。一般社団法人宇宙システム開発利用推進機構は霧ヶ峰高原において、航空機に搭載した送信アンテナを使って、地上のビーム形成の確認実験を行った。藤野は、この実験の受信側の責任者として、ビーム形成の速報について、新聞記者の取材に答えたものである。	—	
52	安藤 直子	理工学部応用化学科	高木仁三郎市民科学基金報告会	運営参加・支援、その他	講演会、その他	高木仁三郎市民科学基金	第23期（2024年度）国内枠助成の「公開プレゼンテーション」高木仁三郎市民科学基金 公開フォーラム	7/21、10/5	東洋大白山キャンパス	市民団体 行政機関	高木仁三郎氏の遺志を継ぎ、市民の手による科学の発展を目指し、次の時代の「市民科学者」をめざす個人やグループに資金面での奨励・育成を行う。	https://www.takagifund.org/	
53	伊藤 暁	理工学部建築学科	日本建築学会建築雑誌編集委員	取材協力、インタビュアー、編集、企画	会誌・広報誌	日本建築学会	建築雑誌	2024～2025	—	学術団体	日本建築学会会誌「建築雑誌」の編集委員	http://jabs.aij.or.jp/committee/	—
54			保土ヶ谷の住宅	その他	新聞・雑誌	新建築社	新建築住宅特集	2025年2月号	126-131頁	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 メディア	建築専門誌「新建築住宅特集」にて「保土ヶ谷の住宅」を発表。	https://japan-architect.co.jp/shop/jutakutokushu/jt-202502/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
55	伊藤 暁	理工学部建築学科	えんがわオフィス	取材協力、情報提供	その他	学芸出版社	空き家大全	11/1	168-169頁	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 行政機関 メディア	書籍「建築・まちづくりのための空き家大全」に「えんがわオフィス」が掲載された。取材対応、資料提供などを行なった。	https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761529116/	
56			武蔵境の住宅	取材協力、情報提供	その他	彰国社	座りたくなる住宅	10/10	54-55頁	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 メディア	書籍「座りたくなる住宅」に「武蔵境の住宅」が掲載された。取材対応、資料作成、情報提供などを行なった。	https://www.shokokusha.co.jp/?p=16860	
57			玩具と住宅	インタビュアー、編集、企画、報告書執筆	会誌・広報誌	日本建築士会連合会	建築士2025年1月号	12/1	6-9頁、12-33頁	教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 行政機関 メディア	日本建築士会連合会の会誌「建築士」において、2025年1月号の特集記事「玩具と住宅」の企画及び編集・執筆を行なった。	https://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/kaishi/index.html	
58			戸塚の社屋	その他	新聞・雑誌	建築資料研究社	コンフォルト2024年4月号	4/1	25-31頁	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 メディア	雑誌「コンフォルト」No.196、2024年4月号にて「戸塚の社屋」を発表。	https://confortmag.net/no-196/	
59			無名の小屋	寄稿	新聞・雑誌	新建築社	新建築住宅特集2025年4月号	3/1	13頁	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 メディア	建築専門誌「新建築住宅特集」の特集記事「小屋を語る」に、論考「無名の小屋」を寄稿。	https://japan-architect.co.jp/shop/jutakutokushu/jt-202504/	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
60	伊藤 暁	理工学部建築学科	観察と設計と納まり	出演、パネリスト	講演会	納まり放浪記徳島編実行委員会/木村松本建築設計事務所	納まり放浪記徳島編	4/5	アクアチッタ第二倉庫	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア	トークイベント「納まり放浪記徳島編」にパネリストとして出演。	https://book.gakugei-pub.co.jp/event-24751884d6/	
61			建築と音楽の話をしよう	出演、パネリスト	取材協力	出雲路本製作所	建築と音楽の話をしよう	4/24	誠光社	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 メディア	トークイベント「建築と音楽の話をしよう」にパネリストとして出演。	https://www.seikosha-books.com/event/9749	
62			建築と植物からみえる、あたらしい世界	出演、パネリスト	取材協力	出雲路本製作所	建築と植物からみえる、あたらしい世界	5/29	ユニテ	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 メディア	トークイベント「建築と植物からみえる、あたらしい世界」にパネリストとして出演。	https://x.com/unite_books/status/1795019502192635906	
63			菊川で街を勝手に面白がる日	出演、パネリスト	取材協力	綴る	菊川で街を勝手に面白がる日	12/22	イクヤマ家	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 メディア	トークイベント「菊川で街を勝手に面白がる日」にパネリストとして出演。	https://peatix.com/event/4212549	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
64	篠崎 正彦	理工学部建築学科	さいたま市市民活動推進委員会	司会、運営参加・支援	その他	さいたま市	—	通年で計7回	さいたま市コムナーレ	市民団体	さいたま市長の答申を受けて、市内の市民活動を促進、支援する方策について議論を行うほか、市民活動団体への補助金の審査を行なった。	https://www.city.saitama.lg.jp/001/013/003/002/003/001/015/p003098.html	
65			広域飯能斎場整備事業プロポーザル選定委員会 広域飯能斎場組合技術審査委員会	司会、助言・指導、運営参加・支援	その他	広域飯能斎場	—	通年で計4回 通年で計2回	飯能市役所など	行政機関	広域飯能斎場の建替えに伴う建築と火葬路のプロポーザル審査と事業者選定後の設計案についての助言	http://www.kouikihanno.jp http://www.kouikihanno.jp/【HP公表用】設計プロポーザル選定結果.pdf http://www.kouikihanno.jp/【HP公表用】火葬炉プロポーザル選定結果.pdf	
66	小瀬 博之	総合情報学部総合情報学科	生きものを育む田んぼプロジェクト	助言・指導 運営参加・支援 調査担当	研究指導	NPO法人かわごえ里山イニシアチブ	—	—	川越市福田地区	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 社会人・一般 企業 市民団体	2014年度から任意団体、2017年度から NPO法人として活動しているかわごえ里山イニシアチブの運営に協力している。2024年度も継続して、子どもを主な対象とした「田んぼの生きもの観察会」での調査や農作業への協力、会議の協力、別途開発中の「ドローンの自律飛行による鳥害対策」に対する情報提供などを行った。	https://www.facebook.com/kawagoesatoyama/	
67			川越キャンパス「こもれびの森」における里山林保全活動	企画 助言・指導 運営参加・支援 調査担当	その他	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	—	—	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	2014年から川越キャンパス「こもれびの森」における生物多様性の向上と学内外の人々との協働による森林保全活動を掲げて活動を継続している。2024年度は学内外の構成員と一般参加者、学生を対象とした里山林保全活動または教育研修活動を月1回のペースで実施した。また、外部コミュニケーションの一環として、6月に鶴ヶ島市役所で開催された「つるがしま市民環境まつり」において「森で採れた材料で工作」「スズメバチの標本展示」を、11月に川越キャンパスで開催された「こもれび祭」において「里山体験と木工教室」を出展した。さらに、高大連携として合同実習等を実施している「インカレSDGsプロジェクト」に協力して高校生を受け入れた。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyokomorebi/home	
68			霞ヶ関北地区における「鉄紺ゼミ」の開催	司会 企画	講演会	東洋大学環境コミュニケーションゼミ（小瀬ゼミ）	—	7/29	mibunka（みぶんか）	大学生 大学院生 社会人・一般	ゼミ科目である3年次演習「総合情報学演習Ⅰシス」「総合情報学演習Ⅱシス」は、地域活性化をテーマとして川越キャンパス近隣の霞ケ関北地区を対象に調査、実施、発表を行っている。前身の演習では2012年度から対象地域において「地域活性化プロジェクト」を実施しており、2018年度からは「鉄紺ゼミ」と称する公開での成果報告会、意見交換会を実施している。2024年度は成果報告会を春学期末に実施した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240116-12632.html	
69			川越シニアカレッジ「ふるさと塾」における「川越の自然環境」の講演と現場案内	講師	講演会	川越シニア大学『小江戸塾』	—	9/18	川越市名細公民館、東洋大学川越キャンパス	社会人・一般 市民団体	川越市の高齢者を対象とした「ふるさと塾」において「川越の自然環境」というタイトルで長年講師を務めており、2024年も講師を努めた。川越キャンパス内での自然観察を行い、大学近隣の公民館での講義の後に実地案内を行った。	https://koed-j.sakura.ne.jp/wp/?p=2477	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
70	小瀬 博之	総合情報学部 総合情報学科	「アースデイ川越in昭和の街2025」の開催及び出展	出演 司会 企画 運営参加・支援 報告書執筆	フェスティバル	第26回アースデイ・イン・川越実行委員会	「アースデイ川越in昭和の街2025」	3/9	蓮馨寺と昭和の街	小学生 中学生 高校生 大学生 保護者 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関	SDGsの周知啓発を目的とした、26回目の「アースデイ川越」の実行委員長を前回の2021年から務めている。2024年度は川越中心市街地の蓮馨寺を会場として「アースデイ川越in昭和の街2025」を開催した。運営を統括するとともに実行委員会の進行管理、行政・民間団体・企業等の折衝、実施主体の川越中央通り「昭和の街」を楽しく賑やかなまちにする会(昭和の街の会)との企画検討を行った。また、仙波書房と共同で東洋大学地域活性化研究所として『まち歩きツアー「昭和の街のたてもののめぐり」』を出展した。『川越のミライ』をテーマとした3月9日のイベント当日は、「川越市長と高校生によるパネルトーク」と「川柳コンテスト」を中核として実施するとともに、13団体のブースまたはステージ出展と4組の飲食店の出店があり、約500名の来場者でにぎわった。	http://showanomachi.net/earthday/	
71			【大阪GPN】セミナー「建築分野におけるカーボンニュートラル 脱炭素社会の実現を目指して」における「ネット・ゼロ時代の建築水環境」の講演	講師	セミナー・ワークショップ	大阪グリーン購入ネットワーク	【大阪GPN】セミナー「建築分野におけるカーボンニュートラル 脱炭素社会の実現を目指して」	11/7	おおさかATCグリーンエコプラザ セミナールーム、およびオンライン	社会人・一般 企業 市民団体 行政機関	大阪グリーン購入ネットワーク(大阪GPN)が建築分野におけるカーボンニュートラルをテーマにして開催したセミナー、「建築分野におけるカーボンニュートラル 脱炭素社会の実現を目指して」において、「ネット・ゼロ時代の建築水環境」と題して講演を行った。	https://www.gpn.jp/info/gpn/6cdea7d9-91f4-4a81-bb3c-4f47fd43c418	
72			越谷市生涯学習課「生涯学習ボランティア養成講座」における「地域はあなたの活躍を期待しています！～地域活動に参加するための処方箋～」の講演	講師	セミナー・ワークショップ	越谷市生涯学習課	生涯学習ボランティア養成講座	12/13	越谷市中央市民会館4階第16～18会議室	社会人・一般	越谷市が開催した「生涯学習ボランティア養成講座」において、「地域はあなたの活躍を期待しています！～地域活動に参加するための処方箋～」をテーマとして講演を行った。内容：ボランティア活動に関する講義、市内で活動する団体との交流など。	https://www.city.koshigaya.saitama.jp/kurashi_shisei/shisei/koho/koho_kosigaya/2024/files/1455_r061101.pdf	
73			埼玉未来大学北部学園講師「ボランティア活動・フィールドワーク先を考える」「フィールドワーク（振り返り）」「今後の活動を考える（講座・グループワーク）」	講師	出前授業	公益財団法人いきいき埼玉	ライフデザイン科	7/31, 9/25, 3/5	熊谷市立勤労会館	社会人・一般	埼玉未来大学が主催しているライフデザイン科の講義の一環として3回の講義を担当し、グループワークを交えながら地域活動への参加の仕方についてアドバイス等を行った。	https://www.iki-iki-saitama.jp/mirai/life-design/	
74			第52回建築物環境衛生管理全国大会シンポジウム「建築物におけるレジオネラ症対策を考える」の講演・パネリスト	パネリスト 講師	講演会	公益財団法人日本建築衛生管理教育センター	第52回建築物環境衛生管理全国大会	1/24	日本教育会館一ツ橋ホール	研究者 企業 行政機関	シンポジウム「建築物におけるレジオネラ症対策を考える」において、「レジオネラ症を防ぐための環境制御－建築物の水利用設備とその維持管理－」というタイトルで講演を行うとともに、パネリストとして登壇した。	https://www.jahmec.or.jp/event/52taikai.html	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
75	小瀬　博之	総合情報学部 総合情報学科	大人のための大学講座 第9弾「ネット・ゼロ時代の建築水環境」～水リスク、カーボンニュートラル、SDGsなどへの対応～	講師	講演会	一般社団法人建築設備技術者協会関東支部	大人のための大学講座	3/14	ビジョンセンター グランデ東京浜松町	社会人・一般企業	一般社団法人建築設備技術者協会関東支部が大学教員を招いて会員など建築設備技術者を対象として「大人のための大学講座」を不定期に開催している。今回は第9弾として同会会長の小瀬が「ネット・ゼロ時代の建築水環境」～水リスク、カーボンニュートラル、SDGsなどへの対応～というタイトルで、建築と水にまつわる課題を幅広く取り上げて講演を行った。参加申込者は会場16名、オンライン24名の計40名であった。	https://www.jabmee.or.jp/seminar-detail/?SEMINARNO=19314	
76			ワークショップ：新しい単位給水量の提案（つづき）と動的給水負荷算定法の活用	講演	セミナー・ワークショップ	公益社団法人空気調和・衛生工学会	令和6年度空気調和・衛生工学会大会（佐賀）	9/11	佐賀大学本庄キャンパス	研究者企業	給排水衛生設備委員会傘下の給水給湯設備のデータ整備小委員会は、給水給湯負荷算定に関する設計資料の拡充・更新と、動的給水給湯負荷算定法で算定される瞬時負荷の実務設計における活用手法の明確化を目的として活動している。活動報告としてワークショップを開催し、「まとめ」の発表を担当した。	https://www.shasej.org/taikai/2024saga/taikai-workshop/workshop2.html	
77	加藤千恵子		東村山市いのち支える自殺対策推進協議会	会長 議長	対話型集会・市民会議	東村山市役所健康福祉部健康増進課	—	8/27	東村山市役所	行政機関	東村山市自殺対策計画の策定その他地域の自殺対策の推進に関し必要な検討等を行う。	https://www.city.higashimurayama.tokyo.jp/shisei/keikaku/shingikai/fukushi/jisatukyogikai3012.html	—
78			東洋大学川越市連携講座	講師	講演会	川越市役所	しなやかな思考で自分の能力を伸ばす～グロースマインドセット～	6月	川越市役所	行政機関	社会の情報化と変化についていけない大人も多い昨今、AI時代を楽しみながら開拓できる子どもたちを育てるにはどうしたらいいのか。情報を使いこなす科学的思考、新しい価値を生み出すアート思考、youtuberに負けない編集・発信の技術など、学校では教わらない切り口で、学習と教育について再考する。	—	
79	喜岡　恵子		安全講演会「安全文化醸成のための課題と対策」	講師	講演会	タツタ電線株式会社	安全講演会	3/3	タツタ電線株式会社本社（大阪府東大阪市岩田町2丁目3番1号）	企業	2019年度より年1回開催されているタツタ電線グループ(国内4拠点、東京支店、グループ会社9拠点)の安全意識、知識向上のための安全講演会(管理監督者向け)の2024年度講師として「安全文化の醸成」に関する講演(ハイブリッド形式：対面＋オンライン)を依頼された。講演内容は、まずは「安全文化とは」として、安全文化が提唱される契機となったチェルノブイリ原子力発電所事故について、また、「安全」「文化」「安全文化」の定義について紹介した。その中から、特にE.H.シャインの「文化の三層モデル」の第3層に注目し、J.リーズン＆A.ホッブズ(2003)が紹介している「航空機の保守要員が割れたリベットを探す」事例を使って、リーズンが提唱する4つの安全文化を説明した。また、新幹線台車枠亀裂インシデントの事例から安全文化の醸成についての課題と対策を示した。	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
80	喜岡　恵子	総合情報学部総合情報学科	事故災害から振り返る安全と対策	寄稿	新聞・雑誌	中央労働災害防止協会	安全衛生のひろば	2024年7・8・9・10・11・12月号	安全衛生のひろば「事故災害から振り返る安全と対策」	社会人・一般	7月号「コミュニケーションエラーを考える～新幹線台車枠亀裂インシデントから」、8月号「確証バイアスを考える」、9月号「ヒューマンエラーの背景を考える～福知山線脱線事故から」、10月号「安全文化の醸成を考える～ヒューマンエラーの内的帰属と外的帰属～」、11月号「利用者とのリスクコミュニケーションを考える～プラットホームからの転落事故と列車非常停止装置～」、12月号「Safety-Ⅰ とSafety-Ⅱを考える」というタイトルで寄稿	https://shop.jisha.or.jp/collections/%E5%AE%9A%E6%9C%9F%E5%88%8A%E8%A1%8C%E7%89%A9-%E5%AE%89%E5%85%A8%E8%A1%9B%E7%94%9F%E3%81%AE%E3%81%B2%E3%82%8D%E3%81%B0	8 9 16
81	古川　和稔	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	第1回～第4回古川ゼミ、コペンハーゲン大学、赤羽八幡自治会との意見交換会・懇談会・世代間交流会を実施	企画 運営参加・支援 その他	対話型集会・市民会議	福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ、コペンハーゲン大学、赤羽八幡自治会	古川和稔ゼミ、コペンハーゲン大学、赤羽八幡自治会との意見交換会・懇談会・世代間交流会	第1回:9/17 第2回:2/20	東洋大学赤羽台キャンパス	大学生 社会人・一般 その他	生活支援学専攻開講科目「生活支援学演習ⅠⅣA」（担当教員：古川和稔教授）において、赤羽台キャンパスの地元である、赤羽八幡自治会との交流会を開催。第3回、第4回は古川ゼミ企画「コペンハーゲン大学、赤羽八幡自治会との国際・世代間調理交流会」を実施。コペンハーゲン大学の学生、赤羽八幡自治会の皆さん、古川ゼミの学生の混合グループを7つ作り、それぞれが事前に決めたメニューを調理しました。古川ゼミの学生は、事前にメニューやレシピのリストを作り、それを英語に翻訳して、資料を作成しました。言語や年代の壁を越えて、積極的にコミュニケーションを図りながらの交流会になりました。参加した皆さんは大満足だったようです！学生同士は連絡先を交換し、近い将来の再会を約束していました。古川ゼミでは今後も、赤羽八幡自治会との合同企画で、外国人との交流会を複数回企画しています。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-04-26fri https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-06-19wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-09-17tue https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-02-21fri	3 4 11 17
82			第20回～第29回 東洋スマホ教室を実施	講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 その他	セミナー・ワークショップ	福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ 赤羽台Life Design Lab 赤羽八幡自治会	東洋スマホ教室	第20回:5/8 第21回:6/12 第22回:7/3 第23回:9/11 第24回:10/9 第25回:11/13 第26回:12/11 第27回:1/8 第28回:2/12 第29回:3/12	赤羽八幡自治会会館	社会人・一般	東洋スマホ教室は、赤羽八幡自治会との合同企画で、毎月第二水曜日に、赤羽台Life Design Labの活動の一環として、生活支援学専攻開講科目「社会福祉学専門演習Ⅱ」（担当教員：古川和稔教授）において、赤羽八幡自治会会館で開催しています。4年生と3年生の混合チームで担当しています。古川ゼミ定例企画として、今後も継続していきます。古川ゼミでは、国籍、地域、年代を問わず、様々な交流を展開しています。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-05-13mon https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-06-12wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-07-03wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-09-11wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-10-09wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-11-13wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-12-11wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-01-08wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-02-12wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2025-03-12wed	3 4 11

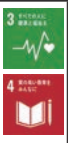
No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
83	古川　和稔	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	所沢日本語学校との交流会を実施	企画 運営参加・支援 その他	対話型集会・市民会議	福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ 赤羽台Life Design Lab	所沢日本語学校との交流会	第1回:7/10 第2回:12/18	第1回：所沢日本語学校 第2回：東洋大学赤羽台キャンパス	大学生 その他	赤羽台Life Design Labの活動の一環として、生活支援学専攻開講科目「社会福祉学専門演習ⅠとⅡ」（担当教員：古川和稔教授）において、所沢日本語学校を訪問して、留学生との交流会を実施しました。双方が工夫しながら積極的にコミュニケーションを図ることができ、有意義な時間になりました。古川ゼミでは今後も、積極的に外国人との交流会を開催していきます。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-07-10wed https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-12-18wed	
84			第1回、第2回韓国カトリックサンジ大学とのリモート交流会を実施	企画 運営参加・支援 その他	対話型集会・市民会議	福祉社会デザイン学部社会福祉学科古川和稔ゼミ 韓国カトリックサンジ大学	韓国カトリックサンジ大学とのリモート交流会	第1回:5/25 第2回:11/2	オンライン	大学生	生活支援学専攻開講科目「社会福祉学専門演習ⅡA」（担当教員：古川和稔教授）において、「韓国カトリックサンジ大学とのリモート交流会」を実施しました。古川ゼミの定例企画となったこの交流会は、回を重ねるごとに、学生同士の交流が深まっています。学生同士で早速LINEグループを作って、今後の交流の約束をしていました。古川ゼミでは、今後も国際交流を推進していきます。	https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-05-25sat https://sites.google.com/toyo.jp/wsd/dswf/news_d/2024-11-05tue	
85	川原　恵子		「プリズン・サークル」上映会	情報提供 企画 その他	その他	川原ゼミ	「プリズン・サークル」上映会	7/30	赤羽台キャンパス HELSPOホール	高校生 大学生 大学院生 保護者 研究者 社会人・一般 市民団体	刑務所ドキュメンタリー映画の無料上映会(学内学生・院生・一般向け)を実施しました。対象者の方々の小児期逆境体験(ACE)が取り上げられ、加害者ではあるものの虐待等の被害者であった過去が語られる内容です。あわせて、更生保護についての理解を促進するため、更生保護関係者のインタビュー、戸井宏紀先生による講演などを行い、社会を明るくする運動としても取り組みました。	—	
86			生活保護施設利用世帯の子ども向け学習・居場所支援	企画 運営参加・支援 その他	その他	川原ゼミ	—	6/14～3/13	生活保護施設内集会室	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 社会人・一般	生活保護施設利用世帯のお子様向けに学習支援・居場所支援を行った（週１～隔週で実施）。子どもだけでなく、成人の利用者も参加希望があり対応した。	—	
87			生活保護施設利用世帯の子ども向けイベント	企画 運営参加・支援 その他	その他	川原ゼミ	—	8/2 12/13	生活保護施設	幼稚園以下 小学生 社会人・一般	生活保護利用世帯・退所世帯のお子様向けに季節にかかわるイベントを実施(DV避難世帯もあるためボランティアが入りづらい施設)。多くの親子が参加し大学生と交流を図った。	—	
88			こども食堂の子どもたち向けイベント	企画 運営参加・支援 その他	その他	川原ゼミ	—	12/6	赤羽台キャンパス 20304教室	小学生 中学生 保護者	フィールド活動先の滝野川子ども食堂の子どもたちを対象に大学を身近に感じてもらうために、大学に招いて、簡単な学校案内とレクリエーションを行った。	—	
89			日本のホームレス問題～可視化されにくい女性～	講師	その他	静岡県長泉町教育委員会	男と女のチャレンジライフ講座（男女共同参画推進事業）	10/6	コミュニティながいずみ	社会人・一般	長泉町男女共同参画推進事業の一環として実施されている「男と女のチャレンジライフ講座(第1回)」に講師として「日本のホームレス問題～可視化されにくい女性～」というタイトルで講演を行った。	—	
90			救世軍婦人寮職員研修　映画「女ばかりの夜」鑑賞	コメンテーター	その他	社会福祉法人救世軍婦人寮	映画「女ばかりの夜」鑑賞	11/7	杉並小隊	その他	救世軍婦人寮の研修講師として、田中絹代監督「女ばかりの夜」を鑑賞した後、堀千鶴子先生、救世軍婦人寮室施設長、川原との鼎談を行った。	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
91	川原　恵子	福祉社会デザイン学部社会福祉学科	居住支援	講師	資格認定講習	PwCコンサルティング合同会社	令和６年度社会福祉推進事業 指定課題21 女性相談支援員向け研修の教材作成及び実施方法に関する調査研究事業	—	—	行政機関	厚生労働省の女性相談支援員養成研修の「居住支援」を担当。研修にかかわる資料作成及び動画撮影を行った(オンデマンド研修)。	https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/track-record/assets/pdf/social-welfare2025-03.pdf	
92	内田　千春	福祉社会デザイン学部子ども支援学科	「外国につながる子どもたちの幼児期の育ちを考える」	講師	セミナー・ワークショップ	川崎市高津市民館	高津市民館市民エンパワーメント研修	9/8	川崎市高津市民館	教育関係者、社会人・一般	川崎市高津区を中心とした地域で、外国につながる家族やこどもへの支援をしている、あるいはこれから活動を考えている方を対象。異文化理解やマイクロアグレッションを含めて自己理解、複言語発達についての講義と、グループごとに実践や体験の共有とこれからの地域活動について考えるためのワークショップを実施した	—	
93			「幼児の心の発達と理解援助(特別な教育的支援を必要とする幼児の理解と対応を含む)」	講師	セミナー・ワークショップ	千葉県総合教育センター	保育技術研修99 幼児の心の発達と理解・援助(特別な教育的支援を必要とする幼児の理解と対応)。	7/25	千葉県総合教育センター	教育関係者	千葉県総合教育センター保育技術研修にて「幼児の心の発達と理解・援助(特別な教育的支援を必要とする幼児の理解と対応を含む)」と題して講師を担当した。	—	
94			外国籍の乳幼児に対する園の体制づくりについて	講師	セミナー・ワークショップ	千葉県総合教育センター	幼児教育アドバイザー育成研修	7/31	千葉県総合教育センター	教育関係者	千葉県総合教育センター幼児教育アドバイザー育成研修にて「外国籍の乳幼児に対する園の体制づくりについて」と題して講師を担当した。	—	
95			帰国・外国人幼児への指導のポイント～安心して自己を発揮できる園生活のために	講師	セミナー・ワークショップ	札幌市教育委員会	札幌市教育センター専門研修	9/6	札幌市教育センター	教育関係者	札幌市内の幼稚園、保育所、こども園、小学校の教諭、保育士等を対象にした研修。子どもが自己を発揮して過ごせる園づくりについて、外国人幼児への支援の視点から考えた。また、参加者どうしで互いの経験を共有し様々な対応の可能性について考えた。	—	
96			可児市ひよこ教室指導者研修（日本語指導プレスクールでの子どもの言語力評価について考える）	講師 助言・指導	セミナー・ワークショップ	NPO法人可児市国際交流協会	可児市ひよこ教室指導者研修（日本語指導プレスクールでの子どもの言語力評価について考える）	10/18 11/29	可児市	教育関係者	1回目：可児市ひよこ教室指導者研修をオンラインで実施した。「日本語指導プレスクールでの子どもの言語力評価について考える」と題して講演、及びひよこ教室の指導者との質疑応答を行った。 2回目：可児市内ひよこ教室を午前中参観、午後ひよこ教室の指導者、フレビアのコーディネーターらと共に、指導上の悩みや課題、子どもの言語力評価について話し合った。	—	
97			外国にルーツを持つこどもを地域で支える	講師	セミナー・ワークショップ	浦安市市民経済部 市民大学校	うらやす市市民大学「地域で支える子育て環境」第７・８回	10/17	浦安市まちづくり活動プラザ3階	社会人・一般市民団体	うらやす市市民大学「地域で支える子育て環境」第7・8回にて「外国にルーツを持つこどもを地域で支える」と題して講師を担当した。 第7回：外国にルーツを持つこどもたちが等しく育ち、学ぶ権利を実現するために、地域の住民や専門家にどのような支援ができるかについて、実践的な事例を踏まえて学びます。 第8回：第7回での学びを踏まえたワークショップを通じて、外国にルーツを持つこどもたちを地域で支えるための取組について考えます。	—	

No.	教員氏名	所 属	タイトル	役 割	種 別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場 所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
98	内田　千春	福祉社会デザイン学部子ども支援学科	外国につながりのある子どもへの幼児教育・保育およびその家庭への子育て支援	講師	講演会	大阪府私立幼稚園連盟	第2回キンダーカウンセラー研修会	10/23	オンライン	教育関係者	名古屋市教育委員指導部指導室 幼児教育支援室が企画する保育士、幼稚園教諭、保育教諭を対象とする研修会にて「外国につながる子どもの育ちを支える保育－認め合い共に生きる－」と題して講師を担当した。	－	
99			心と言葉を育む多文化共生保育	講師	講演会	埼玉県保育士会	埼玉県保育士会特別研修Ⅱ	2/12	－	教育関係者	埼玉県保育士会特別研修会Ⅱにて「心とことばを育む多文化共生保育」と題して講師を担当した。	－	
100	高橋 良至	福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム	運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2024	10/26(土),27(日)	東洋大学白山キャンパス	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般企業 市民団体 行政機関 メディア その他	少子高齢化が進む中で、日常の通院や買い物等に困難を抱える人々が全国で増え続けています。このくらしの足の問題を解決するために、当事者、行政職員、研究者、バス・タクシー事業者、福祉・介護・医療の従事者、NPOなど、多くの関係者が集まり、地域を越え、立場を越え、利用者・生活者の目線をベースとして本音で語り合い、お互いを知り合い、それぞれが抱える問題解決のヒントを得る「気づき」の場として、本フォーラムを開催しています。	https://zenkokuforum.jimdofree.com/	

〈学部・研究科・研究所・センター・事務局〉

No	学部・研究科研究所・センター・事務局	タイトル	役割	種別	主催者発行元	イベント番組新聞雑誌名	年月日	場所掲載箇所	対象	概要	URL	SDGs
1	総務課	東洋大学白山地域振興懇話会「白山哲理塾」の事務	運営参加・支援 その他	セミナー・ワークショップ	白山地域振興懇話会（本学及び地域団体等との協働）	白山哲理塾	4/1-3/31	文京区男女平等センターほか	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 その他	総務課は、東洋大学白山地域振興懇話会事務局となっており、白山地域振興懇話会と協働し、大学と地域社会との連携及び地域社会への貢献の一環として実施。企画立案者（近隣住民等）は、事務局に企画書の提出を行い、学内外で活動を実施。実施場所が本学「地域交流サロン」であれば、無料。	—	
2	広報課	第38回東洋大学「現代学生百人一首」	編集 企画 運営参加・支援 その他	その他	広報課	第38回東洋大学「現代学生百人一首」	9/13-1/15	第38回東洋大学「現代学生百人一首」	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生	短歌文学の教育研究活動を通じて日本の教育・文化の発展に寄与することを目的に、毎年国内外の学生から「現代学生のものの見方・生活感覚」を詠んだ短歌を募集。応募作品から100首、小学生の部10首を審査・発表。	https://www.toyo.ac.jp/social/issyu/ https://www.toyo.ac.jp/assets/social/issyu/2024/9c336a7c9a94550cd47cc6c3dba8de23.pdf https://sites.google.com/toyo.jp/social-issyu/winning https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/culture/gakusei_hyakuninissyu/	—
3		東洋大学オウンドメディア「LINK @TOYO」	編集 情報提供 企画 寄稿 その他	会誌・広報誌	広報課	今こそ身につけたい“教養”、大人のためのWEBマガジン「LINK@TOYO」	2020/10/30-現在まで	WEBマガジン「LINK@TOYO」	社会人・一般	生活の知恵を得る「LIFE」、社会の未来を考える「SOCIAL」、仕事に活きる術を知る「BUSINESS」、文化を味わう「CULTURE」、スポーツを学ぶ「SPORT」の5つのカテゴリーからなるコンテンツを展開。専門家である本学の教員がそれぞれのテーマについて分かりやすく解説する記事や、各界で活躍する卒業生・学生へのインタビュー記事など、今こそ身につけたい“教養”の獲得を後押しするコンテンツとして随時公開していく。	https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/ https://www.u-presscenter.jp/article/post-44677.html	
4		「SDGs NewsLetter」	編集 情報提供 企画 寄稿 その他	会誌・広報誌	広報課	「SDGs NewsLetter」	2020/12/21-現在まで	「SDGs News Letter」	社会人・一般 メディア	SDGsに寄与する本学の取り組みや教員の研究、学生団体の活動を主に報道関係者へ情報提供する。報道関係者だけでなく、社会・一般者にも伝えられるようにコンテンツ化して随時公開していく。	https://www.toyo.ac.jp/sdgs/newsletter/	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
5	広報課	炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座を開催	講師	講演会	主催：東洋大学広報課、武田薬品工業株式会社	炎症性腸疾患（IBD）への理解を促進する公開講座	2/27	東洋大学朝霞キャンパス	大学生 大学院生 教育関係者 社会人・一般企業	本学と武田薬品工業株式会社(以下、武田薬品）が連携し、朝霞キャンパスで特定疾患(難病）に指定されている炎症性腸疾患(Inflammatory Bowel Disease、以下「IBD」）の疾患啓発のための公開講座を開催し、食環境科学部・食環境科学研究科をはじめとした学生、教職員、地域住民など約80名が受講しました。IBDは、消化管に慢性的に炎症・潰瘍が生じる疾患の総称で、主に「潰瘍性大腸炎」と「クローン病」を指します。国内の患者数は、潰瘍性大腸炎が約22万人、クローン病が約7万人※1と推定されており、国の特定疾患(難病）に指定されています。発症年齢のピークは10代後半から20代が多い※2 疾患ですが、社会的認知度は高くありません。患者さんの多くは、頻回な下痢や血便、腹痛、発熱、さらには慢性疲労に悩まされながら日常生活を送っており、食事とトイレが生活の中での大きな課題となっています。このような背景を踏まえ、IBDの発症年齢と近い大学生で、日々「食」について学び、研究する食環境科学部の学生らが公開講座を受講し、IBDという疾患や、疾患を抱える患者さんの生活課題について理解を深めました。また、2月28日の「世界希少・難治性疾患の日」にあわせ、食環境科学部健康栄養学科の学生5名が、武田薬品が開発に携わったIBD体験シミュレーションプログラムによりIBD患者さんの生活を追体験。患者さんの日常生活での苦労や社会的な制約を疑似体験することで、心理的な側面まで実感する機会となります。講座を受講した学生から、『IBDのことを学び、疾患のある人に対してできることを考えたい』（食環境科学部健康栄養学科3年)、『社会の中で、このような疾患に対する情報が広がっていく取り組みが必要だと感じた』（食環境科学部健康栄養学科2年）との感想がありました。東洋大学食環境科学部健康栄養学科の学生は、この公開講座を受け、誰もが安心して生活できる社会づくりを目指すため、IBD患者さんもおいしく食べることのできる料理メニューを開発し、5月19日世界IBDデーに発表する予定です。東洋大学は多様な価値観を学習し理解するとともに、主体的な学びや対話を通じて「哲学する」ことで知見を社会に還元し、地域社会に貢献してまいります。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250228-17082.html https://www.u-presscenter.jp/article/post-55745.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
6	国際課	2024春　東洋大学ビジネス日本語オンデマンド講座	講師 企画	セミナー・ワークショップ	東洋大学国際教育センター	東洋大学ビジネス日本語オンデマンド講座	5/25-8/31	オンデマンド	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	この講座は、海外の教育機関で日本語教育に携わっている日本語教員の方、日本国内外で日本語教師養成プログラムを受講している大学生や大学院生、また、企業で外国人材の日本語教育を担当している方など、ビジネス日本語教育に関心を持つ全ての方を対象とし、「ビジネス日本語の指導」に有用な専門的知識を学べる入門講座です。言語学、日本語学、日本語教育学の専門家が、各テーマについて理論と実践の双方から講義を行います。それぞれのテーマは、事前課題、理論編講義、実践タスク、実践編講義という四つのセクションから構成され、大きく「理論編」と「実践編」に分けられます。具体的には、理論編ではテーマについて先行研究を踏まえ、理論的知識を確認し、事前課題の解説を行います。受講生はその後、実践タスクに取り組みます。実践編では実践タスクの解説を行いながら、テーマについてより実践的な側面から理解を深めます。ビジネス日本語教育の基礎について学びたい方、ビジネス日本語を教えることに興味がある全ての方におすすめの講座です。 ◆講義テーマと講師 1. オリエンテーション：牛窪　隆太(東洋大学国際教育センター・准教授) 2. 外国人材就職の現状と課題：田中 祐輔(青山学院大学・准教授) 3. ビジネス日本語の敬語表現とその指導：前田 直子(学習院大学・教授) 4. 外国人材のための文字・表現指導：陳　秀茵(東洋大学国際教育センター・講師) 5. ビジネス日本語の語彙指導：田中 祐輔(青山学院大学・准教授) 6. ビジネス日本語の発音とスピーキング指導:木下 直子(早稲田大学・准教授) 7. ビジネス日本語と翻訳・通訳指導：石川 慎一郎(神戸大学・教授) 8. ビジネス日本語文書の作成指導：石黒 圭(国立国語研究所・教授、一橋大学・連携教授) 9. ビジネス日本語の読解指導：牛窪 隆太(東洋大学国際教育センター・准教授)	https://www.jv-campus.org/jvc-content/355552/	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
7	国際課	東洋大学国際映画祭2024	出演 コメンテーター 司会 編集 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	フェスティバル	東洋大学国際教育センター	東洋大学国際映画祭	6/29	東洋大学白山キャンパス円了ホール、オンライン	大学生 大学院生 教育関係者	学生団体Toyo Gemstone(TGS)企画、TGS及び国際教育センターが主催する東洋大学国際映画祭2024を開催しました。TGS企画の国際映画祭は、コロナ禍で海外への実渡航が制限され、対面での国際交流が全くできなくなった2021年に、コロナ終息後の「自由」を夢見ながら、映像プロジェクトを通じて各国の留学生とつながることを目的に始まりました。2022年にも同様に実施され、今回が3回目の実施となります。今年度の国際映画祭では「感謝(Gratitude)」をテーマに、学内外、そして日本国内外の学生等から「感謝(Gratitude)」に関連したショート動画を集めて、1本の映像作品にするという映像プロジェクトを実施しました。コロナ禍の様々な制限が撤廃され、当たり前の日常が戻ってきた中で、日々の生活や出来事の中に「感謝」を見つけ、それを映像に取ることで、再び世界が繋がったことを実感し、平和に感謝し、そして私たちの日々の日常を大切に見直していきたいというTGSの想いが込められています。TGSの想いに賛同した国内外の学生や関係者から、96本の動画が集まり、その動画を繋げた映像作品が円了ホールで上映され、その様子はYouTubeで同時配信されました。心に響く多様な「感謝(Gratitude)」が紡がれた作品を通じて、日々の感謝について見つめ直すとともに、一つのテーマで世界と繋がることができることを実感する機会になったように感じます。	https://sites.google.com/toyo.jp/ipo/newslist/tiff2024	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
8	国際課	国際協働COIL型フィールドスタディ「富士山フィールドワーク」を実施	企画運営 参加・支援実演 調査担当 報告書執筆	セミナー・ワークショップ	東洋大学国際教育センター	国際協働COIL型フィールドスタディ「富士山フィールドワーク」を実施	8/26-8/28	河口湖セントビレッヂ 山梨県世界遺産センター富士山五合目	大学生	本プログラムは、COIL型国際フィールドスタディーとして、本学の日本人学生、留学生及びToyo Summer Program (TSP) に参加する各国協定校の留学生が富士山周辺でフィールドワークを行い、世界遺産としての富士山やSDGsに関連する理解を深め、高度なディスカッションに対応しうる能力を高めることを目的に、実施しました。COIL型協働学習として、7月31日に本学学生及びTSP参加者向けのオンライン事前研修を実施し、TSP学生の来日前にグループ分けを実施し、グループごとの富士山の事前調査(富士山の魅力、日本人にとっての富士山の意義、山岳信仰、富士山の課題、世界から見た富士山等) を課題として課しました。学生達はオンラインで事前調査をするテーマを選び、グループごとに調べた内容を纏めました。3日間の「富士山フィールドワーク」では、本学学生13名とTSP参加者11名が河口湖に赴き、初日は、山梨県世界遺産センターにて、富士山の環境問題を学習するとともに、ごみ拾い体験を行いました。2日目は富士山五合目にて自然解説ツアーへの参加、西湖いやしの里、富岳洞穴の見学を通じて、富士山の自然の多様性や河口湖周辺の富士山と共にある伝統的文化等について学習しました。2日目の事前調査の発表セッションでは、グループごとに行った富士山についての事前調査の内容を発表するとともに、本フィールドワークと通じて新たに発見した学びをグループごとにまとめるための作業を行いました。最終日にはセッションでは、各グループでまとめた学習内容を発表しました。3日間の共同学習及び合宿生活を通じて、本プログラムの所期の目標である国際的な協働学習が実現するとともに、本学学生とTSPの学生との間で深い相互理解と国際交流ができたように思われます。	https://sites.google.com/toyo.jp/ipo/newslist/2024mtfuji	
9		東洋大学SDGs留学生アンバサダーによるECZxSDGsイベント（2024年度春学期第1回）	出演 司会 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ		The Recycling Paradox ～Unveiling the surprising link between recycling and our water～	6/4	東洋大学白山キャンパス8号館1階 English Community Zone	大学生 大学院生	「東洋大学SDGs留学生アンバサダー奨学金制度」で入学した留学生によるイベントを順次開催しました。春学期第1回は、中国とベトナムからの学生がファシリテーターとなり、「水」「リサイクル」等をテーマに東洋大学の学生向けにプレゼンテーションおよびディスカッションを行いました。現代社会では、環境保護のためゴミをリサイクルすることが常識となっていますが、ペットボトルのリサイクルには手間とコストがかかることから、リサイクル率が未だ低く大半は埋め立てられているというデータを紹介しました。また、キャンパス内のウォーターサーバー設置活動に参加した経験から、その利用を促す一方、購入する商品の包装物等に意識を高めるよう提案しました。	https://www.instagram.com/p/C7oSZOvvEfv/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzR1ODBiNWF1ZA==	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
10	国際課	東洋大学SDGs留学生アンバサダーによるECZxSDGsイベント（2024年度春学期第2回）	出演 司会 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	東洋大学国際教育センター	Food for Thought ～The Impact of Our Food Choices on the Planet and Ourselves～	6/27	東洋大学白山キャンパス8号館1階 English Community Zone	大学生	春学期第2回は、フランスとタジキスタンからの学生がファシリテーターとなり、「環境に配慮した食糧消費」をテーマに東洋大学の学生向けにプレゼンテーションおよびディスカッションを行いました。まず、世界中で食糧廃棄の問題があることを紹介し、消費者への教育、政策の変更、農業の現場での解決策等を提示しました。その上で、加工品の消費を控え、できるだけ添加物が少ない食品を利用して料理していくことを提案しました。	https://sites.google.com/toyo.jp/ipo/iexp/english-community-zoneecz	
11		東洋大学SDGs留学生アンバサダーによるECZxSDGsイベント（2024年度春学期第3回）	出演 司会 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークシップ		Recycling Reimagined! ～The Surprising World of Waste Trans formation～	7/11	東洋大学白山キャンパス8号館1階 English Community Zone	大学生 大学院生	春学期第3回は、ミャンマーとタイからの学生がファシリテーターとなり、「Recycling Reimagined! リサイクル後はどうなるの？」をテーマに、東洋大学の学生向けにプレゼンテーションおよびディスカッションを行いました。ゴミの分解の現状について説明し、効率的なリサイクル方法を紹介しました。	https://www.instagram.com/p/DDMeQRRQvgE0/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA==	
12		東洋大学SDGs留学生アンバサダーによるECZxSDGsイベント（2024年度秋学期第1回）	出演 司会 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークシップ		Job security, Gender equality and Inclusivity	11/19	東洋大学白山キャンパス8号館1階 English Community Zone	大学生 大学院生	秋学期第1回は、中国、タジキスタン、ベトナムからの学生がファシリテーターとなり、「働き方」「ジェンダー」をテーマに、東洋大学の学生向けにプレゼンテーションおよびディスカッションを行いました。各国の残業状況、職場での女性の活用等について話し合いました。	https://sites.google.com/toyo.jp/ipo/iexp/english-community-zoneecz	
13		東洋大学SDGs留学生アンバサダーによるECZxSDGsイベント（2024年度秋学期第2回）	出演 司会 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークシップ		Mastering your inner balance	12/17	東洋大学白山キャンパス8号館1階 English Community Zone	大学生 大学院生	秋学期第2回は、ミャンマー、ベトナムからの学生がファシリテーターとなり、「メンタルヘルス」をテーマに、東洋大学の学生向けにプレゼンテーションおよびディスカッションを行いました。Emotional Regulation（感情調整）を覚えて、自分が抱えている負の感情を軽減する方法を紹介しました。	https://www.instagram.com/p/DDMeQRRQvgE0/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA==	
14		東洋大学SDGs留学生アンバサダーによるECZxSDGsイベント（2024年度秋学期第3回）	出演 司会 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークシップ		AI and Learning	1/15	東洋大学白山キャンパス8号館1階 English Community Zone	大学生 大学院生	秋学期第3回は、フランス、ベトナム、ウズベキスタンからの学生がファシリテーターとなり、「学生のAI活用状況（レポート提出の際等）」をテーマに、東洋大学の学生向けにプレゼンテーションおよびディスカッションを行いました。学生がレポート作成の際にどの程度Chat GPT等のAIを活用しているのか、その場でKahootのアンケートを取ったり、AIの強みと弱点について意見を出し合いました。	-	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
15	国際課	ウクライナからの研究員による特別講義	出演 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 報告書執筆	セミナー・ワークショップ	東洋大学国際教育センター	GLOBAL PARTNERSHIP: Ukraine and Japan: Sustainable Development in the Context of Global Conflict（ウクライナと日本： グローバルな紛争の文脈における持続可能な開発）	12/13	東洋大学白山キャンパス8号館1階 English Community Zone	大学生 大学院生	キーウ航空大学国際関係学部長のユリイ・ヴォロシン先生が「Ukraine and Japan: Sustainable Development in the Context of Global Conflicts（ウクライナと日本： グローバルな紛争の文脈における持続可能な開発）と題して本学学生向けの特別講演を白山キャンパスのEnglish Community Zoneで行いました。ヴォロシン先生は、世紀転換期における国際法秩序の発展と持続可能な開発の主要動向を紹介した上で、ウクライナの現状やウクライナに対する日本政府の支援、両国間における協力の拡大、共通する基本的価値観の紹介、北方領土に対するウクライナの見解等多岐にわたりお話いただきました。日本人学生に加え中央アジア等からの留学生、ウクライナからの交換留学生等関心のある学生たちが集まり真剣に講演を聴いていました。講演後は日本の民間部門のウクライナへの戦後復興支援やアメリカ大統領の交代による影響についての質問に丁寧にご回答くださいました。今後も両国が様々な分野で協力することによりウクライナの戦後復興と持続可能な開発がなされていくことが期待されます。	https://sites.google.com/toyo.jp/ipo/newslist/20241209kai	
16	文学部 教務課	文学部伝統文化講座プロジェクト	出演 司会 実演	セミナー・ワークショップ	文学部	文学部伝統文化講座プロジェクト（能楽公演・落語公演）	「能楽鑑賞教室」10/5 「落語の会」12/7	白山キャンパス　井上円了ホール	大学生 社会人・一般	東洋大学文学部では、日本の伝統芸能をひとりでも多くの大学生に身近なものとして伝えることを目的とし、今年度も白山キャンパス井上円了ホールにおいて、「能楽」「落語」をテーマとした公演を開催。2024年10月5日（土）、白山キャンパス井上円了ホールにおいて、「能楽鑑賞教室」を開催。本学の正課科目「伝統文化講座」の一環である本公演は、本学の学生と学外からの聴講者、約250名にご鑑賞いただきました。 ＜演目＞　能『井筒』観世銕之丞　狂言『萩大名』山本泰太郎 矢口悦子学長・山口しのぶ文学部長・原田香織教授（日本文学文化学科）による開演挨拶のあと、狂言『萩大名』の演目が上演され、原田香織教授により演目に関する解説が行われました。その後、2つ目の演目である能『井筒』が上映されました。本公演は、日本の伝統芸能をひとりでも多くの大学生に身近なものとして伝えることを目的とし、2004年より開催し、今回で19回目となります。2024年12月7日（土）、「落語の会」を開催。	https://sites.google.com/toyo.jp/lit/home/newslist/20240624_news https://sites.google.com/toyo.jp/lit/home/newslist/20241005_news	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
17	文学部 教務課	第4回　東洋大学文学部書道展	企画 運営参加・支援 その他	その他	文学部	第4回　東洋大学文学部書道展	6/15- 9/30	井上円了記念博物館展示室（第2会場）・展示ロビー（第1会場）	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	東洋大学では、かねてから書道教員免許取得を目指す学生たちによる作品を展示する「東洋大学書道展」を文京シビックセンターにて開催してきました。そして、2021年度より、新たに、本学井上円了記念博物館において、文学部書道展を開催することとなり、今年度は第4回となります。今回は、10名の学生により、18作品が出品され、創作、臨書、篆刻など、さまざまなジャンルでバラエティに富んだ作品を展示しています。この機会に、本学における教育研究の成果として、ぜひ学生と教員による作品をご覧いただければ幸いです。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/special/20240615	
18		博物館実習Ⅰ〈①コース〉実習成果展示「ひらかれた歴史編さんを目指して～千葉県の自治体史にみる編さんの在り方～」	企画 運営参加・支援 その他	その他		博物館実習Ⅰ〈①コース〉実習成果展示「ひらかれた歴史編さんを目指して～千葉県の自治体史にみる編さんの在り方～」	1/15- 6/7	井上円了記念博物館展示室		学芸員養成課程の3年時配当となる博物館実習Ⅰの1コースでは、毎年大学所蔵資料などからテーマを一つ決め、受講生が分担をして井上円了記念博物館で展示を行っています。今年度は、千葉県一宮本郷村を題材とし、千葉県内の自治体史編さんの歴史的変遷を押さえつつ、その在り方について見ていきます。また、上智大学で行った一宮地域を含んだ地域を対象とした考古・歴史・民俗分野の総合調査を紹介し、その進め方や背景などを踏まえた上で、現在、東洋大学で所蔵している歴史資料についても紹介していきます。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/special/20250114	
19	法学部教務課	東洋大学無料法律相談会	助言・指導 企画 運営参加・支援	その他	無料法律相談部	東洋大学無料法律相談会	10/5 （埼玉県朝霞市） 2/23 （茨城県常総市）	10/5 朝霞市産業文化センター 2/23 茨城県常総市生涯学習センター	社会人・一般	埼玉県朝霞市において2024年10月5日（土）に、茨城県常総市において2025年2月23日（日）に実施した。法学部の専任教員および無料法律相談部の学生が、賃貸トラブル・お金の貸し借り・交通事故・ご近所トラブル・借金・相続・離婚・後見・土地境界問題等、民法分野の一般的な問題について、一般市民からの相談に応じた。	https://sites.google.com/toyo.jp/law/news_f/20241005 https://sites.google.com/toyo.jp/law/news_f/20250223	
20	社会学部教務課	社会学部の学生が白山神社例大祭に参加	運営参加・支援	フェスティバル	白山神社 氏子町会	白山神社例大祭	9/21- 9/22	白山神社の氏子町会の範囲	社会人・一般 市民団体	2024年9月21日（土）・22日（日）に、白山神社の氏子町会の範囲で、白山神社例大祭が開催されました。第1部社会学科では、ボランティアとして地域のお祭り・イベントをお手伝いし、また「社会調査および実習」や「社会学演習Ⅰ」のフィールドワークの授業で地域の皆さんに調査にご協力いただくなど、白山地域と連携しながら、学生が社会学を実地で学ぶことのできる機会を設けています。今年の白山神社例大祭では、第1部社会学科の調査実習受講生に加えて、社会学部全体からボランティアを募ったところ、第1部・第2部の学生計21名が運営に参加して、貴重な経験をさせていただきました。例大祭では、各町会の範囲それぞれで、神輿渡御や子ども向けの催しが独自に行われます。今回学生を受け入れて下さったのは、白山駅の両側に広がる「白山前町町会」、白山駅と本学西門の間の「京華通り自治会」、春日駅に隣接する「春日町三丁目町会」です。また、9月23日（月・祝）には、白山神社の境内で盆踊り大会が盛大に催され、そこにもスタッフとして学生が参加する機会を頂きました。貴重な機会をくださった白山地域の皆様に、心より御礼を申し上げます。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-151/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20240921_%E6%9D%B1%E6%B4%8B%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91%E3%83%A8%E3%81%AE%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%8C%E7%99%BD%E5%B1%B1%E7%A5%9E%E4%BE%BB%E5%A4%A7%E7%A5%AD%E3%81%AB%E5%8F%82%E5%8A%A0%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
21	社会学部 教務課	長野県飯田市で1年生3人が国際社会体験演習飯田コースの成果発表実施	情報提供 企画 運営参加・支援 調査担当 報告書執筆	調査	飯田市役所 共生・協働推進課、飯田市国際交流推進協会	大学連携会議「学輪IIDA」	1/25	ムトスぷらざ２階多目的ホール	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	2025年1月25日、長野県飯田市と関係する全国の大学関係者との連携組織「学輪IIDA」の市民公開体会が開催され、ポスターセッションの部で、学科必修科目「国際社会体験演習」飯田コースなどに参加した1年生3人が研修成果を報告しました。体験演習飯田コースは、飯田市役所共生・協働推進課と飯田市国際交流推進協会の協力の下で行われています。飯田地域の多文化性の歴史と特徴、共生に向けた取り組み、それを支える地域社会を知るプログラム構成で、2024年度は18名の履修者が9月3日～7日に、多くの現場を訪れ、みなさまのお話を直接うかがいました。今回のポスターセッションでは、【飯田の現場でダイバーシティを学ぶ：社会学部1年生の研修報告】と題し、研修概要とまとめを掲示し、9月に印象的だった経験や学び、1年生というフレッシュな時期の現場経験の教室での学習への活かし方、多様性社会を学ぶ楽しさなどを、3名の学生が来場者との質疑・会話を通して伝えました。飯田市自慢の市民交流施設には、行政や大学の関係者に加え、地元メディアや市民、高校生など、多くの来場がありました。会場で多様な問いへの回答を通して、学生にはまた新たな気づきが生まれ、今後の学びに向けた思いが新たになったようです。2021年以来お世話になり、今回、また成長の機会をいただいた地域のみなさまに、あらためて感謝します。	https://sites.google.com/toyo.jp/soc-news-156/news%E4%B8%80%E8%A6%A7%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%A7%91/20250130_%E9%95%B7%E9%87%8E%E7%9C%8C%E9%A3%AF%E7%94%B0%E5%B8%82%E3%81%A71%E5%B9%B4%E7%94%9F3%E4%BA%BA%E3%81%8C%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AD%A6%E7%94%B0%E3%82%B3%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%81%AE%E6%88%90%E6%9E%9C%E7%99%BA%E8%A1%A8%E3%82%92%E8%A1%8C%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F https://gakurin-iida.jpn.org/archives/4137/	
22	国際学部 教務課	東洋大学＝カーティン大学（オーストラリア）合同能登半島地震災害 ボランティア活動（石川県羽咋郡志賀町）を実施	企画 運営参加・支援	その他	国際学部国際地域学科	東洋大学＝カーティン大学（オーストラリア）合同能登半島地震災害 ボランティア活動	6/5-6/8	石川県羽咋郡志賀町	中学生 社会人・一般 市民団体 行政機関	2024年6月6日と6月7日の二日間、志賀町ボランティアセンターで、災害ボランティア活動に参加してきました。今回は、東洋大学生6人とオーストラリア・カーティン大学から研修でやってきた学生12人・教員1人が一緒に総勢20人で災害ボランティア活動を行いました。まず、能登へ向かう前に、6月4日東洋大学白山キャンパスで震災の発生メカニズムと復興について、東洋大学国際学部松丸教授の講義を受けました。翌日に能登へ向かい、6月6日は個人宅にてブロック塀の撤去や、廃棄する家財の運び出しなどを行いました。 7日の午前中は、増穂浦で海岸清掃を行いました。いずれも、ボランティア団体のマッチングをいただいて、LOVEEAST様、能登へルプ様のご協力をいただきながら、合同で活動をさせてもらいました。午後は、志賀町立富来中学校への訪問と英語での中学生たちとの交流をした後で、輪島市黒島地区における被災状況の見学に行きました。両大学の学生にとってかけがえのない経験となったようです。本活動の実施には、日本財団の災害ボランティア活動助成金を受けました。	https://sites.google.com/view/noto-seminar/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0#h.ucmmxyzllfme	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
23	国際学部 教務課	国際地域学科4年生の戸田桃香さん主催のイベント「ユース×社会 対話の場 ―ユースと社会がつながるそんな日に・・・―」を実施	講師	セミナー・ワークショップ	主催：Me Careプロジェクト 監修：一般財団法人ウェルネスサポートLab 後援：株式会社みんなの銀行	「ユース×社会 対話の場 ―ユースと社会がつながるそんな日に・・・―」	8/23	DIAGONAL RUN TOKYO	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	国際地域学科4年の戸田桃香さんが企画・実施したこのイベントは、＃性教育＃月経＃ジェンダー＃福祉＃減災＃サステナブル＃イノベーション＃政治をキーワードに活動している学生団体などが集まり、それぞれの夢や思いを語り、ともに未来をつくるためにつながることを目的としたもので、関連する企業や、医療関係者、性教育の専門家の方々にもご参加いただきました。 2024年8月23日、このイベントに参加したユース団体は、Toyo-MeWプロジェクト（月経をめぐるウェルビーイング向上をめざす東洋大学の団体。国際学部国際地域学科3年生の遠藤里歩さんが共同代表）、学生団体carutena（洋服の廃棄問題からサステナブルを考える。東洋大学国際学部国際地域学科4年生塩谷菜歩さんが代表）、connect-性教育を考える学生の会-（東京大学のインカレサークル、月2で性教育にまつわる勉強会を開催）、埼玉大学のSpring Up（広く社会問題について考え声を上げる）、任意団体HANABI（障がい当事者と社会との壁を壊し、「新バリアフリー社会」をつくりたい）、TOM JAPAN（学生主導！障がい当事者ならではの視点を活かしたプロダクト開発チーム）、減災共育団体PAMDA（過去の災害から学び、減災について考える）、立候補年齢を引き下げるためのプロジェクト（「若い世代の声を政治の場に！」）、Me Careプロジェクト（ユース世代が心理的に安全で頼れる存在（場）を創出。イベント企画者の戸田さんが2年生のときに立ち上げた一般財団法人ウェルネスサポートLabのユース向け事業）の9団体でした。イベントの第一部では、各団体の目指すゴールについて共有し、第二部のパネルディスカッションでは、『月経を「タブー」から、多様な社会課題を考える切り口へ』をテーマに意見交換が行われました。男性としてどのように知識を得たらいいかわからない、圧倒的に機会がない、小学校から高校までにうけてきた男女別の性教育への疑問、月経についての男性側の理解は「まだまだ」といった意見が出ました。また、「理解したくても、どこまでどのように踏み込んでいいのかわからない」というのが問題で、これは、いつでも誰にでも起こる問題だという気づきもありました。たとえば、障がいのある人にどこまで突っ込んだ質問をしていいのだろう、という思いは健常者の多くがもっています。これに対して、任意団体HANABI代表のまつりさんの「壁はいつも1枚ではない。当事者とまわり、必ずその両者がつくっている」という言葉が印象的でした。	https://sites.google.com/toyo.jp/grs/news_f/rds-news/20241101	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
23	国際学部 教務課	国際地域学科4年生の戸田桃香さん主催のイベント「ユース×社会 対話の場―ユースと社会がつながるそんな日に・・・―」を実施	講師	セミナー・ワークショップ	主催：Me Careプロジェクト 監修：一般財団法人ウェルネスサポートLab 後援：株式会社みんなの銀行	「ユース×社会 対話の場―ユースと社会がつながるそんな日に・・・―」	8/23	DIAGONAL RUN TOKYO	高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	また、「月経をもっとオープンに」とは言っても、いつでも誰に対してもオープンになれるわけでも、オープンにしたいわけでもない、という当事者の微妙な心情に対する指摘もありました。「壁はゼロにすべきか、すべきではないのか？」という単純な問いに対しては、「正解はない。ひとつの解決策で簡単に解決できない」という気づきと、「それこそがこの問題のおもしろさだ」というさらなる気づきが共有されました。そして、それでも、とても短いあいだに、いろいろなことが口に出しやすくなっていること、社会はどんどん変化しているという実感も共有されました。ユースがつながる「社会」の側には、日本カルミック株式会社さん（東洋大学国際共生社会研究センターとともに、大学におけるトイレ環境に関する共同研究を実施中）や、ツムラ #OneMoreChoice プロジェクトさん（東洋大学がCarellege Actionに賛同し、研修を実施）、murmo（マーモ）さん（日本製月経カップを開発）、セイシル（TENGAヘルスケア）さん（10代の若者が抱える性のモヤモヤにこたえるwebメディア）などがご出展・ご参加くださったほか、多くの医療関係者、性教育の専門家の方々にもご参加いただきました。第三部では、イベントに参加した出展者と一般参加者の方の交流会が行われました。みなさん声をそろえて「とてもエネルギッシュな若者たちに出会えて、未来は明るいと感じられました」とおっしゃっていました。	https://sites.google.com/toyo.jp/grs/news_f/rds-news/20241101	
24		小鹿野高校の皆さんが白山キャンパス見学	情報提供 運営参加・支援 その他	施設一般公開	国際学部国際地域学科	小鹿野高校の皆さんが白山キャンパス見学	9月末	東洋大学白山キャンパス	高校生	国際地域学研修・小鹿野研修でお世話になっている小鹿野高校の皆さん12名（生徒9名教職員3名）が9月末に白山キャンパスの見学にいらっしゃいました。まずは大学説明とキャンパスツアー。大学での学びの場を見て聞いて感じていただきました。続いて小鹿野高校の卒業生らが大学生活を語りました。高校生の皆さんは、講義の課題などに追われながらも研修やサークル、バイトも楽しむ先輩のたくましい姿を知りました。普段は頼りなさそうな学生もなんと立派に語ってくれることか！教員一同､学生の成長に喜びました。そして､お昼になって学食へ。美味しいと評判の学食の味を堪能して、中にはおかわりの声も！　最後はこの秋の小鹿野研修での再会を約束して閉じました。	―	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
25	国際学部 教務課	能登半島地震被災地中高生春休み保養プログラム	企画 運営参加・支援 その他	その他	能登ゼミ（国際学部国際地域学科、福祉社会デザイン学部社会福祉学科）	春休み富士見高原ツアーの実施	2024/3/30-4/1	東洋大学富士見高原セミナーハウス	小学生 中学生 高校生 大学生	2024年3月30日から4月1日まで、東洋大学富士見高原セミナーハウス（長野県）で2泊3日の珠洲市中高生保養プログラムを実施しました。3月30日に珠洲市から大型バスでやってきた約20人の子どもたちは、14人の学生たちに迎えられると、まずは「はじまりの会」で仲良くなり、お風呂と夜ご飯。卓球、ドッジボールやボードゲームなどを楽しみました。翌日は、体育館での全体レクリエーションのあと、午後はお菓子作りや散策、お買い物など好きなプログラムを選択。夜はバーベキューを楽しみました。最終日は学生たちに見送られて再び珠洲へ戻っていきました。被災後、避難所の生活や二次避難生活など、不安定な生活の中にいる中高生とそのきょうだいたちは、大学生と遊んだり見守られながら、ホッとしたり、思い切り遊ぶことができたのではないでしょうか。本活動の実施には、ピースウィンズジャパン及びミツケハウスに助成していただきました。	https://sites.google.com/view/noto-seminar/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0#h.wm2iqvbwdxu3	
26		志賀町災害ボランティア	その他	その他	能登ゼミ（国際学部国際地域学科ほか）	災害ボランティアの実施	4/30-5/3	石川県志賀町	大学生 社会人・一般 市民団体 その他	2024年4月30日から5月3日まで、志賀町ボランティアセンターで、災害ボランティア活動に参加してきました。今回は、交換留学生も含めて、学生、卒業生、教員の合計12名が参加しました。2023年に志賀町鵜野屋地区安成寺でフィールド調査実習をした学生たちは、地域のひとや道行く人にお寺でコーヒーを淹れておもてなしをする「寺カフェ」を計画、このゴールデンウィークの開催を目指していました。震災で実現が難しくなってからは、復旧・復興の工事の方に出すことができないか、避難所で出すことができないか、検討を続けていました。避難指示地域に入ってしまったお寺での実現は残念ながら断念。それよりも、まずは災害ボランティアとして、お世話になってきた人たちへのご恩返しをすることに。4月30日、5月1日、2日は10人が集まり、志賀町ボランティアセンターを通して、生活家財の運び出し、崩れたブロック塀の撤去、土砂くずれにあった水源の土砂の取り除き作業などしました。そして、5月2日は避難所にて足湯をさせてもらいました。お世話になってきた稗造地域の方たちに足湯につかってもらい、肩をもみ、そして念願のコーヒーをお出しするカフェを開催しました。5月3日は新しいメンバーと一部入れ替わり、この日は屋根から落ちた瓦等を運びました。 志賀町ボランティアセンターのFacebookにも掲載していただきました。本活動の実施には、日本財団の災害ボランティア活動助成金を受けました。	https://sites.google.com/view/noto-seminar/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0#h.9vgtssxtgm2j	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
27	国際学部 教務課	志賀町・重蔵神社・輪島市町野町災害ボランティア	その他	その他	能登ゼミ（国際学部国際地域学科ほか）	災害ボランティアの実施	11/1-11/6	石川県志賀町、輪島市	大学生 社会人・一般 市民団体 その他	2024年11月1日～6日の間、学園祭の休み期間を利用して、志賀町、重蔵神社・門前町・町野町(以上輪島市）で災害ボランティアを実施しました。今回は、9月の水害で大規模な被害にあった輪島市での泥出しのボランティアに備えて、フル装備で向かいました。輪島市での水害ボランティア作業は思ったより厳しく、泥にまみれて重たい土のうを運び、必死に働きました。門前町では同じく水害にあって水道等が使えない方たちへの配食サービスの調理・盛り付けに加わりました。こちらも時間が限られている中で、必死になってサツマイモや玉ねぎを切りました。この活動にあたっては、日本財団からの災害ボランティア助成金をいただきました。	https://sites.google.com/view/noto-seminar/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0#h.4mlb4vourvd4	
28		復興支援イベントお手伝い	その他	その他	能登ゼミ（国際学部国際地域学科）	復興支援イベントの実施	11/16	東京都文京区	大学生 社会人・一般 市民団体 その他	2024年11月16日、文化シャッターBXホール(東京都文京区）で、東北支援会が開催した映画「凪が灯るころ～奥能登、珠洲の記憶～」完成披露上映会＆奥能登マルシェの開催のお手伝いをしました。また、能登ゼミ活動を通じて被災地の聞取り活動をした学生が、被災地の状況について来場者の皆様へプレゼン発表をしました。志賀町富来地頭町の旅館湖月館の再建支援チャリティ販売や、志賀町富来地区で能登牛を育て、能登牛を使ったカレーなどを販売している寺岡精肉の商品の販売、また高齢化と人口減少が続く富来稗造地区で若手住民が集まって作った盛上会が手を尽くして育て収穫し、はざ干ししたHAZABOSHI米の販売などをしました。また、ご賛同くださった方からのご寄付もいただきました。	https://sites.google.com/view/noto-seminar/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0#h.rgwguvaofke	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
29	国際学部 教務課	志賀町災害ボランティア、重蔵神社・輪島市水害ボランティア、志賀町鵜野屋安成寺報恩講ボランティア	その他	その他	能登ゼミ（国際学部国際地域学科、卒業生）	災害ボランティアの実施	11/19-11/29	石川県輪島市、志賀町	大学生 社会人・一般 市民団体 その他	2024年11月19日～28日の間、志賀町災害ボランティア、輪島市水害ボランティア、志賀町安成寺にて報恩講のお手伝いをしながら被災された方の傾聴ボランティアを実施しました。能登ゼミの学生、卒業生、教員が参加しました。志賀町では引き続き住宅の災害ゴミの運び出し・搬送を、輪島市では重蔵神社にて支援物資の仕分け（支援物資として送られてきた新米を精米して小分けにします）、支援物資の配布を、また水害の泥だしボランティアに参加しました。また、今回は志賀町安成寺にて行われた報恩講の調理・配膳のお手伝いをしながら、被災した方たちのお話をお聞かせいただく傾聴活動をしました。お参りをされた方の多くは、仮設住宅に住まわれたり、避難後に転居されて住み慣れた場所を離れて慣れない生活を送られています。能登では、震災とさらにその後の水害で多くのお寺が被災している中で、お寺でのお参りも限られています。安成寺も被災しており、修理が必要な中で報恩講の準備には人手が必要です。そこで、災害ボランティアと並行して、交替で準備からお手伝いをしました。報恩講の時には寺でお参りをされた方に、精進料理をお出ししています。人手がない中で、お寺の方がお参りの方々に対応されている間に、精進料理を準備し、お出ししました。お食事をされている間に、お茶やお代わりの給仕をしながらお話をお伺いしました。この活動に当たっては、日本財団災害ボランティア助成金をいただきました。	https://sites.google.com/view/noto-seminar/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0#h.j575sncamu7i	
30		能登半島地震被災地中高生保養プログラム	その他	その他	能登ゼミ（国際学部国際地域学科、福祉社会デザイン学部社会福祉学科）	春休み富士見高原ツアーの実施	3/29-3/31	長野県富士見町	小学生 中学生 高校生 大学生 社会人・一般 市民団体 その他	昨年に引き続き、2025年3月29日から3月31日まで、東洋大学富士見高原セミナーハウス(長野県)で2泊3日の能登半島地震被災地中高生保養プログラムを実施します。今年は、参加対象者を能登半島地震被災地在住・元在住の子どもたちに広げ、能登半島各地から21人が参加します。23人の学生が迎えて、富士見高原セミナーハウスという安全で安心できる場所で様々なアクティビティを大学生と子どもたちが繰り広げる予定です。能登半島地震から1年が過ぎ、様々な変化を経験した中高生とそのきょうだいたちは、大学生と遊んだり見守られながら、安心できる場所を思い返したり、ホッとしたり、思い切り遊ぶことができることを目指しています。本活動の実施には、昨年に引き続きピースウィンズジャパンの全面的な協力をいただいています。また株式会社アデルの皆様からのご寄付と、日本財団災害ボランティア助成金を使用する予定です。	―	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
31	国際観光学部教務課	ツーリズムEXPOジャパン2024に大学コーナー最大のブースを出展、 実行委員長賞を受賞	情報提供 企画 運営参加・支援 その他	セミナー・ワークショップ	公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会（JATA）、日本政府観光局（JNTO）	ツーリズムEXPOジャパン2024	9/26	東京ビッグサイト	社会人・一般 企業 行政機関 メディア その他	2024年9月26日(木) ～29日(日) の4日間、東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムEXPOジャパン」において本学国際観光学部が出展し、「～旅の愛好家が選ぶ ブースグランプリ～」実行委員長賞を受賞しました。大学出展ブースの受賞は史上初の快挙です。「ツーリズムEXPOジャパン」は公益社団法人日本観光振興協会、一般社団法人日本旅行業協会(JATA)、日本政府観光局(JNTO)の3団体が主催する世界最大級の観光イベントで、出展企業・団体数は1384、総ブース数は1624に及びます。また、ブースグランプリは各出展ブースの中から来場者の投票により、展示会を盛り上げたブースを選出し表彰するという企画です。当日来場者数は4日間で合計182，900人と大盛況の中、国際観光学部は2ブース分の規模で出展。11のゼミ・プロジェクトが研究発表を行い、33名の学生運営スタッフが観光クイズ大会で盛り上げる演出やホスピタリティ溢れる接遇を行いました。来場者からは「説明が熱心・丁寧で、観光のことについてしっかり考えていることが伝わった」「学生の頑張りが際立っていた」「クイズ大会が面白かった」など、学生の頑張りが高く評価され、史上初の快挙を達成しました。参加した学生スタッフは「出展を通して、国際観光学部の授業だけでは学べないことをたくさん学ばせていただきました。実行委員長賞として皆さんの頑張りが形になったことも非常にありがたく、最高の思い出になりました。」と感想を述べていました。	https://sites.google.com/toyo.jp/itm/application/%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0expo%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%91%E3%83%B3/%E5%BF%AB%E6%8C%99%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%82%BA%E3%83%A0expo%E3%82%B8%E3%83%A3%E3%83%91%E3%83%B32024%E3%81%A7%E5%AE%9F%E8%A1%8C%E5%A7%94%E5%93%A1%E9%95%B7%E8%B3%9E%E3%82%92%E5%8F%97%E8%B3%9E	11

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
32	国際観光学部教務課	「東洋大学観光短編映画祭2024」を開催	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 調査担当 報告書執筆 その他	フェスティバル	主催：東洋大学大学院国際観光学研究科・国際観光学部 協力：ベネチア・カフォスカリ大学	東洋大学短編映画祭　―持続可能な世界に向けて―	作品公募期間：2024年5月18日から9月5日 入選作品発表：2024年11月6日 授賞式：2024年11月20日	東洋大学白山キャンパス円了ホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本映画祭は「持続可能な観光」の実現のために、全世界からSDGsと観光をテーマにした短編映画を募集し行う国際コンペティションで、今回で5回目の開催となりました。今年も「観光保護」「オーバーツーリズム」「伝統文化の継承」など現在世界中が抱える観光の諸問題をテーマに、独創的なアプローチで映し出した映像作品を広く国内外から募りました。その中から最高の映画、新しい持続可能な観光を提案する映画、新しい映像スタイルによって観光の新規開拓を実現しうる映画に賞を与え、これらを含む入選作品を上映。映画を創る人、見る人共にSDGsを考え、「人にも地球にもやさしい観光」を実現するのが目的です。2024年度は105カ国の国地域から1570本の応募がありました。本映画祭の前半は「持続可能な観光を考える －オーバーツーリズムと観光地」と題したシンポジウムを開催。本学大学院生、ＴＡ、国際観光学部のボッゲンドルフ・ローレンツ准教授による研究報告とともに、持続可能な観光を実現させるための今後の取り組みについて知見を深めました。後半では、選考委員会での厳正な審査の結果に基づく入選作品(10作品)を本映画祭で上映し、優秀作品(最優秀作品賞ほか４賞)を発表し、記念品を贈呈しました。 最優秀作品賞 Film Title：An Artists Purpose Directed by：Sean Delahay 審査員賞 Film Title：カグラ Directed by：Riku Takahashi, YU-RIN 東洋大学国際観光賞 Film Title：Dear Tara Directed by：Harman Singh 学生賞 Film Title：Where We Left Off Directed by：Ephraim Ryan Pranata, Mai Anh Nguyen	https://www.toyo.ac.jp/news/20241122-16354.html https://toyoshortfilmfes.wixsite.com/tfss2024	4 10 11
33	研究推進課	SDGsと人文学公開セミナー	講師	セミナー・ワークショップ	人間科学総合研究所	(1)「強制移住―古代オリエントと、現代中東をつなぐ「記憶」」 (2)「文学における伝統と創新」 (3)「戦争は「他者」の顔をつくる」 (4)「唐における阿倍仲麻呂の任官」 (5)「王陽明の思想」	(1) 6/22 (2) 7/6 (3) 12/8 (4) 12/22 (5) 1/25	東洋大学白山キャンパス	高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	SDGsの達成に人間科学総合研究所として貢献することをめざし、若手研究者たちがSDGsの問題群を考察する公開セミナーを開催した。特にSDGsがかかげる諸テーマの意義や重要性をいわゆる「人文学」と総称され非実学として等閑視される傾向のある諸学問からむしろ積極的に検討し「誰一人取り残されない」未来にむけて理解を促進することを目的とした。今年度は5回開催し、開催後は講演録をpdfで発行、一般公開している。	https://www.toyo.ac.jp/research/labo_center/ihs/ https://www.toyo.ac.jp/research/labo_center/ihs/ https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20240622SDGs https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20240706SDGs https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20241208 https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20241222	4 5 8 10 16

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
34	研究推進課	発達臨床相談室	講師 助言・指導 運営参加・支援 実演	講演会	人間科学総合研究所 (6)【主催】国際福祉研究機構 ザ・チャレンジド	(1) 文京区教育委員会リーダー会議「こどもの権利を条例に活かす」 (2) 和光市社会福祉協議会「子どもの権利を実践に活かす」 (3) 子ども・若者・子育て当事者主体の自治体子ども施策を展開するには (4) ひとり親家庭支援者養成講座2024「こどもの人権とひとり親家庭支援」 (5) 飯能市職員研修会「令和７年度を始期とした「飯能市こども計画」における支援のあり方」 (6) JAPAN KIZUKI の森・大地～障がいという言葉をなくしたいインクルージョン社会 (7) こどもの命と人権を守り育てる国へ～子どもの未来を育てる視点と論点の新時代へ (8)「保育の質ガイドラインと子どもの権利の視点」	(1) 1 / 24 (2) 2 / 16 (3) 2 / 23 (4) 3 / 6 (5) 3 / 10 (6) 3 / 14 (7) 3 / 14 (8) 3 / 24	(1) 文京区民センター (2) 和光市社会福祉会館 (3) 地方自治と子ども施策全国自治体シンポジウム名古屋 (4) オンライン (5) 飯能市子育て総合センター (6) 衆議院議員会館 (7) 衆議院議員会館 (8) 世田谷区保健福祉研修センター	社会人・一般 行政機関	「人間の生涯発達に関する諸問題(カウンセリングを含む)について総合的な研究を行う」ことを目的としている。	−	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
35	研究推進課	地域での支援力を生かす子ども相談支援の開発支援	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	(1)【主催】学生部・学生サポート室 【共催】人間科学総合研究所・福祉社会開発センター (2)【主催】人間科学総合研究所【共催】熊本学園大学【協力】熊本県社会福祉会 (3)【主催】人間科学総合研究所【共催】福祉社会開発センター・赤羽台図書館・社会福祉学専門演習（佐藤ゼミ） (4)【主催】人間科学総合研究所【協力】地球っ子グループ、東洋大学社会学部 村上一基ゼミ	(1)アザラシ型セラピーロボットパロ交流体験セミナー (2)「災害とこどもの権利」研修 (3)セラピードッグ　ふれあい体験 (4)多文化親子シンポジウム～大学生とおもいっきり遊ぼう！～	(1) 6/20 (2) 10/12 (3) 12/5 (4) 12/14	—	幼稚園以下 小学生 大学生 社会人・一般 その他	心身の障害や疾病をもつ子どもや成人、被災地の子どもなど、相談機関に出向くことが難しい地域での相談支援、また発達相談に携わる教育・福祉施設職員に対する研修を実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20240620s https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/ihs1012 https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%94%AF%E6%8F%B4%E8%80%85%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AE%E7%9B%B8%E8%AB%87%E5%AE%A4%E3%82%BB%E3%83%A9%E3%83%94%E3%83%BC%E3%83%89%E3%83%E3%82%80%E3%81%B5%E3%82%8C%E3%81%82%E3%81%84%E4%BD%93%E9%A8%932024%E5%B9%B412%E6%9C%885%E6%97%A5%E3%82%92%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/1214	
36		若手研究チーム「子どもの権利条約の具体化に関する研究」	コメンテーター 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	人間科学総合研究所	若手研究チーム「子どもの権利条約の具体化に関する研究」	—	—	大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	子どもの権利条約の具体化とその課題を検討する公開研究会を実施し、社会啓発につとめます。子ども虐待対応における保護者との協働関係の構築現場の関心を研究につなげていく。	—	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
37	研究推進課	人間科学総合研究所プロジェクト 「家族・カップル・個人の日仏比較研究」公開講演会	コメンテーター 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	人間科学総合研究所	(1)「家族・カップル・個人の日仏比較研究」公開講演会―日仏比較から見る個人のゆくえ―」 (2)「平塚らいてうから高群逸枝へ―満州事変・日中戦争・大東亜戦争中の高群の寄稿文から出発して－」 (3) 震災からの再生を支える子育て支援多職種連携による包括的支援システムの構築。２日目フォーラム：こども家庭センターを中心とした統合的支援システムは構築可能か (4)「家族・カップル・個人の日仏比較研究」公開講演会―日本の個人・フランスの個人―＜日本の世代関係・フランスのカップル関係＞ (5) 10代親の主体的子育てを地域連携で支える継続的福祉支援モデルの日韓共同開発 研究成果報告会	(1) 2023/7/8 (2) 2024/7/27 (3) 2024/8/18 (4) 2024/10/5 (5) 2025/2/2	(1) 東洋大学白山キャンパス・オンライン (2) 日仏女性研究学会の女性思想研究会のオンライン研究会 (3) 東北福祉大学 (4) オンライン (5) 東洋大学白山キャンパス１２５ホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	人間科学総合研究所チーム「家族・カップル・個人の日仏比較研究」において、木村・草野・棚沢が「個人」について発表するのは、今回が4度目、最終回である。これまでの集大成として得た成果から、日本の今後の「個人のあり方」を展望したい。	https://www.toyo.ac.jp/news/research_labo-center_ihs_20230708.html https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20241005?authuser=0https://www.toyo.ac.jp/news/research_labo-center_ihs_20230824.html	3
38		人間科学総合研究所（若手竹内チーム）公開講演会「アジアにおける人的交流の歴史的諸相」	コメンテーター 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	人間科学総合研究所（若手竹内チーム）	人間科学総合研究所（若手竹内チーム）公開講演会「アジアにおける人的交流の歴史的諸相」	1/12	東洋大学白山キャンパス・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	講演者 河内　春人先生(関東学院大学経済学部教授) 「移動する人の帰属―6世紀前半の東アジア」	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20250112	3
39		人間科学総合研究所（UEHIRO人科研支援プログラム）公開講演会	コメンテーター 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	人間科学総合研究所（UEHIRO人科研支援プログラム）	人間科学総合研究所（UEHIRO人科研支援プログラム）公開講演会「派閥抗争に見るアジア史」	2/15	東洋大学白山キャンパス・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	講演者 伊藤　陽平先生(日本学術振興会特別研究員(PD)) 「「挙国一致」の誕生―明治・大正期の政治体制構想と言説」 本プログラムは、公益財団法人上廣倫理財団の支援による若手研究者育成のためのプログラムであり、本研究所研究員の指導の下、客員研究員・院生研究員等の若手研究を支援するものです。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/2025215	3

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
40	研究推進課	人間科学総合研究所「ヒトの移動と多文化社会」チーム（平島チーム）公開研究会	コメンテーター 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	人間科学総合研究所「ヒトの移動と多文化社会」チーム（平島チーム）	人間科学総合研究所「ヒトの移動と多文化社会」チーム（平島チーム）公開研究会「アチェ人によるインドネシア華人文化の保存運動（仮題）」	1/15	東洋大学白山キャンパス・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	講演者 工藤　裕子先生（ノートルダム清心女子大学教授） 演題「アチェ人によるインドネシア華人文化の保存運動（仮題）」	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/ihs20250125b	
41		人間科学総合研究所「異世界へのまなざし」チーム（十重田チーム）公開研究会	コメンテーター 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	人間科学総合研究所「異世界へのまなざし」チーム（十重田チーム）	人間科学総合研究所「異世界へのまなざし」チーム（十重田チーム）公開研究会「生活様式、偶発性と「他者」－思想史と現代を結ぶ 」	2/7	オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	講演者 佐藤　空先生（客員研究員・慶應義塾大学経済学部教授） 演題「生活様式、偶発性と「他者」－思想史と現代を結ぶ 」	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/0207	
42		人間科学総合研究所（UEHIRO人科研支援プログラム）公開講演会	コメンテーター 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	人間科学総合研究所（UEHIRO人科研支援プログラム）	(1)「函館五稜郭の「郷土」史家 片上楽天の“終活”」 (2)「近世古地図に見る北方地理認識」	(1) 2024/12/14 (2) 2025/2/24	(1) 東洋大学白山キャンパス (2) オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	第1部 講演 10：00～12：00 「死のこちら側と死の向こう側 ― 近世から現代へ」 第2部 研究発表 13：00～18：00（休憩あり、報告時間40分、質疑応答5分） 1 上村正裕（客員研究員・東洋大学等非常勤講師） 私荷前と追善―平安貴族社会の「家」秩序寸描― 2 毛塚万里（志度寺学芸員・東洋大学非常勤講師） 「志度寺縁起」にみる庶民の「しにぎわ」と死後 3 遠藤由紀子（昭和女子大学非常勤講師） 春日局の「しにぎわ」と死後、良妻賢母主義や近代国家形成を関連させて 4 塚越俊志（客員研究員・東洋大学等非常勤講師） 掛川藩士橘耕斎の生きざま―幕末・明治の日露両国をつないだ通訳 5 濱口裕介（客員研究員・「千島国」通史研究会共同代表） 函館五稜郭の「郷土」史家 片上楽天の“終活” 6 和田 勤（東洋大学大学院博士後期課程） 勝海舟の没後とその顕彰―エピソードの検証と勝海舟ブーム 司会：〈第1部〉岩下哲典（東洋大学人間科学総合研究所所長）・〈第2部〉林萌里（東洋大学大学院博士後期課程）	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/20241214	―

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
43	研究推進課	SDGsプロジェクト	取材協力 編集長 インタビュアー 編集 助言・指導 企画 運営参加・支援 調査担当 報告書執筆 寄稿	調査	現代社会総合研究所	SDGsプロジェクト	継続中	現代社会総合研究所ホームページの刊行物の中のWORKING PAPER SERIESに掲載	大学生 教育関係者 研究者 企業 市民団体 行政機関	SDGsプロジェクト代表：齋藤洋教授(法学部)、メンバー本学教員3名、客員研究員6名、本研究では経営学、社会学、法律学、経済学、観光学、国際学などを包含する本研究所が「環境」概念で各分野の連結を図りながらSDGsのテーマを複合的・総合的に研究し、「人々を幸せにする社会づくり」＝「総合社会科学に基づく社会環境(人間の生活環境)の持続的構築」に向けて、実現可能な解決案の提示を試みる為に全国の自治体に対し、「地域再生学(地域創生論)の学術的構築に関する調査アンケート」を行いました。1557自治体に調査を行い、380(約25%)の回答がありました。調査回答をもとに現代社会研究第22号」に論文を発表しました。 魚津プロジェクト代表：澁澤健太郎(経済学部)、メンバー本学教員3名 下記についてはHPに掲載済み(URL参照) ・第2回SDGsフォトコンテスト ・富山県魚津市とのSDGsプロジェクト ・ドローン100%授粉いちごジャム販売	https://drive.google.com/file/d/1_rzBNRBcr1AGy46nUXj3YhldZGiqIwRz/view?pli=1 https://drive.google.com/file/d/1_rzBNRBcr1AGy46nUXj3YhldZGiqIwRz/view?pli=1 https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/project/projectSDGs/20250103 https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/project/projectSDGs/202501082 https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/news/2024126	
44		IR チーム・澁澤健太郎教授（経済学部）	出演 パネリスト コメンテーター 司会 取材協力 編集長 インタビュアー 編集 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 調査担当 報告書執筆 寄稿 その他	調査		IR チーム・澁澤健太郎教授（経済学部）	—	—	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 行政機関	近年、日本では特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律(IR推進法)が国会を通過し、複数の地方自治体が、カジノ運営などについて手をあげている。過疎化や高齢化、財政的に厳しい多くの地方自治体は、IR推進による経済効果や地域創生の役割を期待している。本研究は立候補している自治体を訪問し、意見交換や現地視察を実施。 ・大阪市ＩＲ推進局 6月に学生7名と大阪市IR推進局を訪問。IR推進局との意見交換と建設予定地である夢洲の視察を実施。現社研で取り組んでいる地域活性化のプロジェクトなどにも大きな影響を与えるものであった。IR建設の工事が遅れてしまう可能性、免許更新の日程が迫ってくること、交通アクセス、環境問題(土壌など)など多岐にわたって議論することができた。学生の質問に対して担当部局は真摯に対応する姿が見られ、予定の時間をかなり超える熱のある意見交換となった。電子書籍として発行予定。 ・韓国ソウル市役所 9月に学生３名と共に依存症センター、ソウル市役所を訪問、ＩＲ施設視察。韓国ではオンラインカジノにおける普及が進み、当該依存症患者の増加が社会問題化している実態と規制の難しさを中心に説明を受けた。規制のみならず、依存症に苦しむ人々の予防・資料・リハビリ活動も急激な依存症患者増加問題に伴い難航しているそう。ＩＲ施設として代表的なパラダイスシティでは治安における課題とＩＲにおけるカジノの意義についての説明を受けた。そしてソウル市役所ではＩＲ開業と課題についての説明を受けた。詳細については現社研のＨＰでワーキングペーパーで公開予定。	—	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
45	研究推進課	ICT 教育研究プロ ジェクト	司会 編集長 インタビュアー 企画 運営参加・支援 報告書執筆	調査	現代社会総合研究所	ICT 教育研究プロ ジェクト	継続中	—	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 行政機関	代表:澁澤健太郎(経済学部)、メンバー:研究員4名、客員研究員3名、研究協力者1名。本研究ではICT教育推進の必要性とその効果を検証する研究を進めた。ICT/AIの活用について総合的に明らかにした。小中学校職員に「生成ＡＩに関するアンケート調査」を行い、ICT教育についての冊子を刊行した。 ・佐賀県武雄市役所 12月に武雄市役所を訪問。市役所にてこども教育部部長と課長よりICT教育の現状についての報告とそれについての意見交換を行った。一部においてICT教育への積極的導入には教員間での格差や学校格差も見受けられるこれらの課題は予算不足だけの問題ではなく、教員の異動による理解不足や教員間の情報の認識の隔たりが依然として残っているそう。また、ＡＩの積極的導入を図った武雄北中学校では英語能力の向上が見られた。各授業の振り返りを子どもたちがネットに記載、それを共有している点について詳細に説明がなされ、活発に意見交換を行った。	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/project/ICTproject	
46		公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム「卒業生に聞く!シリーズ1」	司会 編集長 インタビュアー 企画 運営参加・支援 報告書執筆	講演会		「卒業生に聞く」シリーズ①	5/18	東洋大学125記念ホールで開催。現代社会総合研究所のホームページに掲載。	大学生 大学院生 教育関係者 研究者	講演者 名古屋学院大学　経営学部教授　伊藤昭浩氏 地域に「コンテンツを通じて醸成された地域固有のイメージ」としての「物語性」「テーマ性」を付加し、その物語性を観光資源として活用するコンテンツツーリズム。現地へ出向く機運の醸成を地域振興プロジェクトとして立ち上げ(PROJECT758)、行政×大学、地域と関わりながらのイベント作りを実施した。声優の起用、SNS、ラジオ、広報誌での情報発信、新しい技術を生かしたコンテンツの展開に対し全国からいろんな世代の方が参加された。この講演にも多くの学生が参加し大盛況であった。	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/lecture2/20240518	
47		公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム	出演 パネリスト 司会 インタビュアー 企画 運営参加・支援	講演会		楽天グループにおけるDEI（Diversity, Equity & Inclusion）とSustainabilityへの取り組み	5/20	東洋大学スカイホールで開催。現代社会総合研究所のホームページに掲載。	大学生 大学院生 教育関係者 研究者	講演者 楽天グループ株式会社エンプロイー・エンゲージメント部マネージャー　半澤 幸太 氏 楽天グループ株式会社サステナビリティ部マネージャー　川那 賀一 氏 社員の多様化に対応した誰もが働きやすい環境づくりを実現するための様々な取り組みが紹介され、時代の変化に柔軟に対応されていると感じました。レスポンを通じて質疑応答も活発に行われました。	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/lecture2/20240520	
48		公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム起業家に聞く（シリーズ②）	出演 パネリスト 司会 インタビュアー 企画 運営参加・支援	講演会		起業家に聞く(シリーズ②)「ドローン×ビジネス」	6/22	東洋大学125記念ホールで開催。現代社会総合研究所のホームページに掲載。	大学生 大学院生 教育関係者 研究者	講演者 CUEグループ 株式会社セレクティ 取締役ドローン事業本部長　杉村 達弥 氏 司会 澁澤健太郎(経済学部教授/現代社会総合研究所研究員)	https://sites.google.com/toyo.jp/gensha/lecture2/20240622	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
49	研究推進課	SDGsとまちづくり／パートナーシップ	編集長 インタビュアー 編集 助言・指導 企画 運営参加・支援 調査担当 報告書執筆 寄稿	調査	現代社会総合研究所	SDGsとまちづくり／パートナーシップ インタビュー	継続中	—	高校生 大学生 教育関係者 社会人・一般 企業	SDGsとまちづくり／パートナーシップ途中報告(２)ＷＰをＨＰに掲載予定 代表：藤尾美佐、メンバー：中野剛治、蜂須　旭 インタビュー実施：京都市立開建高校<藤尾>「学生がやりたいことを夢中になって取り組める高校」を設置するという目的で新設された高校。藤尾の母校であり、教頭先生へのインタビューを実施した。(１)開建高校の理念･概要(２)カリキュラムと授業スタイル(３)学生の自主性を高める教育についての質疑応答。 インタビュー実施：高校生による今後のキャリア構築への探索<中野>大学１～２年生と高校１年生とのワークショップを実施。所見の雑誌記事から高校生の興味関心のある記事を選ばせその内容をSDGsの項目に基づくものに分類させ、ディスカッションを行わせた。大学生が積極的にファシリテーションを行うことによって次第に意見が出てきて将来的な進路選択の一助になるような場をは想像することができた。引き続き研究を行っていく。 新規就農者へ現地ヒアリング実施：栃木県上都賀地区(日光市、鹿沼区)<蜂須>学部学生６名を引率し２件の新規就農者の現地ヒアリングを行い、女性生産者が抱える課題を聞き、複数のプロジェクトをスタートさせた。(１)上都賀地区農業女子のパンフレット作成(２)いちご農家のパンフレット作成(３)上都賀農業女子リーフレット作成(４)上都賀地区農業女子による繁忙期共有表の作成⇒産官学連携の成果を上げたと考えらる。次年度も継続予定。	—	
50		公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム	出演 パネリスト コメンテーター 司会 企画 運営参加・支援	講演会	東洋学研究所	公開の研究発表会、公開講演会、シンポジウム	研究発表会 6/8 7/13 9/14 10/5 11/2 12/21 公開講演会 2024/11/23 2025/3/17	白山キャンパス６号館教室、1号館教室、オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	広く内外の研究者の意見を仰ぎ研究を深化させると同時に、研究成果の公開と社会への還元のため、研究所定例の研究発表例会、共同研究のプロジェクトにおける研究発表会やパネルディスカッション、講演会、シンポジウム等を公開。また、学外の研究者を講演者に招いて、研究所の目的にふさわしいテーマで公開講演会を開催し、東洋学の研究の公開に努める。	https://sites.google.com/toyo.jp/toyoga-ku/research	
51		SDGsと人文学の公開セミナー	出演 講師 情報提供	セミナー・ワークショップ	主催者：人間科学総合研究所所属：東洋学研究所(奨励研究員)	公開セミナー	1/25	白山キャンパスの125記念ホール、オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	幅広い分野の研究者が集い、21世紀の社会を見据えた総合的な学際研究を志向している。	https://sites.google.com/toyo.jp/ihs/news/ihs0125c	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
52	研究推進課	東洋大学アジア文化研究所 子島プロジェクト 国際シンポジウム「Muslim Philanthropy in Japan」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	アジア文化研究所・研究所プロジェクト「公共社会学・人類学的視点からの在日ムスリムの多文化共生研究」（代表・子島進）	国際シンポジウム「Muslim Philanthropy in Japan」	6/2	東洋大学白山キャンパススカイホール	大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	Welcome Speech by Nobuo Misawa (Toyo University) PART I General Introduction on Muslims in Japan (History and Background information) Hirofumi Okai (Kyoto Sangyo University) Disaster Relief of the 2024 Noto Peninsula Earthquake by Mosques in Hokuriku Region Hitomu Kotani (Tokyo Institute of Technology) Mosque Activities during the in Osaka and Ebina Pandemic Mari Tamura (Oshin Dream Co., Ltd.) International Islamic Schools as Muslim Philanthropy (in near future) Susumu Nejima (Toyo University) PART II Yamaoka Mitsutaro Becomes a Muslim: Time, Space, and Conversion in Imperial Japan Mikiya Koyagi (UT-Austin) Taisho University's Social Services (Buddhist philanthropy in Japan) Tomoaki Saito (Rinsho-ji Temple) Perception and Representation of "Islamic Culture" in Postwar and Post-9/11 Contemporary Japan Yoko Yamashita (Yokohama National University) Beyond Embeddedness: Limits of New Economic Sociology to Explain Muslim Altruism in Japan Naoto Higuchi & Mao Takahashi (Waseda University) Understanding Indonesian and Filipino Muslim Communities in Central Japan: A Comparative Perspective Anderson Villa (MSU-General Santos City) Between Piety and Popularity: Muslim Experiences in Shizuoka, Japan John Ostermiller (UN-Reno) Moving towards Multicultural Japan?: Muslims Students Religious Freedom in Japanese Public School SettingsS Shino Yokotsuka (UMass-Boston) Discussion and Concluding Remarks Shariq Siddiqui (Muslim Philanthropy Initiative, Indiana University)	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/news_cr/20240602	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
53	研究推進課	グローバル地中海映画上映会	出演 パネリスト コメンテーター 司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	主催 第2回、第3回、第5回 人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業グローバル地中海地域研究東洋大学アジア文化研究所拠点 第4回 スロヴェニア・日本友の会、ユーゴ映画上映委員会 共催 第2回「中東社会文化論」（東洋大学社会学部国際社会学科） 第3回「人類学A」（基盤科目） 第4回 人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業グローバル地中海地域研究東洋大学アジア文化研究所拠点 第5回 「ドイツ語圏社会文化B」（東洋大学社会学部）および東洋大学人間科学総合研究所研究プロジェクト「初習外国語の選択状況と入口戦略：ドイツ語の事例」	第2回：トルコ映画『いとしのハニーちゃん』 第3回：映像民族誌『ジプシー巡礼祭』 第4回：スロヴェニア映画『ヴェスナ』 第5回：ドイツ映画『はじめてのおもてなし』	第2回：6/24 第3回：7/18 第4回：11/12 第5回：12/5、12/12	第2回：東洋大学白山キャンパス6号館6216教室 第3回：東洋大学白山キャンパス1号館1203教室 第4回：東洋大学白山キャンパス2号館3階第一会議室 第5回：東洋大学白山キャンパス6号館6316教室	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体	第2回：『いとしのハニーちゃん』 1992年　95分　トルコ語〈日本語字幕〉 あらすじ：西ドイツに渡り自動車整備工場で働いていたトルコ人青年は、ドイツ再統一を機に、貯金をはたいてメルセデス車を購入。故郷に錦を飾ろうと、愛車でトルコへの帰国を目指すが、帰郷の旅路で様々なトラブルに巻き込まれていく。コメディ・タッチで社会問題を描写する。 解説：三沢伸生 第3回：拠点構成員の左地亮子東洋大学准教授が昨年度の現地調査を基に製作した下記の映像作品の上映会を行いました。 『ジプシー巡礼祭：More than One, Less than Many』 撮影・編集：左地亮子 2024年　50分　フランス語〈日本語字幕〉 あらすじ：南仏カマルグ地方の町サント＝マリー＝ドゥ＝ラ＝メールで毎年５月に開催されるカトリック巡礼「ジプシー巡礼祭」には、フランス内外から多くのジプシーが参集する。2023年、巡礼祭のハイライトとなる聖サラの行列にあわせて、非ジプシーも含めた約4万人もの人々がこの小さな町に集まった。 解説：左地亮子 第4回：『ヴェスナ（Vesna）』フランティシェク・チャープ監督　1953年　96分　スロヴェニア語＜日本語字幕＞ あらすじ：社会主義期スロヴェニアを代表する恋愛コメディ映画。サモたち悪友3人組は、高校の数学試験の答案を手に入れるため、数学教師の娘と恋仲になるという陰謀を企てる。娘の本当の名前を知らない彼らは、春の女神にちなんで彼女をヴェスナと呼んでいた。数学教師の娘で魅力的なヤニャがサモとのデートに現れた時、二人は恋に落ちてしまう。 司会：イェリサヴァ・ドボウシェク＝セスナ（スロヴェニア・日本友の会） 解説：アンドレイ・ベケシュ（リュブリャナ大学） 第5回：『はじめてのおもてなし（Willkommen bei den Hartmanns）』サイモン・バーホーベン監督　2016年　116分　ドイツ語＜日本語字幕＞ あらすじ：ミュンヘンの閑静な住宅街に暮らすハルトマン一家は、難民のディアロを受け入れる。文化の違いや習慣の違いによるハプニングの連続。彼を「おもてなし」するつもりだった、裕福だけれど壊れかけた一家は、彼との出会いをきっかけに、人生を見つめ直し、生きる喜びを取り戻していく。2016年度ドイツ映画興行収入No.1作品。 ※上映にあたり、作品上映当時のドイツの状況やドイツの移民難民受け入れの歴史について解説します。 12月19日（木）には、本作日本語字幕を担当した吉川美奈子さんに、この作品をはじめとするドイツ映画を手がかりに、映画から読み取ることができるドイツ社会の様相と、社会状況とともに変化する作品解釈についてお話いただきます。	https://sites.google.com/toyo.jp/globalmediterranean/activities/240624filmscreening https://sites.google.com/oyo.jp/globalmediterranean/activities/240718filmscreening https://sites.google.com/toyo.jp/globalmediterranean/activities/241112filmscreening https://sites.google.com/toyo.jp/globalmediterranean/activities/241205filmscreening	4 5 10 11 16 17

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
54	研究推進課	第1回 アジア文化研究所研究例会 米中対立下における中国企業の最新動向「一帯一路」構想及びAIIBとの関連を中心に	出演 パネリスト 司会 講師 助言・指導 企画 運営参加・支援	講演会	アジア文化研究所・研究所プロジェクト「アジアインフラ投資銀行(AIIB)による投資とアジア諸国における政治・経済企業法制の変容」（代表・後藤武秀） アジア文化研究所内「構造転換期の中国経済と社会」研究班b（代表・郝仁平）	研究例会　米中対立下における中国企業の最新動向「一帯一路」構想及びAIIBとの関連を中心に	7/29	東洋大学白山キャンパススカイホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体	報告 報告者：杜進 （拓殖大学名誉教授・アジア文化研究所客員研究員） 「中国企業のイノベーション活動： 現地調査から得た知見」 コメンテーター：羅歓鎮 （東京経済大学教授・アジア文化研究所客員研究員） 報告2 報告者：薛軍 （南開大学経済学部教授・アジア文化研究所客員研究員） 「民営企業の対外投資の動向：一帯一路構想との関連を中心に」 コメンテーター：楊起中 （経済学部准教授・アジア文化研究所研究員）	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/news_cr/20240729	
55		東洋大学アジア文化研究所井上助成　子島プロジェクト「Broadening Our Horizons ”The 4th Workshop on International Islamic schools in Japan」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	井上助成子島プロジェクト　アジア文化研究所・研究所プロジェクト「公共社会学・人類学的視点からの在日ムスリムの多文化共生研究」（代表・子島進）	「Broadening Our Horizons ”The 4th Workshop on International Islamic schools in Japan」	9/15	東洋大学白山キャンパス10号館1階　A102	大学生 大学院生 教育関係者 研究者	Morning Presentations Introduction of Islamic Schools International Islamia School Otsuka by Hussam Zaineh (Principal, 11S0) Sapporo International School by Mohamed Shehata (Principal, SIS) YUAI International Islamic School by Yousry Elhamzawi(Vice Principal, YUAI) Fukuoka International Islamic School by Mohamed Hassan (General Manager, FIIS) Tokyo Iqra International School by Mohammad Zakir Rossen (Head of School Administration, IQRA) British International School by Hafiz Salman Thanvi (Principal, BIS) Acculturation and Ethnic Identity of Second-Generation Immigrants in Japan by Nukaga Misako (Professor, Tokyo University) Afternoon Presentations Experiences of Indian International Schools by Yogendra Puranik (Principal, Tsuchiura First High School) Discussion (with Tea Break) Concluding Remarks by Nejima Susumu	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/news_cr/20240915	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
56	研究推進課	アジア文化研究所　公開シンポジウム「多文化アジアにおける異文化接触：日中異文化接触と教育の課題」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	アジア文化研究所	公開シンポジウム「多文化アジアにおける異文化接触：日中異文化接触と教育の課題」	10/12	東洋大学白山キャンパス第一会議室、オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体	企画趣旨 東アジアにおける異文化接触の歴史を振り返りつつ、異文化接触が個人および社会に及ぼす意味と可能性をさぐる。また本研究所と華中科技大学との交流の歴史は20年以上におよんでおり、そのことの意義と今後の展望についても考える。 野間信幸(文学部名誉教授、アジア文化研究所客員研究員) 「井上円了の台湾異文化体験」 井上貴也(法学部教授、アジア文化研究所研究員) 「日中企業の異文化接触について」 王閏梅(華中科技大学日本語科副教授、アジア文化研究所客員研究員) 「中国における大学日本語教育の危機と展望」 野間信幸(文学部名誉教授、アジア文化研究所客員研究員) 「華中科技大学との交流に関する資料提供(初稿)」 子島進(国際学部教授、アジア文化研究所研究員) 「日本文化の紹介方法について考える ーオンライン講義による華中科技大学生との交流から一」 コメンテーター：王浄華・王競超・黄均鉤・拘子刊・陳玲(いずれも華中科技大学からのオンライン参加)	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/news_cr/20241012	
57		グローバル地中海 特別ワークショップ「表出するマージナリティ：映像に見るヨーロッパと中央アジアの非日常のパフォーマンス」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業グローバル地中海地域研究東洋大学アジア文化研究所拠点	「表出するマージナリティ：映像に見るヨーロッパと中央アジアの非日常のパフォーマンス」	11/9	東洋大学白山キャンパス125記念ホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	グローバル地中海地域研究東洋大学アジア文化研究所拠点は、映像人類学の特別ワークショップ「表出するマージナリティ――映像に見るヨーロッパと中央アジアの非日常のパフォーマンス」を開催いたしました。本ワークショップでは、当拠点のメンバーである久野聖子(同志社大学)と左地亮子(東洋大学)が、それぞれ昨年度の調査において撮影した映像をもとにした映像民族誌を上映しました。それに対し、竹中宏子(早稲田大学)がヨーロッパ研究の観点から、和崎聖日(中部大学)が映像人類学の観点からコメントを行い、また、東京ドキュメンタリー映画祭2022、Ethnografilm Paris 2023などに入選した和崎や木村暁(東京外国語大学)らの共同制作による民族誌映画を特別上映しました。 今回上映する３作品のうち、ふたつはスペインおよびフランスのジプシー・コミュニティーの祝祭を、ひとつはウズベキスタンの女性霊媒による治療儀礼を扱うものです。可視と不可視の位相を転覆し撹乱する非日常のパフォーマンスを介して、歴史的に社会の周縁に置かれてきた存在が現出すること、その様子を映像という手法によって表象することの意味が問われました。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/news_cr/20241109?authuser=0 https://sites.google.com/toyo.jp/global mediterranean/activities/241109 theexpressivemarginality?authuser=0	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
58	研究推進課	東洋大学アジア文化研究所・復旦大学発展研究院共催 国際シンポジウム「日中における経済発展と金融政策」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 企画	講演会	東洋大学アジア文化研究所・復旦大学発展研究院 共催	国際シンポジウム「日中における経済発展と金融政策」	11/15	東洋大学白山キャンパス井上円了ホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	本シンポジウムは、日本と中国の経済政策及び金融政策を基本課題とするものであります。 ポスター本企画の立案は、復旦大学発展研究院金融研究センター所長の孫立堅教授はじめ、楊秋怡所長補佐らのご尽力によるものであり、深く感謝申し上げます。同時に、本企画は、東洋大学アジア文化研究所で10数年来継続してきました、中国の一帯一路政策並びに途上国のインフラ建設のために設立されたアジアインフラ投資銀行（略称AIIB）に関する共同研究の趣旨に沿うものであることから、ここに、共同開催という形で広く研究成果を世に問うこととなりました。今日、日中間には様々な問題があろうかと思います。しかし、それを乗り越えながら、多数の日本企業が中国で経済活動を展開しております。本日の発表の成果は、こうした企業、さらには今後、中国との間で経済活動を展開しようとしている企業にとっても有益な視点を提供するものと確信しております。	https://sites.google.com/toyo.jp/acri/news_cr/20241115	
59		2024年度アジア文化研究所特別措置予算（一般研究費）・グローバル地中海　共催 国際シンポジウム「The Echoes of the Narrow Victory over the Russo-Japanese War」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 企画	講演会	東洋大学アジア文化研究所2024年度特別措置予算（一般研究費）：日露戦争開戦120周年記念「20世紀アジア激動の発端」人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業グローバル地中海地域研究東洋大学アジア文化研究所拠点	International Symposium "The Echoes of the Narrow Victory over the Russo-Japanese War"	12/7	東洋大学白山キャンパススカイホール	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体	東洋大学アジア文化研究所と人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業グローバル地中海地域研究東洋大学アジア文化研究所拠点は、国際シンポジウム「日露戦争“辛勝”の残響」共同開催いたしました。 2024年は日露戦争開戦の年から120年にあたります。ロシア革命の勃発とアメリカの仲介により、日本は辛くも勝利を手にしましたが、このことは、列強の支配下におかれた世界中の人々に独立への希望を与えることにもなりました。日本の辛勝を受け、各地で多くの著作が編まれると同時に、出身地の内外で独立運動を活発化させる人々が現れました。 本シンポジウムでは、日露戦争の辛勝の残響として、イスラーム圏の三つの地域の史料に見られるこのような反応に光が当てられました。世界情勢がますます混迷を極める現在の視点から、日本の勝利という歴史的事件がその後のグローバルヒストリーにあたえた影響を振り返りました。	https://sites.google.com/toyo.jp/global mediterranean/activities/231207echoesofvictory	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
60	研究推進課	アジア文化研究所、白山人類学研究　共催フォーラム「みえない移民労働者――日本・台湾に生きるインドネシア人と共生の諸相」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 企画	セミナー・ワークショップ	アジア文化研究所井上研究助成（長津プロジェクト）・グローバル地域研究プロジェクト「海域アジア・オセアニア」・白山人類学会共催、科研費基盤研究(C)「『みえる』移民、『みえない』移民―漁船、水産加工、魚食とインドネシア人」（代表：間瀬朋子）、科研費基盤研究(B)「津波常襲地における海辺居住のレジリエンス」（代表同）協力	アジア文化研究所、白山人類学研究第16回フォーラム「みえない移民労働者――日本・台湾に生きるインドネシア人と共生の諸相」	12/21	東洋大学白山キャンパス2号館16階スカイホール、オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体	趣旨 日本と台湾は、1990年代以来、労働力不足や少子高齢化を背景に、海外から多数の移民労働者を受け入れてきた。2023年、移民労働者の人口は、台湾では総就労人口の6.1パーセントを、日本では同3.4パーセントを占めるまでになっている。本フォーラムでは、これら移民労働者のうちインドネシア人に焦点をおき、かれらと地域社会との関係を、日常生活における共生(ないし非共生）という視点から探り、また比較検討する。 　インドネシア人移民労働者は、日本では約12万人、台湾では約27万人を数える（2023）年。多くは、製造業、建設業、農業漁業等の非熟練労働部門で働いている。両国に共通する特徴としては、かれらが漁業部門の移民労働者の圧倒的多数を占めていることがあげられる。これらインドネシア人移民労働者は、職場を離れて地域社会の人びとと直接、交流することはほとんどない。とりわけ漁業のように船上を職場、宿舎とするインドネシア人は、ほとんど地域社会との接点がないといってもよい。 　こうした「みえない存在」になっているインドネシア人移民労働者は、就労地でいかに自らの生活世界をつくっているのか、そこでホスト社会とどのように結びついているのか、またホスト社会はかれらにどう働きかけ、包摂しようとしているのか―本フォーラムでは、日台両国におけるインドネシア人移民労働者と地域社会との日常生活レベルでの関わりの諸相を、フィールドでの具体的事例によりながら提示し、そこにみられる共生(ないし非共生）の地域性および共通性を検討していく。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241217-16648.html	
61		シンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	地域活性化研究所	シンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」	2/21	東洋大学朝霞キャンパス	大学生 大学院生	東洋大学地域活性化研究所では、2020年以来5年ぶりに対面での研究成果報告会としてシンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」を開催しました。 研究所の取組実績並びに客員研究員の研究活動報告2件、そして、研究計画「テーマ：地域農業へのIoT推進による地域活性化～東武東上線沿線を対象として～」（ドローンの自律飛行による鳥害対策の検討）の研究成果報告とともに、地域の事業者3名をゲストとしてお招きして、各事業者の理念や取組、地域との関わりなどについて講演を行っていただき、最後に、招待講演者3名に2名を加えて、会場の質問も交えてパネルディスカッションを実施しました。 シンポジウム終了後、昨年4月に板倉キャンパスから移転した生命科学部と食環境科学部の拠点となっている朝霞キャンパスの見学会、さらに終了後に参加者の交流会を実施しました。	https://sites.google.com/toyo.jp/irvs/news/20250221report	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対　象	概　要	URL	SDGs
61	研究推進課	シンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	地域活性化研究所	シンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」	2/21	東洋大学朝霞キャンパス	大学生 大学院生	告知期間がとても短かったにも関わらず、参加者は50名ほどとなり、地域活性化研究所として初めて朝霞キャンパスで開催された行事としてたいへん有意義なものになりました。 開会挨拶(川口英夫　地域活性化研究所長) 研究所の活動／客員研究員の研究活動報告 キッズサイエンススクールの活動(実績)(高品知典　研究員) 市民大学における生涯学習コーディネーター養成の一つの試み(ふなばし市民大学校を事例として)(齋藤伊久太郎客員研究員) 令和6年能登半島地震復興期における中等教育に関する考察(次世代教育を担う高等学校の役割)(高橋一男　客員研究員) シンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」 2024年度研究成果報告 「テーマ：地域農業へのIoT推進による地域活性化～東武東上線沿線を対象として～」 ドローンの自律飛行による鳥害対策の検討 研究代表者：小瀬博之(研究員／総合情報学部) 共同研究者：後藤隆彰(研究員／総合情報学部) 招待講演 朝霧重治氏(株式会社協同商事／コエドブルワリー 代表取締役社長) 鬼塚崇生氏(三共木工株式会社　営業企画部長) 橋本太樹氏(株式会社リゾン　代表取締役社長) パネルディスカッション 「命と食が輝くスマートキャンパス：朝霞キャンパス」「Smart Green Campusを目指す川越キャンパス」と東武東上線沿線の地域との連携 進行：小瀬博之 パネリスト：朝霧重治氏、鬼塚崇生氏、橋本太樹氏、寺﨑英幸(客員研究員・共同研究者／NPO法人カワゴエ・マス・メディア代表理事)、川口英夫(地域活性化研究所長／生命科学部) 見学会(新築の2号館・3号館を中心に見学) 交流会(2号館8階)	https://sites.google.com/toyo.jp/irvs/news/20250221report	4 8 17
62		技術相談	助言・指導	その他	工業技術研究所	技術相談	4/1-3/31	工業技術研究所	学術団体 企業 行政機関	企業からの技術相談に対して、研究所として対応可能な研究者の選定と日程調整を行い、相談に応じている(無料、今年度は主に Web 会議ツールを利用し Web 技術相談として実施)。	https://www.toyo.ac.jp/research/labo_center/riit/	9
63		「東洋大学重点研究推進プログラム『安心な水を未来へ』」	パネリスト コメンテーター 講師	講演会	主催：東洋大学水環境改善技術研究会共催：工業技術研究所	第5回水のシンポジウム「東洋大学重点研究推進プログラム『安心な水を未来へ』」	11/16	東洋大学川越キャンパス7号館721教室・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	「新しい排水処理技術の評価と社会実装に向けて」をテーマとして、2022年度より東洋大学重点研究推進プログラムとして進めてきた研究プロジェクトの成果を発表。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241015-15810.html	6 14

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
64	研究推進課	工業技術研究所　講演会	パネリスト コメンテーター 講師	講演会	主催：工業技術研究所 共催：飯能信用金庫 後援：東洋大学人間科学総合研究所、東洋大学井上円了哲学センター、川越市、鶴ヶ島市、川越商工会議所、鶴ヶ島市商工会、一般社団法人DMO川越	工業技術研究所　講演会『空き家問題への処方箋　～解決策を現状・各種制度・改善実例から考える～』	2/21	東洋大学川越キャンパス4号館4階第1会議室	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	『空き家問題への処方箋　～解決策を現状・各種制度・改善実例から考える～』と題した講演会を実施。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250129-16883.html	9
65		工業技術研究所　シンポジウム・研究発表会	パネリスト コメンテーター 講師	講演会	工業技術研究所	工業技術研究所　研究発表会	2025/2/21～3/7	オンライン	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	企業等との産学連携活動の推進を目的とする研究発表会をオンラインにて開催。 本研究発表会は、工業技術研究所の研究員、および学生による研究成果を広く一般に公開するものです。 今年度は、「研究発表会」特設サイトにて38件の研究成果のポスターを掲載。	https://sites.google.com/toyo.jp/riit/news/2025-02-04?authuser=0	9
66		デジタルエンジニアリングアカデミー	コメンテーター 講師 助言・指導	セミナー・ワークショップ	工業技術研究所 武蔵野銀行	デジタルエンジニアリングアカデミー	5/15～11/20	東洋大学川越キャンパス・武蔵野銀行・企業	企業	工業技術研究所と武蔵野銀行の共催による、新技術の自社導入を目指す企業を対象とした連続講座。 2024年度は、「工場のＩｏＴ化からＤＸ化に向けて」のテーマで、企業を対象とする講演や工場見学、実習を定期的に実施。	-	9
67		第3回国際発酵・醸造食品産業展で峯岸先生が「越生梅林エスティの開発秘話」について講演	講師	講演会	主催：TSO International株式会社 特別協力：日本発酵文化協会/全国醸造機器工業組合/日本醸造用品組合	第3回国際発酵・醸造食品産業展	7/30～8/1	東京ビッグサイト	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 その他	第1日目の7月30日、13：00-13：30の予定で峯岸先生が「キャンパス内に自生する花から分離した酵母で日本酒造り～越生梅林エスティの開発～」というタイトルで講演されました。 3日間の会期中、多くの企業関係者が東洋大学のブースを訪れて、活発な意見交換を行うことができました。BRRPでは、このような展示会に積極的に出展することで多くの企業との新しい共同研究を進めています。	https://toyo bioresilience.jp/blog/2024-07-302.html https://hakko expo.jp/report/	4 9

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
68	研究推進課	ライフイノベーション研究所2024年シンポジウム「女性の健康維持・増進」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	ライフイノベーション研究所	ライフイノベーション研究所2024年シンポジウム「女性の健康維持・増進」	12/2～1/31	オンライン	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 市民団体	我が国は世界に類をみない速度で、超高齢社会に突入しています。また、平均寿命は男女ともに年々延伸し、令和元年度には男性81.41歳、女性87.45歳に達しました。その一方で、「日常生活に制限のない期間の平均」と定義される健康寿命は、令和元年度では男性72.68歳、女性75.38歳にとどまっており、平均寿命と健康寿命の差は男性8.73年、女性12.07年となっています。このまま有効な対策を講じなければ、この差が拡大していくことになり、今後は介護給付金等の社会保障費がますます膨らむことが予想されます。今後の日本社会では生活習慣病などの慢性疾患予防と健康増進、介護予防などにより平均寿命と健康寿命の差を短縮することが重要であり、このことが生活の質の低下を防ぐとともに社会保障負担の軽減につながります。本研究所では総合大学の強みを生かし、健康寿命延伸のために必要な健康増進や高齢期におけるケアプランの強化を中心に調査・研究を進め、研究成果を発信していきます。 ライフイノベーション研究所長 宮越　雄一 （東洋大学 健康スポーツ科学部 栄養科学科 教授） 講演内容 「環境保健と性差の観点から女性の健康研究を」 吉田　吏江 （翠会ヘルスケアグループ精神医学研究所　研究員） 「夢紡ぐ子育て支援、妊娠期から切れ目ない支援」 ～わこう産前・産後ケアセンターの取り組みについて～ 伊東　優子 （一般社団法人わこう産前・産後ケアセンター　代表理事(助産師・公認心理師）	https://www.toyo.ac.jp/news/20241202-16429.html	
69		バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催コロキウム	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催コロキウム 第1回～第6回	第1回：5/30 第2回：6/20 第3回：7/25 第4回：10/24 第5回：11/28 第6回：12/19	東洋大学 バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター β棟4階・オンライン	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター（BNC）では、学内の研究活動の活性化や異分野間の交流を促進し、共同研究や共通機器の利用を推進することを目的として、外部の研究者やセンター研究員による定期的なコロキウムを開催しております。2024年度は6回実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/events/report_2024-5-30?authuser=0 https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/events/report_2024-6-20?authuser=0 https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/events/report_2024-7-25?authuser=0 https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/events/report_2024-10-24?authuser=0 https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/events/report_2024-11-28?authuser=0 https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/events/report_2024-12-19?authuser=0	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
70	研究推進課	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催 サイエンスカフェ	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	サイエンスカフェ	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催 サイエンスカフェ 第1回～第2回	第1回：11/28 第2回：1/23	東洋大学 バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターβ棟 1F	大学生 大学院生 社会人・一般	バイオナノエレクトロニクス研究センター（BNC）では、研究の魅力や研究者の道について気軽に語り合うサイエンスカフェを開催します。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/events/report_2024-11-28_2?authuser=0	4 9
71		「第21回バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターシンポジウム－ マテリアルAIシンポジウム －」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 企画 運営参加・支援 実演	講演会		「第21回バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターシンポジウム－ マテリアルAIシンポジウム －」	3/1	東洋大学川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターβ棟・オンライン	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業	2024年度のノーベル賞では、人工知能（AI）関連の研究が２件も受賞したことは記憶に新しい。人工知能の発展の歴史は、ビックデータの活用やアルゴリズムの改良などソフトウェア技術の進化により長らく牽引されてきました。しかしながら、人工知能を活用したネットワークシステムを世界中で広く利用されるようになるにつれ、莫大なエネルギー消費が大きな問題となっています。この課題を解決するため、ネットワークへのアクセスを必要としない『エッジAI』の開発に向けて、専用のハードウェアの開発が世界中で急速に進んでいます。本シンポジウムでは、AIに最適化されたハードウェアとしての『物理リザバーコンピューティング』に焦点を当て、世界をリードする研究者らによる講演会を行います。シンポジウムの後半では、物理リザバーに限らず、その他のマテリアルに関する異分野研究のポスターセッションや学生チャプターを開催し、幅広い視点から当該分野の議論を深めます。	https://sites.google.com/toyo.jp/bnel/news/2025-3-1	4 6 9
72		APPPI Open Seminar on the PPP Environment in Kyrgyz Republic	出演 パネリスト コメンテーター 司会 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	アジアPPP研究所	APPPI Open Seminar on the PPP Environment in Kyrgyz Republic	5/20	東洋大学	研究者 学術団体 企業 市民団体 行政機関	APPPI had the honor of hosting a delegation from the Public-Private Partnership Center of the Kyrgyz Republic during our Open Seminar. Participants gained valuable insights into the country's PPP landscape, with discussions covering both institutional and legislative frameworks, as well as upcoming projects. The seminar also allowed the APPPI team to share impressions from an earlier project, where we reviewed and evaluated the PPP environment in the Kyrgyz Republic.	https://www.apppi.net/news/20240521-06701.htmlhttps://ppp.gov.kg/en/	4 9 11 17
73		Joint Seminar with the Asian Development Bank on the Role of the PPPs in Promoting Gender Equality	出演 パネリスト コメンテーター 司会 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	共催：アジアPPP研究所・Asian Development Bank	Joint Seminar with the Asian Development Bank on the Role of the PPPs in Promoting Gender Equality	7/6	東洋大学	研究者 学術団体 企業	The Asia Public Private Partnership Institute hosted two experts from the Asian Development Bank for an open seminar on July 6th, 2024, during which the role of PPPs in promoting gender equality was discussed. Radhika Behuria, who has decades of experience working on gender equality, was the speaker. She was supported by Ichiro Aoki, who has been a PPP specialist at the Asian Development Bank for more than a decade.	https://www.apppi.net/news/20240708-06513.html https://www.adb.org/publications/tool-kit-gender-equality-ppps	4 5 17

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
74	研究推進課	APPPI Hosted Taiwan Based Asia Pacific Public Private Partnership Association	出演 パネリスト コメンテーター 司会 情報提供 企画 運営参加・支援	その他	アジアPPP研究所	APPPI Hosted Taiwan Based Asia Pacific Public Private Partnership Association アジアPPP 研究所	8/28	東洋大学	研究者 学術団体	APPPI hosted a committee from the Asia Pacific Public Private Partnership Association based in Taiwan at Toyo University Hakusan Campus. During the meeting, several presentations were made, and participants had the opportunity to learn about the differences between the PPP practices in Japan and Taiwan.	https://www.apppi.net/news/20240906-06502.html	
75		APPPI Open Seminar on Business Improvement Districts	出演 パネリスト コメンテーター 司会 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	アジアPPP研究所	APPPI Open Seminar on Business Improvement Districts	10/17	オンライン	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 その他	Subject: Business Improvement Districts: The Case of Times Square in New York City Lecturer: Dr. Tim Tompkins – Adjunct Professor of Urban Planning at New York University and NYU Marron Institute Fellow	https://www.apppi.net/news/20241004-06805.html https://www.timessquarenyc.org/times-square-alliance/about-the-alliance	
76		APPPI Open Seminar – PPP Environment in Egypt	出演 パネリスト コメンテーター 司会 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	アジアPPP研究所	APPPI Open Seminar – PPP Environment in Egypt	12/16	東洋大学	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体 市民団体 行政機関 その他	APPPI hosted Ms. Fumiyo Takai, a graduate of Toyo PPP School, former senior staff at the APPPI, and now a consultant at the Japanese Embassy in Cairo, Egypt, to give a presentation about the PPP environment in Egypt. Her presentation covered the sectors where the PPP model is used, the projects in the pipeline, and lessons learned.	https://www.apppi.net/news/20241218-07323.html	
77		APPPI Open seminar　ウォーターPPPの概観と各地の取り組み	出演 パネリスト コメンテーター 司会 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	アジアPPP研究所	APPPI Open seminar　ウォーターPPPの概観と各地の取り組み	2/25	東洋大学	大学院生 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関 その他	APPPI hosted Prof. Hiroyuki Kato of University of Tokyo to give a brief overview of current Japanese government's efforts on "Water PPPs". He gave information on general overview of sewage system and its challenges, why water PPP was introduced, current conditions of industries, and several case studies of concession and other PPP practices.	–	
78		ソウル国立大学アジアセンターとのレクチャーシリーズ	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	共催： 東洋大学グローバル・イノベーション学研究センター、韓国ソウル国立大学アジアセンター	ソウル国立大学アジアセンターとのレクチャーシリーズ	第2回：2024/6/25 第3回：2024/7/23 第4回：2024/9/24 第5回：2024/10/22 第6回：2024/12/3	オンライン	大学生 大学院生 教育関係者	東洋大学グローバル・イノベーション学研究センター（Toyo GIC）は、今年度もソウル国立大学アジアセンター（SNUAC）と共催で、レクチャーシリーズを第２回から第６回まで展開した。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240617-14643.html https://www.toyo.ac.jp/news/20240716-14957.html https://www.toyo.ac.jp/news/20240911-15360.html https://www.toyo.ac.jp/news/20241009-15728.html https://www.toyo.ac.jp/news/20241122-16345.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
79	研究推進課	グローバル・イノベーション・ランキングの作成、公表	編集 情報提供 企画 調査担当 報告書執筆 寄稿	セミナー・ワークショップ	グローバル・イノベーション学研究センター	グローバル・イノベーション・ランキング2023を公表	—	グローバル・イノベーション学研究センターWeb	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	グローバル・イノベーション学研究センターは2019年より、イノベーションを生み出す力を世界的なスケールで概観するために「東洋大学グローバル・イノベーション・ランキング（GIR）」を作成し、公表してきました。今年度は世界の217の国と地域からデータを収集し、そのうちの主要な70ヵ国について、イノベーションの進展度で国別にランキング化した「グローバル・イノベーション・ランキング 2023」を作成し、公式Webサイトにて公表しております。このランキングによって、イノベーション関連のみならずそれぞれの社会が持つ課題の解明と解決策の展開、企業の経営方針の策定に貢献することを当センターは期待しております。そして、今後も研究を進めることによって、さらに精度の高いランキングになることを目指しています。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240924-15476.html https://www.toyo.ac.jp/research/labo_center/gic/#a	
80		ストラスブール大学Herrade IGERSHEIM教授の講演会	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	グローバル・イノベーション学研究センター	ストラスブール大学Herrade IGERSHEIM教授の講演会	10/18	東洋大学白山キャンパス1B12・オンライン	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般	ストラスブール大学からの招聘教授であるHerrade IGERSHEIM先生の講演会。経済学とロールズの正義論の対話をテーマとする。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241016-15845.html	
81		科研費シンポジウム「大学のグローバル化とDX化の教育空間へのインパクト」を開催	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師	講演会	グローバル・イノベーション学研究センター	科研費シンポジウム「大学のグローバル化とDX化の教育空間へのインパクト」	3/29	東洋大学白山キャンパス8号館M2会議室・オンライン	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般	大学は教育のグローバル化、DX化、さらにコロナ禍でのリアルな学習の「場」の喪失を経験したことにより、教育空間が大きく拡張しています。本シンポジウムではこのような状況に対応する教育法に焦点をあて、教育法の変容がどのように教育空間へインパクトを与えているのかについて考察を深めることを目的とします。本シンポジウムでは基調講演として立命館大学の木村修平氏をお招きし、授業における新たな取り組み（DX化）が教育空間にどのような影響を与え、どのような課題をみ出しているのかについて、情報共有をしていただきます。また、特別講演として東北大学の鈴木翔太氏より、大学職員の立場から大学のDX化の事例を報告していただきます。その後、学生・教職員はじめ、さまざまなステークホルダーとの対話の空間である学習空間、生活空間、学外空間のそれぞれの教育手法の変容についての事例報告を行います。本シンポジウムを通して、参加者が各自の大学において新たな教育手法にどう対応するかを考えるための端緒を提供すると共に、参加メンバー間のネットワークも構築できればと考えています。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250129-16872.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
82	研究推進課	重点研究推進プログラム「未来を拓くバイオミメティクス」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	講演会	生体医工学研究センター	重点研究推進プログラム「未来を拓くバイオミメティクス」 キックオフシンポジウム ～バイオミメティクスと次世代に向けた教育～	11/8	東洋大学白山キャンパス125記念ホール・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 企業 メディア	対面・オンラインのハイブリッド形式で実施され、東洋大学教職員・学生、一般から100名ほどの方にご参加いただきました。本研究プログラムは2024年4月より第2期目がスタート致しました。「バイオミメティクス」は、生物が進化の過程で獲得した分子・構造・機能・生産・物質循環・情報処理をお手本として、それらを科学、工学、医学などに生かす概念です。第1期目の成果を継承する形で、第2期目も、5つのテーマを軸に本学における「未来を哲学する東洋大学」「命と食が輝くスマートキャンパス」のコンセプトを支える主力ブランドの一つとしてのバイオミメティクスという立場を確立することを目的としています。矢口東洋大学学長のあいさつから始まり、基調講演として文部科学省初等教育課程課 専門官 高市和則先生、大阪大学大学院特任教授・東京大学 名誉教授 石原一彦先生にご講演をお願いしました。高市先生は「理科教育の現状について」、石原先生には「バイオミメティック材料科学による高機能医療機器の実現 ―患者のQOLの向上を支える―」と題して、お話いただきました。研究紹介では、建築学科准教授 高岩裕也先生、生体医工学科教授 木村剛先生、食環境科学科教授 後藤顕一先生が発表され、聴講者アンケートでは「興味深い、もっと詳しく聞きたかった」などのお声が多数ありました。最後のパネルディスカッションでは食環境科学科教授の宮西先生をモデレーターとして、次世代の教育について、バイオミメティクスの関わりなど、大変活発な意見交換がなされました。	https://www.toyo.ac.jp/contents/research/tprp/project-18.html https://www.toyo.ac.jp/news/20241011-15769.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
83	研究推進課	バイオミメティクス研究会「東洋大学学園祭バイオミメティクス体験型展示イベント」	情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	バイオミメティクス研究会、生体医工学研究センター	東洋大学大学祭「第１回霞祭（朝霞キャンパス）第15回こもれび祭（川越キャンパス）」	11/2・3	東洋大学朝霞キャンパス・川越キャンパス	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 教育関係者 保護者 社会人・一般 メディア	朝霞キャンパス：1日目：158人 2日目：484人 川越キャンパス：1日目：162人 2日目：238人 ※ 初日は雨天により，両キャンパスとも客足が少ない． ※ 昨年，川越では1日当たり300人ほどが来場． 1．オナモミを使った「お魚釣り」体験 オナモミの果実には、小さなフック状の突起が多数存在しており、これが動物や衣類に付着するメカニズムとなっている。本展示では、この「くっつく」性質を利用し、子どもたちがオナモミで魚型のパーツを釣り上げるゲーム形式の体験を実施した。 遊びを通じて、植物の種子散布における生物模倣技術(例：面ファスナーの開発）への応用について理解を促した。 2．ハニカム構造の強度体験コーナー 蜂の巣に見られる六角形のハニカム構造は、材料を最小限に抑えながら高い強度を実現できる構造として、建築・航空宇宙分野などで広く応用されている。本コーナーでは、実際に荷重をかける実験を通して、他の形状と比較した際の強度差を体感できるように設計した。 3．ハスの葉の撥水性を利用したヨーグルトふた体験 ハスの葉表面には微細な凸凹構造が存在し、水を球状に弾く「ロータス効果」が観察される。本展示では、ヨーグルト製品のふたなど、撥水性が求められる製品にこの性質がどのように応用されているかを紹介し、実際に水滴を垂らして観察する体験を提供した。 4．モスアイ構造の紹介展示 蛾の目（モスアイ）に見られるナノスケールの凹凸構造は、反射を抑える特性を持ち、光学フィルムや太陽電池パネルの反射防止技術に応用されている。本展示では、実際にモスアイ構造を模したフィルムを用い、通常のフィルムとの比較によりその違いを可視化し、光の反射の仕組みについて解説した。 5．バイオミメティクス応用のカヌーの展示 総括 本イベントを通じて、子どもたちが身近な自然から最先端の技術が生まれていることを体験的に理解する機会を提供することができた。今後も、バイオミメティクスをはじめとした科学技術に親しみを持ってもらう取り組みを継続的に実施していきたい。	https://www.toyo.ac.jp/contents/bmsv/index.html	
84		省インフラ研究会	助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援	研究指導	PPP 研究センター	省インフラ研究会	4/1～3/31	東洋大学	企業	迫り来るインフラの老朽化、高齢化・少子化社会、国・地方の財政難の問題に正面から取り組み、持続可能なインフラ、公共サービスのあり方を追求するために、2013年9月に「省インフラ研究会」を立ち上げた。本研究会では、長期的な日本の都市構造、財政、人々の住まい方を見通し、「物理的なインフラに頼らず、質の高い生活を維持」できる新しい社会のあり方を検討。	https://www.pppschool.jp/pppc/infra/index.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
85	研究推進課	特別セミナー「PPP/PFI推進のための新しい戦略」開催	出演 パネリスト コメンテーター 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	名古屋会場 共催：東洋大学・国土交通省 協力：早川都市計画株式会社 大阪会場 共催：東洋大学・国土交通省 協力：大和リース株式会社	特別セミナー「PPP/PFI推進のための新しい戦略」	名古屋会場 2024/8/19 大阪会場 2024/8/20	名古屋会場： プライムセントラルタワー名古屋駅前店13階第3会議室 大阪会場 AP大阪駅前 APホールⅠ	研究者 社会人・一般 学術団体 企業	政府では、財政状況のひっ迫、働き手の減少、インフラ老朽化等の厳しい社会環境を踏まえ、分野横断型・複数施設型・広域型PPP/PFIの形成促進、PPP/PFIによる地方創生の推進、PPP/PFIの活用領域の拡大、民間企業が安定的にPPP/PFI事業に取り組める環境の整備の必要性の観点から政策を進めており、６月３日には、PPP/PFI推進アクションプラン（令和６年改定版）を民間資金等活用事業推進会議にて決定したところです。 東洋大学では、国土交通省と連携して、各地で特別セミナーを開催しています。今年度は、昨年度の札幌･福岡に続いて、名古屋・大阪にて開催。	https://www.pppschool.jp/news/20240711-06243.html	8 9 17
86		2024年度リカレント講座を開催	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	PPP 研究センター	2024年度リカレント講座	9/17	東洋大学白山キャンパススカイホール	大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業	PPPスクールでは、修了後も、PPP研究センターリサーチパートナーとして現場での研究と実践に取り組む機会が提供されます。一方で、PPPをめぐる制度や環境の変化は早く、年に1回、リカレント講座として知識のアップデートを行っています。修了後もPPPに関する知識や情報は最新のものに更新されていきます。 今回は、内閣府民間資金等活用事業推進委員会専門委員の難波悠教授による「PPP/PFI推進アクションプラン（令和6年改定）」の要点についての講義の後、（一財）民間都市開発推進機構常務理事兼（公社）日本都市計画学会会長 渡邉浩司様による特別講演「まちづくりとPPP～まちづくりの価値観の転換と公民の役割の変化～」を実施しました。人口増加の時代の都市計画法から、人口減少の時代の都市再生法に基づくPPPによるまちづくりの変化等、大変に勉強になりました。渡邉先生、ありがとうございました。その後は、9月からの新入生の一部も参加し、講師、修了生と教員による懇親会が開催されました。PPPスクールでは、こういった場で最新のPPPに関する情報交換が行われ、時には新しいPPPプロジェクトが生み出されていきます。	https://www.pppschool.jp/news/20240917-06573.html	4 8 11 17
87		第19回　国際PPPフォーラムを開催	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	主催：東洋大学 後援：内閣府・総務省・国土交通省 後援：民間企業	第19回　国際PPPフォーラム「PPPの小型化」	10/21	東洋大学白山キャンパススカイホール	大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 行政機関	日本政府は、2023年度のアクションプランより、スモールコンセッションやローカルPFIなど小規模なPPP/PFIの展開に関する具体的な政策を打ち出しています。一方で、PPPの導入には、従来型手法に比べて、アドバイザリーやガバナンスなどのために相応の追加コストが発生するため、一定の事業規模が求められ、大型のものにならざるを得ないという課題があります。東洋大学では、「PPPの小型化」は、PPP/PFIが持つ、公共サービスの意思決定・実施プロセスの透明性・公平性の確保、より質の高い公共サービスをより低い価格での実現などの優れた特性を、地方圏においても十分に達成し地域経済社会を持続的に発展させるために不可欠であると考えています。今回のフォーラムは、こうした状況を踏まえて、PPP/PFIの地方での更なる推進のために、アドバイザリーやガバナンスなどの負担を小型案件にてどのように吸収するかを、国内、海外の事例を交えて議論します。	https://www.pppschool.jp/news/20240924-06690.html	4 8 11 17

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
88	研究推進課	【PPP】公開講義（連続トーク）を開催	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	PPP 研究センター	【PPP】連続トーク	(1) 2024/ 10/29 (2) 2024/ 11/5 (3) 2024/ 11/16 (4,5,6) 2024/ 12/7 (7) 2024/ 12/19 (8,9) 2024/ 12/21 (10) 2025/ 1/11	東洋大学白山キャンパス・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	(1)10月29日(火)20：10～21：40「地域リーダー論」 担当教員　関幸子客員教授 ゲスト講師　シングルマザー支援協会代表理事　江成道子氏 参加方法　リモート (2)11月5日(火)18：30～20：00「関幸子ゼミ」 担当教員　関幸子客員教授 ゲスト講師　島根県海士町長　大江和彦氏 参加方法　リモート (3)11月16日(土)10：40～12：10「地域分析」 担当教員　井上武史教授 テーマ　地方財政の分析 参加方法　来室(白山キャンパス)またはリモート (4)12月7日(土)10：40～12：10「地域分析」 担当教員　井上武史教授 テーマ　地域分析のケーススタディ 参加方法　来室(白山キャンパス)またはリモート (5)12月7日(土)13:00～14:30「Global PPP Finance」英語開講 担当教員　玉置知己客員教授 テーマ　Sarulla Geothermal Power Project(Indonesia) 参加方法　来室(白山キャンパス)またはリモート (6)12月7日(土)16：30～18：00「PPPデザイン論Ⅱ」 担当教員　中村郁博教授 ゲスト講師　修了生　難波茂氏(前田建設工業) 参加方法　来室(白山キャンパス)またはリモート (7)12月19日(木)20：10～21：40「デジタル地域社会論」 担当教員　高橋陽一客員教授 テーマ　社会的連帯経済と紐帯としてのデジタル 参加方法　リモート (8)12月21日(土)13：00～14：30「PPPビジネスマネジメント論」 担当教員　中村郁博教授 ゲスト講師　山下保博氏(建築家) テーマ　しま・ひと・たから　ーそれぞれの集落文化の日常を観光化するー 参加方法　来室(白山キャンパス)またはリモート (9)12月21日(土)13：00～14：30「海外PPP制度手法論」 担当教員　町田裕彦客員教授 ゲスト講師　高橋奨氏(世銀多数国間投資保証機関　(MIGA)　駐日代表) テーマ　世界のインフラPPPの概観および世銀グループの役割 参加方法　来室(白山キャンパス)またはリモート (10)1月11日(土)9：00～10：30「公共施設マネジメントⅠ(政策)」 担当教員　根本祐二教授 テーマ　公共施設マネジメント(まとめ) 参加方法　来室(白山キャンパス)またはリモート	https://www.pppschool.jp/news/20241008-06815.html https://www.pppschool.jp/news/20241114-07110.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対　象	概　要	URL	SDGs
89	研究推進課	小規模人道支援がもたらす循環型インパクトに関する研究-“Buy One Give One”事業からみる新しい支援のかたち-	調査担当 報告書執筆	調査	国際共生社会研究センター	レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	ベトナムおよびパキスタン	無電化地域の住民など	開発途上国には依然として無電化地域が存在する。また、近年の自然災害の激甚化や政情不安による難民の増加に伴い、劣悪な生活環境下にあり支援を必要としている被災者や難民も多い。本研究は、そうした人々を対象に、ソーラー充電式ランタンを無料配布するという小規模な人道支援活動を行い、この支援を通して支援側と受益者側の双方にもたらす影響およびその循環性を明らかにすることを目的としている。昨年度実施したベトナムでの研究の展開として本年度は、タイ国境地域のミャンマー難民、およびパキスタンカラチ市のスラム地域を対象に支援・調査を実施した。 2024年度からは、2023年までに支援を受けた家庭を継続的に訪問し、その変化について追跡調査を行い長期的な効果を検証するとともに、対象国の社会構成員である高所得者層および中間層も含め支援する側に対する意識調査を行い、地域社会における支援の循環可能性を検証します。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/project/bogo?authuser=0	
90		ミャンマー政変の人的資本育成への影響－高等教育と職業訓練に焦点を当てて－	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	ミャンマー	現地の学生	2021年2月の軍事クーデターがミャンマー社会・経済に多大な影響を与えた。また、政変以降国外に逃れる難民も発生している。本研究では、政変が社会・経済に与えた影響を概観したうえで、特に、政変以降、国内の大学をはじめとする教育機関の機能がほぼ麻痺している状態となったことによって、学生を始めとする若者層が被った教育機会・就業機会の減少などの影響を調査し、彼らが必要とする支援のニーズを明らかにする活動を行った。今後は、2回の調査結果をさらに分析して成果をまとめるとともに、ミャンマー国内の職業訓練学校の生徒に対する調査を行います。また、ミャンマー国内での情勢次第によりますが、職業訓練学校生徒、国内の大学生(途中で就学を断念した学生を含む)に対する聞き取りの実施を模索していきます。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/project/%E3%83%9F%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%9E%E3%83%BC%E6%94%BF%E5%A4%89%E3%81%AE%E4%BA%BA%E7%9A%84%E8%B3%87%E6%9C%AC%E8%82%B2%E6%88%90%E3%81%B8%E3%81%AE%E5%BD%B1%E9%9F%BF-%E9%AB%98%E7%AD%89%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%A8%E8%81%B7%E6%A5%AD%E8%A8%93%E7%B7%B4%E3%81%AB%E7%84%A6%E7%82%B9%E3%82%92%E5%BD%93%E3%81%A6%E3%81%A6?authuser=0	
91		中山間地域の地域資源を活用した地域活性化にかかる実践的研究―埼玉県小鹿野町、イタリア・カメリーノ、ベトナム・タンチャオ村を対象として―	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	イタリア、ベトナム、埼玉	高校生 社会人・ 一般 その他	埼玉県小鹿野町、イタリア共和国マルケ州カメリーノ、ベトナム社会主義共和国トゥエンクアン省タンチャオ村を対象に、地域活性化のための取り組みを実施した。小鹿野町では、「バスを待つ1時間の間に楽しめる旅」のプランを掲載した「バス待ちマップ」を作成し、地域資源を楽しめるようにした。カメリーノでは、イタリア中部地震被災地の復興を含む持続可能な地域づくりに向け、日本国内の震災復興事例を踏まえた実践的な提言を行った。タンチャオ村では、村に存在する有形無形の潜在的な観光資源を活かし、観光振興を軸とした村づくりに向けた調査・検討を実施した。学生の調査報告や課題解決策の提案をどのように地域での実践に結び付けていくかを模索する必要がありますが、小鹿野、カメリーノ、タンチャオでの継続的な実践の成果である信頼関係をベースに、今後も学生研修を継続しつつ、中山間地域の課題解決に向けた実践へとつないでいきたいと考えています。なお、実践を通じて得た学術的知見は学術誌等で発信していく予定です。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/project/%E4%B8%AD%E5%B1%B1%E9%96%93%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%AE%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E8%B3%87%E6%BA%90%E3%82%92%E6%B4%BB%E7%94%A8%E3%81%97%E3%81%9F%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%AE%E6%BD%9C%E5%9C%A8%E7%9A%84%E3%81%AA%E8%A6%B3%E5%85%89%E8%B3%87%E6%BA%90%E3%82%92%E6%B4%BB%E3%81%8B%E3%81%97%E3%80%81%E6%9D%91%E3%81%A5%E3%81%8F%E3%82%8A%E3%82%92%E8%BB%B8%E3%81%A8%E3%81%97%E3%81%9F%E6%9D%91%E3%81%A5%E3%81%8F%E3%82%8A%E3%81%AB%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%9F%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%83%BB%E6%A4%9C%E8%A8%8E%E3%82%92%E5%AE%9F%E6%96%BD%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F%E3%80%82%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%AE%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E3%82%84%E8%AA%B2%E9%A1%8C%E8%A7%A3%E6%B1%BA%E7%AD%96%E3%81%AE%E6%8F%90%E6%A1%88%E3%82%92%E3%81%A9%E3%81%AE%E3%82%88%E3%81%86%E3%81%AB%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%A7%E3%81%AE%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E3%81%AB%E7%B5%90%E3%81%B3%E4%BB%98%E3%81%91%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%8F%E3%81%8B%E3%82%92%E6%A8%A1%E7%B4%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E5%BF%85%E8%A6%81%E3%81%8C%E3%81%82%E3%82%8A%E3%81%BE%E3%81%99%E3%81%8C%E3%80%81%E5%B0%8F%E9%B9%BF%E9%87%8E%E3%80%81%E3%82%AB%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%8E%E3%80%81%E3%83%99%E3%83%88%E3%83%8A%E3%83%A0%E3%82%BF%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%82%A7%E3%82%AA%E3%81%A7%E3%81%AE%E7%B6%99%E7%B6%9A%E7%9A%84%E3%81%AA%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E3%81%AE%E6%88%90%E6%9E%9C%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E4%BF%A1%E9%A0%BC%E9%96%A2%E4%BF%82%E3%82%92%E3%83%99%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%81%AB%E3%80%81%E4%BB%8A%E5%BE%8C%E3%82%82%E5%AD%A6%E7%94%9F%E7%A0%94%E4%BF%AE%E3%82%92%E7%B6%99%E7%B6%9A%E3%81%97%E3%81%A4%E3%81%A4%E3%80%81%E4%B8%AD%E5%B1%B1%E9%96%93%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%AE%E8%AA%B2%E9%A1%8C%E8%A7%A3%E6%B1%BA%E3%81%AB%E5%90%91%E3%81%91%E3%81%9F%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E3%81%B8%E3%81%A8%E3%81%A4%E3%81%AA%E3%81%8C%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%8D%E3%81%9F%E3%81%84%E3%81%A8%E8%80%83%E3%81%88%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82%E3%81%AA%E3%81%8A%E3%80%81%E5%AE%9F%E8%B7%B5%E3%82%92%E9%80%9A%E3%81%98%E3%81%A6%E5%BE%97%E3%81%9F%E5%AD%A6%E8%A1%93%E7%9A%84%E7%9F%A5%E8%A6%8B%E3%81%AF%E5%AD%A6%E8%A1%93%E8%AA%8C%E7%AD%89%E3%81%A7%E7%99%BA%E4%BF%A1%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%8F%E4%BA%88%E5%AE%9A%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82?authuser=0	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
92	研究推進課	トルコ・シリア地震後の復興都市計画立案にかかる共同研究	調査担当 報告書執筆	調査	国際共生社会研究センター	レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	トルコ	社会人・ 一般	2023年2月6日に発生した2度の大地震により甚大な被害を被ったトルコ東部、東アナトリア地方の県で進行中の民間企業主導での復興計画立案に対し、学術的な側面から調査・支援を行ってきました。発生したがれきの処理に加え、それらを利用した持続的な街づくりを模索することや、災害に強いだけでなくSMARTなインフラの再建を目指すこともこれからの復興に求められています。今後は、復興計画を主導しているトルコの民間企業に対し、学術的な側面から断続的に支援を行い、復興計画の実現を後押ししていく予定です。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/project/%E3%83%88%E3%83%AB%E3%82%B3%E3%83%AA%E3%82%A2%E5%9C%B0%E9%9C%87%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%BE%A9%E8%88%88%E9%83%BD%E5%B8%82%E8%A8%88%E7%94%BB%E7%AB%8B%E6%A1%88%E3%81%AB%E3%81%8B%E3%82%8B%E5%85%B1%E5%90%8C%E7%A0%94%E7%A9%B6?authuser=0	
93		東洋大学における「MeW（Menstrual Wellbeing by/in Social Design）Project」の展開	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	東洋大学白山キャンパス	大学生 教育関係者	MeW(Menstrual Wellbeing by/in Social Design)プロジェクトは、大阪大学UNESCOチェアのプロジェクトのひとつとして、月経のある人のウェルビーイングを前進させることを目的として2021年3月に開始された。東洋大学における国際共生社会研究センターのプロジェクトとしては、2022年10月に始動し、これまでに2期にわたる実証実験(第1期:2022年10月～12月、第二期:2023年6月～8月）を実施してきた。具体的には、白山キャンパスの10のトイレ内において生理用品の無償配布を行い、月経に関する意識調査を実施した。本研究の取り組みにより東洋大学では、生理用品の無償配布を大学の事業として実施することが決定され、2024年4月より白山キャンパスから実施されている。また、2024年度は、生理痛体験イベントなど、月経衛生に関する意識啓もうのイベントなどにも力を入れてきた。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/project/mew?authuser=0	
94		CopaGloba 親になる過程におけるコペアレンティングの認識の形成に焦点を当てた縦断的国際比較研究	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	日本、フィンランド、ポルトガル	幼稚園以下 教育関係者 保護者	本研究は、フィンランドアカデミーからの助成を受けたフィンランド、ポルトガル、日本の3か国で構成する多国間コンソーシアム研究プロジェクトで、本センターを研究プラットフォームとして、日本からの研究員が参加している。日本、フィンランド、ポルトガルの3か国におけるコペアレンティングとその構築過程を比較することで、影響を与える環境要因を特定し、より良好な協力関係を築くための支援策への手がかりを得て、子育て支援政策へのエビデンスを得ることをめざしている。これまで、第一子を迎えるカップルに協力を依頼し、産前・産後の二度にわたるインタビュー、アンケート調査を実施してデータを収集した。 2024年度は、収集したデータを分析し、研究成果をアウトプットすることに注力した。東京都立大学と連携して、国際シンポジウムの共催を行うなどして、コペアレンティングに関する研究知見を内外に発信している。	—	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
95	研究推進課	開発途上国における都市計画・都市交通の新しい形	調査担当 報告書執筆	調査	国際共生社会研究センター	レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	東洋大学	社会人・ 一般 その他	開発途上国における都市部では、急激な経済成長に伴い、無秩序な都市化やモータリゼーションが加速している。このような課題に対し、これまで国際共生社会研究センターでは、特に都市内の私的交通保有者に着目した交通行動を分析することで都市交通計画、都市交通マネジメントへの新たな視点を切り開く研究を行ってきており、一定の成果を得ている。 本年度からは、開発途上国の都市計画全体を対象に、新たな視点での都市マネジメント手法についての研究を「SURF（Smart Urban Solution Framework）イニシアティブ」として開始した。2024年度も定期的な勉強会を続け、「スマートシティ型都市開発・マネジメント統合プラットフォーム」の提示を目指します。なお、SURFについては、将来的に「サステナブルな都市の輸出への展開」（和泉ら、2017）に寄与することも目指しています。	—	1 9 11 13
96		紛争国における破壊建造物のリサイクルを活用した都市の復興に関する研究	調査担当 報告書執筆	調査		レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究	4/1～ 3/31	スーダン、 南スーダン	行政機関 その他	本研究では、紛争（終結）国であるスーダンと南スーダンとを調査対象国とし、紛争による破壊廃棄物（紛争により破壊された建築物等）を道路整備の建設資材として利用することにより、復興プロセスの迅速化を図る手法の構築を目指す。これにより、破壊廃棄物の最適なリサイクル計画の策定が可能となる。また今後多くの紛争国において実施される国際協力プロジェクトの実施に資する汎用性のある手法を構築していく。	https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-24K07736/ https://sites.google.com/toyo.jp/orc/project?authuser=0	11 16
97		CeSDeS Open Seminar On SDGs	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	主催：日本ナイル・エチオピア学会 共催：国際共生社会研究センター	CeSDeS Open Seminar On SDGs 第1回（第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会・シンポジウム共催）「サニテーションと月経をめぐる課題の諸相」―沈黙の殻をやぶり動き出した世界―	第1回 2024/ 4/20	第1回 東洋大学白山キャンパス125 ホール・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・ 一般	第1回 月経はいま、世界のあらゆる場所で、沈黙の殻をやぶり、議論されるべきイシューとして立ち現れている。月経をとりまく課題は多岐にわたる。たとえばSDGsに照らして考えれば、少なくとも次の8つと関連付けられる：Goal 1 貧困をなくそう：「生理の貧困」の問題の解消、Goal 3 すべての人に健康と福祉を：月経に関連する健康状況の改善、Goal 4 質の高い教育をみんなに：月経で阻害される教育機会の改善、Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう：月経に関連する差別・男女格差の解消、Goal 6 安全な水とトイレを世界中に：生理用品の設置等によるトイレ内環境の向上、Goal 8 働きがいも経済成長も：月経のある人にとっても働きやすい環境の整備、Goal 10 人や国の不平等をなくそう：「生理の貧困」の解消による不平等の是正、Goal 12 つくる責任、つかう責任：生理用品の品質の保証とゴミ問題の諸相の解明。本シンポジウムでは、この分野を牽引する研究者と開発実践の専門家が、貧困、教育、ジェンダー、サニテーションなどをキーワードとしたアフリカ、東南アジア、欧米、日本の事例を紹介しながら、月経をとりまく課題を総合的に議論する。	—	1 3 4 10 11 13 16

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
97	研究推進課	CeSDeS Open Seminar On SDGs	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	主催：日本ナイル・エチオピア学会 共催：国際共生社会研究センター	CeSDeS Open Seminar On SDGs 第2回 PERSPECVITES FOR SMART URBAN SOLUTION FRAMEWORK (SURF) IN GLOBAL SOUTH MEGACITIES 第3回 Learning from Indigenous Knowledge and Language :Solutions to Climate Change and Migration 第4回 ロヒンギャの人々の教育ーバングラデシュの難民キャンプと館林からの報告	第2回 2024/11/13 第3回 2024/11/27 第4回 2024/12/20	第2回 東洋大学白山キャンパス 6 号館 4階 6410教室・オンライン 第3回 東洋大学白山キャンパス 1号館 2階1203教室・オンライン 第4回 東洋大学白山キャンパス1号館5階1503教室・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	第2回 「Urban Management」にかかる諸課題の解決に向けて、東洋大学国際共生社会研究センター（センター）では昨年度より、志摩研究員と城所客員研究員を中心に、デジタル技術やデータ分析に基づくメガシティの新たな都市管理の可能性を探るため、Smart Urban Solution Framework(SURF)研究会を民間企業などとともに実施してきた。本セミナーは、昨年来の SURF 研究会をベースに本年度から実施している科研費補助金プロジェクト「グローバルサウス・メガシティにおけるスマート空間マネジメントの社会実装化（24K01056）」と本センターにより企画されたもので、メガシティの都市課題解決に向けた新たな都市管理の取り組みである「Smart Urban Solution Framework (SURF)」の定義とSURFの方向性を定めることを目的とした初のセミナーである。セミナーでは、志摩研究員の SURF のコンセプト説明に続き、国内外の研究者が SURFにつながる事例の報告を行うとともに。海外からの研究者を交えた有意義なディスカッションが行われた。参加者は、対面・オンラインを合わせて約45 名であった。 第3回 香港大学名誉教授の Umberto Ansaldo 教授をお迎えして実施した。Ansaldo 教授は、アジアの言語類型論を専門とし、言語接触やクレオール言語の研究に取り組まれてきた。特に、中国、南アジア、東南アジアの言語多様性や、接触による言語変化の進化理論や、スリランカ・マレー語をはじめとする喪失の危機に瀕した言語の記録に関して多くの著作がある（詳細は https://umbertoansaldo.com/）。本日のセミナーは、対面でおよそ160名の学部生・大学院生、オンラインで5名の参加があった。 第4回 JSPS 学術国際交流事業にて来日中のロヒンギャ研究者であるチッタゴン大学の Nasir Uddin 教授と群馬県館林市でロヒンギャ難民の女性や子どもたちを支援する Harmony Sisters Network の代表である Khadiza Begum 氏をお招きして実施した。世界最大の 100 万人以上のロヒンギャ難民の受け入れ国であるバングラデシュのコックスバザール周辺の難民キャンプと 300 人以上のロヒンギャの人々が居住する館林市に居住するロヒンギャの子どもや女性の教育について考える機会を持った。	—	
98		総括シンポジウム	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	国際共生社会研究センター	2024年度総括シンポジウム レジリエントな社会からウェルビーイングな社会へ -ポストSDGsにおける持続的幸福の追求のために-	1/20	東洋大学白山キャンパススカイホール・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	重点研究プロジェクトの３年間を総括した上で、これからどのように実施していくか研究および展望ついて紹介した。	—	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
99	研究推進課	能登半島地震被災地に関する調査の実施について	調査担当 報告書執筆	調査	国際共生社会研究センター	能登半島地震被災地に関する調査の実施について	6/5～6/8	石川県能登半島	大学生 教育関係者 研究者 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関	2024年2月27日から28日まで、6月5日から8日までの2回にわたり、能登半島において被災地調査を実施しました。1月1日の震災発生後、能登半島での被災の状況や復旧支援、災害ボランティア支援についての情報は限定的で多くの道路が寸断され、さらに半島の奥で発生したことによる地形的要因などが主な要因となって被災地でも支援の量的確保が困難でした。2月27日から 28日までの調査は、2月中旬に実施した個人での事前調査を踏まえて、移動ルートが確保できることを確認してから、能登空港、能登町、珠洲市、輪島市（門前町）、志賀町で被災の状況を確認しました。	https://drive.google.com/file/d/1Fm-M9kglwBfzgRsSzyVrByQG17AjfcuS/view	3 11 17
100		人も地域も長生きできる小さな町の挑戦―「再生」に賭けた南イタリア・ポッリカ	調査担当 報告書執筆	調査		人も地域も長生きできる小さな町の挑戦―「再生」に賭けた南イタリア・ポッリカ	7月	南イタリア	社会人・一般 その他	遠くて、不便で、自然環境の厳しい地域は、条件不利とされる。ではそうした場所に位置する小さな町の持続可能性とはどのようなものだろうか。本研究センターの「レジリエントな社会に向けたSDGsの包摂的実現に関する研究」の一環として、南イタリアのサレルノ県に位置する人口約2千人のポッリカ(Comune di Pollica)を訪れた。	https://drive.google.com/file/d/1fyGK2wm5bL29p-ZtEIyqvpwPhSPpgdcq/view	8 11 17
101		トンガの災害復興・農村開発プロジェクトに向けた調査	調査担当 報告書執筆	調査	共同：国際共生社会研究センター・地球市民の会	トンガの災害復興・農村開発プロジェクトに向けた調査	7月～8月	トンガ王国、在トンガ日本国大使館	社会人・一般 市民団体 行政機関 その他	当センターの松丸亮センター長・岡本郁子副センターと地球市民の会が共同で、2024年7～8月にかけてトンガでの調査を実施しました。この調査は、2022年の海底火山の大噴火と津波の被害からの復興、そして農村開発プロジェクト実施のための基礎情報の収集を目的としたものです。その一環で、Hihifo Agro-Rugby Farmやトンガタプ島東部被災コミュニティの視察を行いました。また、同調査では、在トンガ日本国大使館への訪問も行い、今後の産官学連携に向けた話し合いが行われました。	https://drive.google.com/file/d/1vOeymcsxN-kNuZHgvYm9kxVOSFu6cQLi/view	11 17
102		東京国際交流館国際シンポジウム	出演 講師 情報提供	講演会	共催：東洋大学・東京都立大学・日本学生支援機構 後援：文部科学省、外務省、国際研究交流大学村	2024年度東京国際交流館国際シンポジウム「フィンランド、ポルトガル、日本の子育てのカタチ：第一子を妊娠、出産した夫婦たちの国際比較」	9/20	東京国際交流館プラザ平成・オンライン	教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体 行政機関 その他	CopaGlobaプロジェクト関連イベントで「フィンランド、ポルトガル、日本の子育てのカタチ：第一子を妊娠、出産した夫婦たちの国際比較」を開催いたしました。 当センターからは、藪長千乃研究員を始めとしたCopaGlobaプロジェクトに携わるメンバーが登壇しました。	https://sites.google.com/toyo.jp/orc/%E6%B4%BB%E5%8B%95%E5%A0%B1%E5%9%8A/%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E4%BA%A4%E6%B5%81%E9%A4%A8%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%83%9D%E3%82%B8%E3%82%A6%E3%83%A0?authuser=0 https://www.tmu.ac.jp/hot_topics/pr/37014.html	3 4

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
103	研究推進課	インド・ムンバイのダラーヴィでの現地調査	調査担当 報告書執筆	調査	国際共生社会研究センター	インド・ムンバイのダラーヴィでの現地調査	10月	インド・ムンバイ	社会人・一般 その他	センターの小野悠客員研究員が、2024年10月にインド・ムンバイのダラーヴィで現地調査を実施しました。ダラーヴィは、インド最大のインフォーマル市街地として知られ、約100万人が密集して暮らす居住地であると同時に、1万5千を超える工場が稼働する経済活動の拠点となっています。皮革産業、金属加工、木工業、窯業、服飾業、宝飾業、リサイクル業、印刷業など、さまざまな産業が発展し、居住と生業が一体となった独特な都市空間が形成されています。 本調査では、出自に基づく生業を持つ人々が集まるダラーヴィにおいて、居住と生業の関係性が都市空間にどのように影響しているかを明らかにするため調査を行いました。調査は、リサイクル産業が集積する「13コンパウンド」、窯業を生業とするコミュニティが暮らす「クンブルワダ」、そして伝統的な漁業コミュニティが暮らす「コリワダ」の3地区を対象に実施しました。事業者に対するアンケート調査、パブリックスペースでの交流に関するアンケート調査および観察調査、さらに空間構成に関する観察調査などを実施しました。	https://drive.google.com/file/d/1GsZepUaex78Angm8YeqO-D14C_P4vq1B/view	
104		子どもグループ公開研究会開催	出演 パネリスト コメンテーター 講師	講演会	福祉社会開発研究センター	(1)災害と子ども～東日本大震災後の子どものこころのケアからの提言～ (2)災害時の子どもの心理社会的支援－世界と日本の災害現場から－	(1) 2024/12/13 (2) 2025/1/16	(1)東洋大学赤羽台キャンパス WELLB HUB-2 20206教室 (2)オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般	(1)日本は近年も、度重なる災害に見舞われており、東日本大震災時の子ども支援について、これまで14年間の継続的な支援と実践からの学びなおしが求められている。今回の講演会では、児童精神科医という専門的立場から、被災地の子どもの心のケアについて提言活動をされている八木淳子先生に、東日本大震災後の子どものこころのケアにおいて子どもの居場所が果たす役割についてお話しいただく。八木先生は、いわてこどもケアセンターの構想から関与され、被災地においてハイリスクな状態にある子どもやその家庭への介入支援研究を継続されており、トラウマ・インフォームド・ケアや心的外傷治療に通じている。 講師：八木 淳子先生 岩手医科大学医学部 神経精神科学講座 教授 附属病院児童精神科 診療科部長 いわてこどもケアセンター 副センター長 (2)災害時の子どもの心理社会的支援についてのグローバルスタンダ紹介、「子どもの心理的応急処置(PFA for Children)」の考え方をにした被災した子どもたちとの関わり方、災害時の子どもの居場所の重要性について、世界と日本の事例からお話いただきます。 講師：赤坂 美幸先生 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 精神保健・心理社会的支援エキスパート	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/news_cr/%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%BC%9A%E7%81%BD%E5%AE%B3%E3%81%A8%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E6%9D%B1%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%A4%A7%E9%9C%87%E7%81%BD%E5%BE%8C%E3%81%AE%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%93%E3%82%8D%E3%81%AE%E3%82%B1%E3%82%A2%E3%81%8B%E3%82%89%E3%81%AE%E6%8F%90%E8%A8%80-%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/news_cr/%E5%85%AC%E9%96%8B%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%BC%9A%E7%81%BD%E5%AE%B3%E6%99%82%E3%81%AE%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E3%81%AE%E5%BF%83%E7%90%86%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%9A%84%E6%94%AF%E6%8F%B4%E3%83%BB%E5%82%AC%E3%81%AE%E3%81%8A%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%9B	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
105	研究推進課	子どもグループ公開研究会開催	助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 調査担当 報告書執筆	その他	福祉社会開発研究センター	オンラインボッチャ協会との協働研究	—	—	大学生 大学院生 教育関係者 社会人・一般	オンラインボッチャ協会では、「ボッチャをオンラインで楽しむことにより、年齢・能力・国籍・場所によらず、すべての人が共に楽しむ手段・情報・機会を提供」することを目標に活動を行っている。今年度から、本センターの客員研究員にオンラインボッチャ協会代表の大川氏を迎え、協働研究を実施している。今年度は機器開発への協力等を行った。加えて、オンラインボッチャを通した、大学生と障がいのある人の交流といったイベントも実施した。	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/term5/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%9B%AE%E7%9A%84%E6%A6%82%E8%A6%81?authuser=0	3
106		世田谷区との協働研究	情報提供 企画 運営参加・支援 調査担当 報告書執筆	その他		世田谷区との協働研究	—	—	教育関係者 社会人・一般 行政機関	森田明美：福祉社会開発研究センター客員研究員。地域で孤立しがちな子どもや家庭支援を社会福祉などの制度を使って支援するため、システムやプログラムの開発を行う共同研究を実施。母子生活支援施設、生活保護受給家庭、保育所利用家庭の親と子の困り感を理解するためのツールの開発、その活用の場を広げ、実践を積み重ねて当事者主体の実践を進める。当事者が課題解決に向けて意欲をもって暮らしを進める支援を展開し、自分らしい人生を送ることができる親子支援を実現。	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/term5/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%9B%AE%E7%9A%84%E6%A6%82%E8%A6%81?authuser=0	3
107		スペシャルオリンピックス日本との協働研究	情報提供 企画 運営参加・支援 調査担当 報告書執筆	その他		スペシャルオリンピックス日本との協働研究	—	—	教育関係者 社会人・一般 行政機関	スペシャルオリンピックス日本では、知的障害のある人たちの成長にスポーツが大きなプラスになり、またスポーツを通じて知的障害のある人たちと共に活動することが地域社会にとっても大きなプラスになると考え、性別、年齢、スポーツのレベルを問わず、様々なスポーツの機会をつくりだしている。本センターでは、スペシャルオリンピックス日本のアンバサダー活動にiPad を貸出す等の協力を行っている。アンバサダー活動は、知的障がいのある方の意思表明の機会、また知的障がいのある方々のスポーツを通じたソーシャルインクルージョンを促進するための取り組みとなっており、そうした活動をICT が支えている。	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/term5/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%9B%AE%E7%9A%84%E6%A6%82%E8%A6%81?authuser=0	3
108		世田谷区との分身ロボットOriHime を介した学校教育支援	助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 調査担当 報告書執筆	その他		世田谷区との分身ロボットOriHime を介した学校教育支援	—	—	教育関係者 社会人・一般 行政機関	2020年には新型コロナウイルスの感染拡大によって、重症化リスクの高い医療的ケア児が登校できない状況が発生し、遠隔授業の実施という新たな課題と直面することになった。そこで、この度本センターとの共同研究が開始された。医療的ケアが必要な児童に対する分身ロボット OriHime を用いた授業への参加支援を世田谷区と実施。	https://sites.google.com/toyo.jp/cdws/term5/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E7%9B%AE%E7%9A%84%E6%A6%82%E8%A6%81?authuser=0	3
109		2024年 第1回KISTEC理科実験室「スマホ顕微鏡でクマムシを見よう」に講師として参加	講師	セミナー・ワークショップ	神奈川県立産業技術総合研究所	2024年 第1回KISTEC理科実験室「スマホ顕微鏡でクマムシを見よう」	6/8	かながわサイエンスパーク内　西棟7階701室	小学生	伊藤プロジェクトリーダーが小学生を対象としたイベント「第1回KISTEC理科実験室スマホ顕微鏡でクマムシを見よう」を実施。このイベントには、小学校3年生から6年生までの40名近い子供たちが参加してくれました。中には、このイベントに昨年2回と今回で3回目の参加になるクマムシ大好き親子も参加してくれました。自分が採ったコケからクマムシが見えた子も見えなかった子も真剣にスマホ顕微鏡の世界を楽しんでいました。このイベントでは、参加者への事前・事後アンケートを実施し、子供たちの意識変容を調査・研究することで、このアウトリーチイベントの更なるブラッシュアップと広く理科教育に活かすための取り組みも行っています。	https://toyobioresilience.jp/blog/2024-06-08.html	4

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
110	研究推進課	2024年度 東洋大学バイオレジリエンス研究プロジェクト第2期キックオフシンポジウムを開催	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 運営参加・支援	講演会	主催：バイオレジリエンス研究プロジェクト（BRRP） 後援：国際共生社会研究センター・極限環境生物学会	2024年度 東洋大学バイオレジリエンス研究プロジェクト第2期キックオフシンポジウム	6/22	東洋大学朝霞キャンパス 2101教室・オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 学術団体	2024年度東洋大学重点研究推進プログラム採択記念キックオフシンポジウムが盛大に開催されました。本シンポジウムは、東洋大学が進めるバイオレジリエンス研究プロジェクト(BRRP)の新たなスタートを記念するもので、多くの研究者、学生、関係者が参加しました。開会の挨拶では、矢口学長より、4月より朝霞キャンパスに東洋大学の生命科学部と食環境科学部の2学部が移転し、研究環境が整ったことに触れ、「このような環境の中で、バイオレジリエンス研究プロジェクトの研究活動がより一層活発になることが期待されています。」と期待が寄せられました。 本シンポジウムの目的は、第2期バイオレジリエンス研究プロジェクトを広く多くの方々に認知していただき、その内容を理解していただくことであり、メインテーマは「極限環境微生物で循環型社会を実現し、生活環境を豊かに！～ TOYO SDGsGlobal 2024－2030－2037～」であり、このテーマについて知識を深める機会となりました。今回のキックオフシンポジウムは3つのコンテンツで構成されていて、第1部では、矢口悦子東洋大学学長及び根建拓生命科学研究科長からのご挨拶があり、その後、伊藤プロジェクトリーダーがバイオレジリエンス研究プロジェクトの概要及び目指すところについて説明し、休憩を挟んで第2部では、東京大学未来科学センター・センター長の福士　謙介　教授、日本農芸化学会会長の西山　真　教授、東洋大学食環境科学部食環境科学科長の後藤　顕一　教授による基調講演が行われました。 基調講演のタイトルは以下の通りです： ・人新世における課題とチャンス：新しい大学の役割を考える　　福士　謙介　教授 ・微生物のユニークな代謝システム　西山　真　教授 ・アウトリーチ活動の意義　―これからの時代に求められる資質・能力を踏まえて―　　後藤 顕一 教授 シンポジウムには多くの学生が参加し、基調講演の後には質疑応答の時間が設けられ、会場からの積極的な質問が飛び交い、非常に有意義なシンポジウムとなりました。	https://toyobioresilience.jp/blog/2024-07-08.html	
111		第3回国際発酵・醸造食品産業展で峯岸先生が「越生梅林エスティの開発秘話」について講演	講師	講演会	主催：TSO International株式会社 特別協力：日本発酵文化協会/全国醸造機器工業組合/日本醸造用品組	第3回国際発酵・醸造食品産業展	7/30～8/1	東京ビッグサイト	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 その他	第1日 目 の7月30日、13：00 － 13：30の予定で峯岸先生が「キャンパス内に自生する花から分離した酵母で日本酒造り～越生梅林エスティの開発～」というタイトルで講演されました。 3日間の会期中、多くの企業関係者が東洋大学のブースを訪れて、活発な意見交換を行うことができました。BRRPでは、このような展示会に積極的に出展することで多くの企業との新しい共同研究を進めています。	https://toyobioresilience.jp/blog/2024-07-302.html https://hakkoexpo.jp/report/	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
112	研究推進課	伊藤プロジェクトリーダーが第19回かわさきサイエンスチャレンジ at KISTECで理科実験を開催	講師	セミナー・ワークショップ	主催：かわさきサイエンスチャレンジ運営委員会 後援：川崎市／川崎市教育委員会／川崎商工会議所 協賛：多数（行政、企業、大学、各種団体等） 助成：東京応化科学技術振興財団	第19回 かわさきサイエンス チャレンジ	8/3	かながわサイエンスパーク（KSP）	小学生	伊藤プロジェクトリーダーが小学生対象の「第19回かわさきサイエンスチャレンジ・理科実験室　スマホ顕微鏡でクマムシを見よう～100倍の日常をスマホで楽しむ～」を開催しました。午前と午後で70名を超える小学生たちがクマムシ観察会に参加してくれました。バイオレジリエンス研究プロジェクト（BRRP）では理科教育のアウトリーチ活動にも力を入れています。BRRPでは極限環境微生物の先端研究成果を一般にも広く知ってもらうためのアウトリーチ活動にも力を入れて取り組んでいます。理科教員を目指す学生たちへの極限環境生物学研究や海洋プラスチック問題といった先端科学を体験してもらう理科教育コンテンツの開発と学生たちの意識変容を調査する取り組みも行っています。	https://toyobioresilience.jp/blog/2024-08-03.html https://scicha.com/	4
113		BRRPセミナー	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画 運営参加・支援	講演会	バイオレジリエンス研究プロジェクト（BRRP）	BRRPセミナー 第1回～第2回	第1回：10/17 第2回：11/14	東洋大学朝霞キャンパス5号館1階5106教室	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般	第1回 大阪公立大学大学院工学研究科教授の荻野博康先生をお招きし、「高機能生体触媒の開発」というテーマでご講演いただきました。講演は、化学工学、化学、応用化学が扱う分野や研究の進め方の違いについての説明から始まり、荻野先生がこれまでの研究でどのようなアプローチを採用し、成功に導いたかをわかりやすく解説してくださいました。講演後は会場から多数の質問が寄せられ、活発な議論の場となりました。参加した学生たちも、自分たちの研究に役立つヒントを得ることができたのではないかと思われます。 第2回 「リボソームの進化工学」をテーマとした講演会が開催されました。本講演では、大阪大学・宮崎健太郎特任教授をお招きし、16S rRNAの種間互換性に関する最先端の研究成果をご紹介いただきました。講演では、16S rRNAが持つ生物種間での互換性やその進化的意義について、大腸菌や好熱菌 Thermus thermophilus を用いた実験結果を基に解説が行われました。特に、異種16S rRNAの補完に成功した事例や、異種間で組み換わったキメラ型16S rRNAが生み出す進化の可能性について詳しく述べられました。また、リボソームの進化モデルの提唱や、細胞の機能を変える新たな細胞進化工学のアプローチについても触れられ、参加者は興味深く耳を傾けていました。	第1回 https://toyobioresilience.jp/blog/2024-10-18.html 第2回 https://toyobioresilience.jp/blog/2024-11-15.html	4
114		アグリビジネス創出フェア2024にBRRP峯岸研究室がブースを出展	情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	主催：農林水産省 後援：多数（行政、企業、各種団体等）	アグリビジネス創出フェア2024	11/26	東京サイトビッグ南２ホール	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	BRRPの峯岸研究室が出展しました。伊藤研究室や高品研究室の研究成果もポスター展示され、多くの来場者から注目を集めました。新たな企業との共同研究の話も進み、この場が意義深い研究成果の発表だけでなく、産学連携のさらなる発展に繋がる貴重な機会となりました。	https://toyobioresilience.jp/blog/2024-11-28.html https://agribiz.maff.go.jp/overview	9
115		2024年度 東洋大学バイオレジリエンス研究プロジェクト成果報告会	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 情報提供 企画	講演会	バイオレジリエンス研究プロジェクト（BRRP）	2024年度 東洋大学バイオレジリエンス研究プロジェクト成果報告会	2/26	東洋大学朝霞キャンパス 2101教室・オンライン	大学生 大学院生 研究者 社会人・一般 学術団体	東洋大学重点研究推進プログラム「極限環境微生物で循環型社会を実現し、生活環境を豊かに！」シンポジウムを開催。	https://toyobioresilience.jp/blog/2025-01-09.html	9

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
116	産官学連携推進課	中核人材育成 WEB セミナー	講師 助言・指導	セミナー・ワークショップ	産学協同教育センター	中核人材育成 WEB セミナー	① 2024/ 6/21 ② 2024/ 8/28	①東洋大学川越キャンパス バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター β棟 ②東洋大学川越キャンパス・オンライン	教育関係者 学術団体 企業 行政機関	自治体や企業の人材の将来を担う若手人材の教育・技術向上を目指した、最新の学問・技術の講義を東洋大学川越キャンパス及び WEB 上で実施。 ①「驚異のナノカーボンエレクトロニクスとナノ材料分析の実習」 講師：根岸　良太(東洋大学理工学部電気電子情報工学科 教授) 生命の有する優れた分子認識力とエレクトロニクス技術を融合させたバイオセンサーは、疾患の早期発見やウイルス診断において極めて重要なツールとして期待されています。とりわけ、在宅や診療所における迅速診断技術、いわゆるPOCTによる信頼性の高い疾患スクリーニングやモニタリング法の確立に向けて、簡便かつ高感度に標的タンパク質の分析が可能なトランスデューサー素子の開発が要となります。本講座では、POCTへの応用に向けたナノカーボンの合成やバイオセンサー応用について紹介し、ナノ材料の分析方法について実習します。 ②「埼玉におけるインフラの予防保全」 講師：横関　康祐(理工学部都市環境デザイン学科 教授) 金井　康博(さいたま市議会議員) 榎本　正行(川越市建設部道路街路課副課長) 栖原　健太郎(デンカ株式会社インフラソリューション研究部 グループリーダー) 現在、我が国では、社会インフラの老朽化が社会問題となっています。構造物をより長く安全に使えるようにするには、多くの技術者の様々な観点からの分析や研究が必要となります。本セミナーでは、これらの課題を皆様と一緒に考えながら少しでも解決に導くきっかけにできればと考えています。3回目の開催となる講師には、さいたま市議(政)、川越市(官)、デンカ(産)、大学教授(学)の政産官学からの幅広い視点でインフラ老朽化や維持管理に関する現状や最新技術を紹介していただきます。	①https://www.toyo.ac.jp/news/20240517-14269.html ②https://www.toyo.ac.jp/news/20240626-14773.html	
117		若手産業人材の育成に係る活動	講師 助言・指導 実演	セミナー・ワークショップ		若手産業人材の育成に係る活動	–	東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	教育関係者 行政機関 その他	埼玉県との連携により、県内企業が必要とする産業人材を育成するため、高等技術専門校空調システム科の訓練生に対して高度な知識の獲得と技能を習得を目的とした対面講義ならびに施設(設備)見学を実施。	–	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
118	産官学連携推進課	2024NEW環境展に理工学部の井坂 和一教授と峯岸 宏明 准教授が出展	出演 パネリスト 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	日報ビジネス株式会社	2024NEW環境展／2024地球温暖化防止展	5/22～5/24	東京ビッグサイト	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	現代において資源の有効利用や新エネルギー・省エネルギーの推進、CO2排出削減技術の活用は企業の環境・温暖化対策にとって最重要の取り組みとなっており、そうしたなか「NEW環境展」は、各種課題に対応するさまざまな環境技術・サービスを一同に展示し、情報発信することで環境保全への啓発を行い、国民生活の安定と環境関連産業の発展を目的として開催されました。 ◆出展概要 ○理工学部　応用化学科　井坂　和一教授(環境工学研究室) 出展テーマ「有用微生物を利用した省エネ型窒素排水処理技術」(小間番号：U601) 環境工学研究室では、省エネ・省スペース型の窒素排水処理技術として、近年発見されたアナモックス細菌を利用した排水処理システムの開発、および排水処理工程から排出される温室効果ガスを削減する技術開発に取り組んでいる。本システムの開発により、消費エネルギーおよび設置スペースの半減を目指すと共に、SDGsが掲げる目標に貢献することを目指している。 ○理工学部　応用化学科　峯岸　宏明　准教授(生命工学研究室) 出展テーマ「極限環境微生物で循環型社会を実現し、生活環境を豊かに！」(小間番号：U602) 生命工学研究室では、プラスチック分解菌の単離と廃プラスチック・海洋マイクロプラスチック処理への応用、好塩菌による醤油諸味粕の有効活用及び減量化、高度好塩菌由来の好塩性酵素の特性を活かした産業用生体触媒の開発など、高温、高pH、高塩濃度、放射線、有機溶媒といった過酷な極限環境でも生育可能で新たな生物資源として注目される極限環境微生物を研究対象としている。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240530-14467.html https://www.n-expo.jp/	9
119		「新技術説明会」において、生命科学部の梅原 三貴久教授が研究発表	出演 パネリスト 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	科学技術振興機構 上智大学 中京大学 中央大学 東洋大学 東京薬科大学	新技術説明会（ものづくり技術　～材料・ライフサイエンス関連～）	8/8	JST東京本部別館１Ｆホール	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	新技術説明会は、大学、高等専門学校、国立研究開発法人等の公的研究機関から生まれた研究成果(特許)の実用化(技術移転)を目的に、新技術や産学連携に関心のある企業関係者に向けて、研究者(=発明者)自らが直接プレゼンする特許の説明会です。昨年度に引き続き、上智大学、中央大学、中京大学、東京薬科大学と合同開催し、本学から生命科学部　生物資源学科の梅原　三貴久教授が研究発表を行いました。対面・オンライン総合計で130名を超える聴講があり、梅原教授の研究成果についても広く紹介することができました。 ○出展概要 ○アグリ・バイオ分野　生命科学部　生物資源学科　教授　梅原　三貴久 【タイトル】植物のクローン再生を促進する新しい植物成長調節物質 【概要】ストリゴラクトンは植物ホルモンの一つとして知られている。ストリゴラクトン生合成阻害剤または作用阻害剤を植物組織に処理し、ストリゴラクトンのはたらきを抑えると植物のクローン再生が促進される。よって、これらの阻害剤は植物のクローン再生を促進する新しい植物成長調節物質として利用できる化合物である。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240902-15291.html https://shingi.jst.go.jp/list/list_2024/2024_toyo-sophia-chuo.html	9

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
120	産官学連携推進課	「大学見本市2024～イノベーション・ジャパン」に生命科学部生命科学科　竹井弘之教授が出展	出演 パネリスト 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	主催：国立研究開発法人科学技術振興機構 共催：文部科学省	大学見本市2024～イノベーション・ジャパン	8/22～8/23	東京ビッグサイト南展示棟１南ホール	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	「大学見本市2024 ～イノベーション・ジャパン」に、生命科学部生命科学科　竹井　弘之教授が出展し、ポスター展示やショートプレゼンテーションを行いました。2日間の総来場者数が11，000人を超えるイベントとなり、本学ブースにも多くの来訪がありました。 ◆出展研究者：生命科学部生命科学科　竹井　弘之教授 ◆出展テーマ：SERS（表面増強ラマン分光法）による簡便・迅速化学分析	https://www.toyo.ac.jp/news/20240902-15294.html	9
121		東洋大学重点研究推進プログラムシンポジウム「がんばる東京の中小企業と経営者のやりがい」を開催	出演 パネリスト 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	講演会	主催：東洋大学 共催：一般社団法人東京都信用金庫協会 協賛：東京東信用金庫・城北信用金庫・多摩信用金庫・朝日信用金庫・信金中央金庫 後援：東京都	がんばる東京の中小企業と経営者のやりがい	10/24	東洋大学白山キャンパス井上円了ホール	研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関	東洋大学重点研究推進プログラム「後継者の精神的健康とレジリエンス：地域連携を活用した文理融合アプローチによるレジリエンス促進プログラム開発と事業承継支援（研究期間：2024年4月～2027年3月）」では、中小企業経営者の「やりがい」や「ストレス」に関して、経営学、教育学、心理学、脳科学、精神医学の観点から研究を進めています。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240919-15439.html	8 9
122	学生支援課	【大道芸サークルPastime白山支部】八幡小学校こどもまつりでのボランティア	出演 実演	フェスティバル	八幡小学校	八幡小学校こどもまつり	5/19	北区立八幡小学校	小学生 保護者	北区立八幡小学校のこどもまつりでバルーンアートの配布をしてきました。 イベント主催者の方によると、500名近くの子ども達と、その保護者が来場されたようです。そのため、バルーンアートのブースもとても賑わい、開催時間が5時間程でしたが、列が途切れず大盛況でした。とても大変でしたが、子ども達の笑顔をたくさん見ることができました。また、地域の方々ともたくさん会話をすることができました。このことから、今回の活動を通して地域振興に貢献できたのではないかと思います。	－	11
123		【Honey】あじさい祭り	出演 実演	フェスティバル	文京あじさいまつり実行委員会 一般社団法人 文京区観光協会	あじさい祭り	6/9	白山神社	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	あじさい祭りで、全16曲のダンスを披露し、地域との連携を深めることができた。さまざまなジャンルのダンスを披露し、大きな盛り上がりを見せた。また日々の練習の成果を発揮し、初舞台となる一年生も楽しむことができた。	－	11
124		【箏曲研究会】第40回あじさい祭りでのステージ演奏	出演 実演	フェスティバル	文京あじさいまつり実行委員会 一般社団法人 文京区観光協会	あじさい祭り	6/16	白山神社	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	あじさい祭りのステージに出演させていただきお箏の演奏を行いました。当日は天気にも恵まれ、老若男女たくさんの方々に演奏を聴いていただきました。多くの方々が知っているような曲を演奏したかったため、千本桜、夏祭りなど有名で馴染みのある曲を含む計3曲を披露し、新入部員の初めての舞台でもありましたが普段の練習の成果を発揮することができました。また、中々実際に和楽器を聴く機会のない現代に、少しでも多くの方に和楽器やお箏の魅力を伝えることができたのではないかと感じています。	－	11

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対　象	概　要	URL	SDGs
125	学生支援課	【大道芸サークルPastime白山支部】千駄木小学校サマーフェスタへの参加	出演 実演	フェスティバル	千駄木小学校	千駄木小学校サマーフェスタ	7/27	千駄木小学校	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	千駄木小学校のサマーフェスタに参加した。小学校のこどもたちや、その保護者の方々とたくさん交流し、風船を配った。子ども、大人問わず、バルーンアートの作り方に興味を持ってくださったので、バルーンを作りながら、バルーンや大道芸について話したりした。途中で雨が降り、お祭りは中止になってしまったのが残念だった。しかし、地域の皆さんとの交流を通して、イベントを盛り上げ、地域振興に貢献できたと考える。	–	
126		【阿波踊り愛好会】2024徳島阿波踊り祭りへの遠征	出演 実演	フェスティバル	阿波おどり未来へつなぐ実行委員会	徳島市阿波おどり	8/13～8/16	徳島市	社会人・一般 市民団体 行政機関	徳島市阿波おどりへ参加し、日頃の練習の成果を発揮したとともに、東洋連の活動に対する真摯さをアピールすることができた。	–	
127		【阿波踊り愛好会】第38回南越谷阿波踊り	出演 実演	フェスティバル	南越谷阿波踊り実行委員会 南越谷阿波踊り振興会	第38回　南越谷阿波踊り	8/24～8/25	南越谷	社会人・一般 市民団体	徳島市阿波おどりでの熱を維持したまま本イベントに臨んだ。1日目は土砂降りの雨で中止となってしまったが、2日目は最後までやり切ることができた。また南越谷内で声をかけられることも多くなり、日頃から真摯に活動に取り組んでいることが阿波踊り業界内で認知されてきているのだと感じた。	–	
128		【白山グリークラブ】越路小学校訪問2024	助言・指導 出演 実演	セミナー・ワークショップ	越路小学校	白山グリークラブ　越路小学校訪問2024	8/30～8/31	新潟県長岡市 越路小学校	小学生	越路小学校に訪問し、小学生の前で合唱を披露した。その後、小学校5年生に向けて、合唱指導を行った。合唱披露や合唱指導を通じて、越路小学校との交流を深めることができたと思う。	–	
129		【阿波踊り愛好会】第43回北浦和阿波おどり	出演 実演	フェスティバル	北浦和阿波おどり実行委員会	第43回　北浦和阿波おどり	9/14	北浦和駅西口	社会人・一般 市民団体	北浦和阿波踊りへ参加し、日頃の練習の成果を発揮したとともに、東洋連の活動に対する真摯さをアピールすることができた。	–	
130		【無料法律相談部】令和６年秋季朝霞市無料法律相談会	助言・指導 企画 運営参加・支援	その他	東洋大学無料法律相談部	令和６年秋季朝霞市無料法律相談会	10/5	朝霞市産業文化センター	社会人・一般	朝霞市産業文化センターにおいて、無料法律相談会を開催し、社会貢献に繋がった。また、日々の法律知識を活かすことのできた有意義な活動となった。	–	
131		【大道芸サークルPastime白山支部】赤羽区民まつりでのボランティア	出演 実演	フェスティバル	北区町会自治会連合会・北区青少年地区委員会	赤羽区民まつり	10/5	赤羽公園	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	赤羽区民まつりにて、赤羽警察署生活安全課のブースで、バルーンアートを作成、配布した。また、警察署の皆さんに、犬や剣などの、簡単なバルーンアートの作り方を教えさせて頂いた。警察署の皆さんはとても優しく、楽しく話しながらバルーンアートを作った。また、バルーンを配ると、子どもたちや大人の人も、喜んだり驚いたりして下さった。このような活動を通して、お祭りを盛り上げ、地域との連携を深めることができたと考える。また、日頃の練習の成果も十分に発揮することができた。	–	
132		【大道芸サークルPastime白山支部】赤羽児童館「ばねっ子まつり」でのボランティア	出演 実演	フェスティバル	赤羽児童館	赤羽児童館「ばねっ子まつり」	10/26	赤羽公園	幼稚園以下	赤羽の「ばねっ子まつり」において、子どもたちにバルーンアートを配布した。赤羽児童館の皆さんや地元の高校生の皆さんが手伝いに来てくださったので、バルーンアートの作り方を教えるなどして交流することができた。 その結果、イベントを盛り上げ、地域振興に貢献することができたと考える。また、日々の練習の成果も発揮することができた。	–	
133		【管弦楽団】東洋大学管弦楽団ファミリーコンサート2024	出演 実演	フェスティバル	東洋大学管弦楽団	東洋大学管弦楽団ファミリーコンサート2024	10/20	埼玉県朝霞市立朝霞第十小学校	小学生	ファミリーコンサートを通じて、地域の方との交流を深められ、クラシック音楽だけでなく、ジブリなど幅広く知ってもらうことができた。	–	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
134	学生支援課	【大道芸サークルPastime白山支部】川越市北山田育成会主催のクリスマス会での公演	出演 実演	フェスティバル	川越市北山田育成会	川越市北山田育成会のクリスマス会	12/4	北部地域ふれあいセンター	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	川越市北山田育成会主催のクリスマス会でジャグリングの演技とバルーンアート教室を行いました。イベントには大人と子ども合わせて120名以上の方々がお越しになり、とても盛り上がりました。ジャグリングの演技では、日頃の練習の成果を発揮でき、たくさんの拍手を頂けました。また、バルーンアート教室は初めての試みでしたが、みんなで話しながら楽しく作品を作ることができたので良かったです。結果として、イベントを盛り上げ、川越市の地域振興に微力ながら貢献できたのではないかと考えております。	—	
135		【阿波踊り愛好会】南越谷アンコール阿波踊り2024	出演 実演	フェスティバル	南越谷阿波踊り実行委員会 南越谷阿波踊り振興会	南越谷アンコール阿波踊り2024	9/28	南越谷駅前広場 サンシティ小ホール	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	南越谷アンコール阿波踊りへ参加し、日頃の練習の成果を発揮したとともに、東洋連の活動に対する真摯さをアピールすることができた。	—	
136		【管弦楽団】2025年度朝霞市成人の日の集い	出演 実演	フェスティバル	朝霞市役所	2025年朝霞市成人の日の集い	1/12～1/13	朝霞市民会館ゆめぱれす大ホール	大学生 社会人・一般 行政機関	朝霞市の成人式に演奏面で参加させていただき、地域の方々とともに、20歳の成人の日を祝福するお手伝いができた。	—	
137		【無料法律相談部】冬季常総市無料法律相談会	助言・指導 企画 運営参加・支援	その他	東洋大学無料法律相談部	冬季常総市無料法律相談会	2/23	常総市生涯学習センター	社会人・一般	日々のカルテ練の成果を発揮し、法律相談を通した地域貢献活動という相談部の活動目標を達成することができた。	—	
138		【Luite】2024年度　文京区都市交流フェスタ	出演 実演	フェスティバル	文京区	2024年度文京区都市交流フェスタ	3/8	礫川公園(トラックステージ)と区民広場	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	2024年度文京区都市交流フェスタで全8曲のK-POPダンスを披露し、地域との連携を深め、K-POPの良さを広めるためることができた。また、日々の活動の成果を発揮することができた。	—	
139	川越事務部総務課	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 調査担当 その他	セミナー・ワークショップ	川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊（総合情報学科小瀬教授、川越事務部総務課職員が主体）	東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊	2014-現在まで	川越キャンパスこもれびの森	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 研究者 社会人・一般 市民団体 その他	一般市民、本学学生・教職員が協働で川越キャンパス内の森林保全活動を実施。 また、学外者を対象とした木工教室、学外での環境イベント出展等の活動を実施。	https://www.toyo.ac.jp/social/satoyama/ https://www.toyo.ac.jp/social/satoyama/toyo-komorebi-book/	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対　象	概　要	URL	SDGs
140	川越事務部教学課	川越オープン講座「ナノスケールのエレクトロニクス」を開催	講師 企画	講演会	理工学部	川越オープン講座「ナノスケールのエレクトロニクス」	5/24	オンライン	社会人・一般	「ナノスケールのエレクトロニクス」をテーマに、オープン講座をオンラインにて開催しました。オープン講座は、大学近隣市民の方々をはじめとして、多くの方々に各学部学科の取り組みなどを講義するイベントです。今回は、本学理工学部電気電子情報工学科の根岸良太教授が、半導体トランジスタの発明の歴史からはじまり、現在の性能やナノスケールのサイズに至るまで、どのような研究が繰り広げられてきたかについて講演されました。また、性能向上の限界を迎えつつある半導体トランジスタに代わる、次世代の電子素子(量子素子)の技術革新についても紹介しました。ご参加いただいた本講座の受講者からは、「半導体の歴史やコンピュータの概要がよく理解できました」「目に見えない世界があること、それを扱っている方々に尊敬の念をいだきました」等のご感想をいただきました。	https://sites.google.com/toyo.jp/sce/news/2024open	
141		川越大学間連携講座「しなやかな思考で自分の能力を伸ばす～グロースマインドセット～」開催	講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	講演会	川越市、東洋大学	川越大学間連携講座	6/1～6/22	ウェスタ川越、東洋大学川越キャンパス	小学生 中学生 高校生 大学生 保護者 社会人・一般	【日程】6月1日 【内容】ウェルネスとウェルビーイング 【講師】加藤千恵子　総合情報学部教授 【日程】6月8日 【内容】ウォーキングでウェルビーイング 【講師】加藤千恵子　総合情報学部教授 【日程】6月15日 【内容】ヨーガによるセルフケアマインド 【講師】村上里子　NPO法人ダイバーシティスクール理事 【日程】6月22日 【内容】自分で変える！しなやかマインドセット 【講師】加藤千恵子　総合情報学部教授 マインドセットとは、生まれ持った性質や、育ってきた中での教育や経験などから形成される思考様式です。それは信念や心構え、価値観や判断基準となります。グロースマインドセットとは、しなやかなマインドセットとも言われ、人間の基本的資質は努力しだいで伸ばす(グロース)ことができる、だれでもみな大きく伸びていけるという信念です。うまくいかないときに粘り強い頑張りをみせる、もしくは「私はこの世で一番不幸」と思ってしまう、さてあなたはどちらでしょうか？マインドセットが変われば努力の意味も変わります。すべての世代で体験できるグロースマインドセットを、取り入れやすい方法も用いながら学びます。	https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kurashi/bunka/1003407/1014961.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
142	川越事務部教学課	川越キャンパス「サマースクール2024」を開催	講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	理工学部、総合情報学部、川越教学課、社会貢献センター	川越キャンパス「サマースクール2024」	7/13	東洋大学川越キャンパス	小学生	理工学部および総合情報学部は、2024年7月13日(土)、川越キャンパスにおいて「サマースクール2024」(生涯学習ステーション協賛)を開催しました。 この取り組みは、川越市および近隣の小学生に実験や工作を通じて、工学やものづくりへの関心を育んでもらうことを目的とした企画になります。 今回は、理工学部機械工学科・藤松信義准教授による「飛び出せ宇宙へ！ロケット体験講座」、理工学部応用化学科・佐藤総一教授による「体験！化学実験～何ができるかな？～」、理工学部建築学科・香取慶一教授と理工学部建築学科・李文聰准教授による「速硬コンクリートでオブジェを作る」、総合情報学部総合情報学科・小瀬博之教授による「『キャンパスの森』で夜の生きもの観察」の4つのコースを開講し、約100名の子ども達がキャンパスを賑わせました。 それぞれのコースでは、教員に加えて本学学生がサポート役を務めました。 また、参加者の保護者からは「なかなか訪れる機会がない大学のキャンパスで、自分で考えて工作したり、実験してみたりと子どもにとって貴重な経験になった。」という感想もいただき、盛況のうちに終了しました。 川越キャンパスでは、今後も一般の方を対象としたオープン講座のほか、小学生を対象としたサマースクールなどを開催予定です。	https://sites.google.com/toyo.jp/sce/news/%E5%B7%9D%E8%B6%8A%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9%E3%82%B5%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%82%AF%E3%83%BC%E3%83%AB2024%E3%82%92%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F?authuser=0	
143		理工学部建築学科が新宿パークタワーにおいて『卒業設計展』を開催	コメンテーター 講師 助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援	その他	理工学部建築学科	理工学部建築学科『2024年度卒業設計展』	2/9～2/12	新宿パークタワー 1F アトリウム	高校生 大学生 教育関係者 保護者 社会人・一般	■卒業設計展 会　期：2025年2月9日(日) ～2月12日(水) 主　催：東洋大学理工学部建築学科 ■公開講評会 日　時：2025年2月11日(火) コメンテーター：工藤和美、日色真帆、伊藤暁、篠崎正彦(以上建築学科教員) ゲスト：森田祥子氏 (MARU。architecture共同主催) 定　員：100名 本展は2024年度卒業生による卒業設計優秀作品展で、会場に図面と模型を展示します。併せて、理工学研究科建築学専攻修了生による修士設計作品展示、2月11日(火)にはゲストに森田祥子氏(MARU。architecture共同主催)を迎えた講評会を開催。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250125-16855.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
144	川越事務部教学課	総合情報学部・中野雅史ゼミが川越市長とのタウンミーティングを実施	助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援	対話型集会・市民会議	川越市	令和６年度 第１回　川合市長と語り合うタウンミーティング	7/29	東洋大学川越キャンパス	大学生 社会人・一般 行政機関	2024年7月29日(月)、東洋大学川越キャンパス(埼玉県川越市)にて総合情報学部の中野雅史ゼミが川越市長・川合善明氏とのタウンミーティングを行いました。タウンミーティングは、市長と市民が直接対話を行い、市民の要望・意見を聴くとともに、市政に関する情報を提供することにより、市民の立場に立った公正・公平な市政運営に資することを目的に川越市が開催している事業です。 中野雅史教授は、AI監査論を中心とし、会計学・監査論、企業経営、ITマネジメント・ITガバナンスの諸分野を専門としており、今回のタウンミーティングでは以下の4つをテーマにミーティングを行いました。 「高齢者デジタルデバイド対策」 「川越市のデジタル化(AIシステム含む)の導入状況と今後の展開」 「川越市における次世代のデジタル教育(⇒小中高生へのプログラミング教育)の現状と今後の展開」 「川越市における国際交流の活性化を含めた留学生への支援状況」 当日はテーマに関する学生からのプレゼンテーションをもとに川合市長ほか、市の幹部の方々と活発な討議が行われました。出席した学生からの感想は、以下のとおりです。 「市長と直接お話できる機会を設けていただき、非常に貴重な経験となりました」 「インターネット等のオンライン情報だけではわからず、実際に議論することで発見したことが非常に多くありました」 「市長をはじめ市の幹部の方々の考え方やご意見を知り、知見を広げることができました」 「市長や市の幹部の方々との対話は自分の研究にも活かすことができ、とても刺激的でした」 これらの感想に示されているとおり、大変充実した有意義なタウンミーティングとなりました。	https://sites.google.com/toyo.jp/isa/news/20240729_%E5%B7%9D%E8%B6%8A%E5%B8%82%E3%82%BF%E3%82%A6%E3%83%B3%E3%83%9F%E3%83%BC%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%82%B0	11
145	図書事務課（白山）	近隣区民への白山図書館開放	その他	その他	白山図書館	近隣区民への白山図書館開放	4/1～3/31	白山図書館	社会人・一般	利用対象：文京区・板橋区・北区内在住の満18歳以上の社会人の方(学生・受験生を除く) 利用期間：学生夏季休暇および春季休暇中 入館手続き：上記利用対象区立図書館発行の「東洋大学附属図書館白山図書館閲覧証」を図書館入口で提示および記帳 利用サービス：図書館資料(冊子体)の館内閲覧、OPAC(蔵書検索システム)での所蔵検索、閲覧席の利用、著作権範囲内における図書館資料の複写(館内コピー機利用)	https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/others#h.elwxosyhvm2e https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/others#h.utdijk2xr66t https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/others#h.4tdwlh2xm29w	4
146		附属高校生への白山図書館及び赤羽台図書館開放	その他	その他	白山図書館・赤羽台図書館	附属高等学校生への白山図書館及び赤羽台図書館開放	8/1～3/31	白山図書館・赤羽台図書館	高校生	利用対象：附属高校生 利用期間：通年(ただし、7月・1月は利用不可) 入館手続き：身分証明書・東洋大学附属図書館利用カード提示 利用サービス：図書館資料(冊子体)の館内閲覧、OPAC(蔵書検索システム)での所蔵検索、閲覧席の利用、著作権範囲内における図書館資料の複写(館内コピー機利用)、図書館資料(冊子体)の館外貸出	https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/others#h.kfnl842w7cvf	4

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対　象	概　要	URL	SDGs
147	図書事務課（白山）	近隣中学・高校生への白山図書館開放	その他	その他	白山図書館	近隣中学・高校生への白山図書館開放	8/1～3/31	白山図書館	中学生 高校生	利用対象：近隣中学・高校生（京華中学・高等学校、京華商業高等学校、京華女子中学・高等学校、駒込高等学校、広尾学園小石川中学校・高等学校） 利用期間：通年（ただし、7月・1月は利用不可） 入館手続き：身分証明書・東洋大学附属図書館入館カード提示 利用サービス：図書館資料（冊子体）の館内閲覧、OPAC（蔵書検索システム）での所蔵検索、閲覧席の利用、著作権範囲内における図書館資料の複写（館内コピー機利用）	https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/others#h.37w6zdkxtb0l	
148		『東洋大学附属図書館 貴重書デジタルアーカイブ』の公開	その他	その他	白山図書館	『東洋大学附属図書館 貴重書デジタルアーカイブ』の公開	4/1～3/31	白山図書館	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及びそれに準じる資料をデジタルアーカイブ化し、『東洋大学附属図書館 貴重書デジタルアーカイブ』にて順次公開している。	https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000604kichosho	
149		国文学研究資料館「国書データベース」での本学所蔵古典籍の画像公開	その他	その他	白山図書館	国文学研究資料館「国書データベース」での本学所蔵古典籍の画像公開	2024/3/27～2025/3/31	白山図書館	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館は、国文学研究資料館のプロジェクト「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」と連携し、2024年3月27日（水）より「国書データベース」にて本学所蔵の古典籍の画像公開を開始した。 対象は「哲学堂文庫」「百人一首コレクション」「吉田幸一旧蔵書（古典文庫）」で、今後順次公開予定。	https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/images/2024327_release.pdf https://kokusho.nijl.ac.jp/page/list-toyodaitetsugakudo.html https://kokusho.nijl.ac.jp/page/list-toyodaihyakuninisshu.html	
150		貴重書及びそれに準じる資料の掲載・放映	その他	その他	白山図書館	貴重書及びそれに準じる資料の掲載・放映	4/1～3/31	白山図書館	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学附属図書館で所蔵する貴重書及びそれに準じる資料の画像データ等を提供し、外部機関での出版物刊行及びテレビ放映において利用された。 ■刊行物への掲載 ・「稲生物怪録 ： 時空を超える物語 ： 稲生平太郎生誕290周年 ： 令和6年度開館5周年記念企画展」／湯本豪一記念日本妖怪博物館（掲載資料『稲亭物怪録』） ・「東洋大学井上円了記念博物館　特別展「おばけと円了　－季節はずれの幽霊画展－」」／東洋大学井上円了記念博物館（掲載資料『妖怪学雑誌』） ■テレビ放映 ・「「3か月でマスターする江戸時代」第5回　華やかな「元禄文化」はどのように生まれた？」／NHK・Eテレ（掲載資料『好色一代男』『日本永代蔵』）	—	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
151	図書事務課（川越）	近隣地域市民への川越図書館開放	その他	その他	川越図書館	近隣地域市民への川越図書館開放	4/1～3/31	川越図書館	中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	川越市立図書館・鶴ヶ島市立図書館・坂戸市立図書館の利用証（利用カード）を 登録している３市に在住、または在勤・在学している中学生以上を対象に閲覧利用を認めている。	https://www.toyo.ac.jp/library/guidance/gakugai/	
152	図書事務課（朝霞）	近隣地域市民への朝霞図書館開放	その他	その他	朝霞図書館	近隣地域市民への朝霞図書館開放	8/3-9/19 2/1-3/31	朝霞図書館	中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	朝霞市・志木市・新座市・和光市に在住または在勤・在学している中学生以上の方を対象として閲覧利用を許可している。 利用可能期間は、学生夏季休暇および春季休暇中の開館日（2024年度は8/3-9/19、2025年2/1-3/31） ・館外貸出：不可 ・館内コピー機の利用：図書館資料の複写可（著作権範囲内のみ）	https://sites.google.com/toyo.jp/library/use/others#h.7tox0r94mu2	
153	図書事務課（赤羽台）	北区区民への赤羽台図書館開放	その他	その他	赤羽台図書館	北区区民への赤羽台図書館開放	4/1～3/31	赤羽台図書館	社会人・一般	北区内在住の満18歳以上の社会人（学生、受講生を除く）で北区立図書館の利用登録者に対して、長期休暇期間に図書館を開放している。 2024年度は以下の日程。 　2024年8月5日（月）～2024年9月19日（木） 　2025年2月３日（月）～2025年3月31日（月）	https://sites.google.com/toyo.jp/akabanedai library/	
154		北区区民への「こども図書館『えーる』」開放	その他	その他	赤羽台図書館	北区区民への「こども図書館『えーる』」開放	4/1～3/31	赤羽台図書館	幼稚園以下 保護者	北区内在住の未就学児とその保護者で、保護者が北区立図書館の利用登録者に対して、通年で「こども図書館『えーる』」を開放している。 （7月・1月の学生の試験期を除く）	https://sites.google.com/toyo.jp/akabanedai library/ https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1651526500120956931	
155		菊地章太館長特別講演会「パリへ行こう！～オリンピックの舞台へ～」	講師 企画 運営参加・支援 その他	講演会	赤羽台図書館	菊地章太館長特別講演会「パリへ行こう！～オリンピックの舞台へ～」	6/24	赤羽台図書館	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	パリオリンピックで歴史ある街並みを活かした競技会場が話題になったことにちなみ、フランスの街々を映像と音楽で楽しむ企画。5月末に現地を訪れた菊地館長による最新情報も盛り込まれた。	https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1800332885104435707	
156		おとなの読書会《あかばねだい絵本ラウンジ》	企画 運営参加・支援 その他	その他	赤羽台図書館	おとなの読書会《あかばねだい絵本ラウンジ》	第3回：7/22 第4回：2/27	赤羽台図書館	大学生 大学院生 教育関係者 社会人・一般	絵本への大人の関心の高まりが社会的にに注目されていることから、対象を北区民、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟大学在学生、本学学生・教職員とその家族（いずれも18歳以上）とする絵本の読書会を開催した。 参加者は思い思いに絵本の読み聞かせを行い、絵本への思い入れや作品にまつわる知識などを語り合った。 2024年度は下記の日程で2回実施。 　第3回　夕凪の部（2024年7月22日） 　第4回　春告の部（2025年2月27日）	https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1806127823910031516 https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1882621550807089360	
157		映画上映会 & 監督トークイベント「1/10 Fukushimaをきいてみる2023」	企画 運営参加・支援 その他	その他	赤羽台図書館	映画上映会 & 監督トークイベント「1/10 Fukushimaをきいてみる2023」	11/12	赤羽台図書館	大学生 大学院生 教育関係者 社会人・一般	福島の被災地に住む人、関わる人に話を聞くドキュメンタリー映画の上映会。2013年から毎年1本が制作され、今作がシリーズの最終作。上映後、監督の古波津陽氏とオンラインでつなぎ、会場の学生と双方向でのトークや質疑応答を行った。 また、上映会に合わせて、福島関連の資料展示も実施した。	https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1842111789691240775 https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1842111792224600083 https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1842111793965236523	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
158	図書事務課（赤羽台）	演奏＆講演会「西洋楽器のタベⅡ」	企画 運営参加・支援 その他	その他	赤羽台図書館	演奏＆講演会「西洋楽器のタベⅡ」	12/17	赤羽台図書館	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 社会人・一般	赤羽台図書館長、菊地章太教授による西洋楽器の演奏会を実施した。映像資料を流しながらそれぞれの楽器の歴史的背景や文化についての解説も行った。また、楽器に関する資料の展示も同時に開催した。昨年大好評だった「西洋楽器の夕べ」第2弾。	https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1871066921086726407	
159		東洋大学「読書サポート犬」プログラム　わんわん読書タイム	助言・指導 企画 運営参加・支援 その他	その他	赤羽台図書館 ＆ 人間科学総合研究所	東洋大学「読書サポート犬」プログラム　わんわん読書タイム	1/11	赤羽台図書館	小学生 保護者 市民団体	学齢期の子どもたちに寄り添い、安心して楽しい読書を体験してもらうための取り組み。公益社団法人日本動物病院協会(Japanese Animal Hospital Association、以下JAHA)が定めるセラピードッグとしての基準を満たした犬と獣医師や飼い主を含むボランティアスタッフにより進められ、子どもに向けて犬についてのレクチャーを行った後、飼い主が見守るそばで犬と子どもとが1対1で向き合い、犬への読み聞かせを楽しむ。 JAHAによるこの取り組みが大学で本格的に実施されたのは本学が初。公共図書館で開催する際にはJAHAのボランティアが務める運営スタッフの役割を本学の学生ボランティアが担い、学生ならではの提案を組み込んだ独自プログラムとなった。参加する子どもの募集については北区の子ども食堂、社会福祉協議会および社会福祉学科教員の協力を得た。	https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1876466425415754092 https://x.com/TOYOLibrary_asa/status/1893121559226876122	
160	井上円了哲学センター	井上円了記念博物館　常設展示	情報提供 企画 その他	施設一般公開	井上円了哲学センター	井上円了記念博物館　常設展示	4/1～3/31	東洋大学井上円了記念博物館	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 その他	当館では、「井上円了　その生涯と教育活動」のテーマのもと、常設展示を行い、教育者としての側面から円了の業績を紹介しています。当館の展示が、東洋大学の歴史の原点を振り返り、創立者・井上円了の活動と理念について理解を深める一助となれば幸いです。 ◆展示構成 1．生い立ちから青年期 2．哲学館の創立と発展 3．哲学堂の設立と社会教育への挑戦 4．南船北馬の日々 井上円了の晩年 ロビー展示コーナー（5号館エントランスホール側） 明治時代から現代にいたる東洋大学の歴史を、グラフィック展示とスライドショーによりダイジェストで紹介しています。 常設展「井上円了　その生涯と教育活動」とあわせて、ぜひ、ご覧ください。 塩川正十郎記念展示コーナー（5号館エントランスホール側） 平成27年度は、当館が開館してから数えてちょうど10年目にあたります。この節目の年に、「塩川正十郎記念展示コーナー」が、当館の一画に新しくオープンしました。「塩川正十郎記念展示コーナー」では、胸像と写真、著書を展示することで、塩川先生の顕彰を行います。	https://www.toyo.ac.jp/about/founder/iecp/museum/https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/permanent	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
161	井上円了哲学センター	井上円了考案ボードゲーム「哲学飛将碁」の解説動画、解説Ｗｅｂページを公開	助言・指導 情報提供 企画 運営参加・支援 実演 その他	インターネット	井上円了哲学センター	井上円了考案ボードゲーム「哲学飛将碁」の解説動画、解説Ｗｅｂページを公開	2023/4/3～現在まで	YouTube®「東洋大学toyouniv」Web page	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 その他	井上円了が哲学教育のために作成したボードゲーム「哲学飛将碁」の解説動画と解説Webページを公開しました。 動画は前編と後編に分かれ、天理大学・岡田正彦教授や、本学経営学部・関勝寿教授と将棋研究会の学生らが登場し、哲学飛将碁のルールやゲームとしての面白さについて解説しています。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-game	
162		特別展「鉄道は哲学者を乗せてゆく―東洋大学創立者・井上円了の講演旅行―」図録公開	情報提供 寄稿 その他	インターネット	井上円了哲学センター	特別展「鉄道は哲学者を乗せてゆく―東洋大学創立者・井上円了の講演旅行―」図録公開	2023/4/5～現在まで	Web page	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	井上円了記念博物館にて、2022年10月14日（金）～12月23日（金）に開催していた鉄道開業150周年記念特別展「鉄道は哲学者を乗せてゆく―東洋大学創立者・井上円了の講演旅行―」の図録が、東洋大学アジア文化研究所のWEBページにて公開されました。当館学芸員による展示資料の解説と、アジア文化研究所研究員の研究成果が一冊にまとまっています。	https://www.toyo.ac.jp/news/about_founder_iecp_social-partnership_museum_20230404.html	
163		湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）に井上円了の写真を提供	情報提供 その他	その他	湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）	湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）常設展	5/9～8/27	湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）Webページ	行政機関	広島県三次市の湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次もののけミュージアム）の常設展にて、同館所蔵の井上円了の書幅「妖怪の正体見れば我こころ」を出品。作品とともに、井上円了記念博物館から提供した井上円了の顔写真も、展示。		
164		『東洋大学百年史』の「通史編Ⅰ」と「通史編Ⅱ」を電子ブック化	情報提供 その他	インターネット	井上円了哲学センター	『東洋大学百年史』の「通史編Ⅰ」と「通史編Ⅱ」を電子ブック化	5/30～現在まで	『東洋大学百年史』「通史編Ⅰ」「通史編Ⅱ」電子ブック	メディア	『東洋大学百年史』は、1993（平成5）年から1995（平成7）年までに順次発行した全8編（全8冊）の東洋大学史の記録です。 この8編のうち「通史編Ⅰ」「通史編Ⅱ」を電子ブック化しました。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshirase/%E6%B9%AF%E6%9C%AC%E8%B1%AA%E4%B8%80%E8%A8%98%E5%BF%B5%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%A6%96%E6%80%AA%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A4%A8%E4%B8%89%E6%AC%A1%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%AE%E3%81%91%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%83%A0%E3%81%AB%E4%BA%95%E4%B8%8A%E5%86%86%E4%BA%86%E3%81%AE%E5%86%99%E7%9C%9F%E3%82%92%E6%8F%90%E4%BE%9B?authuser=0 https://miyoshi-mononoke.jp/	
165		東洋大学史ブックレット全15巻をWeb公開	情報提供 その他	インターネット	井上円了哲学センター	東洋大学史ブックレット全15巻をWeb公開	2023/5/29～現在まで	東洋大学史ブックレット	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	東洋大学史ブックレット全15巻をWeb公開しました。 このブックレットは、2012（平成24）年の創立125周年に制作し、井上円了や東洋大学史を分かり易く紹介した冊子です。 先人達の本学への情熱、数々の苦難を乗り越えた本学の歴史等を感じてください。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-publication/publications/centerpub/Toyo-University-history-booklet	
166		東洋大学京北高等学校「学祖の日」に北田建二学芸員が講演	講師	講演会	東洋大学京北高等学校 井上円了哲学センター	東洋大学京北高等学校「学祖の日」	6/1	東洋大学京北高等学校	高校生	東洋大学京北高等学校では「学祖の日」として、1年生を対象に井上円了について学ぶ機会を設けております。 この度、井上円了記念博物館の北田建二学芸員による講演が行われました。 本講演会では、円了の生い立ちや功績について、そして彼が遺した数々の博物館資料を豊富な資料画像を用いて紹介しました。また、秋に予定している円了の収集した幽霊画と企画展についても紹介しました。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshirase/20240601?authuser=0	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
167	井上円了哲学センター	越路円了会創立35周年記念「井上円了文化講演会」に長谷川琢哉教授が講演	講師 情報提供 企画 運営参加・支援 実演	講演会	主催：越路円了会 共催：東洋大学 井上円了哲学センター 後援：長岡市、こしじコミュニティ推進会議、長岡高校同窓会	越路円了会創立35周年記念「井上円了文化講演会」	6/2	越路総合福祉センターレクリエーション室	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 その他	新潟県長岡市にある越路総合福祉センターにて越路円了会創立35周年記念井上円了文化講演会が開催されました。本講演会の主催は越路円了会で共催として井上円了哲学センターも参加しています。講演会では東洋大学法学部長谷川琢哉教授が「マンガ『円了』に描かれた長岡」と題し講演を行いました。長谷川先生の講演では（現在の新潟県長岡市）浦の慈光寺で生まれた円了が長岡で過ごした時代を振り返り解説しています。円了は浦の隣村片貝村の石黒塾や長岡洋学校（現長岡高校）で学び、京都、東京と日本に世界に羽ばたいていきます。現在、東洋大学では井上円了を描いたマンガ『円了』を制作し、順次発表しています。今回の講演会では、マンガ『円了』第１話と第２話を紹介しながら、長岡で過ごした井上円了の少年期・青年期を詳細に解説しました。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshirase/%E8%B6%8A%E8%B7%AF%E5%86%86%E4%BA%86%E4%BC%9A%E5%89%B5%E7%AB%8B%E5%91%A8%E5%B9%B4%E8%A8%98%E5%BF%B5%E4%BA%95%E4%B8%8A%E5%86%86%E4%BA%86%E6%96%87%E5%8C%96%E8%AC%9B%E6%BC%94%E4%BC%9A%E3%81%A7%E8%AC%9B%E6%BC%94%E3%82%92%E8%A1%8C%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F	
168		新潟県長岡市立越路小学校円了学習	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演 その他	講演会	井上円了哲学センター	越路小in東洋大学　2024年度	7/4	東洋大学白山キャンパス スカイホール、井上円了記念博物館、井上円了像	小学生	創立者井上円了の生誕の地である新潟県長岡市の越路小学校から6年生102名が「円了学習」の一環として、白山キャンパスを訪れました。越路小学校の円了学習とは、「総合的な学習の時間」に児童が郷土の偉人である井上円了について探究する活動です。毎年、修学旅行時に東洋大学白山キャンパスを訪問し、円了に関する学習を深めています。大学を代表して矢口学長から、頌徳碑を毎年清掃していただいている越路小学校の皆さんへお礼と歓迎の言葉が述べられました。さらに、妖怪博士にまつわる学長自身の体験談も交えてご挨拶をされました。学長の挨拶の後、公認サークル「白山グリークラブ」による歓迎の合唱が行われ、「翼をください」、「小さな恋のうた」、「BELIEVE」の3曲が披露されました。続いて、越路小学校の出身である長谷川琢哉教授から、井上円了についての講話「井上円了と哲学を学ぶ理由―哲学者・井上円了は、なぜ妖怪博士でもあるのか―」がありました。講話ではマンガ「円了」の紹介と妖怪博士としての一面、そして自ら考えることの大切さにフォーカスした内容が展開され、児童たちは持参したワークシートに熱心にメモを取っていました。長谷川教授は哲学の基本概念から井上円了の功績まで幅広く紹介し、児童たちの理解を深めました。講話終了後には児童から多数の質問が寄せられ、予定の時間を超えるほどの盛況ぶりでした。その後、クラスごとに分かれて井上円了記念博物館を見学し、甫水の森にある井上円了像で記念写真を撮影しました。全てのプログラムを終え、児童たちは充実した表情でキャンパスを後にしました。この訪問を通じて、越路小学校の児童たちは郷土の偉人である井上円了への理解を深め、東洋大学の歴史と現在の姿を直接体験する貴重な機会となりました。井上円了哲学センターでは今後も、このような教育交流を通じて、地域と大学の絆をさらに強めるよう尽力して参ります。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-oshirase/%E9%95%B7%E5%B2%A1%E5%B8%82%E7%AB%8B%E8%B6%8A%E8%B7%AF%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E3%81%AE%E5%B9%B4%E7%949F102%E5%90%8D%E3%81%8C%E5%86%86%E4%BA%86%E5%AD%A6%E7%BF%92%E3%81%A7%E6%9C%AC%E5%AD%A6%E3%81%AB%E6%9D%A5%E6%A0%A1%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
169	井上円了哲学センター	特別展「おばけと円了ー季節はずれの幽霊画展ー」	情報提供 企画 その他	施設一般公開	井上円了記念博物館	特別展「おばけと円了ー季節はずれの幽霊画展ー」	10/15～ 12/21	東洋大学井上円了記念博物館 展示室・展示ロビー	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 その他	「おばけ」とは、化け物や幽霊を指す言葉です。東洋大学の創立者で哲学者の井上円了は、おばけを含む、この世でありとあらゆる不思議とされる存在や事象を「妖怪」と呼び、研究の対象としました。本展では、妖怪研究を行うなかで円了が出会った幽霊画を展示します。これらの作品・資料を通して、円了は、おばけとどう対峙したのでしょうか。ぜひ、展示でご確認ください。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-museum/special/20241015?authuser=0	
170		マンガ「円了」展 －哲学者の胎動－「妖怪博士」と呼ばれた哲学者・井上円了の青春物語	情報提供 企画 その他	施設一般公開	井上円了哲学センター	マンガ「円了」展 －哲学者の胎動－	10/28～ 12/16	東洋大学白山キャンパス 5号館1階 四聖像前	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 その他	東洋大学の創立者であり、「妖怪博士」として知られる井上円了。その波乱に満ちた青春時代を描いたマンガ「円了」の世界に没入してみませんか。 本展示会では：製作関係者インタビュー、貴重な関連資料、詳細な解説パネルなどを通じて、明治という激動の時代に生きた一人の青年の姿を、マンガならではの魅力的な表現で紹介します。西洋の知識を学びながらも、日本の伝統的な思想との調和を目指した円了の思索の軌跡。その生涯の原点となる青春期に焦点を当て、新しい視点から井上円了の魅力に迫ります。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-manga/manga/%E3%83%9E%E3%83%B3%E3%82%AC%E5%86%86%E4%BA%86%E5%B1%95	
171		2024年度哲学堂祭を挙行	講師 その他	フェスティバル	井上円了哲学センター	2024年度哲学堂祭	11/2	蓮華寺、哲学堂公園	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 その他	哲学堂祭は、哲学の普及を願った創立者・井上円了先生の遺言にもとづき、毎年11月の第1土曜日に東京都中野区哲学堂公園において、一般公開で開催しています。 蓮華寺での墓前祭ののち、哲学堂公園で記念講演会が行われます。講演会では、円了先生が哲学の始祖として定めた孔子、釈迦、ソクラテス、カントの「四聖」を毎年順番に取り上げています。 円了先生は、式典の開催時期や会場、提供する飲み物などを遺言書で定めており、参加者のために甘酒、珈琲、紅茶が用意されています。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241105-16173.html https://www.toyo.ac.jp/about/founder/iecp/ceremony/	―
172		「井上円了が志したものとは」作品募集	編集 企画 その他	その他	井上円了哲学センター	「井上円了が志したものとは」作品募集	4/27～ 7/15	2024年度『井上円了が志したものとは』	高校生 大学生 大学院生 社会人・一般	井上円了の大いなる志はどのようなものであったのか、井上円了の教育理念等を中心に探求し、それを現在の自らの生き方に照らして、いかに活かしていくかを考え、文章にまとめ表現した作品を募集します。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-edu/KOKOROZASHITAMONO?authuser=0	
173		創立者・井上円了先生の人生を綴った：マンガ『円了』	編集 情報提供 企画 寄稿 その他	インターネット	井上円了哲学センター	創立者・井上円了先生の人生を綴った：マンガ『円了』	2023/4/1～ 2025/2/7	マンガ『円了』	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	東洋大学創立者である井上円了の人生をマンガ化しました。井上円了は日本の哲学者の先駆けであり、また教育者・仏教者などの幅広い顔を持ち、チャレンジ精神を持って生きてきた姿をマンガで描き伝えます。激動の幕末から明治の時代を生きた円了がどのように成長し、何を思い哲学館を開設したのか。この機会に井上円了をより知っていただけたら幸いです。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-manga	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対　象	概　要	URL	SDGs
174	井上円了哲学センター	哲学堂公園の歩き方－井上円了が教える心を磨く精神修養－	講師 助言・指導 情報提供 企画 実演	インターネット	井上円了哲学センター	哲学堂公園の歩き方－井上円了が教える心を磨く精神修養－	2024/2/26～現在まで	YouTube®「東洋大学 toyouniv」Web page	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	公園の独創的な建築と自然美を背景に、井上円了の深遠な思想とその実践の場である哲学堂公園を動画で紹介します。哲学堂公園は、独特な形の古建築が有名ですが、実は「精神修養的公園」としての独自のコンセプトに基づき設計されました。訪れる人々は、円了が意図した順路を辿ることで、精神修養が叶うように設計されています。井上円了哲学センターの長谷川 琢哉先生が案内役となり、公園内の重要なポイントを巡りながら、その場所ごとに秘められた意味や背景について解説します。また、哲学的概念や用語が初学者にも理解しやすいように丁寧に説明されており、哲学への興味を深めるきっかけを提供します。この動画を通じて、円了が哲学堂公園に込めた思いと精神修養を体験し、円了の思想に触れる機会を得ていただければと願います。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-social partnership/tetsugakudo?authuser=0 https://www.tetsugakudo.jp/	
175		『CATALOG 井上円了』Web公開	情報提供 その他	インターネット	井上円了哲学センター	『CATALOG 井上円了』Web公開	2023/12/15～現在まで	『CATALOG 井上円了』	中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般	この冊子は、井上円了没後100周年記念図録として、円了関連資料を選別したもので、学内外を問わず、幅広い分野の研究者が解説したものである。	https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-publication/publications/centerpub/CATALOG?authuser=0	
176	TOYOスポーツセンター	バスケットボール大学対抗戦で東京都北区を盛り上げる「THE NORTH TOKYO DERBY」を開催	助言・指導 企画 運営参加・支援 実演 その他	施設一般公開	主催：TOYOスポーツセンター 共催：城北信用金庫、㈱五十嵐商会、㈱なとり、田口絢子税理士事務所 協力：越野建設㈱、オリンピア興業㈱、ショッピングセンタービビオ 後援：東京都北区	THE NORTH TOKYO DERBY	7/21	東洋大学赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3 アリーナ	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関 その他	東京都北区にキャンパスを置く本学バスケットボール部（男子）と、東京成徳大学男子バスケットボール部の対抗戦を学生たちが企画・運営して街ぐるみで盛り上げる「THE NORTH TOKYO DERBY」を昨年に引き続き開催しました。開催に際して、城北信用金庫、㈱五十嵐商会、㈱なとり、田口絢子税理士事務所の共催、越野建設㈱、オリンピア興業㈱、ショッピングセンタービビオの協力とともに、東京都北区からの後援がありました。 このイベントは、TOYOスポーツセンターが主催となり、本学健康スポーツ科学部谷塚哲講師のゼミ生、国際観光学部中挟教授のゼミ生および東京成徳大学の学生有志が運営、ならびに、本学バスケットボール部（女子）の協力を得て、バスケットボールの試合を通じて、地域住民が大学を応援する文化を創出するとともに、大学生は地域と関わることで地域愛着心の醸成に繋がることを期待して、企画から運営まで行いました。 試合前には、北区で活動するキッズチアダンスチーム「Y．C ．D」の演技が披露されたほか、北区観光協会キャラクター「しぶさわくん」が登場し、場を盛り上げました。 対抗戦は、試合展開の実況とともに、各選手による素早く華麗なパス回しや、スリーポイントシュートが決まるたびに客席から大きな歓声が沸きました。結果は86対57で本学が勝利しました。また、観戦者の投票によって決まるMVP選手に、本学は佐藤星来選手、東京成徳大学はディアラオマール選手が選ばれました。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240730-15115.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
176	TOYOスポーツセンター	バスケットボール大学対抗戦で東京都北区を盛り上げる「THE NORTH TOKYO DERBY」を開催	助言・指導 企画 運営参加・支援 実演 その他	施設一般公開	主催：TOYOスポーツセンター 共催：城北信用金庫、㈱五十嵐商会、㈱なとり、田口絢子税理士事務所 協力：越野建設㈱、オリンピア興業㈱、ショッピングセンタービビオ 後援：東京都北区	THE NORTH TOKYO DERBY	7/21	東洋大学赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3 アリーナ	幼稚園以下 小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 企業 市民団体 行政機関 その他	観戦した方から『大学生の迫力あるプレーを観れて、とても楽しかったです。来年もぜひ観戦したいです。』といった感想が聞かれました。 【バスケットボール体験教室】 試合終了後、本学バスケットボール部(男子)、東京成徳大学男子バスケットボール部、本学バスケットボール部(女子)による「バスケットボール体験教室」を開催いたしました。本イベントは、参加者の皆様にバスケットボールの楽しさを体験していただくことを目的に、特にお子様を対象として実施されました。 体験教室では、大学生が1対1で指導する形で、ドリブル、パス、シュートの基本技術を各15分間ずつ教えるセッションを行いました。最後には、各バスケットボール部のキャプテンによるデモンストレーションが行われ、特に小学生以下では見る機会が少ないダンクシュートが披露されると、会場は大いに盛り上がりました。 参加したお子様たちからは「選手が大きくてびっくりした」、「大学生のお兄さん、お姉さんが優しく教えてくれた」「もっとバスケットボールが好きになった」などの感想が寄せられました。また、指導にあたった学生たちも「バスケットボールの楽しさを再認識することができた」、「子どもたちが楽しそうにしている姿に癒された」など、貴重な体験となったことを語ってくれました。 親御様からも多くの温かいお言葉をいただき、皆様に楽しんでいただけたことを嬉しく思います。今後もこのようなイベントを通じて、スポーツの魅力を広く伝えていきたいと考えております。	https://www.toyo.ac.jp/news/20240730-15115.html	
177		サッカー教室「TOYO UNIV SOCCER CLINIC in ASAKA」を開催	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	主催：サッカー部男子部門・女子部門 後援：朝霞市	サッカー教室「TOYO UNIV SOCCER CLINIC in ASAKA」	11/9	東洋大学朝霞キャンパス サッカーグラウンド	小学生 保護者 行政機関	埼玉県朝霞市に練習拠点を置くサッカー部男子部と女子部が、次世代のサッカー選手の育成を目的に朝霞市在住の小学生対象にしたサッカー教室を開催し、約60名の小学生が参加しました。 サッカー教室ではクラス分けをしドリブルやシュート練習などを行い、最後にミニゲームを実施しました。 サッカー教室の後には、サッカー部男子部門の公式戦にてエスコートキッズ入場も行いました。 参加した小学生からは「とっても楽しかった」「またやって欲しい」「東洋大学サッカー部のファンになった」などのコメントが寄せられました。 今後も東洋大学では、大学スポーツを通じて地域交流・社会貢献を行う活動を継続して実施していきます。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241114-16292.html https://toyo-footballclub.jp/mens/ https://toyo-footballclub.jp/womens/	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
178	TOYOスポーツセンター	【硬式野球部】小学生対象の野球教室「第2回ベースボールクリニック in 川越」を開催	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	硬式野球部	ベースボールクリニックin川越	12/7	東洋大学川越キャンパス野球場	小学生 保護者 行政機関 メディア	本学硬式野球部が川越キャンパスにて埼玉県の川越市・鶴ヶ島市在住の小学生の小学生を対象とした野球教室「第2回ベースボールクリニックin川越」を開催しました。 硬式野球部は練習拠点のある埼玉県川越市で、次世代の野球人育成を目的とした野球教室を開催し、今回は川越市・鶴ヶ島市在住の285名の小学生が参加しました。 野球教室には、プロ野球ドラフト会議で指名を受けた一條　力真選手、岩崎峻典選手も参加し、参加した小学生と一緒にピッチング、バッティング、守備の練習を行いました。 野球教室の最後には本学硬式野球部OBプロ野球選手のサイン入りグッズなどがプレゼントされました。 参加した小学生からは「楽しかった！」「みんな体がデカかった！」「フライの捕り方とかバッティングが勉強になった！」などのコメントが寄せられました。 また、一條　力真選手は次のように感想を述べています。 「僕が小学生のころを思い出しながら参加しました。ピッチングのデモンストレーションで、小学生たちから大きな歓声をもらえてとても嬉しかったです。この野球教室がきっかけとなり、参加した小学生たちが成長し、いつかプロ野球選手になってくれることを期待しています。」 今後も東洋大学では、大学スポーツを通じて地域交流・社会貢献を行う活動を継続して実施していきます。 引き続き、応援をお願いいたします。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241209-16574.html	
179		バスケットボール教室「TOYO UNIV basketball Academy 2024」を開催	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	主催：バスケットボール部女子部門 後援：東京都北区、北区バスケットボール連盟	バスケットボール教室「TOYO UNIV basketball Academy 2024」	11/9 11/10 12/21 12/22 1/11 1/12 2/15 2/23	東洋大学 赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3アリーナ	小学生 中学生 行政機関	今回は、北区および北区バスケットボール連盟の全面的な後援を受け、地域の子どもたちを対象に全8回にわたるバスケットボール教室を開催いたします。 このバスケットボール教室では、基本的な技術の習得から試合形式の実戦練習まで、楽しみながらバスケットボールを学ぶプログラムを提供します。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241018-15934.html	
180		田中映伍選手が茅ケ崎市立松林中学校で講演会	講師	講演会	茅ケ崎市立松林中学校	茅ケ崎市立松林中学校講演会	11/27	茅ケ崎市立松林中学校	中学生 教育関係者	パリパラリンピックで活躍したパラ水泳選手の田中映伍選手(本学福祉社会デザイン学部2年)が、地元である茅ケ崎市立松林中学校で講演を行いました。 講演のタイトル：「両腕がないことを武器に」 田中選手は、自身の生い立ちや水泳との向き合い方、パリパラリンピックでの経験を語り、生徒たちからは多くの質問が寄せられました。 「水泳をやめようと思ったことはありますか？」といった質問には、「何よりも水泳が好きだから続けられている」と笑顔で回答。生徒たちは田中選手の一言一言に熱心に耳を傾けていました。 さらに「ペットボトルの水を足で飲むのでみなさんもチャレンジしてみましょう」とデモンストレーションが行われ、聴講していた生徒達からは「身体が柔らかくないとできない」「凄い」と歓喜の声が上がっていました。 最後に田中選手は、「次の目標は世界選手権。そして4年後のロサンゼルスパラリンピックではメダルを目指します」と力強く語り、大きな拍手が送られました。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241129-16447.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
181	TOYOスポーツセンター	シンポジウム「共生と保育～東洋大学とパラ水泳連盟との 連携協定に基づく実践より～」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	講演会	主催：TOYOスポーツセンター 共催：日本パラ水泳連盟 後援：東京都北区	シンポジウム「共生と保育～東洋大学とパラ水泳連盟との 連携協定に基づく実践より～」	3/3	東洋大学 赤羽台キャンパス HELSPOホール、オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	本学は、2024年4月1日に一般社団法人日本パラ水泳連盟(以下、パラ水連という。)と連携協定を締結しました。 「相互の資源を活用することにより、人材育成及び学術の発展に寄与するとともに、活力ある共生社会の実現を図ること」との協定の目的に基づき、福祉社会デザイン学部の嶋﨑博嗣教授が中心となって、パラ水連、赤羽こども園・城東にこにこ保育園・嶋崎ゼミ生の5者連携により、「幼児とパラスイマーとの交流保育実践」をおよそ一年に渡り実施しました。 そして、2025年3月3日に本シンポジウムを開催。2024年度における交流保育の「意味」をそれぞれの立場から振り返るもので、本学教職員、本学学生、保育関係者、一般参加者などおよそ140名が聴講しました(うち40名オンライン参加)。 【シンポジウム登壇者】 保育実践の立場から 　石井正邦氏(赤羽幼稚園園長) 　岩田幸子氏(城東にこにこ保育園保育士／本学福祉社会デザイン研究科学生) 保護者の立場から 　東野千尋氏、細井美和氏(赤羽幼稚園保護者) 実践をサポートした学生の立場から 　稲飯柾人さん(本学ライフデザイン学部学生) パラスイマーの立場から 　田中映伍さん(本学福祉社会デザイン学部学生／パリ2024パラリンピック競技大会出場) 日本パラ水泳連盟の立場から 　岸本太一氏(日本パラ水泳連盟専任コーチ) 協定大学の立場から 　嶋﨑博嗣教授(本学福祉社会デザイン学部) 登壇者たちは、パラスイマーの田中さんらが幼稚園に出向き、実際に幼児と触れ合い、あそび体験を通じて、どのような気持ちの変化があったのか、どのような気づきを得たのか、これからどのように行動していくのか、などをそれぞれの立場から述べました。 そのなかで嶋﨑教授は、一連の取り組みによって、それぞれが「観方が広がり(知)、他者の気持ちを想像(情)し、大事にしたい自分の気持ちを持つ(意)、すなわち、「知」・「情」・「意」の耕しと深まりの契機になる可能性を得た」と研究の立場での知見を披露しました。 今回の連携事業について、パラ水連の河合純一会長は、『この取り組みはわれわれが考えている意義や価値を感じることができ、成果ある1年でした』と感想を述べて会を締めくくりました。	https://www.toyo.ac.jp/news/20250312-17157.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター. 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対 象	概 要	URL	SDGs
181	TOYOスポーツセンター	シンポジウム「共生と保育～東洋大学とパラ水泳連盟との 連携協定に基づく実践より～」	出演 パネリスト コメンテーター 司会 講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	講演会	主催：TOYOスポーツセンター 共催：日本パラ水泳連盟 後援：東京都北区	シンポジウム「共生と保育～東洋大学とパラ水泳連盟との 連携協定に基づく実践より～」	3/3	東洋大学 赤羽台キャンパス HELSPOホール、オンライン	大学生 大学院生 教育関係者 保護者 研究者 社会人・一般 学術団体 企業 市民団体 行政機関 メディア その他	【プログラム】 0.取り組み動画放映・ポスター展示会（16：00 ～16：50） 1.主催者挨拶（17：00 ～17：05） ・早川和宏(東洋大学TOYOスポーツセンター副センター長) 2.連携事業への期待（17：05 ～17：10） ・齊藤恭平(東洋大学TOYOスポーツセンタースポーツ連携 セクション長・健康スポーツ科学部長) 3.実践報告（17：10 ～18：50） 1）保育実践の立場から① 石井正邦(赤羽幼稚園園長) 2）保育実践の立場から② 岩田幸子(城東にこにこ保育園保育士・東洋大学大学院生) 3）保護者の立場から 東野千尋、細井美和(赤羽幼稚園保護者) 4）実践をサポートした学生の立場から稲飯柾人(東洋大学学生) 5)パラスイマーの立場から 田中映伍(東洋大学学生) 6）日本パラ水泳連盟の立場から 岸本太一(日本パラ水泳連盟専任コーチ) 7）協定大学の立場から 嶋﨑博嗣(東洋大学福祉社会デザイン学部教授) 4.今後の連携事業への展望（18：50 ～19：00） ・河合純一(日本パラ水泳連盟会長)	https://www.toyo.ac.jp/news/20250312-17157.html	
182		【ラグビー部】第二回東洋大学杯 ラグビー地域対抗戦を開催	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援	セミナー・ワークショップ	ラグビー部 後援：川越市ラグビーフットボール協会、川越ラグビースクール	第二回東洋大学杯 ラグビー地域対抗戦	2/23	東洋大学川越キャンパスラグビー場	小学生	2025年2月23日（日）に川越、深谷、狭山ラグビースクールによる、小学生向け『東洋大学杯 ラグビー地域対抗戦』を実施し、約200名の小学生と本学ラグビー部員が晴天の中、楽しく汗を流しました。6年生の部、5年生の部ともに川越ラグビースクールの優勝となりましたが、どのチームの選手も元気に楽しくプレーしていました。ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました	https://toyorugby.com/ https://www.instagram.com/p/DGe8FX4Peqg/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzR1ODBiNWF1ZA==	
183		【陸上競技部長距離部門】鹿島市にて陸上教室開催	企画 運営参加・支援 実演 その他	セミナー・ワークショップ	鹿島市生涯学習課	東洋大学の皆さんとの陸上教室開催	2/22	鹿島市陸上競技場	小学生 中学生 高校生 大学生 大学院生 社会人・一般 行政機関	2/23（日）の祐徳ロードレースに出場の陸上競技部が陸上教室を実施。 ストレッチ・動きづくり・インターバル補強トレーニングなどを行い、最後は2チームに分かれてのリレー対決を行った。	https://www.instagram.com/p/DGXA1RhPf9L/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzR1ODBiNWF1ZA==	
184		【硬式野球部】東洋大学・中野区連携事業「少年少女野球教室」を開催	企画 運営参加・支援 実演 その他	セミナー・ワークショップ	東洋大学 中野区	少年少女野球教室	11/24	中野区立哲学堂公園野球場	小学生 行政機関	2024年11月24日（日）に中野区立哲学堂公園の野球場で、本学と東京都中野区の連携が連携した「少年少女野球教室」を開催しました。 東洋大学硬式野球部員の指導により、野球の技術向上を目指す一方で、野球の楽しさを体感してもらいながら、一流スポーツ選手との交流を通じて心身の成長の機会とすることを目的としています。 当日は抽選で選ばれた中野区内在住・在学の小学校5・6年生およそ100名が参加。本学硬式野球部員14名が軟式ボールを使って実技指導等を行ないました。 野球部員は野球の魅力を伝えながら熱心に指導し、参加者の児童は真剣な眼差しで取り組んでいました。本イベントは双方にとって貴重な体験となりました。	https://www.toyo.ac.jp/news/20241125-16389.html	

No	学部・研究科 研究所・ センター・ 事務局	タイトル	役割	種別	主催者 発行元	イベント番組 新聞雑誌名	年月日	場　所 掲載箇所	対　象	概　要	URL	SDGs
185		【水泳部】福島市で未就学児～高校生対象の水泳教室を開催	講師 助言・指導 企画 運営参加・支援 実演	セミナー・ワークショップ	水泳部	水泳教室	8/25	福島市中央市民プール	小学生 中学生 高校生	2024年8月25日（日）に福島市中央市民プールで、福島市内の未就学児～高校生を対象に、水泳教室を開催しました。 教室には、東洋大学水泳部所属で2024パリオリンピックにも出場した松下選手や竹原選手、日本代表コーチの平井先生も参加しました。 当日は、それぞれのレベルに合わせて3つのクラスに分かれ、水泳部の部員が指導を行いました。 教室の最後にはサイン会などを行い、参加者との親睦を深める貴重な機会となりました。	https://www.sportspc.jp/?p=8980	

社会貢献活動Pick up-①

創立者・井上円了先生の人生を綴った：マンガ『円了』

井上円了哲学センター

東洋大学の創立者である井上円了の波乱に満ちた半生を全７話で『マンガ円了』として描きました。

円了が哲学を学び、何を伝えたかったのか。そして、どのように哲学館を創立したか。『マンガ円了』を通して追体験いただけます。

以下 Web ページでは、『マンガ円了』の全話を無料で閲覧いただけます。

https://sites.google.com/toyo.jp/iecp-manga

井上円了哲学センター事業の一環として、円了の功績と哲学を多くの方に知っていただくために制作された本作を、ぜひお楽しみください。

▲『マンガ円了』表紙

社会貢献活動Pick up-②

シンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」

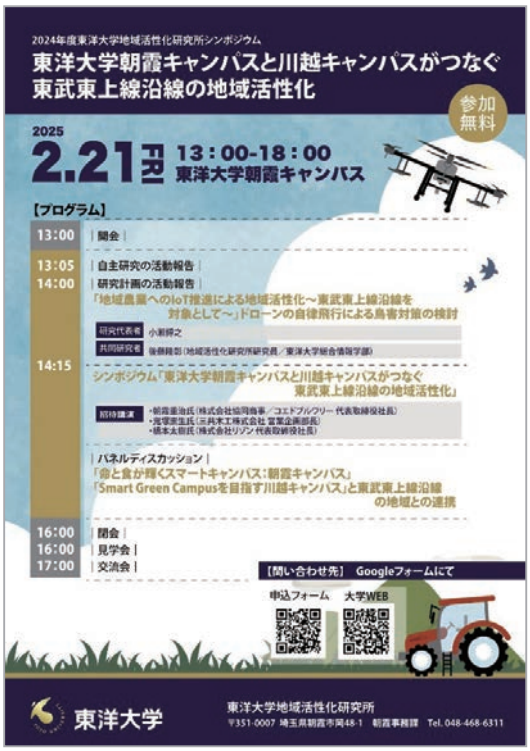
地域活性化研究所

東洋大学地域活性化研究所では、2020年以来５年ぶりに対面での研究成果報告会としてシンポジウム「東洋大学朝霞キャンパスと川越キャンパスがつなぐ東武東上線沿線の地域活性化」を開催しました。

研究所の取組実績並びに客員研究員の研究活動報告２件、そして、研究計画「テーマ：地域農業へのIoT推進による地域活性化～東武東上線沿線を対象として～」（ドローンの自律飛行による鳥害対策の検討）の研究成果報告とともに、地域の事業者３名をゲストとしてお招きして、各事業者の理念や取組、地域との関わりなどについて講演を行っていただき、最後に、招待講演者３名に２名を加えて、会場の質問も交えてパネルディスカッションを実施しました。

シンポジウム終了後、昨年４月に板倉キャンパスから移転した生命科学部と食環境科学部の拠点となっている朝霞キャンパスの見学会、さらに終了後に参加者の交流会を実施しました。

告知期間がとても短かったにも関わらず、参加者は50名ほどとなり、地域活性化研究所として初めて朝霞キャンパスで開催された行事としてたいへん有意義なものになりました。



▲シンポジウムポスター

社会貢献活動Pick up-③

能登半島地震被災地に関する調査の実施について

国際共生社会研究センター　国際学部
藪長千乃教授(研究員)

2024年２月27日から28日まで、６月５日から８日までの２回にわたり、能登半島において被災地調査を実施しました。

１月１日の震災発生後、能登半島での被災の状況や復旧支援、災害ボランティア支援についての情報は限定的で多くの道路が寸断され、さらに半島の奥で発生したことによる地形的要因などが主な要因となって被災地でも支援の量的確保が困難でした。

２月27日から28日までの調査は、２月中旬に実施した個人での事前調査を踏まえて、移動ルートが確保できることを確認してから、能登空港、能登町、珠洲市、輪島市(門前町)、志賀町で被災の状況を確認しました。

東洋大学
国際共生社会研究センター
Center for Sustainable Development Studies

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

能登半島地震被災地に関する調査の実施について
研究員　藪長千乃

2024年2月27日から28日まで、6月5日から8日までの2回にわたり、能登半島において被災地調査を実施しました。
1月1日の震災発生後、能登半島での被災の状況や復旧支援、災害ボランティア支援についての情報は限定的で多くの道路が寸断され、さらに半島の奥で発生したことによる地形的要因などが主な要因となって被災地でも支援の量的確保が困難でした。
2月27日から28日までの調査は、2月中旬に実施した個人での事前調査を踏まえて、移動ルートが確保できることを確認してから、能登空港、能登町、珠洲市、輪島市（門前町）、志賀町で被災の状況を確認しました。

珠洲市内にて（被災状況調査）

▲調査レポート表紙

社会貢献活動Pick up-④

「アースデイ川越 in 昭和の街 2025」の開催及び出展

総合情報学部 小瀬 博之教授(実行委員長)

SDGsの周知啓発を目的とした、26回目の「アースデイ川越」の実行委員長を前回の2021年から務めている。

2024年度は川越中心市街地の蓮馨寺を会場として「アースデイ川越 in 昭和の街 2025」を開催した。運営を統括するとともに実行委員会の進行管理、行政・民間団体・企業等の折衝、実施主体の川越中央通り「昭和の街」を楽しく賑やかなまちにする会（昭和の街の会）との企画検討を行った。

また、仙波書房と共同で東洋大学地域活性化研究所として『まち歩きツアー「昭和の街のたてものめぐり」』を出展した。『川越のミライ』をテーマとした３月９日のイベント当日は、「川越市長と高校生によるパネルトーク」と「川柳コンテスト」を中核として実施するとともに、13団体のブースまたはステージ出展と４組の飲食店の出店があり、約500名の来場者でにぎわった。

▲「アースデイ川越 in 昭和の街 2025」ポスター

社会貢献活動Pick up-⑤

「プリズン・サークル」上映会

福祉社会デザイン学部 川原恵子准教授・川原ゼミ

刑務所ドキュメンタリー映画の無料上映会(学内学生・院生・一般向け)を実施しました。

対象者の方々の小児期逆境体験(ACE)が取り上げられ、加害者ではあるものの虐待等の被害者であった過去が語られる内容です。

あわせて、更生保護についての理解を促進するため、更生保護関係者のインタビュー、戸井宏紀先生による講演などを行い、社会を明るくする運動としても取り組みました。

▲「プリズン・サークル」ポスター

地域活性化活動支援事業の概要

2016年度、社会貢献部門の活動における特徴として、地域活性化活動支援事業を新たにスタートさせた。2024年度は17企画(うち追加9)応募され、社会貢献センターにて選考を行った結果、全企画が採択となり活動を行った。概要は以下のとおりである。

１．事業の目的

地域活性化活動支援事業は、過疎化や高齢化をはじめとして様々な課題を抱えている地域に若い人材が入り、住民とともに地域の課題解決や地域おこし活動を実施することで、都会の若者に地域への理解を促し、地域で活躍する人材として育成することに繋がるとともに、地域住民をはじめとする人材育成を目的とする。学生と教員が共同して進める地域活性化活動を経済的に支援し、今後自立した活動へと発展させていくためのサポートをする。

２．支援金額及び採択件数の目安

(1) 地方創生コース：キャンパスから100㎞以上の地方において、地域活性化活動をするものを対象。１件当たり総活動経費の最大50％以内で、かつ、30万円を上限とする。
(2) 地域貢献コース：キャンパスから100㎞以内の地域において、社会貢献・地域貢献をするものを対象。１件当たり総活動費の最大50％以内で、かつ、5万円を上限とする。

３．対象となる活動

国内の過疎地域、限界集落、農山村だけでなく、都市課題の解決や災害支援なども含め、国内外の多様な地域における教員と学生が共同して行う地域活性化活動。

４．選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

５．年間スケジュール

2023年12月1日～2024年1月19日	募集期間
2024年2月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数：8企画)
2024年3月19日	地域活性化活動支援事業について　採択決定通知(採択数：8企画)
2024年4月1日～2024年5月10日	追加募集期間
2024年6月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考(申請数：9企画)
2024年6月17日	地域活性化活動支援事業について　採択決定通知(採択数：9企画)
2025年2月末まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2025年3月11日	報告会の実施(17企画報告予定)
2025年3月末まで	支援金額の支払い

６．2024年度実績

応募企画数	採択企画数
17	17

2024年度　地域活性化活動支援事業一覧

No.	教員名	学部	活動名	コース名	主な市区町村	支援額	支援額（結果）
						4,729,000	3,785,320
1	鈴木　鉄忠	国際学部	Toyo Slow City Project	①地方創生（遠距離）	①群馬県 前橋市 ②宮城県 気仙沼市	300,000	300,000
2	田中　雅敏	法学部	香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト	①地方創生（遠距離）	香川県 さぬき市	256,000	102,400
3	森下　晶美	国際観光学部	奄美大島における環境配慮型観光コンテンツ開発	①地方創生（遠距離）	鹿児島県 奄美市	300,000	300,000
4	須賀　忠義	国際観光学部	「大内宿雪まつり」の運営を支える支援活動	①地方創生（遠距離）	福島県 南会津郡下郷町大内区	300,000	300,000
5	小野　道子	福祉社会デザイン学部	福島県の子どもに寄り添うプログラム	①地方創生（遠距離）	福島県 郡山市、福島市	300,000	236,070
6	蜂巣　旭	経営学部	大田原市の農業の活性化による地方創生の取り組み	①地方創生（遠距離）	栃木県 大田原市	300,000	300,000
7	内田　彩	国際観光学部	秋田県湯沢市における温泉地活性化プロジェクト	①地方創生（遠距離）	秋田県 湯沢市 小安峡温泉	300,000	300,000
8	齋藤　博	福祉社会デザイン学部	鹿嶋市の中心市街地活性化に寄与する実践的取り組み	①地方創生（遠距離）	茨城県 鹿嶋市	236,000	124,625
9	藪長　千乃	国際学部	能登ゼミ(創造的復興に向けた地域住民と学生の取組)	①地方創生（遠距離）	石川県 志賀町	300,000	300,000
10	佐々木　茂	国際観光学部	喜多方調査	①地方創生（遠距離）	福島県 喜多方市	298,000	45,681
11	堀本麻由子	文学部	地域の文化継承とまちづくりを考える	①地方創生（遠距離）	長野県 諏訪郡 下諏訪町	300,000	297,365
12	左地　亮子	社会学部	沖縄から平和教育を考える	①地方創生（遠距離）	沖縄県 糸満市	300,000	300,000
13	山田　香織	社会学部	人の移動が著しい地域のまちづくり	①地方創生（遠距離）	長野県 軽井沢町	297,000	167,667
14	古屋　秀樹	国際観光学部	持続可能な釜石に向けた地域課題解決型PBL演習	①地方創生（遠距離）	岩手県 釜石市	300,000	201,115
15	齋藤　邦明	経済学部	里山サポーターズ	①地方創生（遠距離）	新潟県 佐渡市	300,000	262,343
16	田川　夢乃	社会学部	滞日外国人との協働を通じた多文化共生と復興の支援	①地方創生（遠距離）	宮城県 気仙沼市	300,000	242,715
17	井上　広子	食環境科学部	若い世代における郷土料理に関する普及・啓発活動	①地方創生（近距離）	埼玉県 朝霞市	42,000	5,339

活動報告 1

Toyo Slow City Project

代表教員：鈴木　鉄忠
国際学部

■活動内容

スローシティ国際連盟に加盟する前橋市および気仙沼市の地域活性化を目的として、空き家・休耕地の再生および地域資源を活かした観光コンテンツの開発を行う。地域住民と協同し、東京と地方の相互交流を図り、活動過程を公式SNSで発信しながら、地域内外の人々が気軽に集まれる拠点づくりに取り組む。

■活動の成果概要

本活動は、地方都市の持続可能な発展を目指す国際ネットワーク「スローシティ国際連盟」の正式加盟の２都市（前橋市と気仙沼市）において、学生主体で地域活性化に取り組んだ。成果として以下の５点が挙げられる。

第一に、前橋市の地域活動団体との協力である。大胡地区で空き古民家再生を進める任意団体「前橋赤城マイマイの会」（以下、マイマイの会）の協力を得ながら、多世代交流拠点づくりのための食農イベントに参加した。本年度は９回行われ、計７回の食農イベントに総延べ人数100名のゼミ生が参加した。10月に地産小麦と自作野菜のピザ手作りイベント、１月に実施の地産もち米による餅つきイベントを主催した。２月19日には前橋市田口町歴史の会およびそばの会と協同し、地産食材「田口菜」の収穫および試食会に参加した。こうした実績と成果が評価され、マイマイの会と相互協力覚書の締結に合意した。

第二に、スローシティ活性化を目的とした前橋市との連携である。大胡地区の公園と自然資源の活用を目的として、11月に「赤城南面クラフトフェア」にゼミ２-３年が２日間参加した。落ち葉や木の枝を使った木工クラフト体験ブースを出店した。富士見地区では、８月の「あかぎ大沼・白樺マラソン」および10月の「富士見ｅスポーツ大会」に運営ボランティアとして参加した。また健康促進と過小利用の公園活性化を目的として、はだし歩きイベント「Back to the Earth」を大胡地区と芳賀地区の公園で計３回実施した。

第三に、富士見地区の魅力を都内学生の目線で地図化した「スローな体験マップ」を４年ゼミ生が制作した。完成したマップは、道の駅まえばし赤城の観光案内所に掲示され、前橋赤城コンベンション協会のSNSで紹介され、前橋市の広報12月号で紹介された。マップのデジタル版は、前橋赤城マイマイの会の公式HPから無料で入手できるようにした。

第四に、気仙沼市における地域活動である。２月５～７日に２年ゼミ生12名で気仙沼市役所を訪れ、震災復興・企画課スローシティ推進担当者に前橋市での本活動を報告した。スローシティ気仙沼の認知度と活性化の現状を調べるために、関係者への聞き取り、景観を壊さない防潮堤と被災高校の震災遺構の現場視察、水産物のブランド化の現状把握を行った。研修成果は、本年度中に本学科の公式HPに掲載予定である。

最後に、本活動とスローシティ推進に資する情報発信である。上記のすべての活動を本学国際地域学科の公式HP、前橋赤城マイマイの会の公式HPで紹介し、対外的に発信した。また学科HP記事には、これらの活動が本事業の成果であることを明記した。またゼミのInstagramによる情報発信も推進した。今年度は48回(昨年度は46回)投稿し、フォロワーは205人(昨年度は146人)となり、59名増加した。

活動報告 2

香川県さぬき市の姉妹都市交流再生プロジェクト

代表教員：田中　雅敏
法学部

■活動内容

10年間途絶えているさぬき市とアイゼンシュタット市(オーストリア)の姉妹都市交流を再開させるため、さぬき市の子どもたちにアイゼンシュタットの子どもたちへのメッセージを書いてもらうイベントを実施した。集められたメッセージは、2025年２月にアイゼンシュタット市に届ける。

■活動の成果概要

①本取組は、限られた人員で工夫されているが頭打ちとなっているさぬき市の国際交流を、大学の知をもって、現地・遠隔双方からサポートするものであり、本学の社会貢献活動に資するものであった。

②当ゼミは、ゼミ生が一年次から平均して３年間ドイツ語科目を履修している。ドイツ語の授業では、言語の学習を通して、その言語圏の文化や人々の営みについても学んでいる。また、当ゼミでは、オーストリアの社会制度や文化を専門的に研究している。「日本を外から見た」自分たちの経験をもとに、さぬき市の小学生親子を対象にドイツ語・オーストリア文化を紹介する講座・実習を提供した。

③オーストリアのことをより身近に感じてもらえるよう、さぬき市の小学生にわかるようにレクチャーした。その上で、オーストリアの子供たちにメッセージを書いてもらうイベントを実施した。小学生だけでなく、学校の先生からもたくさん質問が出て、今後の交流の可能性の萌芽を感じることができた。なお、さぬき市は過疎化が危ぶまれている地域であり、公共交通網に乏しいため、レンタカーを使って機動的に活動した。

④コロナ禍で現地入りが叶わなかった年度を除き、４回目の現地型活動となった。さぬき市民の姉妹都市への認識や国際交流に対する意識の変化を調査するタイミングであると考える。

⑤当ゼミはさぬき市から「姉妹都市交流アンバサダー」に指定していただいており、姉妹都市交流の復活(再開)に向けて、さぬき市の自走化も促していきたい。

活動報告 3

奄美大島における環境配慮型観光コンテンツ開発

代表教員：森下　晶美
国際観光学部

■活動内容

世界自然遺産である奄美大島では、自然・文化の保護と観光客誘致の両立を図るため良質な観光コンテンツの開発が急務となっている。

活動では、学生が資料調査、現地視察を行うと共に（一社）奄美群島観光物産協会、（一社）奄美せとうち観光協会などと意見交換を行い、地域貢献と保護が両立できる企画提案を行った。

■活動の成果概要

①本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組であること

奄美大島は2021年世界自然遺産に登録され、自然・文化の保護と観光客誘致の両立を図らねばならない現状にあるが、人口減少が進み特に若者の流出が激しいためそれを担う大幅に人材が足りていない。

これを放置すると観光客の急増と無理解によるオーバーツーリズムによる環境負荷が懸念され、良質な観光コンテンツの開発が急務となっている。本学部学生の知識と発想で良質な観光客誘致のためのコンテンツを開発する。

②そのために学生参画は不可欠であること

オーバーツーリズムを鑑み、世界的にも観光の高付加価値化が求められているが、その対象の1つがモダンラグジュアリーと呼ばれる20～30代であり、学生の年齢層が比較的近いため若い発想を生かした企画ができること、またゼミではアドベンチャーツーリズムをはじめとした環境配慮型の高付加価値観光を研究しているため、環境保護と観光客誘致を両立する企画ができることから学生の参画が必要。

③参画学生に交通費等の経費を支出する場合、それにより社会貢献活動上、期待できる具体的な効果

観光資源の実情は実際に視察をしないと大きなズレが生じることがあるため、視察は必須である。また、多くの地元の観光関係者と実際に意見交換を行うことで、机上に止まらない現実的な提案ができる。

④昨年度も採択を受けた活動は、選考委員からのコメントを踏まえ、改善された点等も記載

昨年度とは地域が異なるが、地元の方の意見や希望を聞いたうえで課題を考えることを心掛けた。

⑤活動した地域、団体との実績内容(例：現地での活動に伴うワークショップ、報告会、継続的に連携するための覚書取り交わし等)

- 11/6　地元観光関係者セミナー（(一社）奄美群島観光物産協会、（一社）奄美せとうち観光協会、（株）リンクアドベンチャーズなど）に出席し意見交換を行った
- 1/30　同関係者にオンラインでプレゼンテーションを行う。

活動報告 4

「大内宿雪まつり」の運営を支える支援活動

代表教員：須賀　忠芳
国際観光学部

■活動内容

ゼミ活動のサービス・ラーニングの一環として、2025年２月７日から２月９日にかけて、２年次から４年次までのゼミ生25名で参加した。江戸期宿場町の景観を今に伝える、福島県大内宿の雪まつりに、運営スタッフの一員として活動し、事前の準備や当日の運営補助、子どもコーナーの企画・運営などに取り組んだ。

■活動の成果概要

地域振興のあり方について学ぶために、ゼミ活動のサービス・ラーニングの一環として、指導教員（須賀）が引率し、会津・南山通りの江戸期宿場町の景観を今に伝え、重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている、大内宿（福島県南会津郡下郷町大内区）で、2025年２月７日から２月９日にかけて開催された「大内宿雪まつり」に、２年次から４年次までのゼミ生25名で参加し、地域イベントの運営補助支援活動に取り組んだ。当ゼミにおける当イベントの運営補助は、2012年度以来、コロナ禍の開催中止時を除いて、継続的に実施している。当イベントは、地元自治体や外部資本等には依存せず、地区内だけで準備、運営し、そこに多くの観光客が訪れることから、準備・運営に支障を来たすことも多かった。そうした中で、町並み保存の中心的な存在として活躍してきた、大内区元区長・吉村徳男氏と指導教員との個人的なつながりもあり、支援の打診を受ける形で、当イベントに関わることとなり、前日の準備設営補助から、当日の運営補助まで、学生らが積極的に支援し、当イベントを成功に導いてきた経緯がある。今回の実施分でも、関係者からは「東洋大の学生の力添えが無ければ運営できない」といったお声をいただいている。こうした取り組みは、過疎地域における観光施策支援として、本学の社会貢献活動の一つとして、地元からも高い評価を受け、大きな信頼を得るものともなった。また、首都圏出身の者が多い参加学生にとって、地域振興にかける強い思いを有する地域の方々と直に接することは大いに刺激となるもので、地域貢献活動の意義について、強く実感する契機となっている。祭りに際して行われる神事にも、地元の方に交じって、当該参加学生の参加をお認めいただき、学生にとっても得難い体験となるとともに、地元からも好評を得る結果となっている。４年次生には、２年次から当該行事に参加したほか、夏の祭礼にも参加していて、４度目の参加となる者もいて、学生活動を通じて、本学と当該地域の強い結びつきを体現するものとなっている。一方で、交通費・宿泊費等は自己負担で、学生の経済的負担は少なくなかった。こうした中で、今回は、本学発着で貸切バスを活用し、バス借り上げに当該経費を充当することで、学生の経費負担分も軽減し、学生にとって、より参加しやすく、教育的効果は各段に高まったものと思料される。あわせて、下郷町大内区との間では、「地域活性化支援活動」に関する相互協力の覚書取り交わしを進めており、当覚書をもとに、当事業について、今後も継続的に活動に取り組んでいきたいと考えている。

活動報告 5

福島県の子どもに寄り添うプログラム

代表教員：小野　道子
福祉社会デザイン学部

■活動内容

一日目は群山自然の家に到着後、用意されていた昼食を子どもたちと一緒に食べた。その後レクリエーションを行った。二日目は福島市保健福祉センターで、調理とレクリエーションに分かれて活動を行った。防災に関わることをレクリエーションを用いて楽しく子どもたちに伝えることが出来た。

■活動の成果概要

私たち小野ゼミではひとり親家庭についてゼミ内で学び、教養を深め知識を付けてきた。その成果を発揮すべくレスパイト活動では２日間とも子どもたちと共に昼食とレク活動を行った。子どもたちの長所を見つけ、活動を楽しみ、寄り添っていくことで学校内だけでは学べない学習ができたと実感すると共に、実践で生かした社会貢献活動の発展の機会となった。

レスパイト活動への学生参画の必要性は、子どもたちにとっての新しい関係性の構築にあると考えている。私たち小野ゼミでは親や同年代付近の友達だけでなく、私たち大学生という子どもたちにとって「斜めの関係性」を重視している。今回の活動で大学生や子どもたちにとって新たな刺激になり、より一層学びが深まったと感じている。今回は子どもたちと初見の学生が多く、すぐに馴染めないことを考え、話す機会を増やした上でレク活動に望んだ。その結果大学生一人一人が子どもたちに寄り添いそれぞれのペースに合わせ活動を行うことができ、共通の話題で盛り上がったりするなど大きな達成感を得ることが出来た。またレク活動では保護者の方も参加する場面もあり、年代を超えて楽しむことが出来た。さらに子どもの年齢が低い家庭の保護者からは安心して子どもたちを預けることが出来た。加えて最後は別れを惜しむようにしていたなどの感想を頂き私たちにとっても嬉しいお言葉となり、大きなやりがいを感じた。

私たちはこの交流で改めてひとり親家庭のことについて詳しく学べることが出来た。保護者の方からひとり親家庭の実情をリアルに知る貴重な経験をすることが出来た。ひとり親家庭について大学生たち一人一人が真摯に向き合い、現状を知り何ができるのか考える良い学びの場となった。福島県を訪れることで、ひとり親家庭を学んだ上に防災や被災地支援、地域活性化に対する関心が一層高まった。この経験は、来年度の活動計画にも反映できると感じており、今後の社会貢献活動に対する意欲をさらに強めるきっかけになると考えている。

活動報告 6

大田原市の農業の活性化による地方創生の取り組み

代表教員：蜂巣　旭
経営学部

■活動内容

行政、団体、個人と連携し、農業から地域活性化を図った。具体的には、①市の女性農業委員との経営スキルアップ講座(SNS)、②那須農業振興事務所・女性農業者団体と連携し廃校で実施したXmasマルシェ、③JAなすのと連携した東洋大学食「那須和牛すき焼き」販売、④前田牧場とのキッズビジネスチャレンジである。

■活動の成果概要

一連の活動により、経営学部学生は、地方、農業と食、子どもたちの教育、社会課題の解決、行政や団体との連携といった、一見ビジネスとは離れた現実の課題に取り組むことで、経営学が企業の問題のみならず、社会課題の解決に有用なツールとなることを実感することができた。また、過去一部の学生が取り組むに過ぎなかった活動が、現在ではゼミ全員でチームに分かれ取り組むに至っている。学生達は、時にはチームを越えて連携し合うことで、ゼミのチームの連携が生産者や団体の新たな連携につながることも多かった。

そして本学に目を向けてみても、JAとのプロジェクトでは本学食環境科学部露久保研究室と連携することになり、キャンパスや学部・学年を越えた社会貢献活動に発展した。こういった取り組みは、担当教員の組織論の講義において「チーム間連携、外部連携、オープンイノベーション」の例として紹介され、食環境科学部・露久保准教授担当科目「フードコーディネート論」でも那須和牛すき焼きの事例が紹介された。そして、経営学部生や食環境科学部生は、それぞれの専門分野の知見が社会貢献につながることを実感するに至った。

文字数の制約があり、上記「活動の概要」では４つの活動しか記載してないが、その他にも、とちぎ農業女子と連携した学食「とちぎの逸品素材を使った東洋大ロコモコ」の販売や、大田原農業体験ツアーの実施、トマト農家の六次化支援、上都賀農業女子の地域農業女子マップ製作や彼女らが助け合うための繁忙期カレンダーの製作にも取り組んできた。

複数のプロジェクトで構成されるため、ゼミ生全員が参加し、地方に足を運ぶ必要があったが、そのうえで本助成は不可欠であった。とくに、Xmasマルシェはゼミ生のほぼ全員である45名程度が参加し現地で約400人の集客を実現した。また、東洋大学食「那須和牛すき焼き」は学生が何度も現地に足を運び、JAとの打ち合わせや生産者インタビューを行って食材や地域の魅力をPRした。それにより、白山・朝霞の両キャンパスにて連日の大行列のうえ、早々に完売に至った。これらの取り組みは、下野新聞や日本農業新聞、JA広報誌の記事でも大々的に紹介された。

昨年度は、活動初年度の活動があったり、連携先が多かったりしたため、学生の準備の遅れ、相手先との情報共有の不足などの課題があった。しかし、今年度は昨年度の反省点を当初から学生内で共有し、その反省点を改善するチーム体制を敷いた。そのため、昨年度から継続して実施しているプロジェクトに関しては、相手先の遅れ等はあったものの、学生要因での遅れ等は発生しなかった。

活動報告 7

秋田県湯沢市における温泉地活性化プロジェクト

代表教員：内田　彩
国際観光学部

■活動内容

春学期の事前学習を経たうえで、ゼミ学生15名で、９月３日から９月６日に秋田県湯沢市で現地調査を実施した。本年度は小安峡温泉を中心に観光資源調査を行い、ワークショップでは地域活性化の現状を考察･議論したうえで、その課題と可能性について提言し、報告書の作成に取り組んだ。

■活動の成果概要

①本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取り組みであること。

湯沢市は、人口減少、住民の高齢化などが大きな課題となっており、観光による交流人口、関係人口の増加に取り組んでいる。本活動では、湯沢市の観光政策において重要拠点の一つである小安峡温泉を対象に、学生自らが地域住民とともに、観光を通した課題解決の可能性を模索することで、大学での学びを社会に還元することを目的としている。また、この活動経験を通して、将来、地方の活性化を担う人材育成を行うことを意図しており、本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取り組みであるといえる。

②そのために学生参画は不可欠であること。

ジオパークカレッジは、ゆざわジオパークを活用した教育・学習活動の一環であり、「観光のグローバル化の可能性を考察することを目的とした、県外の大学生の観光に関連する調査活動の支援事業及び交流事業」と位置付けられている。そのため、湯沢市の協力のもと、観光資源を調査したうえで、行政、観光ボランティア、観光産業関係者から地域の課題と現状について学んだ。さらに、最終日のワークショップでは、学生から見た湯沢市の観光資源の魅力と課題、可能性について発表した。これらを通して提案した内容は地域側から、非常に参考になったという意見をいただいた。以上から、学生の参画なくしては成立しない地域活性化事業であることに加え、学生にとっては大きな学びの場となると考えられる。

③参画学生に交通費等の経費を支出する場合、それにより社会貢献活動上、期待できる具体的な効果

観光計画の提案には、実際の地理空間情報もさることながら、地域関係者との交流、現地での視察、実習、対面での意見交換が欠かせない。各意見交換会では「高齢化が進む中、県外の若い方の視点や地域での活動は新たな気づきを与えてくれる」という評価を得ている。東北地方は、安価な交通手段が限られており、交通費の負担からゼミ活動で選択しにくい地域ではあるが、それゆえに本補助金の支援を得られたことは、非常に大きな意味を持った。

④昨年度も採択を受けた活動は、選考委員からのコメントを踏まえ、改善された点等も記載

地域との意見交換に重点を置き、小安峡きらめき女子会との意見交換会を追加した。

⑤活動した地域、団体との実績内容(例：現地での活動に伴うワークショップ、報告会、継続的に連携するための覚書取り交わし等)

①小安峡きらめき女子会(小安峡温泉の女将会) との意見交換会
②湯沢市ジオカレッジにおけるワークショップ・発表会

以上から、本活動を通して、学生たちが地域貢献への理解を深めるとともに、該当地域の地域活性化について、さらなる貢献を志すようになった。今後は、大学での学びの中で、これらの思いを活かし、大学での「知識」を社会に還元できるよう取り組んでいきたいと考えている。

活動報告 8

鹿嶋市の中心市街地活性化に寄与する実践的取り組み

代表教員：齋藤　博
福祉社会デザイン学部

■活動内容

本活動は、空き店舗が目立つ茨城県鹿嶋市の中心市街地活性化を目的とし、来街者の増加を促進する取り組みとして、まちづくり鹿嶋㈱が主催する「Meet to Art」における一連のイベント（歌舞伎公演、花火鑑賞）の企画及び運営のサポートを行っている。合わせて、地域の魅力を発信するメディアの製作を行った

■活動の成果概要

【本学の社会貢献活動の発展について】

本活動は2019年度からゼミ活動として継続的に取り組んできたことにより、地域における活動の土台を構築してきた。2023年度及び2024年度の２年間における地域活性化支援事業による中心的な取り組みとして、まちづくり鹿嶋㈱が主催するイベントの企画及び運営の補助を行ってきた。その結果、地域における齋藤研究室（あるいは、東洋大学）が担うべき役割が明確になりつつあることを実感している。それは、大学生の瑞々しい感性を大学での学び（人間環境デザイン学科においては「デザイン」）の成果として社会に実装することであり、大学という若者が集う高等教育機関としての社会貢献の一つのあり方ではないかと考えている。

【学生参画の必要性】

今年度実施した中心的な取り組みとして、①花火鑑賞の際にまちづくり鹿嶋㈱が提供する桟敷席の付加価値を向上させるための「提灯」のデザインと製作　②地域資源の発掘と情報発信メディア「サイクリングマップ」の製作の２つがある。これらは、着想から、具体的なデザインの検討、運用（使用）の方法まで、学生の感性と大学における学びの成果を反映したものであり、学生ならではの社会貢献になったと考えている。鹿嶋市のような地方都市においては、若い人に対する期待が大きく、また、実社会における実践的な教育を通じた成長の場として、社会貢献活動は学生にとっても貴重な機会となっている。

【社会貢献活動上の期待できる効果】

地域での社会貢献活動を実施するためには地域への理解と人間関係の構築が必要不可欠であり、地域への訪問は必須と言える。しかしながら、鹿嶋市は赤羽台キャンパスから約100㎞の距離にあり、東京駅から運行している高速バスで２時間の距離にある。また、往復3,900円の交通費、滞在の目的によっては6,000円／泊の宿泊費が掛かり、現地への訪問は学生にとって大きな負担となっている。したがって、交通・宿泊費のサポートにより学生の負担がある程度解消され、社会貢献活動を行う土台（地域への理解と人間関係の構築）が強化され、より多様な活動の展開が出来ると考えている。

【活動した地域、団体との実績内容】

今年度の実績として、８月、10月のイベント及び12月の現地調査において、まちづくり鹿島㈱を中心とした地域の方々との協働が実現している。12月のゼミ合宿においては、中心市街地を含む鹿嶋市（ほぼ）全域を自転車で移動しながら調査を行っている。その中で地域の人に地域のことを教えて頂き、また、我々の取り組みの説明を行うなどの交流の機会を持つことができた。また、「東洋大学とまちづくり鹿嶋株式会社との相互協力覚書」の締結に向けた調整を完了している。早期に覚書を締結し、引き続きまちづくり鹿島㈱をカウンターパートナーとして2025年度も活動を発展させていきたいと考えている。

活動報告 9

能登ゼミ（創造的復興に向けた地域住民と学生の取組）

代表教員：藪長　千乃
国際学部

■活動内容

本研修では、令和６年能登半島地震で被災した石川県志賀町の稗造地区におけるお祭りの継続に向けた支援と、同志賀町富来地区の住民の生活とその変化、なりわいへの影響と今後の展望、被災した住民の生活上の困難などを聞き取り、外部者の視点から将来についての提言を検討することを主な目的として調査及び活動を実施した。

■活動の成果概要

これまでの能登ゼミの活動では、高齢化が進み消滅が危惧される集落の伝統文化（祭り）の維持や手伝いを通じた地域住民との交流や関係人口、集落が持つ文化や自然などを見直すことによる新たな価値の創出を図ってきた。今年度は震災による被災という偶発的な状況の中で、災害ボランティア活動、さらに地域の住民の方たちの被災経験と展望の聞取り、復興活動への協力を行うことを通じて、一部の集落にとどまらず対象地域を拡大し、また活動内容も地域社会・産業における復興への取り組みへの貢献活動へと発展させることができた。学生たちは事前学習として志賀町復興計画やその他の活動に関係する文献の読み込みも行っており、学生自身の知識の獲得が今後の活動の発展に寄与することが期待できる。さらに、振り返りを行い、各班での学びを共有するとともに、報告書を作成しており、成果を目に見える形にし、今後の活動に生かすことが可能である。

若い学生は、外部者の視点から偏見やしがらみなく地域の実情を捉えなおすことができること、新たな発想をもたらせることへの地元の住民の方々からの期待は大きい。しかし、高齢化・産業衰退・経済停滞に加えて震災による被害が加わり地元の方々が大きな打撃を受けた中で、学生の持つ明るい雰囲気やエネルギー溢れる活動が地域へ活気をもたらすことは得難くその影響力は大きいであろう。また、今年度の能登ゼミでは６班に分かれて様々な活動をしたことにより、活動の幅が広がり、今後も新たな地域・内容での貢献へ発展する可能性が期待できる。

なお、能登半島は、アクセスに課題があり、利用できる交通機関が限定的であるだけでなく交通費も高額になる。地域活性化活動支援事業は交通費がネックとなって参加できない学生の参加を促進することができ、地域への貢献活動に参加できる学生の活動を増やすことができることは、対象地域だけでなく学生の機会格差を是正にもつながる。

震災発生後、過去の能登ゼミに参加した学生や教員が個人的に震災ボランティアに駆け付けたことで、地元である志賀町から滞在施設の無償供与を受けることができるようになった。このため、2024年９月には、本学と志賀町の包括的な協力に関する協定を締結することができた。また、今年度の活動は、富来商工会、志賀町支え合いセンター（災害ボランティアセンター）、稗造地域地保地区、同鵜野屋地区の皆様との協力で実施した。

活動報告 10

喜多方調査

代表教員：佐々木　茂
国際観光学部

■活動内容

福島県喜多方市で、福島県立テクノアカデミー会津校、大学院OB、学部ゼミ生が連携し、観光力向上プロジェクトを実施。東洋大学の学生は喜多方市で一日調査を行い、２大学で調査研究結果、観光振興のための新規提案を発表し合い、喜多方市の観光戦略を具体化するために意見交流を行いました。

■活動の成果概要

喜多方市の観光振興を目的に、福島県立テクノアカデミー会津校、大学院OB、学部ゼミ生が連携した観光力向上プロジェクトである。東洋大生が現地調査の結果や観光振興に向けた新規提案を発表。具体的には、喜多方市内に映画館がないことに焦点を当てた、蔵や廃校での映画上映プロジェクトや、同市の発酵食品文化を活かし、「健康」「美容」「癒し」をテーマに発酵美人旅という女性向けツアーを新規提案した。

学生が直接現地を訪れ、同市の実情を肌で感じることができた。観光客が訪れる主要な観光地を歩いて回り、施設の整備状況や観光案内の分かりやすさを実際に体験することで、現地の課題や魅力を具体的に把握した。地元住民との対話を通じて、観光地が抱える課題や期待される改善点、地域の観光資源の魅力がどのように活用されているかについて直接意見を聞くことができた。実際、新規提案としてあげている映画上映プロジェクトは市内に映画館がないことと、使われていない学校があることを調査中に伺いそこから着想を得ている。現地で直接得たリアルな情報や声が、具体的で地域に根ざした提案の作成に大きく貢献。実際に地域を訪れることで、資料やデータだけでは得られない課題も発見できたことで訪問者目線で気づいた改善点を提案に反映させることが可能となった。現地調査が提案内容の説得力や実現可能性を高める結果につながると考える。本学生は、地域の課題を直に感じ、具体的な解決策を模索することで実践的な学びを得ることができた。現地を訪れたことがない学生との意見交流により、客観的な視点や新鮮な発想が生まれるという相乗効果も見られた。例えば、地元の魅力が観光客にどのように伝わっているのか、外部からの目線で新たな課題や可能性を見出すことが可能となり、多様な視点が、実現可能で独自性のある提案につながっていく。異なる学校との交流を通じて、幅広い考え方や視野を養うことができた。

本活動は、学生参画を通じて地域課題に取り組む本学の社会貢献活動の事例であり、活動を通じて得られた知見や提案は、地域の発展に貢献すると同時に、本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組である。

活動報告 11

地域の文化継承とまちづくりを考える

代表教員：堀本　麻由子
文学部

■活動内容

公民館と地域の連携による文化継承や史跡保存を通してまちづくりの過程を体験的に学ぶことで、地域づくりにおける課題を学び、将来的に職業や生活の中で関わることの意義を見出す。学生(若者)の視点から地域の具体的な取り組みに関する地域の人々と大学生の課題解決型学習を通して地域の発展に寄与する。

■活動の成果概要

本活動は、「みらい塾」という下諏訪町公民館で行っている住民主体に動いている事業があり、そこの塾生が考えた講座に参加し、「みらい塾」と学生のコラボ企画など、地域の実際の課題に取り組むことを狙いとして実施。

学生は学校教員志望、公務員(社会教育主事)を志望するものが多く、学校(教育機関)と地域連携やまちづくりは重要な課題である。特に、公民館の事業におけるまちづくりは、卒論研究で多くの学生が取り組んでおり、個別の研究テーマの深掘りにも効果が期待できる。また下諏訪にとっても20代の若者の意見は貴重で様々な提案について、今後の取り組みの参考となったとの意見をいただいた。

さらに、本活動は地元の長野日日新聞の取材を受け、朝刊に掲載されるとともに、旺文社の蛍雪時代「学生を飛躍させる取り組み紹介」(2024年11月)の特集頁にも取り上げられ、大学のPRにもつながっている。

以下、学生のコメントを紹介する。

・ゼミ合宿を通して、下諏訪のみらい塾の方々と関われたこと、まちづくりについて一緒に考えられたこと、下諏訪について知れたこと、本当に嬉しく思います。下諏訪は歴史があって自然があって多くの魅力がある場所だと感じました。中でも私が1番魅力的に感じたのは人の温かさでした。未来塾の方々は常に笑顔で私たちに接して下さり、私たちの話にも熱心に耳を傾けて頂いたことがとても印象に残っています。もっとみなさんとお話したいと思いました。未来塾の方だけでなく、下諏訪で行ったお店の方なども笑顔で迎えてくださり、「下諏訪ってなんでこんないい人しかいないの～」と話してました…！帰りに特急あずさで東京に向かっている時、下諏訪と東京の景色をみて純粋に「下諏訪の方が好きだな」と思いました。このように感じたのもみなさんとの関わりがあってこそだと思います。３日間ありがとうございました！下諏訪から帰ってから友達や家族に「下諏訪ほんとにいいとこだから！」と沢山言っているので近いうちに絶対また行きます！みなさんがオススメしてくれたお店や場所とumi cafeに！！

・今回の合宿で考えたことは、まちづくりをするうえで、取捨選択をどのように行っていくかである。下諏訪町の人口減少、高齢化を解消するには、転入者を増やす必要があると思うが、増やすことで下諏訪町の良さがなくなる可能性もあると思った。具体的には、すでに形成されているコミュニティが壊れてしまう可能性である。密接なコミュニティが下諏訪町にはあるが、転入者や若者が入ることでコミュニティが消えてしまう。また、すでにあるコミュニティに入りづらいなどの恐れがあると思った。他にも子育て支援をするなかで、独身女性が居づらくなるとの話もあった。もちろん人権問題なので、女性のみが子どもを育てるなどといった考えは無くさなければいけないが、人口減少、高齢化を解消するためには、子育て支援は必須だと思うので、何を第一に解決するべきなのか、優先順位によってとるべき政策、対応を取捨選択していかなければいけないと感じた。

以上、下諏訪町公民館とはゼミ活動を通じて今後も継続して活動していくことが確認できている。

活動報告 12

沖縄から平和教育を考える

代表教員：左地　亮子
社会学部

■活動内容

「沖縄から平和教育を考える」本活動では、学生が沖縄戦戦死者遺骨収集ボランティア活動に従事するとともに、沖縄の平和教育に関わる様々な施設を訪問し、平和教育に携わる多様な世代の沖縄県民との議論を通して、日本における平和教育の発展に向けた提案を検討する。

■活動の成果概要

①本学の社会貢献活動のさらなる発展に寄与する取組であること

本活動では、学生が沖縄県を訪問し、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表の具志堅隆松氏のご指導のもと、糸満市にて沖縄戦戦死者の遺骨収集ボランティア活動に従事した。また遺骨収集ボランティア活動にあわせ、沖縄戦の記憶継承と米軍基地の現状に関わる社会調査活動を、宜野湾市戦跡、沖縄国際大学、沖縄市戦後文化資料展示館 ヒストリート、平和記念資料館・公園、ひめゆり平和祈念資料館、佐喜眞美術館、道の駅かでな、恩納村戦跡にて行った。これらのボランティア活動と社会調査の結果は、活動協力者および調査対象者に論文集の形でお返しし、フィードバックをいただく。以上のように本活動では、平和教育という視点から、沖縄の地域活性化の現状と将来像を調査することで、若者に地域で学ぶ機会を提供すると同時に、地域外部の若い世代の視点を地域に提供する点で、大学の強みを活かした社会貢献活動の発展に寄与する。

②そのために学生参画は不可欠であること

本活動では、地域活性化やSDGsに関心を持つ学生が地域住民とともに地域の課題を考えながら、地域への理解を深めていく。ボランティア活動と現地調査の企画・実行、協力者とのやり取り、報告書作成の全局面において、学生は主体的に活動する。この点において、本活動は学生主体の地域活性化活動という特徴を有し、学生の参画は不可欠である。

③参画学生に交通費等の経費を支出する場合、それにより社会貢献活動上、期待できる具体的な効果

観光目的で沖縄を訪問する機会が多い中、沖縄が抱える社会問題や沖縄の地域活性化に向けた文化継承について学ぶ機会は少ない。本活動では現地の人々の協力と知見をいただきながら学生が主体的に学び、地域の課題を丁寧に考え、課題解決に向けた力を養う活動であることから、地域社会で活躍する人材を養成するという大学の社会的役割を果たすことができると考えている。

④昨年度からの改善点

昨年度からの改善点は、実際に遺骨収集ボランティア活動に従事したことである。学生は、真摯に「ガマフヤー」代表の具志堅氏の指導を受けとめ、遺骨収集活動に精力的に従事した。加えて、沖縄国際大学の平和学習ボランティアサークル「スマイルライフ」のメンバーのみなさまと会い、平和教育に関するディスカッションを行った。共通の関心を持つ他大学の学生と交流しながら、学びの機会を得たことも今年度の大きな収穫である。

⑤活動した地域、団体との実績内容

事前学習として、沖縄の平和学習ガイドの仲本和氏に講義を行ってもらった。主要活動地域の宜野湾市、沖縄市、糸満市、嘉手納市、恩納村では、沖縄国際大学平和学習サークル、沖縄市戦後文化資料展示館　ヒストリート（沖縄市役所職員のみなさま）、沖縄県観光ガイドの池間氏、ひめゆり平和祈念資料館職員、佐喜眞美術館館長、嘉手納市観光協会、ガマフヤーの具志堅氏にご協力を仰いだ。このみなさまには、今年度末に成果報告書（卒業論文・ゼミ論文）を送付し、今後継続的に社会貢献活動を勧めていくための助言をいただく予定である。

活動報告 13

人の移動が著しい地域のまちづくり

代表教員：山田　香織
社会学部

■活動内容

本活動は、近年、移住と二拠点居住によって人口増がすすむ軽井沢町で、まちづくりの実態を理解することを目的とするものだった。現地では、まちづくり活動を行う町内のまちづくり組織（２つ）、観光協会、町役場、自然保護とエコツーリズムに取り組む民間企業でヒアリングを行った。

■活動の成果概要

今回の活動では、軽井沢町における多様なアクターにお話をうかがった。その結果、軽井沢町が、近年、移住先として注目される背景、移住が進んだことで浮き彫りとなった課題、その解決に向けた実践の様態を理解することができた。

まず、移住先として注目される背景だが、短期的にみれば、新幹線の延伸や理想的な教育環境（幼稚園、小中一貫校）の要因が挙げられる。しかし、お話を聞いてみると、それだけではなかった。こうした近年の人びとの流入の背景には、明治時代のヨーロッパ人による別荘地としての軽井沢の発見とこれを端緒とした別荘地開発、別荘地開発を推進の一方で景観や宅地の細分化回避に目配りをした建設制限、別荘地と町内住宅地における自然保護と植林促進のための条例制定、抑制的な観光開発、こうした長期的展望をもったまちづくりによって育まれ・維持されている豊かな自然環境、そして、長年のまちづくりのなかで確固たるものとなっている「軽井沢」という地域ブランドといった要素があり、これらが複合的に作用して、地域の魅力を創出していることがわかった。軽井沢町では、約50年前に、景観保全や植林に関する条例を制定したとのことで、当時のまちづくりの指針が、いま大いに活きていることをうかがい知ることができた。つまり、まちづくりにあたっては、短期的視点だけではなく、長期的視点を持つことが肝心ということである。

つぎに、移住が進んだことによる課題についてである。軽井沢町には、長年このまちに暮らす住民のほか、別荘を有する人びと、近年この町にやってきた移住者ならびに二拠点居住者が暮らしていることから、住民の価値観や生活スタイルはこれまで以上に多様化しているという。そこで課題となっているのが、各コミュニティ内ではネットワークがあるものの、居住年やまちへの関心、生活スタイルが異なる「住民」どうしをつなぐ機会が十分ではなく、また、新たなニーズに応えてくれる場がないことだという。しかし、こうした課題は提起に留まっているわけではなく、後者については、必要なことを自分たちで楽しくというスタンスで活動を行う組織が課題解決（例えば教育現場で手が回りきらない部分のカバー）に取り組んでいた。前者については、新たに組織されたNPOが、町に長年暮らす住民の知恵や技、ネットワークと、移住者のスキル、そして、行政をつなぐことに挑戦していた。

今回、まちの歴史や環境を勘案し、ハード・ソフトの両面においてまちづくりを推進している、移住地の先進地域である軽井沢町の実情を多角的に把握できたことは、他地域での地域活性化などの調査研究に取り組むことに関心を寄せる学生たちが貴重な視点を得る機会となった。

活動報告 14

持続可能な釜石に向けた地域課題解決型 PBL 演習

代表教員：古屋　秀樹
国際観光学部

■活動内容

釜石市における観光、防災・復興、地域振興の取組みの現状把握を目的として、現地視察（１泊２日）を実施した。１日目午後は６か所を訪問したのち、発表準備のために大杉氏へのインタビューを行った。２日目は、学生による発表（３班）を行い、市役所、DMC、釜石市国際外語大学校の関係者と意見交換を行った。

■活動の成果概要

①釜石市は、東日本大震災の津波災害で甚大な被害が生じ、復興の過程で人口減少、超少子高齢化などの問題が生じている。そこで、交流人口の拡大、持続可能な地域づくりをまちづくりの基本理念としており、今回の学生訪問は学生による新たな視点による観光振興の検討を主目的としていることから、地域に大きな貢献が期待できる。

また、このような釜石の観光復興において、かまいしDMCが大きな役割を果たしているが、その活動の一部である観光による経済効果推定で観光学科教員（古屋秀樹）が支援活動を行っており、今回の研修ではそのコネクションがきっかけとなっている。

以上のように学生に視点や教員のコミットメントの面から、釜石の観光復興に大きく寄与する活動と考えることができる。

②学生による地域振興策の発表によって、A.学生自身の気づきにつながったこと（様々な場所で新たな発見があり、インターネット上だけの調べがどれだけ甘いことなのか痛感した、など）、B.課題を通じた学習成果（事前調査を経て現地の調査をする体験、実際に活動している人たちへの提案をする機会はとても貴重なものだった。また、鵜住居駅や根浜のキャンプ場の雰囲気、釜石の歴史など、自分の好きな釜石が見つけられた、など）、C.地域の方からの評価（学生の皆さんとお話をさせていただきまして、私たちも気づきが多く、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、釜石市総合政策課との打合わせにて、次年度に続く意見交換もできまして、今後がとても楽しみでございます、とのコメント）などの効果があり、学生の参画なしには達成できなかったものと考えられる。

③上記②とも関連するが、現地を実際に訪問することによる効果は大きく、具体的な学生の声としては下記のようなものがあった。「訪問前の調査では魚河岸テラスやその中にジェラート屋を作り、それを地域の交流の場所にしている事や、復興スタジアムを作りラグビーワールドカップでは多くの集客ができた事、スタジアムでは多くない頻度ではあるがイベントも行っている事、その他学びを得ることが出来る施設が数個あることがわかっていた。しかし、実際に訪問することでその調査で得られた情報の薄さを痛感した。主に行われている活動の意図と熱意、釜石の持つ歴史は現地に足を運ばなければ体感できないものだった。」

④現地で学生３グループからの発表を行った（出席者　釜石市役所、かまいしDMC、釜石市国際外語大学校の関係者）。また、来年度以降における継続的な実施に関して釜石市総合政策課ならびにかまいしDMC関係者と打ち合わせを行い、検討を進めることを確認した。

活動報告 15

里山サポーターズ

代表教員：齋藤　邦明
経済学部

■活動内容

絶滅危惧種であるトキの餌場作り（環境保全、ビオトープづくり）と、日本財団「子ども未来舎りぜむ」にて子ども達との交流ボランティア活動に、留学生と共に協力して取り組むことで、多角的な視点から地域貢献や多文化共生の実現を目指す。

■活動の成果概要

私たち（東洋大学里山サポーターズ）は2024年８月21日～25日、新潟県佐渡市を訪問して、トキの餌場作り（環境保全、ビオトープづくり）のボランティア活動・農作業体験、鬼太鼓体験、地域の子ども達との交流を行いました。この経験を通じて、地元の方々からトキや自然環境保護の大切さ、地域の歴史、潟上地域活性化の取り組みを学ぶことができました。また今回私たちは、東洋大学の学祖、井上円了の佐渡国巡講日誌を元に、その跡地を巡る体験を通じて、東洋大学と地域との関わりについても考察・実践しました。

まずトキの餌場作りについては、人口減少に伴う地域の労働力が減少する中で、トキの餌場を確保することが困難となりつつあることを学びました。この点は、私たち東洋大学の学生が参画することは、私たちの社会経験のみならず、地域にとっても不可欠であるといえます。私たちは2018年から新潟県佐渡市におけるトキの餌場作りに関与しており、新型コロナウイルスで一時中断したものの、取り組みを継続してきていることから、地域の人たちに認知され、新潟県佐渡市でもその活動に一定の評価を得ています。また、私たちの活動は、2023年の日中関係学会宮本賞(学生懸賞論文）で優秀賞を受賞しており、その活動は学術的にも評価を得ています。私たちは地域での活動実践と学術の社会還元の両面において、大きな成果を挙げています。この活動は今後も継続していくことで、「東洋大学と地域との関係」の優良かつ先進的な事例となることが期待できます。

そして、今年は日本財団「子ども未来舎りぜむ」にて子ども達との交流会を行いました。この施設は、従来の学校や学童とは異なり、「子どもの自由な居場所」を「子どもが主体」となって作ることを重視し、そこに様々な世代の人たちが関わっているという場所です。「子どもが主体」の具体例として、施設内のゲーム使用時間や、おやつの持ち込みに関して、子ども達が話し合ってルールを決めるといったことが挙げられます。大人が子どもに一方的にルールを押し付けるのではなく、大人はあくまで助言を行うというスタンスであることや、移住者なども自由に利用できるなどの、「開かれた子どもと地域の場所」という取り組みであるということが分かりました。こうした地域の取り組みについて、私たちは2024年度の白山祭にて展示を行い、佐渡の取り組みを東京をはじめとする都市の人たちに紹介したいと考えています。佐渡のように島嶼部にあり、農村が広がる地域では、「閉鎖的な農村」がイメージされがちですが、「子ども未来舎りぜむ」は「開かれた地域社会」と「開かれた子育て」の先駆的な実践例であるといえ、そうした活動は都市に生きる私たちにも大きな示唆があると考えます。他にも佐渡市潟上の伝統芸能である「鬼太鼓」を経験するなど、地域をさまざまな視点から経験することが出来ました。

活動報告 16

滞日外国人との協働を通じた多文化共生と復興の支援

代表教員：田川　夢乃
社会学部

■活動内容

宮城県気仙沼市において、地元住民と滞日外国人住民との相互理解にもとづく多文化共生社会の実現を目的として、支援活動を行った。2024年６月から10月にかけて計３回気仙沼市を訪れ、地元住民と協働のもと、国際交流イベントを開催した。

■活動の成果概要

水産業を主要産業とする宮城県気仙沼市では、1980年代頃からインドネシア人船乗りを雇用してきたことから、1990年代の技能実習生度開始以降、主に水産加工業の現場で多くのインドネシア人技能実習生を受け入れてきた。東日本大震災後の労働力不足に際して、その数は増加傾向にある。このことから、本活動は、気仙沼市の滞日外国人のなかでも特にインドネシア人技能実習生に焦点を当て、かれらと地元住民との相互理解を促すことで、多文化共生を介した東北復興の実現を目指した。このような本活動は、持続可能なグローバル化を念頭においた独自の社会貢献のモデルを提供するものである。

ゼミの学生10名は、2024年６月から10月にかけて宮城県気仙沼市を三度訪れた。６月７日から９日の第１班は、技能実習生を受け入れている水産加工会社に聞き取りを行うとともに、インドネシア人技能実習生やフィリピン人居住者と交流をもつことで、気仙沼市の主要産業である水産業を支える滞日外国人の労働状況と生活における課題の把握に努めた。８月２日から８日の第２班は、一般社団法人気仙沼インドネシア友好協会、気仙沼市商工会議所青年部との協働のもと、気仙沼みなとまつりでインドネシアパレードを開催した。学生たちは運営に携わるとともに、インドネシア人実習生への積極的な声かけを行い、地元住民と滞日外国人との交流を支援した。10月４日から６日の第３班は、上記友好協会と協働して芋煮会を開催した。本イベントは、東北地域の郷土料理である芋煮の紹介をとおして、気仙沼の滞日外国人に東北の文化に親しんでもらうことを企図している。これらの活動では、ゼミの学生たちが毎年継続的に気仙沼を訪れ、インドネシア人技能実習生たちと友好的な関係性を築いてきたことがイベントの成功に寄与している。

現地調査の結果を踏まえ、１月中旬に調査に関する成果発表報告会を学内およびオンラインで開催することで、気仙沼インドネシア友好協会のほか、気仙沼市役所まちづくり課（国際交流担当）等に活動報告を行うとともに感謝の意を伝える予定である。

本活動における交通費・宿泊費等は自己負担であり、学生の経済的負担は大きなものがあった。今回、交通費・宿泊費を支援していただいたことで学生の経費負担分も大きく軽減され、学生は活動によりいっそう積極的に参加し、多くの学びを得ることができた。

活動報告 17

若い世代における郷土料理に関する普及・啓発活動

代表教員：井上　広子
食環境科学部

■活動内容

主に大学祭で地域の方々への食育・郷土料理の普及に努める活動を行った。学生自身が、自身の出身県の特徴や郷土料理に関することを調べ、郷土料理伝承のパンフレットを作成し、来場者へ配布した。また、郷土料理に関する食育ゲームもオリジナルで作成し、子どもから大人まで楽しく学ぶことができるイベントを開催した。

■活動の成果概要

農林水産省の第４次食育推進基本計画（令和３年～令和７年）に掲げられている目標の１つに、「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民を増やす」という項目がある。2013年には和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的に「和食」の人気が高まる一方、伝統的な料理や作法を受け継ぐ機会が減り、日本の伝統的な料理や作法は失われつつある。

これまで私たちが板倉キャンパスにて行ってきた「若い世代における郷土料理に関する普及・啓発活動」では、群馬県と共同で栄養教諭や管理栄養士を目指す学生、若手教員の助手を中心に、群馬県内の他大学の学生や板倉町在住の方と交流し、群馬県のおもてなし料理の「すき焼き」調理講習会や「郷土料理パンフレット」の作成を経年的に行ってきた。今年度からは、キャンパスが埼玉県･朝霞市に移転し、埼玉県や朝霞市民の方々との交流を拡げ、本学が「郷土料理」を普及するアンテナとなることを目指し活動を行った。まず学生達自身が、自分たちの地元の地域の特徴や郷土料理に関することを調べ、実際に自分で郷土料理を作成し、パンフレットにまとめた。このパンフレット作成により、自身や仲間の郷土料理や地域的特徴に関する知識を深めることができた。11月のイベントの際には、来場者の方々にもご自身の郷土料理を黒板のマップに書いていただくコーナーや、近隣のスーパーやアンテナショップで購入できる郷土料理・名産品を集めた展示を設置し、学生が来場者の方々と交流を行った。その際には、学生自身がパンフレット作成の際に調べたことや郷土料理を実際に作ってみた体験話なども交えて交流することができ、学生や来場者の郷土料理に対する興味・関心を高めることができた。

また本イベントでは郷土料理に関する展示のほかに、食に関する子ども向けのクイズや来場者に普段の食事内容を食品サンプルを用いて選んでもらい、栄養価計算後、その評価について栄養相談を行うブースも設けた。栄養教諭や管理栄養士を目指す学生として、ライフステージや生活環境が異なる方へのアプローチを学ぶ非常に良い経験となった。来場者の方も自身の食生活を見直すきっかけづくりになり、栄養学的・文化的な側面から食に関する関心を高めることができた。

伝統的な食文化である日本の郷土料理をこれからも継承していくためには、これからの日本を担っていく世代である学生へのアプローチが不可欠である。本活動を通して学生が主体的な学びを得ることでき、社会活動・貢献に対する意識変容や意欲の向上につながり、非常に効果的な活動となった。今後も活動を継続してくことで、本学から地域へ、日本の伝統料理や文化を継承していくための懸け橋となっていきたい。

社会貢献活動助成・表彰制度

■東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰

2019年度より、社会貢献部門の新たな取り組みとして、学生の社会貢献活動に対する助成制度および表彰制度を設立した。この制度は、2018年度まで本学学生支援課で実施されていた表彰制度を一部引き継ぐ形で創設されたものであり、学生の社会貢献活動を支援するボランティア支援室が社会貢献センター内に設置されたことを契機としている。社会貢献センターの設立から６年目となる2024年度の活動概要は以下のとおりである。

2020年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により、学生の「課外活動」は約２年間にわたって制限を受けた。2023年度には、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が５類へ移行したことで、活動制限は撤廃された。しかし、コロナ禍の影響で活動先との関係が途絶えた団体も多く、課外活動全体の再活性化には時間を要した。

2024年度に入り、コロナ禍以前のように自由な活動が可能となり、多くの学生がさまざまな活動に取り組んでいる。しかし、組織的な活動の経験が浅いため、継続的な活動として発展させることが難しい状況にある。

また、能登半島地震をはじめとする災害救援支援活動への要請も引き続き多く寄せられており、本学としても支援を継続する予定である。

そこで、2025年度は「新たな活動先の開拓」と「継続的な活動を行うための経験づくり」を重点的に進め、大学全体で取り組む「能登半島ボランティア」とも連携しながら、学生が主体的に活動できるよう支援を行う方針である。

Ⅰ　学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成事業の目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

Ⅱ　学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

１．助成対象となるプロジェクト活動

社会貢献センター運営委員会が設定する社会貢献活動等に参加する学生への支援及び直接的な実施経費に充当するため、主として国内で行われる学生による社会貢献プロジェクト（ボランティア活動を含む。）で、次の２区分による活動を対象とする。

また、本学の学生（大学院生を含む。以下同じ）が活動する団体で、１団体あたり本学学生が最低３名以上在籍しており、かつ、メンバーの大半が本学学生であること。ただし、ゼミ活動は対象外とする。

(1) 新規活動助成

ア　初めの一歩を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。

イ　応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

ア　自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。

イ　団体として最低１年以上の活動実績があること。

２．助成内容

(1) 新規活動助成

ア　助成金額は、年間１件当たり、１万円～10万円以内(１万円単位)とする。

イ　採択件数は、年間５件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

ア　助成金額は、年間１件当たり、１万円～20万円以内(１万円単位)とする。

イ　採択件数は、年間５件程度を目安とする。

３．選考

社会貢献センター運営委員会による第１次審査(書類審査結果発表)、第２次審査(プレゼン審査)

Ⅲ　社会貢献活動による表彰

１．表彰の対象

(1) 本助成金を受けて活動した団体(以下「助成団体」という。)

(2) 本助成金を受けないで活動した団体(選考漏れの団体を含む。)及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人(以下「助成を受けない団体及び個人」という。)

(3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中１回限りとし、継続しての表彰はしない。

２．表彰内容

表彰の内容は次のとおりとし、年度等によって、社会貢献センター運営委員会が定める。

(1) 助成団体　表彰状と記念の楯を授与する。

(2) 助成を受けない団体及び個人　表彰状と表彰金(１件３万円を上限)を授与する。

３．選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

Ⅳ　年間スケジュール

●学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

2024年1月5日～2月12日　募集期間(第１次)

2024年3月中　　社会貢献センター運営委員会にて第１次書類選考(申請数：３団体)

2024年3月18日　　決定通知(採択数：３団体)

2024年4月1日～5月8日　追加募集期間(第２次)
2024年5月　追加決定通知(申請無し)

2025年2月末まで　各採択企画の報告書および決算書提出締切
2025年3月11日　報告会の実施(３団体が報告)
2025年3月末まで　支援金額の支払い

●社会貢献活動による表彰
2024年12月2日～2025年1月8日　募集期間
2025年2月　社会貢献センター運営委員会にて書類選考
(申請数：[個人] １名[団体] １団体)
2025年3月　結果通知(受賞：[個人] ０名[団体] １団体)

Ⅴ　2024年度実績

●プロジェクト助成
応募数　３団体
採択数　３団体

●表彰(予定)
応募数　１名、１団体
受賞数　０名、１団体

2024年度 社会貢献活動助成　表彰式・報告会

東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰の概要　（抜粋）

●目的

本事業は、東洋大学の学生ボランティア活動等社会貢献活動の充実に寄与するために、学生団体へのプロジェクトに対して助成を行うとともに、本学学生の社会貢献活動に対して表彰を行うことにより、その努力に報いその活動成果を今後の学習活動に活かすことを奨励し、社会に貢献する人材の育成を支援するものである。

学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成

●助成対象となるプロジェクト活動

(1) 新規活動助成

ア　初めの一歩を踏み出そうとする、又は踏み出しつつある学生団体であること。

イ　応募年度が初めての活動になること。

(2) 継続的活動助成

ア　自らの団体の持ち合わせている技術力や特技を最大限に生かしたボランティア活動を行っている学生団体であること。

イ　団体として最低１年以上の活動実績があること。

●助成内容

(1) 新規活動助成

ア　助成金額は、年間　１件当たり、１万円～10万円以内（１万円単位）とする。

イ　採択件数は、年間　５件程度を目安とする。

(2) 継続的活動助成

ア　助成金額は、年間　１件当たり、１万円～20万円以内（１万円単位）とする。

イ　採択件数は、年間　５件程度を目安とする。

2024年度実績　応募　３団体　採択　３団体

社会貢献活動による表彰

●表彰の対象

(1) 本助成金を受けて活動した団体（以下「助成団体」という。）

(2) 本助成金を受けないで活動した団体（選考漏れの団体を含む。）及び個人又は学外の団体に所属して活動した個人（以下「助成を受けない団体及び個人」という。）

(3) 前号の団体及び個人については、別に定める活動実施結果報告書を提出のうえ、本助成による「活動報告会」に参加し、その活動が表彰に値すると評価された場合に限る。また、同一内容の活動の表彰に対しては在学期間中１回限りとし、継続しての表彰はしない。

●表彰内容

(1) 助成団体　表彰状と記念の楯を授与する。

(2) 助成を受けない団体及び個人　表彰状と表彰金（１件３万円を上限）を授与する。

2024年度実績　応募件数　２件（個人１名／１団体）　受賞数　１件（個人０名／１団体）

社会貢献活動による表彰　受賞者活動紹介

受賞者：多文化共生センター東京「たぶんか放課後教室」（北岡　萌さん）

【活動概要】

たぶんか放課後教室は、特定非営利活動法人多文化共生センター東京と東洋大学社会学部・村上一基ゼミが協同で実施している外国にルーツを持つ子どもたちに向けた学習支援教室です。勉強のサポートでなく、同じ境遇の友達や大学生とつながり、自分らしくいられる「居場所」になるよう教室を運営しています。

学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成　採択団体活動紹介

団体名：Smile F Laos

【活動概要】

春学期から秋学期まで年間を通してコーヒー豆や粉をフェアトレードで購入し、大学内と外部で販売。収益を使いラオスの小学校支援として教育支援の資金として活用。

毎年年末にラオスにメンバー自らが渡航し普段購入しているラオスコーヒーの生産者に直接話を伺い、フェアトレードが役に立っているのかなど調査し渡航後の活動に活かすなどメンバー自らが販売企画・販売・教育支援・渡航と循環型な活動を行っている。

団体名：学ボラ

【活動概要】

当団体は、2004年の新潟県中越地震を契機に設立され、山古志地域を中心に復興支援や地域活性化に取り組んでいます。コロナ禍の影響で一時活動が制限されましたが、2023年度には「古志の火まつり」や中越地震追悼式の運営支援を再開し、地域住民との交流を深めました。竹沢地区夏祭りでは地域文化の継承に貢献し、震災の記憶を伝える活動にも尽力しています。

団体名：ボードゲーム地域交流団体　ぼどのわ

【活動概要】

地域の人々とボードゲームで交流する会(ぼどの会) を開催しています。

活動目的は、ボードゲームをツールとした地域の居場所づくりです。また、地域の子どもたちの、学校や家庭以外の第３のコミュニティ・新たなつながりをつくることを目標としています。

2024 年度

東洋大学

SDGs 実践講座　活動報告

2024 年度「SDGs 実践講座~17 ゴールへの第一歩~」活動報告

Ⅰ. はじめに
Ⅱ. 運営委員
Ⅲ. 運営委員会の開催
Ⅳ. 広告宣伝
Ⅴ. 募集
Ⅵ. 受講者数一覧
Ⅶ. 「総合」履修者数
Ⅷ. 予算執行報告
Ⅸ. 骨子およびプログラム
Ⅹ. 講義プログラム
ⅩⅠ. 講義要旨
ⅩⅡ. 受講前・受講後アンケート結果
ⅩⅢ. 最終レポート(ホームページに掲載)

「SDGs 実践講座」は、2022 年度より 4 年目の開講として、全 15 回の講義を教員および外部講師に担当いただき、対面・オンライン講義として実施をした。今年度の授業は従前までの事前申込制から、一般の履修登録に変更し、より多くの履修者が受講できるように手配をした。

以下、今年度の活動報告を行う。

Ⅰ.はじめに

全学総合講義「SDGs 実践講座 －17 ゴールへの第一歩ー」をふり返って

代表担当者：東洋大学副学長/生命科学部 川口 英夫

SDGs（Sustainable Development Goals）は、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。この SDGs は発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルなものであり、皆が日々行っている諸活動の中で SDGs に取り組むことが求められています。さらに、2020 年に「行動の 10 年」がスタートしたという宣言がありました。2015 年に公表された目標に対し 5 年間の予備期間を経て、2020 年から 10 年間をかけて目標を実現しようという、次のフェーズに移ったことが宣言されたということです。

これらの状況を鑑み、本学でも今年度から全学部を対象とした講義「SDGs 実践講座 －17 ゴールへの第一歩ー」を立ち上げました。本講義の目的は下記の 3 つです。

①SDGs に関し、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶ。
②この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に変化させて行く」。
③在学中あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長する。

これらの目標に対し、受講生の講義の最終発表や最終レポートから、「行動の 10 年」に相応しい、SDGs をベースとした「行動変容を伴う学び」がある程度実現できたと考えています。
学祖井上円了先生の言葉である、本学の建学の精神は「諸学の基礎は哲学にあり」ですが、これに「他者のために自己を磨く」「活動の中で奮闘する」という言葉を纏めると、「深く考え、実行する」ということになります。この井上円了哲学の実践版として本講義を実施したわけですが、全受講生が将来、「深く考え、実行する」人材として、国内外で大いに活躍してくれるものと確信しています。

Ⅱ.運営委員

教学担当常務理事	金子 光一
学長	矢口 悦子
教務部長(副学長)	多田 英明(法学部教授)
社会貢献センター長	髙山 直樹(福祉社会デザイン学部教授)
講座運営担当責任者	川口 英夫(生命科学部教授)
講座運営担当者	小瀬 博之(総合情報学部教授)
講座運営担当者	村上 一基(社会学部准教授)
講座運営担当者	堀本 麻由子(文学部准教授)

Ⅲ.運営委員会の開催

実施なし

Ⅳ.広告宣伝

学内掲示、ホームページ(ボランティア支援室)、本学公式アプリ、ToyoNet-G、ToyoNet-Ace による配信等で広報活動を行なった。

Ⅴ.募集

申込期間 : 各キャンパス履修登録期間に準ずる。
履修者総数: 87 名
履修取消期間後: 74 名(確定)
授業開始: 9/20(金)5 時限 A301 教室(10 号館 3 階)

Ⅵ.受講者数一覧

単位:人数

履修者数	74

● **受講者数(学部・学年別)**

単位:人数

学部/学年	1年	2年	3年	4年	合計
文学部1部	1				1
文学部2部	2	2	1		5
経済学部1部			2		2
経済学部2部	2	1			3
経営学部第1部			1		1
経営学部第2部	3	1	1		5
法学部第1部	3			1	4
法学部第2部	4				4
社会部第1部	1			1	2
社会部第2部		1	1		2
国際学部	5	4	2		11
福祉社会デザイン学部		3			3
情報連携学部		7	4	5	16
理工学部	3	1	4	2	10
総合情報学部		1	1	1	3
生命科学部				1	1
ライフデザイン学部			1		1
合計	24	21	18	11	74

Ⅶ.「総合」履修者数

1、履修登録者数

「総合ⅢB / 全学総合J」 40名 (白山キャンパス)

「総合ⅨB / 全学総合ⅡB/ 全学総合J」 20名 (赤羽台キャンパス)

「総合B / 全学総合F」 13名 (川越キャンパス)

「総合Ⅳ / 全学総合J」 1名 (朝霞キャンパス)

2、単位修得者数

47名(63%)

出席不良者、グループ発表欠席者、最終レポート未提出者が目立った。

Ⅷ.予算執行報告

支出

予算目的	予算件名	予算額	執行額	残額
授業・講座等運営	SDGs 実践講座	230,000 円	141,226 円	88,774 円

Ⅸ.骨子およびプログラム

2024 年度　SDGs 実践講座「17 ゴールへの第一歩」の骨子（シラバス）

1. 講座の目的・内容

「SDGs（Sustainable Developmental Goals）」とは、2015 年 9 月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す、17 項からなる国際目標である。本講義の目的は、この SDGs について、その理念と各ゴールに対する具体的な取り組みを体系的に学ぶことである。さらに、この学びを「自分ごと」として理解し、「自らの行動や選択を学生生活の中で具体的に変化させて行く」ことで、在学中、あるいは卒業後に国内外の社会で活躍できる人材に成長することを目指す。

なお、本講義受講期間中に SDGsに繋がる活動をスタートしていただく。社会貢献センター(ボランティア支援室)等で実施する活動、若しくは自身での活動を通じて、本講義の学びを「自分ごと」にする。これらの活動を踏まえ、グループでの最終発表および各自の最終レポートをまとめる。

また、本講座終了後、受講者には東洋大学 SDGsアンバサダーへの登録を推奨します。

2. 本講座の名称

本講座は「SDGs 実践講座～17 ゴールへの第一歩～」を正式名称とする。

3. 本講座の募集人員、応募方法等

1） 募集人員: 50 名程度
2） 対　象 ： 本学の学部生
3） 授業期間: 秋学期（9 月 20 日～1 月 24 日まで）
4） 応募方法: 履修登録による。

4. 学修到達目標

受講生は、以下の力を涵養し獲得することが期待される

1. SDGs の理念と具体的な取り組みを「自分ごと」として理解する力
2. 「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力
3. 課題・問題を発見する力
4. 他者と関わりチームとして成果をあげる力

5. 講義スケジュール

Ⅰ. 1)学長挨拶(矢口 悦子 学長)SDGs 実践講座運営担当挨拶(川口先生)

2)「外国にルーツを持つ若者のキャリアをめぐる課題と当事者の経験」(村上先生、ラウフ アルーサ アアリーさん)

3)アイスブレイク(堀本 麻由子先生 文学部准教授)

Ⅱ. ワークショップで考える SDGs「世界がもし 100 人の村だったら」から考える SDGs

(八木亜希子 外部講師 NPO Dear)

Ⅲ. 世界と日本の子どもの貧困について考えよう(小野 道子 福祉社会デザイン学部准教授)

Ⅳ. カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか? (小瀬 博之 総合情報学部教授)

Ⅴ. 移民・難民と私たち:共生社会へのカギ (南野 奈津子 福祉社会デザイン学部教授)

Ⅵ. 見える飢餓と見えない飢餓ー植物科学からの挑戦ー(廣津 直樹 生命科学部教授)

Ⅶ. うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」する意味と意義(外部講師 JICA 高田 健二)

Ⅷ. 対話的な深い学びへのアプローチ(堀本 麻由子 文学部准教授)

Ⅸ. 開発途上国の生活環境改善に向けて(北脇 秀敏 国際学部教授)

Ⅹ. 住み続ける社会のデザイン(水村 容子 福祉社会デザイン学部教授)

Ⅺ. 水道水を考える(大塚 佳臣 総合情報学部教授)

Ⅻ. 日本人の働き方は、これからどうなるのか(久米 功一 経済学部教授)

XIII. Security 再考:ウクライナ戦争が動かした原子力発電回帰(市川 顕 国際学部教授)

XIV. トランスジェンダーから見える世界と共生(外部講師 卒業生 勝又 栄政)

XV. 最終グループ発表

上記プログラムを受講したまとめとして、グループ毎に受講生が、口頭および文書により発表する。予め書面を作成し、当該書面に基づいて口頭報告をさせることで、プレゼンテーション能力の涵養を図る。口頭報告については、教員が講評を行い、さらに思考を深化させるように指導する。

6. 成果の公表について

授業の成果については、運営、プログラム内容、最終報告書などをまとめた活動報告書として公表する。

7. 授業科目としての提供

授業科目「総合」(半期 15 回　2 単位)として提供し、単位認定を行う。

8. 録画収録および ToyoNet-Ace の活用

講義ついては、録画収録して講義記録として保存する。また、ToyoNet-Ace を活用して、授業運営に関する管理を行う。

9. 講師謝礼

学内者:授業コマに含む　　学外者:33,000 円(税込)

(NPO　Dear については　44,000 円(税込)とする。)

X．講義プログラム

2024年度　東洋大学SDGs講座　　**2024/9/10**

秋学期 講義+ディス カッション	秋期（金5）	17のゴール （※4は共通）	授業 形式	内容詳細（例）	講師	所属・肩書き
第1回	9月20日	全体	ハイフレックス	（16：30～16：40）学長挨拶、SDGs実践講座担当教員挨拶	矢口　悦子/川口　英夫	学長/社会貢献センター運営委員（SDGs担当・生命科学部）
				（16：40～17：40）「外国にルーツを持つ若者のキャリアをめぐる課題と当事者の経験」	村上一基/ラウフ アルーサ アアリー	社会学部/大学院教務課職員
				（17：40～18：00）アイスブレイク	堀本　麻由子	文学部
第2回	9月27日	全体	Web	「世界がもし100人の村だったら」から考えるSDGs（仮）	外部講師　NPO　Dear	特定非営利活動法人　開発教育協会講師
第3回	10月4日	1・5・11	ハイフレックス	世界と日本の子どもの貧困について考えよう	小野　道子	福祉社会デザイン学部
第4回	10月11日	7・12・13・15	ハイフレックス	カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか？	小瀬 博之	総合情報学部
第5回	10月18日	3・10・16	ハイフレックス	移民・難民と私たち：共生社会へのカギ	南野　奈津子	福祉社会デザイン学部
第6回	10月25日	2	ハイフレックス	見える飢餓と見えない飢餓ー植物科学からの挑戦ー	廣津　直樹	生命科学部
第7回	11月8日	17	ハイフレックス	うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」する意味と意義	外部講師（JICA高田健二）	外部講師
第8回	11月15日	4	ハイフレックス	対話的な深い学びへのアプローチ	堀本　麻由子	文学部
第9回	11月22日	3・6・11	ハイフレックス	開発途上国の生活環境改善に向けて	北脇　秀敏	国際学部
第10回	11月29日	11	ハイフレックス	住み続ける社会のデザイン	水村　容子	福祉社会デザイン学部
第11回	12月6日	3・6・12・14	ハイフレックス	水道水を考える	大塚 佳臣	総合情報学部
第12回	12月13日	8	ハイフレックス	日本人の働き方は、これからどうなるのか	久米　功一	経済学部
第13回	12月20日	16	ハイフレックス	Security再考：ウクライナ戦争が動かした原子力発電回帰	市川 顕	国際学部
第14回	1月10日	5	ハイフレックス	トランスジェンダーから見える世界と共生	外部講師（卒業生勝又栄政）	外部講師
第15回	1月24日	全体	ハイフレックス	最終グループ発表	運営担当	

＊プログラム内容・授業形式については変更する場合があります。

1：貧困をなくそう　2：飢餓をゼロに　3：すべての人に健康と福祉を　4：質の高い教育をみんなに　5：ジェンダー平等を実現しよう　6：安全なトイレを世界中に　7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに　8：働きがいも経済成長も　9：産業と技術確認の基礎を作ろう　10：人や国の不平等をなくそう　11：住み続けられるまちづくりを　12：つくる責任、つかう責任　13：気候変動に具体的な対策を　14：海の豊かさを守ろう　15：陸の豊かさも守ろう　16：平和と公正をすべての人に　17：パートナーシップで目標を達成しよう

SDGs17 目標よりテーマを設定し、講義を行った。毎回の講義では、グループを設定し、グループワークやディスカッションを重視し、意見を出し合いながらグループ毎の意見をまとめ、発表した。

XI. 講義要旨

SDGs 実践講座第 1 回 講義要旨

9 月 20 日（金）

講師名：川口 英夫（生命科学部教授）
テーマ：SDGs 推進センター長挨拶

SDGs 実践講座第 2 回 講義要旨

9 月 27 日（金）

講師名：NPO 法人 Dear 八木 亜希子
テーマ：「世界がもし 100 人の村だったら」から考える SDGs

インターネット上で、拡散することによって世に知られることとなった、「世界がもし 100 人の村だったら」は、世界をひとつの村にたとえ、人種、経済状態、政治体制、宗教などの差異に関する比率はそのままに、人口だけを 100 人に縮小して説明している。受講者には、気になった文章をグループ内で共有し、なぜその部分が気になったのか、どういう感情を抱いたのかを考え、グループごとに発表を行った。2030 年までに達成すべき開発目標として掲げられている「SDGs」。受講者はこの年に世界がどうなって欲しいか、あるいはどうなっていると思うかを話し合い、それまでに自分たちができることは何かについて考え、地球社会に住む自分たちのあり方、未来について考えるきっかけとなった。

SDGs 実践講座第 3 回 講義要旨

10 月 4 日（金）

講師名：小野 道子（福祉社会デザイン学部准教授）
テーマ：世界と日本の子どもの貧困について考えよう

この講義では、SDGs 目標 1 の「貧困をなくそう」の内容やターゲット、絶対的貧困と相対的貧困の違いについて説明できるようになること、世界と日本の子どもの貧困の現状や対策について自分なりの考えを持つことができるようになることを目的とした。まずは「子どもの貧困」のイメージについて各自で考えてもらった。
講義を聴くだけでなく、世界で極度の貧困状況にある子どもの数は減っているのか、日本のひとり親家庭の子どもの貧困率がなぜ高いのか、日本の子どもの貧困対策など、グループで話し合い発表した。子どもだけでなくおとなの貧困も自己責任ではないこと、災害などが起きれば誰でも脆弱層になり得るため、平時からのレジリエンス構築が大切であること、2030 年までにどのようにしたら子どもの貧困を減らせるのか考え続けてもらうことの重要性などを伝えた。

SDGs 実践講座第 4 回 講義要旨
10 月 11 日(金)

講師名:小瀬 博之(総合情報学部教授)
テーマ:カーボンニュートラルの実現に向けて私たちは何ができるか?

SDGs(持続可能な開発目標)のうち、主にSDG7(エネルギーアクセス),12(生産と消費),13(気候変動対策),15(陸域生態系保全)に関わる「カーボンニュートラル=脱炭素社会」をテーマに講義を行った。最初にrespon を活用して受講者の関心を把握、共有しながら、SDGs を内包する「2030 アジェンダ」の基本理念の説明、トレードオフになっている社会・環境・経済の問題を講義した。続いて、学生のグループワークを行うにあたって、カーボンニュートラルに向けた行動例として、環境省が提唱する「ゼロカーボンアクション 30」や東洋大学での実践事例として「こもれびの森・里山支援隊」の活動、過去の「SDGs 講座」の提案から実現に至った「東洋大学 SPRING ウォーターサーバープロジェクト」などを紹介した。グループワークは、「カーボンニュートラル=脱炭素社会に向けて 3 万人の学生や大学組織で実施できることのアイデアを出し合ってまとめる」という課題を課し、11 の各グループの発表によって、省エネルギー行動(エアコン OFF、消灯、階段使用など)、施設改善(断熱・ソーラーパネルの設置・植物を植えるなど)、資源消費削減と有効活用(給水所の増加とマイボトル持参、マイバッグ持参、食品ロス削減、紙使用削減、資源回収、古着売買、リサイクル商品の開発)、しくみづくり(アプリ活用、ポイント還元、ボランティア情報の共有、授業カリキュラムの改善)などのアイデアを情報共有できた。これらのアイデアは、後半のグループワークに生かされたものと考えられる。

SDGs 実践講座第 5 回 講義要旨
10 月 18 日(金)

講師名:南野 奈津子(福祉社会デザイン学部教授)
テーマ:移民・難民と私たち:共生社会へのカギ

本講義では、SDGs の目標 3、10、16 をテーマとして、1)世界の難民の実情、2)移民・難民の経験を考えるワーク、3)難民受け入れに賛成・反対の立場でのディスカッションを行い、難民の理解と共生について学んだ。まず、世界における難民・移民の数や地域、人が移動をする/強いられる要因や背景をデータから確認した。次に、「自分の大切なもののほとんどを急に手放す」という経験を感じるための個人ワークを行い、その時に生じた感情を共有した。そして、共生のために私たちが現実的経験することとして、難民受け入れに賛成、反対の立場を割り当て、それぞれの立場の思いや主張を小グループで共有するワークを行った。最後に、「共生社会のカギとは何か」について話し合った。「自分の感情として経験出来て見方が変わった」「難民について知ること」「自分事としてとらえること」等が、今後大切なこととして、報告された。

SDGs 実践講座第 6 回 講義要旨
10 月 25 日（金）

講師名：廣津 直樹（生命科学部教授）
テーマ： 見える飢餓と見えない飢餓―植物科学からの挑戦―

本講義では、SDGs の目標 2「飢餓をゼロに」をテーマに講義を行った。まず、世界の飢餓状況について説明し、このような食料問題の原因と解決策についてグループワークで意見を出し合った。社会的手段としては気候変動対策やフードロス対策、国際協力など、技術的手段としてはストレス耐性作物や栽培技術の改善など幅広い意見が出された。次に、ビタミン A や鉄、亜鉛などの栄養素の不足という目に見えない飢餓“hidden hunger”の状況と今後の予測について紹介し、「”hidden hunger”の対策と予想される問題点」についてグループワークで意見を出し合った。目に見えない栄養素について啓蒙教育が必要であることを確認した。様々な学部の学生が集まる本講義では、グループワークにより様々な視点の意見が出された点が特徴的であった。最後に、文理融合の必要性と教育を受けている者の責任について投げかけ、講義を総括した。

SDGs 実践講座第 7 回 講義要旨
11月 8 日（金）

講師名：高田健二 島根県立大学客員教授/海士町グローカル・フロンティア大使
テーマ:うまい棒から考える「パートナーシップで目標を達成」（SDGs 目標 17）

SDGs 目標 17 は、国家間の制度改善や資金調達といったターゲットを軸としており、大学生がそうした大規模な課題に取り組むためには、知識をつけるコンテンツ学習だけでは不十分であり、受講生たちの資質を鍛えるコンピテンシーを学ぶことが必要である。そのために必要となる考え方（6 次の隔たり、スチュエーショナル・リーダー、想像力、3 つのカン等）について講義前半で取り上げた。講義後半では、東洋大学卒業生が代表取締役社長をしている「やおきん」の代表商品である「うまい棒」から、「パートナーシップで目標を達成」することを「やおきん」の具体的な取り組みから説明し、講義前半のコンピテンシーで説明した項目が活かされている事例として伝えた。
東洋大学生たちが大学卒業後の社会で活躍するためには、今回の講義で説明したコンピテンシーを磨き続けることが重要である。今後、うまい棒を食べる機会に、この授業内容を意識して自己研鑽してほしい。

SDGs 実践講座第 8 回 講義要旨
11 月 15 日（金）

講師名： 堀本 麻由子（文学部准教授）
テーマ：「対話的な深い学びへのアプローチ」

本講義は、SDGs 17 ゴールに関し、「自分ごと」として理解したことを、主体的な行動として行動変容につなげる力を育むこと、さらにこれまでの授業内容を振り返りつつ、対話的なディスカッションを通して、問題・課題（SDGs17 ゴール）への取り組み方を考えることをねらいとした。はじめに、「対話的なディスカッション」に関する講義を行い、その後グループ演習を実施した。各グループは 17

ゴールの内の関心の近い学生同士による4～5名程度の編成とした。各自の問題関心を深めるため、質問中心の話し合いによる自己紹介ワークなどを活用し、グループメンバーの互いを理解することで、共通関心を探る機会とした。今回は、SDGsアンバサダーの学生に、グループ演習のアドバイザーとして、グループ活動への助言をお願いした。そのことが、グループ活動の成果発表や講座終了後のアクションプランへのつながりを受講生がイメージするうえで非常に役立った。

SDGs 実践講座第 9 回 講義要旨
11 月 22 日（金）

講師名：北脇 秀敏（国際学部教授）
テーマ：開発途上国の生活環境改善に向けて

講義では、まず MDGsから SDGsへ世界的な開発目標が移り変わった過程を紹介した。先進国から途上国への国際協力が中心課題であった MDGsと比較し、「誰一人取り残されない」SDGsに変わり多くの人に受け入れられたことを述べた。次に途上国の生活環境を守る重要な要素として水供給、し尿・排水処理、廃棄物処理の 3 つの公共事業が途上国住民の健康に関係する要素であり、健康的な生活を送るためには、これらが破綻のない形で実施されていることが必要なことを述べた。講義において特に強調した点は、これらの不備があるとどのような健康上の問題点があるかという点に加え、途上国において生活環境を改善する上でどのような適正技術を導入すれば良いかという点にも考察を加えた。また東洋大学の卒業生が途上国の環境改善に青年海外協力隊員として活躍している様子も紹介し、聴講生がどのようにこうした活動に関われるかの議論も行った。

SDGs 実践講座第 10 回 講義要旨
11 月 29 日（金）

講師名：水村 容子（福祉社会デザイン学部教授）
テーマ：住み続ける社会のデザイン

講義では、SDGs 目標 5「ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る」の内容や達成度の測定方法、この目標の達成度がとりわけ低い日本の現状について確認したのち、雇用労働分野で男女共同参画のための PDCA サイクルを動かすよう企業に義務付ける国内法「女性活躍推進法」と、女性活躍推進企業データベースで公表されている情報の使い方を学んだ。その後、女性活躍推進に関連して学校法人東洋大学が公表している事業主行動計画や公表情報を他の私立大学のものと比較しつつ、各大学の女性活躍推進の特徴や課題、事業主行動計画の内容やその目標設定の適切さについて話し合うグループワークを行い、最後にまとめとして、グループでの話し合い結果を報告しあって全体で共有した。授業後、学生は東洋大学の女性活躍推進の取組に対する自らの評価とその理由をまとめたミニレポートを提出した。

SDGs 実践講座第11回 講義要旨
12月6日（金）

講師名：大塚 佳臣 （総合情報学部教授）
テーマ： 水道水を考える

SDGs 目標 14（海の豊かさを守ろう）の主題の 1 つとして挙げられている海洋プラスチック問題ならびにマイクロプラスチック問題を取り上げた。プラスチックの特徴、使用状況、海洋プラスチックを巡る世界の動向を紹介した上で、海洋プラスチックがもたらす環境影響、マイクロプラスチックの発生メカニズム、マイクロプラスチックがもたらすであろう環境影響について解説をした。その上で、「海洋プラスチック問題・マイクロプラスチック問題に向けて、個人・社会・産業がなすべきこと」「それを社会・消費者がそれを受け入れるようにするために必要な情報提供のあり方」をテーマとしたグループディスカッションを行い、その内容を発表していただいた。最後に、海洋プラスチック問題のように、影響の実態（範囲、影響の大きさ）が不明である問題を扱い世の中に働きかける上で、留意すべき点（因果関係、発生確率とリスクの程度、実効性の考慮）を紹介した。

SDGs 実践講座第 12 回 講義要旨
12 月 13 日（金）

講師名：久米 功一（経済学部教授）
テーマ：日本人の働き方はこれからどうなるのか

本講義では、「未来の仕事 働きがいと新しいテクノロジーから考える」という視点から議論がなされた。はじめに、SDGs 目標8「働きがいも経済成長も」を確認した上で、働きがいの尺度として、活力、熱意、没頭の3要素からなるワーク・エンゲイジメントが紹介された。コロナ禍では、休業要請等により、ワーク・エンゲイジメントが下がった職種があり、それをどう是正すればよいかが議論された。また、働きがいを高める方策として、テクノロジーの応用が示された。具体的には、内閣府ムーンショット目標 1 が掲げる、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会が実現したならば、自分自身はそのテクノロジーを何に活用するかが議論された。デジタル化に伴う付加価値の変化と、深刻な人手不足による社会の機能低下の心配に対して、新しいテクノロジーを活用して、時間や場所などの制約にとらわれずに、働きがいを感じながら働くことの可能性が示された。

SDGs 実践講座第 13 回 講義要旨
12 月 20 日（金）

講師名：市川 顕（国際学部教授）
テーマ：Security 再考：ウクライナ戦争が動かした原子力発電回帰

この授業では、欧州における「エネルギー安全保障」という言葉に投げ込まれた多様な意味を理解することで、Security 概念が多様であることを学生に理解できるよう試みた。そのため、EU エネルギー政策の歴史および特徴について説明し、EU 加盟国のエネルギーの現状を俯瞰した。その上で、EU による対露経済制裁、EU のウクライナ戦争発生後のエネルギー戦略である REPowerEU、を踏まえて、EU（および EU 加盟国）におけるエネルギー安

全保障概念の整理を試みた。

SDGs 実践講座第14回 講義要旨
1 月 10 日（金）

講師名：外部講師（卒業生 勝又 栄政）
テーマ：トランスジェンダーから見える世界と共生

本学社会学部の卒業生であり、トランスジェンダー当事者の視点から、ジェンダーに関する講義が行われた。SDGs 目標 5「ジェンダー平等を実現しよう」とは男性・女性の平等に関する目標であり、LGBTQ+については厳密には含まれていないというお話から始まり、LGBTQ+について学ぶ回となった。勝又さんは、幼いころから性の違和感を感じており、その社会的背景には「男女二元論」が存在し、「男性は青、女性は赤」であったり「男性は格好のいいものを好む、女性は可愛いものを好む」といった固定観念が違和感を生んでいることの説明があった。性別は二つではなく、詳細にはもっと多数の性別が存在し、世の中にはそのことを公言せずに生活している方も多くおり、最初から決めつけた発言をするのではなく、誰もが回答に違和感のないような質問を心掛けることが大切であると伝えられ、締めくくられた。

以上

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

1.1 SDGsの項目をいくつ知っていますか。

受講前

知っている目標の個数	回答
1	3
2	2
3	1
4	5
5	7
6	2
7	1
8	4
9	1
10	2
11	1
12	1
13	1
14	1
15	0
16	0
17	9
一つも知らない	4
合　計	45

受講後

知っている目標の個数	回答
1	2
2	0
3	1
4	1
5	0
6	0
7	2
8	0
9	0
10	3
11	2
12	2
13	0
14	0
15	1
16	0
17	16
一つも知らない	0
合　計	30

1.2　SDGsの目標のうち、現在あなたが最も関心を持っているものを一つ上げてください。

受講前

最も関心を持つ目標	回答
1:貧困をなくそう	6
3:すべての人に健康と福祉を	3
4:質の高い教育をみんなに	10
5:ジェンダー平等を実現しよう	5
6:安全な水とトイレを世界中に	4
10:人や国の不平等をなくそう	2
11:住み続けられるまちづくりを	4
12:つくる責任つかう責任	2
13:気候変動に具体的な対策を	4
14:海の豊かさを守ろう	1
16:平和と公正をすべての人に	1
17：パートナーシップで目標を達成しよう	1

受講後

最も関心を持つ目標	回答
1:貧困をなくそう	6
2:飢餓をゼロに	1
3:すべての人に健康と福祉を	2
4:質の高い教育をみんなに	7
5:ジェンダー平等を実現しよう	3
6:安全な水とトイレを世界中に	1
8:働きがいも経済成長も	1
10:人や国の不平等をなくそう	2
12:つくる責任つかう責任	1
13:気候変動に具体的な対策を	1
14:海の豊かさを守ろう	1
15:陸の豊かさも守ろう	1
16:平和と公正をすべての人に	1
17：パートナーシップで目標を達成しよう	1

1.3　あなたは、設問２で挙げた目標の実現に向けて、何かを実践しようと計画していますか。

受講前

(していない)1←3—5→7(している)	回答
1	16
2	3
3	9
4	7
5	6
6	0
7	4
合　計	45

受講後

(していない)1←3—5→7(している)	回答
1	0
2	4
3	7
4	5
5	3
6	2
7	9
合　計	30

1.4　あなたは、設問２で挙げた目標の実現に向けて、既に計画の実践の段階に入っていますか。

受講前

(していない)1←3—5→7(している)	回答
1	21
2	6
3	6
4	2
5	4
6	3
7	3
合　計	45

受講後

(していない)1←3—5→7(している)	回答
1	7
2	2
3	2
4	4
5	8
6	1
7	6
合　計	30

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

1.5　設問３と４のいずれかでSDGsの目標実現に向けた実践を計画している、または、既に実践段階に入っていると回答した人（５～７のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのようなことを実践しようと、あるいは、既に実践していますか。自由に記述してください。

受講前

・インドのアウトカーストの村向けに基礎教育の提供や女性自立支援（NPO）
・ウォーターサーバープロジェクトSPRINGでの活動
①学外・学内での実践：移民難民問題に関して 日本では欧米と比較し、難民認定率の異常な低さが浮き彫りになる中、難民の強制送還を可能にしてしまう入管法の改正案が2023年6月に通ってしまいました。それまでも、難民認定までのプロセスの杜撰さ、入管収容の不透明性（適切な医療が受けられないことによる死亡事件/職員から暴力を振るわれる）など様々な問題点が挙がっていたものの、一向に改善される余地が見えません。これを受けて私は去年、地元・川崎で入管法改悪反対のサウンドデモを開催し、神奈川・毎日・東京新聞に取り上げていただいたり、法務委員会の傍聴に参加するなど様々なアクションを講じてきました。学内でも、教授たちとともに授業内で難民問題について解説する時間を設けていただいたり、私の主張が掲載されたメディアをシェアしていただいたりと入管法改正を阻止するための活動を行ってきました。今現在も、難民支援の団体にボランティア参加し、日本語教室を月に数回程度開催しています。 ②学内での実践：学び、考え、語ることのできる空間づくり 学内では公認サークル「社会科学研究会」に所属し、あらゆる社会問題について学生が主体的に学び、考え、語ることのできる空間づくりに取り組んでいます。過去にはジェンダー問題、人種差別、こども食堂の実態などの学習会や哲学カフェも開催しました。7月にはパレスチナ/イスラエル問題についての学習会と映画上映会（ユナイテッド・ピープルさまの協力をもとに）を2回開催し、多くの学生とパレスチナ、ガザに生きる人々へ想いを馳せ、停戦のためには何ができるかという議論を行いました。
・個人としてゴミの分別を徹底したり、その知識を友人に共有したりしている。また、不要になったものはフリマアプリで出品するなどした。
・能登ボランティアに参加をしたり、募金活動も行なった。
・オンラインで誰でも教育を受けられるサービスの開発計画をしている。
・6の「安全な水とトイレを世界中に」ともかぶる範囲が存在するが、東洋大学内で生理用ナプキンの無償配布や意識調査を行っている。また、外部
・ASEANの国に行って複数のボランティアをおこなったりして、発展途上国と日本の間の友好関係を把握すると共に自分に何ができるのかを見てきました。また、来年度は1年間を使いASEANに加盟している国・加盟申請中の国に実際に行き、現状の把握と何ができるのかの実践をおこなってくる予定です。
・アンバサダーや大学内での企画に参加している（参加を考えている）
・高校生の時ですが、学習支援ボランティアに参加して1年通して参加しました。

受講後

・SDGsアンバサダーとしての活動。
・「パレスチナに連帯する東洋大学学生有志」という有志団体を立ち上げ、東洋大学に対して①パレスチナ侵攻への停戦声明の表明、②パレスチナへの人道的支援（パレスチナ市民への支援制度の設立、パレスチナ/イスラエル問題の理解促進に向けた学術的な取り組み）③学生の主体的な発信・活動への協力を要求する署名活動を行ないました。2024年11月2日から12月20日の間に上記の内容を記した要求書への賛同署名を集め、学内の教職員45名、学部生300名、院生3名、卒業生62名、中退生2名、学生の保護者/家族17名、学外者744名の合計1,173名もの方々に署名していただきました。この署名を学長および理事長にお渡しし、年度末までには理事会にて審査していただくよう動いています。
・学校に行くことが難しい方や、お金の関係上学校に行くことができない方のために、オンワイン上でも(義務)教育を受けられる環境を整えること。(学校でネットワークなど情報技術について学んでいるため)
・地域の方々と交流できるイベントに参加をし、いろいろなお話しをしている。
・SDGｓを広める活動を計画している
・フェアトレードの商品を積極的に購入するようにしたり、そのような仕組みを整えている団体に寄付やクラウドファンディングなどの援助をしていると同時に、実際に海外に行き貧困等の問題に直面する方々の現状を知ると同時にワークショップやボランティアの形で手助けをしている。
・渋谷で毎年開催されるプライドパレードへの参加を考えている
・キッズドアや子ども食堂といったボランティア活動をしようとしている
・教職の講義を受講しています。
・自分と異なる国で育って教育を受けた人との交流
・色々なボランティア活動を通して他者と協力しながら、パートナーシップで目標達成はもちろん、関連しているSDGｓゴールにもつながっていくので実践しています。
・学習支援活動
・普段の生活の中に少しずつ各目標を意識した行動を取り組んでいる。
・個人的には、男女を問わず、偏見なくすべての人に接することです。
・就職活動で自分自身のキャリアについて考えいる時にこの考え方を念頭に考えている
・水インフラを維持する仕事に就く
・質の高い教育を実現するために、これからボランティアグループなどを通じて英語の教えたり、社会スキルなどをシェアしたりしていきたいと思ってます。やっていることとしては、自分の国、ミャンマーの学生たちを無料で日本語を教える活動やっています。
・マイボトル・マイバッグを使用し、プラスチックごみを削減、環境にやさしい洗剤を使うことで海に流れ込む化学物質を減らす

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

1.6　あなたには、SDGsの目標のうち、設問２で挙げたもの以外にも、大きな関心を抱いているものがいくつありますか。
個数を選択してください。(選択必須)

受講前

設問２で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数	回答
1	9
2	10
3	8
4	5
5	1
6	2
7	1
8	0
9	1
10	0
11	1
12	1
13	0
14	0
15	0
16	1
他には関心がない	5
合　計	45

受講後

設問２で挙げたもの以外に関心を抱く目標の個数	回答
1	3
2	6
3	7
4	4
5	2
6	1
7	0
8	0
9	2
10	0
11	1
12	0
13	0
14	0
15	0
16	1
他には関心がない	3
合　計	30

1.7　設問６でひとつでも「ある」と回答した方に尋ねます。設問２で挙げたものと設問６で挙げたものを、
あなたなりに関連付けて考えていますか。（考えていない）1←3―5→7（考えている）

受講前

（考えていない）1←3―5→7(考えている)	回答
1	2
2	1
3	11
4	6
5	6
6	4
7	9
無回答	6
合　計	45

受講後

（考えていない）1←3―5→7(考えている)	回答
1	1
2	1
3	5
4	2
5	9
6	2
7	7
無回答	3
合計	30

1.8　あなたは、SDGsの目標のうち設問２で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していますか。
（発信していない）1←3―5→7（発信している）(選択必須)

受講前

（発信していない）1←3―5→7(発信している)	回答
1	23
2	5
3	6
4	5
5	4
6	0
7	2
合　計	45

受講後

（発信していない）1←3―5→7(発信している)	回答
1	9
2	4
3	4
4	4
5	5
6	2
7	2
合　計	30

1.9　設問７で、SDGsの目標のうち設問２で挙げたものについて、自分の考えを社会に強く発信していると回答した人
（５～７のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのようなことを発信しようと、あるいは、既に発信していますか。
自由に記述してください。

受講前

①学外・学内での発信：移民難民問題に関して
　設問5で記載した内容と被りますが、学外では神奈川・毎日・東京新聞に取り上げていただき、去年6月に国会で通ってしまった入管法の改正案がいかに難民の生存権を危うくさせるものであるかを主張してきました。さらに、学内でも社会学部研究室の掲示板に新聞面を掲載していただいたり、授業内でも難民問題を考えてもらうための時間を設けていただきました。

②学内での発信：学び、考え、語ることのできる空間づくり
　公認サークル「社会科学研究会」のSNS（インスタグラム、旧twitter）を通し、あらゆる社会問題に関する弊団体の学習会、哲学カフェなどで出た参加者からの意見や感想、イベントの様子などを発信しています。特に『人種差別について考えよう』哲学カフェでは、ガザ侵攻によるパレスチナ人の大量虐殺、埼玉県川口市に住む在日クルド人への排斥デモなど、人々の尊厳を当たり前のように踏み躍る出来事を踏まえ、”共生”や“差別”などの言葉に向き合い、対話の過程で出た意見をシェアしています。

・個人のInstagramを使って、活動を発信し興味を持って貰うきっかけをつくろうとしている。

・主にInstagramのストーリーと投稿を用いて、自分がやってきた活動を周知すると共に、次代の参加者を募集したりなど多くの広報をしてきました。

・SDGsアンバサダーのInstagramや広報誌にて、自分の見解を述べている

・ボランティア参加しました。

・この前、AIESECという国際ボランティア組織に三年間ぐらい所属した経験があり、それを通して、SDGsに従う社会を築くために様々な行動、例えば、knowledge sharingというイベントとかをやりました。

・SDGsという目標をもっと多くの人に知るように発信します

受講後

・白山キャンパスに設置されているウォーターサーバーに関する活動で、主に学生に向けマイボトルの利用促進などを発信している。

・就労支援の企業のパン屋さんにみんなでいったことをSNSにあげたりしている。

・SNSを用いて自分の体験を世の中に発信したり、大学で複数の機会をいただき講演・登壇という形で他者に発信している。

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

・発信というだけなら友人間での会話や学校の先生などとしていて、そのほかにインスタグラムなどのSNSにも発信しています。
・知識の詰め込みではなく、柔軟な教育が必要である
・インフラが老朽化して維持管理が急務であることを周りの人に話す
・地域の清掃活動に参加する。公共交通機関や自転車を利用し、車の使用を減らす、地域のイベントや防災訓練に積極的に参加する

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

1.10　あなたは、SDGsの目標の実践が社会をより良いものにすると思っていますか。
（思っていない）1←3―5→7（思っている）（選択必須）

受講前

（思っていない）1←3―5→7（思っている）	件数
1	3
2	1
3	4
4	6
5	8
6	4
7	19
合　計	45

受講後

（思っていない）1←3―5→7（思っている）	件数
1	1
2	0
3	1
4	7
5	9
6	2
7	10
合　計	30

1.11　あなたは、SDGsの目標の実践があなた自身を成長させると思っていますか。
（思っていない）1←3―5→7（思っている）（選択必須）

受講前

（思っていない）1←3―5→7（思っている）	回答
1	5
2	0
3	6
4	10
5	7
6	4
7	13
合　計	45

受講後

（思っていない）1←3―5→7（思っている）	回答
1	3
2	1
3	1
4	5
5	6
6	6
7	8
合　計	30

1.12　設問11で、SDGsの目標の実践があなた自身を成長させると思っていると回答した人（５～７のいずれかを選択した人）は、
具体的に、どのような点で成長できると思いますか。自由に記述してください。

受講前

・SDGｓの目標を実践させようとする中で自分が今まで知らなかった世界の実態を知れて自分の思考に深みが増すと思うから。
・世界の実態を学ぶことが基礎になるため、世界的な視点で物事を見れるようになる
・自分が日常生活でする選択をより良いものにできると思う。
・SDGs目標の実践は、他者から言われたことを鵜呑みにせず、自分で批判的に思考し、検証する能力が備わると考えられる。この能力が自然と身につき、自分自身ぶれない軸を持つことができれば、VUCAと言われる予測がつかないあらゆる状況下でも自分が今何をすべきかが分かるようになる。そのためには、目標実践において様々な失敗も経験し、再度中長期・短期目標を検証、設定し直すことも必要であると考えられる。
・実践することで、理論の構築から実践までを経験することになり、ただ理想を掲げるだけの人間から理想を実現できる人間へと成長できると思った。
個性の尊重は人間関係を良好に保つのに役立つし、地球環境への配慮は未来を考えて行動することに繋がると思うので、人として必要なスキルと予測する能力を高めるという点で成長できると思う。
・SDGsの目標の実践をすることで、日本だけでなく世界の人々の状況においても学習することができるから。
・世界の情勢に詳しくなる
・人と人のつながりを大切にして、いきたいから。さまざまな人や経験から、刺激を受けて成長できると思う。
・環境問題を知り、活動できること。
・sdgsが何かを知る事で自身の知識が身に付き、世界情勢が分かるようになる
・世界規模の社会問題に自分がどのように貢献できるのかを考えるうえで、世界情勢や自身の能力に対し向き合っていく必要があるため、自分を客観視することが出来る。
・世界の今を知るという点で大きく成長出来ると考えています。自分事に捉えているだけだと上手くいかないことが多い現在の状況の中で、SDGsに関する数多くのことを学ぶことは今を知ることに大きく貢献できると考えています。
・環境問題に意識を持ち、人として成長できると考える
・社会問題を知り、ふれることでこれから自分が何をするべきなのかが明確になり、行動力が向上する。
・人との繋がりより深く理解できそうである、そして貧困問題をなくそうとする、私はより多く自分を成長させると思います。
・勉強をしたくてもできない人たちがいることを考えて質のいい勉強をしようと考えられる

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

・日本は生活を送るには、恵まれている環境であるように感じるが、世界には教育どころか生活するのが困難な人や差別、戦争に遭う人もたくさんいると思うのでまずはその現状を知ることが、自分を成長させると思います。
・成長した点については、SDGｓの目標を少しでも実践することによって、いかに自分一人だけでじゃ目標を達成できないと感じました。なので、効率よくＳＤＧｓの目標を達成するためには一人で頑張るんじゃなくて、コミュニティーに属して取り組んだ方が目標達成に繋がります。
・目標に向かって計画、実行を行うことは主体性の獲得など様々なところで成長できると思います。
・今まで社会問題に対して何の意識も持たなかったが、実践を通して他人事ではなく自分ごととして社会問題に取り組めると思ったから。
・例えば、Gender Equalityが実践できたらお互いにもっと尊敬を持つようになり、より良い社会で生きることが可能になると思います。また、SDGsは世界に関わることなので、色々な国からの友達と問題を解決することで、自分のネットワークも広がっていくだろうと思います。
・自身の専門分野の加速

受講後

・SDGsのゴールをすべて同時に達成することは難しいと考えているが、達成に向けて取り組むことで自分の視野が広がりより豊かな発想力が身につくと思う。
・様々なことに挑戦し、沢山の経験を積む手助けになる。
・SDGsを学ぶことで世界中の様々な情勢を知ることができるし、環境問題を解決できる可能性がある点
・色々な価値観に触れることで、行動の選択肢を増やせるとおもうから。
・それについて考える事で知識が増え、考える事が出来る
・社会に目を向けること自体がそもそもの成長であると考えています。普段自分のことで手一杯の中、私生活で世の中のことを考えて生活するだけで十分成長であると考えます。また、そのように社会に目を向けることでメゾでもマクロでも普段気づくことが出来ない点に気づく・触れることが出来るので成長の点として十分だと考えます。
・私生活において意識をした生活を送るようになる。
・例えば、「10：人や国の不平等をなくそう」の実践を行うことで、人種による差別や出身による差別的思考にならず、平等な価値観で向き合うことができるようになると考える。
・この開発目標を社会問題と関連させて考え行動することで自分自身の問題に対する意識や行動力を養うことに繋がると考えた
・一人でも自分で悩みを抱え込んでる人が減ると思う。
・知ることは大きな第一歩であると感じた
・自分は将来国際協力に携わる職業に就きたいので、SDGｓの目標を実践することによりその様々な経験や体験、学びが国際協力に就きたいと思っている自分を成長してくれます。
・課題解決力を向上させてくれると思います。
・主体性、問題発見能力の成長
・グローバル意識を高め、視野を広げる。
・自分自身がSDGsに携わることによってワールドワイドな考えができると考えこれは自己成長の一環ではないかと考えたから。
・社会問題の知識が増える
・例えば、高い教育を実現するために、貢献することで教育の価値を知り、知識の上昇につながるのではないかと思います。
・SDGsの実践は「未来の自分を成長させる投資であり、単なる知識ではなく、実際に行動し、試行錯誤しながら成長できる機会が増えます。課題解決能力、視野の広がり、コミュニケーション力、責任感、発想力など、多くのスキルが身につき、将来的にどんな仕事や活動をする際にも活かせる点で成長できるはずです。

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

1.13　あなたは、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようと考えていますか。
（考えていない）1←3―5→7（考えている）（選択必須）

受講前

(考えていない)1←3―5→7(考えている)	回答
1	5
2	3
3	9
4	8
5	9
6	5
7	6
合　計	45

受講後

(考えていない)1←3―5→7(考えている)	回答
1	1
2	0
3	3
4	10
5	6
6	4
7	6
合　計	30

1.14　あなたは、SDGsの目標の実践に際して、仲間たちと連携しながら社会に貢献していますか。
（していない）1←3―5→7（している）（選択必須）

受講前

(していない)1←3―5→7(している)	回答
1	12
2	6
3	8
4	9
5	4
6	4
7	2
合　計	45

受講後

(していない)1←3―5→7(している)	回答
1	7
2	5
3	1
4	7
5	1
6	3
7	6
合　計	30

1.15　設問13と14のいずれかで、SDGsの目標の実践を通じ、仲間たちと連携しながら社会に貢献しようとしている、あるいは、既に貢献していると回答した人（５～７のいずれかを選択した人）は、具体的に、どのような貢献をしようと、あるいは、既に貢献をしていますか。自由に記述してください。

受講前

・ボランティアなどを通して教育などに貢献する。
・現地でのサポートと先進国からのサポートを分業する。
・マイボトルの推進活動。
・公認サークル『社会科学研究会』を通して出会った仲間たちとともに、日常では語りづらい社会問題や個人的に抱えているモヤモヤを共有できる空間づくりを行っています。このような空間は、目に見えるような短期的な成果だけではなく、長い年月をかけて社会問題解決/目標達成に取り組んでいくため、メンバーひとりひとりが長期的な視野を持てることを目指しています。そのために、自主ゼミのような読書会や、メンバーが自ら調べたことを共有する学習会、抱えているモヤモヤを言語化して相手に伝える哲学カフェなど、ひとりだけでは成立しない仲間とともにやるからこそ意義のある活動を行っています。
・特に関心のある問題を絞り込み、それについて議論して自分たちなりの問題解決の理論を構築する。
・友人にもゴミの分別に協力してもらっている。
・以前ダンスの全国大会があったのですが、LGBTを題材にした作品に出演し、優勝することができ、新聞に載りました
・SDGsアンバサダーの活動で、メンバーと協力しゴミ拾いや、地域貢献をしている。
・Toyo-MeWプロジェクトという団体に所属し、ジェンダー間の理解の促進等をおこなっています。
・一度ボランティア参加したことありました。
・ユニクロやGUなどでよく見る古着の寄付などは、すぐに実行できることだと思う
・自分はSDGｓアンバサダーの一員なので、他の仲間たちと連携しながら（パラスポーツ、ビーチクリーンなど）いろいろな活動に参加し、貢献しました。これからは、自分で立案しさらなる上を目指していきたいお思います。
・まだ、一緒に活動する仲間がいないため、この授業で出来たらと考えています。
・安全な水とトイレを世界中に普及させるために何をすればいいのかよくわかりません。とりあえず自分の家のトイレの掃除を頑張りたいです。
・前申したとおりに、ボランティア組織で様々な国の人々と話し合い、お互いに問題を理解してもらい、一緒に解決していました。

★2024年度　SDGs実践講座　受講前/受講後アンケート結果
回答者数：受講前45名　受講後30名

受講後

・ペットボトルごみの正しい分別の仕方やマイボトルの利用促進など、一人ひとりの意識の変革を行おうとしている、
・いろいろなボランティアにさんかをしている。
・海外派遣では、同じ意志を抱く方と一緒に、現地の問題を解決しようと試行錯誤していました。
・異国の文化や思想についての理解を促すワークショップなどを行い、偏見でなく正しい理解のもとに関わりを持てるような世の中にしていきたい。
・自分自身国際ボランティアサークル「Salamat」や東洋大学SDGｓアンバサダーに所属しているので、Salamatはフィリピンにいってデイケアセンターの運営だったり地元住民と交流、フィーディングなどでＳＤＧｓゴール１，２，４，１１，１７に貢献出来ていてまたアンバサダーでは防災食配布、ビーチクリーンやパラスポーツで上記以外にもSDGｓゴール３，５、６、７，１０、１２、，１３、１４、１５を仲間たちとともに貢献しています。
・「すべての人に健康と福祉を」の目標を達成するために、献血などやその他医療ボランティアをおこない、医療資源の確保に貢献したいと思いました。
・SDGsのイベントへの参加
・生活の些細なことから始めて、良い、持続可能な生活習慣を身につけるつもりである。不要な電力、水資源などの消費を減らし、できるだけ資源の再利用を行う。
・周りの人にSDGsを意識しろと集団で説得する
・地元企業や自治体と協力し、ゴミ拾い＋まち歩きイベントに参加、公共施設や商業施設にリサイクルボックスの設置の提案

1.16　その他、何かあれば自由に記述してください。

受講前

・半学期の間、受講生のみんなと共に考え、語り合えるような講座であれば嬉しいです。そして自分自身も何か成長できたらと思っています。よろしくお願いいたします！
・高校時代に積極的に貧困国における月経の課題についてプロジェクトを実施し、国内外のコンテスト等で積極的に発信していた。しかし、自分の力に限界のを感じるとともに、国外に住む友人との間で政治要素を大きくはらむトラブルがあったため、SDGｓに関連する事象を一切受け入れられなくなってしまった。しかし、このまま課題から目をそらし続けるのはよくないと考えたため、受講を決意した。この授業をすべて終える頃に、自分が解決したい明確な課題を追求し、行動に移すことが目標です。
・地球温暖化が進んでいる今は、SDGsを直面している今では意識しはじめ無ければならない時代になりそうである、環境への配慮は必要とする現代社会では森林や水源地を保護する必要とするが我が国では森林面積の割合が多い国だと考えられる。
・今後ともよろしくお願いします。
・よろしくお願いします。
・SDGsの理念などはよくわかるけど、そのために自分が何をすればいいのかは全く分からなくて困ってしまった。

受講後

・本講義を通じてSDGsについて学ぶことができ、自発的に「自分事」にして取り組めることがいくらでもあるとの自覚できました。
・今回の授業でとても多くの学びが得られました。教えて下さった先生方には本当に感謝しています。
・半年間ありがとうございました。
・SDGsの目標を実現する為環境に優しい取り組みは私たちすべての人々が協力し、社会に貢献する必要があるだと感じました。

リカレント教育推進特別助成制度

2024 年度、社会貢献部門の活動として、リカレント教育推進特別助成制度を新たにスタートさせた。2024 年度は２企画（うち追加１）応募され、社会貢献センターにて選考を行った結果、全企画が採択となり活動を行った。概要は以下のとおりである。

１．募集対象

人生 100 年時代やデジタル社会の進展、絶え間なく変化する社会情勢を踏まえ、産業界や社会のニーズに対応した実践的なプログラムの開発・拡充や、リカレント教育の基盤整備を推進するとともに、社会人の学び直し（リスキリング）の充実に繋がる新たなプログラムの開発・拡充に繋がる、本学における学内公募型の助成制度であり、主な募集対象は以下のとおりである。

①成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育プログラム（デジタル・グリーン等成長分野を中心に社会のニーズに対応）
②価値創造人材育成プログラム（デザイン思考・アート思考の養成、分野横断型の学修を経て、創造的な発想をビジネスにつなぐ）
③女性の多様なチャレンジに寄り添う教育プログラム（女性のキャリアアップ・キャリアチェンジに向けた学び直しやキャリア形成）
④地方創成人材教育プログラム（地域が求める人材を養成するための教育改革の実行）
⑤職業実践力育成プログラム（実践的・専門的なプログラムの受講を通じて社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会を拡大）
⑥その他、新たなイノベーションの創出に繋がり、持続性を持って継続的に成果を社会に還元できるもの

２．助成額

１件当たり年間 500,000 円を上限とする。

３．助成期間

１年間としますが、３年間の継続申請が可能。

４．選考

社会貢献センター運営委員会による書類選考

５．年間スケジュール

2024 年 2 月 7 日～ 2024 年 3 月 8 日	募集期間
2024 年 3 月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考 （申請数：1 企画）
2024 年 3 月 26 日	地域活性化活動支援事業について　採択決定通知 （採択数：１企画）

2024 年 4 月 1 日～ 2024 年 5 月 10 日	追加募集期間
2024 年 6 月中	社会貢献センター運営委員会にて書類選考 （申請数：１企画）
2024 年 6 月 17 日	地域活性化活動支援事業について　採択決定通知 （採択数：１企画）
2025 年 2 月末まで	各採択企画の報告書および決算書提出締切
2025 年 3 月末まで	支援金額の支払い

６．2024 年度実績

応募企画数　２企画

採択企画数　２企画

東洋大学『リカレント教育推進』特別助成採択一覧

No.	代表教員名	学部	学科	活動内容	プログラム名	支援額	支援額（結果）
1	金　賢珠	食環境科学部	健康栄養学科	健栄会リカレント教育コースの構築－実践活動の研究報告や情報発信能力を向上し、社会貢献を目指す－	職業実践力養成プログラム	500,000円	168,300円
2	堀本麻由子	文学部	教育学科	女性リーダーシップ養成プログラムの実証的研究 －「フレッシュ・スタート」講座の開発・検証・実践－	女性の多様なチャレンジに寄り添う教育プログラム	500,000円	225,839円

リカレント教育推進特別助成制度

2024 年度　東洋大学リカレント教育推進特別助成

活動報告書

運営代表者	金　賢珠	所属学部（運営代表者）	食環境科学部健康栄養学科
プロジェクト名	「健栄会リカレント教育コースの構築 ―実践活動の研究報告や情報発信能力を向上し、社会貢献を目指す－」		

活動概要

臨床現場などで働く本学科卒業生を対象に、研究報告や情報発信能力の向上によりキャリアアップを図り社会貢献ができる人材養成を目指す。また、本プロジェクトにより整備されたモデルコース（健栄会リカレント教育コース）を進展させ、本学卒業生以外の管理栄養士などの社会人に広く門戸を開くことも目指している。

主な活動スケジュール

5 － 6 月　：アンケート項目の策定（金、藤澤、塩原、髙鶴）、大学院との連携の相談（髙鶴）
7 － 9 月　：健栄会（健康栄養学科 OB・OG 会）との連携の確認（藤澤）、アンケートの実施（本学科卒業生に加え、その他の管理栄養士・栄養士にも実施を検討）（藤澤、髙鶴）
11 － 12 月：アンケート結果の解析（金、藤澤、髙鶴）及び次年度に向けたリカレント教育コースの策定（金他健康栄養学科教員）
1 － 2 月　：少人数制テストコースの運用（金他健康栄養学科の担当となる教員）

活動成果・進捗

今年度はまず初めに、卒業生のニーズを集約するアンケートを実施した。アンケートの内容は①学びなおしたいこと（基礎系、臨床・応用系、社会学・統計学系、国家試験対策、研究成果のまとめ方や報告スキル、その他）、②学びなおしの内容（学部科目の再受講、学部で学びきれなかった発展的内容、現在の業務に即したオムニバス、その他）、③学びなおしの方法（対面・週 1 回程度の連続講義、対面・夏休み等の集中講義、オンデマンドのみ、オンデマンド＋数回のスクーリング、オンライン双方向）、④学びなおしに必要なサポート（託児所、大学の ID、事務手続き、家事代行サービス、その他）、⑤学びなおしに対する期待（現在の職場でのステップアップ、現在の職場での業績作り、転職・キャリアアップ、大学院進学、その他）、などであった。キャンパス移転に関連する業務もあり、全体の進捗が想定よりやや遅れた。卒業生を対象としたアンケートは 2025 年 1 月末現在 10 件の回答を得たのみであるため、有効な解析が難しかった。このため、業務委託により、一般の管理栄養士および栄養士を対象として同様のアンケート調査を行った。その結果、429 件の回答から、①基礎系および臨床・応用系の学びなおしの需要が多い、②連続講義、集中講義、オンデマンド形式の希望が同程度で、その他は少ない、③事務手続きのサポートをより多く希望する、⑤転職・キャリアアップと現在の職場でのステップアップを希望する人が多い、などが分かった。さらに詳細に解析すると、管理栄養士で希望が多い項目は①臨床・応用系、②有意差なし、③オムニバス、④ ID 発行、託児所、⑤ステップアップ、であった。一方、栄養士で希望が多い項目は①国家試験対策、②学部科目の再受講、③～⑤有意差なし、であった。これらのことから、（A）管理栄養士・栄養士に共通して開設する場合は基礎系、臨床・応用系などの科目を用意し、オンデマンドまたは通学が選べるコース設定をする、（B）管理栄養士向けとしては臨床・応用系の科目の対面授業の開設と並行して、オンデマンドでの受講を可能とする。対面授業の受講の場合は、託児所利用を支援する、（C）栄養士向けには管理栄養士取得を目指したコース設定（想定としては学部の実践科目の受講）がリカレント教育コースとしてニーズが高いことが示された。また、栄養士の方が大学院進学を希望している割合が高い傾向がみられたことから、栄養士を対象とした管理栄養士取得オプションとする学院進学コースの設置も有効であると考えられた。来年度以降は、今年度得られたアンケート結果を基に、リカレント教育プログラムのコースを構築し、トライアル運営を検討している。

2024 年度　東洋大学リカレント教育推進特別助成

活動報告書

運営代表者	堀本　麻由子	所属学部（運営代表者）	文学部
プロジェクト名	女性リーダーシップ養成プログラムの実証的研究 ―「フレッシュ・スタート」講座の開発・検証・実践―		

活動概要

今年度は、プログラム開発の思想的背景となる理論の精緻化とプログラム企画を行った。具体的には、以下のとおり、省察的実践理論に基づく女性のリーダーシップ養成と英国「フレッシュ・スタート」概念の理論検討と 2025 年「フレッシュ・スタート」パイロット講座のプログラム開発と運営準備を中心にすすめた。

主な活動スケジュール

1）運営協力者（中村）との共同研究の成果発表（2025 年 2 月）予定。そのために 2 名の女性起業家にインタビューを実施した（2024 年 7 月）。2)「フレッシュ・スタート」講座のプログラム開発は、女性学習財団（池田、田村）と継続的な打ち合わせを実施した（8 月、10 月）。3）講座開発のために、地方と海外在住（ソウル）のキャリアデザイナー候補者に、ソウル市内にてヒアリング調査を実施した（10 月 27 日、28 日）。ヒアリング調査には、調査補助として本学の文学研究科教育学専攻博士課程 1 名、修士課程 1 名を調査補助として同行させた。４）2 月 21 日アメリカ HRD 学会大会において中村よし恵博士と協働報告を行った。５）本学校友会の OG 3 名にヒアリング調査を実施予定（2025 年 3 月）。

活動成果・進捗

本プロジェクトで実装を目指す「フレッシュ・スタート」講座は、女性たちが再チャレンジするためのリーダーシップを獲得するために、一歩を踏み出すための自信を得ることを目的とする。女性のライフイベントに寄り添いつつ、女性たちの新たなチャレンジである「フレッシュ・スタート」を援助するための職業と生活の狭間を架橋し、自身の生涯においてリーダーシップを養成する学習機会を構想することを目的としている。そこで、本年度は、講座の受講が、受講者一人ひとりの再チャレンジ（たとえば、就職、転職、地域活動への参画、大学院進学など）を促すきっかけとなることを目指し、日本の女性の再チャレンジを支えるリーダーシップの学習過程を明らかにするためのインタビューを中心に活動をすすめた。女性起業家 2 名へのインタビューにおいては、日本の女性に向けられた社会文化的な役割とリーダーシップを養成する上でのサポートシステムを明らかにすることを目指した。海外在住日本女性（韓国）2 名への対面インタビューでは、海外において女性がリーダーシップを獲得していく学習過程のためのフォーマルな学習機会のあり方を検討することができた。女性起業家 2 名へのインタビュー結果については、2025 年 2 月 21 日にワシントン DC で行われる Academy of Human Resource Development アメリカ大会で、タイトル「Shaping Leadership: The Identity Development of Japanese Women Entrepreneurs」で発表を行った。大会参加者からは、女性の起業を通した生涯の発達を支えるシステムの獲得については、日本のみならずアメリカ、アジア各国でも必要とされていることであるとの知見を得ることができた。2024 年 11 月に行った海外在住女性 2 名へのインタビュー結果については分析途中であり、2025 年 9 月に日本社会教育学会研究大会（鹿児島大学）で発表予定である。さらに 2025 年 3 月～ 4 月には、本学校友会の OG 3 名に対してインタビューを実施予定である。2025 年 6 月～ 7 月には上述のインタビュー結果を踏まえ、東洋大学フィロソフィアアカデミーにおいてパイロット講座「ダイバーシティマネジメント―リーダーシップのあり方とはー」を実施する予定である。

社会貢献センター　内部評価

2024年度　東洋大学社会貢献センターに対する内部評価結果

（学部：福祉社会デザイン学部　氏名：髙山直樹）

Ⅰ　判　定（S～C）：A

S	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
A	おおむね、社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
B	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
C	社会貢献センターの理念、目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

Ⅱ　総　評

今年度は、既存の事業に加えて、能登半島地震の活動に力を入れてきた。学生・教職員200名が支援に参画し、能登の関係者の多くとつながり、その支援を通して学生の主体的活動である「青いビブス」が生まれたことは評価できる。これをさらに発展させ、各学部・学科、ゼミの活動との連動ができるような取り組みを期待したい。

Ⅲ　概評及び提言

1．　理念・目的

〈概評〉

① 社会貢献センターの理念・目的を適切に設定しているか。
本学創始者、井上円了の哲学を基盤においた理念を設定し、各事業が展開されている。
② 社会貢献センターの目的を明示し、社会と共有しているか。
社会に貢献することは、哲学を基盤とした考え方を本学（学生・教職員）内で共有され、それを各事業を通して、社会に広めていくことができている。
③ 社会貢献センターの目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。
中・長期の計画および諸施策を設定しているが、それを実現していくためには、より一層の教員の理解とセンターの人員体制の強化が必要となる。

〈提言〉

長所
① 能登半島地震について学生の組織化ができたことは評価する。またSDGsアンバサダーおよび学ボラ等、全学的な学生の主体的な動きを、各学部、学科に提言していき、オール東洋で様々な社会問題に貢献できていく流れをつくれるとよい。
改善課題
① リカレント、リスキリングに関しての、教員の理解促進と実施に関してのインセンティブをつくっていく必要がある。 ② 朝霞キャンパスで朝霞市との連携のなかでの活動が開始されたが、キャンパスごとに地域性を鑑み、学部・学科の独自性をつなげた活動を展開する組織が必要である。 ③ 学生の活動が国際的、多様化してきていることから、リスク管理を見直す必要があり、学生部との連動も必要となる。

2024 年度

東洋大学　社会貢献センター年報

発行　2025 年 7 月 20 日

TOYO UNIVERSITY

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Toyo University supports the Sustainable Development Goals

東洋大学

社会貢献センター

〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-10-2 甫水会館 1 階

TEL：03-3945-7605